

# 東日本大震災 名取市民の体験集



宮城県名取市

# はじめに

平成23年（2011年）3月11日（金）14時46分に、三陸沖を震源とするモーメントマグニチュード9の巨大地震「東北地方太平洋沖地震」が発生し、それに伴う大津波による大災害である「東日本大震災」が起きました。

本書は、この東日本大震災の地震・津波の状況や避難の実際、避難所の様子、仮設住宅での生活などを平成25年5月から12月までの間に、被災された方々にお話を伺い、その内容を取りまとめたものです。

尚綱学院大学が被災された方々への震災体験の聞き取りを行い、それを基に名取市が編集等を行って作成致しました。

本書の意義をご理解いただき、当時のつらい体験を語っていただいた方々に対しまして、ご協力に感謝申し上げます。

記述方法につきましては、被災者の方々が当時を思い出しながらお話しいただいたもので、方言等は分かり易くし、なるべく本人の口調を生かして口語体で記述しております。

説明が必要な語句には、語句の追加や注釈を付記し、そのままでは意味が通じないと思われる内容については、内容の補足を行い、話が前後しているものに関しては、時系列に並び替える等の編集作業を加えております。

個人のプライバシーに関わるものや、中傷と取られかねないものなどにつきましては、掲載を控えさせていただきます。

したがって、本書の記述内容は、本人が話したそのままのものではありませんが、内容に関しましては、本人の承諾を得て掲載しております。

なお、内容に関しては、事実と違うものや推測などもありますが、あえて語り手の主観や当時の考え方を重視し、重大な間違い以外は、訂正しませんでした。

また、お話しいただいた方々の氏名につきましては、全て匿名とさせていただきます。

本書は、被災者の方々に当時のことを振り返ってお話ししていただいた、震災や被災状況の概要を、平易な形で広く一般の方々に伝えることを目的としております。

以上、本書作成の目的をご理解いただき、ご一読いただくことにより、被災実態の概要をお伝えし、今後の防災や震災対策の一助となれば幸いです。

# 目 次

番号	震災当時の住所	震災当時の年齢	性別	ページ数	開始ページ
1	閑上4丁目	60代	女	5	1
2	閑上4丁目	60代	男	3	6
3	閑上4丁目	50代・40代	夫・妻	6	9
4	閑上4丁目	60代・40代	母・子	2	15
5	閑上5丁目	60代	男	3	17
6	閑上5丁目	20代	男	2	20
7	閑上5丁目	50代	男	5	22
8	閑上3丁目	50代	男	8	27
9	閑上3丁目	80代・80代	夫・妻	2	35
10	閑上3丁目	60代	女	3	37
11	閑上3丁目	50代	女	3	40
12	閑上6丁目	70代	女	3	43
13	閑上6丁目	10代	男	8	46
14	閑上6丁目	60代	女	1	54
15	閑上6丁目	80代	女	2	55
16	閑上6丁目	70代	女	3	57
17	閑上6丁目	40代	女	2	60
18	閑上6丁目	40代	男	3	62
19	閑上6丁目	70代	女	3	65
20	閑上6丁目	60代	男	6	68
21	閑上6丁目	70代	女	2	74
22	閑上2丁目	60代	女	2	76
23	閑上2丁目	60代	女	2	78
24	閑上2丁目	70代	男	7	80
25	閑上2丁目	40代	女	7	87
26	閑上2丁目	50代	男	3	94
27	閑上7丁目	60代	男	2	97
28	閑上7丁目	50代	男	2	99
29	閑上7丁目	50代	男	6	101
30	閑上7丁目	20代	男	4	107
31	閑上7丁目	30代	男	3	111
32	閑上7丁目	40代	女	3	114
33	閑上7丁目	80代	男	2	117
34	閑上1丁目	60代	女	5	119
35	閑上1丁目	70代	男	3	124
36	閑上1丁目	60代	男	1	127
37	閑上1丁目	80代	男	2	128
38	閑上1丁目	70代・60代	夫・妻	6	130
39	閑上1丁目	60代	女	4	136

# 目 次

番号	震災当時の住所	震災当時の年齢	性別	ページ数	開始ページ
40	閑上1丁目	70代	女	2	140
41	閑上1丁目	70代	男	2	142
42	閑上1丁目	40代	男	15	144
43	閑上1丁目	40代	男	8	159
44	閑上1丁目	70代	女	2	167
45	閑上1丁目	60代	男	2	169
46	閑上1丁目	80代	男	2	171
47	閑上字新狐島	60代	男	3	173
48	閑上字新鶴塚	60代・60代	夫・妻	4	176
49	閑上字新鶴塚	60代	男	2	180
50	小塚原字汐朽	70代・70代	夫・妻	3	182
51	小塚原字東遠泉	70代	男	2	185
52	下増田北釜地区	80代	女	2	187
53	下増田北釜地区	50代	男	2	189
54	下増田北釜地区	70代	女	2	191
55	下増田北釜地区	70代	女	2	193
56	下増田字北原東	70代	女	2	195
57	下増田字広浦	60代	男	2	197
58	杉ヶ袋字懸向	80代	男	2	199
59	ボランティア	20代	女	4	201
60	ボランティア	60代	男	2	205
61	外国語指導助手(ALT)	20代	男	3	207
62	消防	30代	男	6	210
63	閑上公民館長	60代	男	15	216

## ※目次について

体験談の並び順については、まず閑上地区の海に近い住所から並べています。  
その後に、下増田地区としています。

## ※参考

### ・文化会館避難所について

体験談に文化会館へ避難したという話が出てきますが、文化会館は指定避難所ではありませんでした。

津波被災地に近かったことや市役所に近いこともあり、被災者が集まり結果的に避難所になったものです。

### ・震災前の地震について

平成22年2月27日（日本時間）、チリ中部沿岸で地震が発生し、28日9時33分宮城県に大津波警報が発表されたが、県内に到達した津波は最大106cmで、名取市沿岸部には被害がなかった。

平成23年3月9日11時45分、三陸沖で地震が発生し、名取市では震度4を観測。東北の太平洋沿岸に津波注意報が発表されたが、県内に到達した津波は最大48cmで、名取市沿岸部には被害がなかった。

# 名取市における東日本大震災被害の概略

## 地震の状況

### 1. 東北地方太平洋沖地震

発生日時：平成23年(2011年)3月11日(金)14時46分  
 発生場所：三陸沖(牡鹿半島の東南東約130km)、深さ24km  
 規模：モーメントマグニチュード9.0  
 名取市の震度：6強(揺れは約3分間継続)

### 2. 津波

到達時刻15時52分頃(本震発生後1時間6分後)  
 閉上港に大きな津波が到達。潮位計が破壊され、その後観測不能となる。  
 最大浸水高：9.09m(参考値)  
 海岸からの最大浸水距離は約5km(河川では、名取川約8km、増田川約7.6km)  
 以上は、全て名取市内でのもの。

## 被害の概要

### 1. 人的被害

○市民の被害(平成26年1月31日現在)

	死者	行方不明者の中で死亡届提出のあった方	関連死	負傷者			合計
				重傷者	軽傷者	計	
人数	884	39	41	14	194	208	1,172

※死者数は、市外で亡くなられた方の数も含む。名取市調べ  
 ※「関連死」とは、避難生活での体調悪化や過労などの間接的な原因でお亡くなりになられた方。

○行方不明者数(平成26年1月31日現在)  
 40名(うち死亡届が出されている方39名)

○参考：市内で発見されたご遺体数(平成26年1月31日現在)

ご遺体数	911	内訳		
		名取市民	名取市民以外	身元不明
		831	78	2

名取市調べ

### 2. 建物被害(り災証明申請件数 平成24年3月5日現在)

種別	全壊	大規模半壊	半壊	一部破損	合計
住家被害	2,801件	219件	910件	10,061件	13,991件
非住家被害	964件	136件	319件	1,386件	2,805件

名取市調べ

### 3. 津波浸水面積

約27 km<sup>2</sup> / 名取市面積 約98 km<sup>2</sup> / 浸水率 約28%

### 4. 避難者数

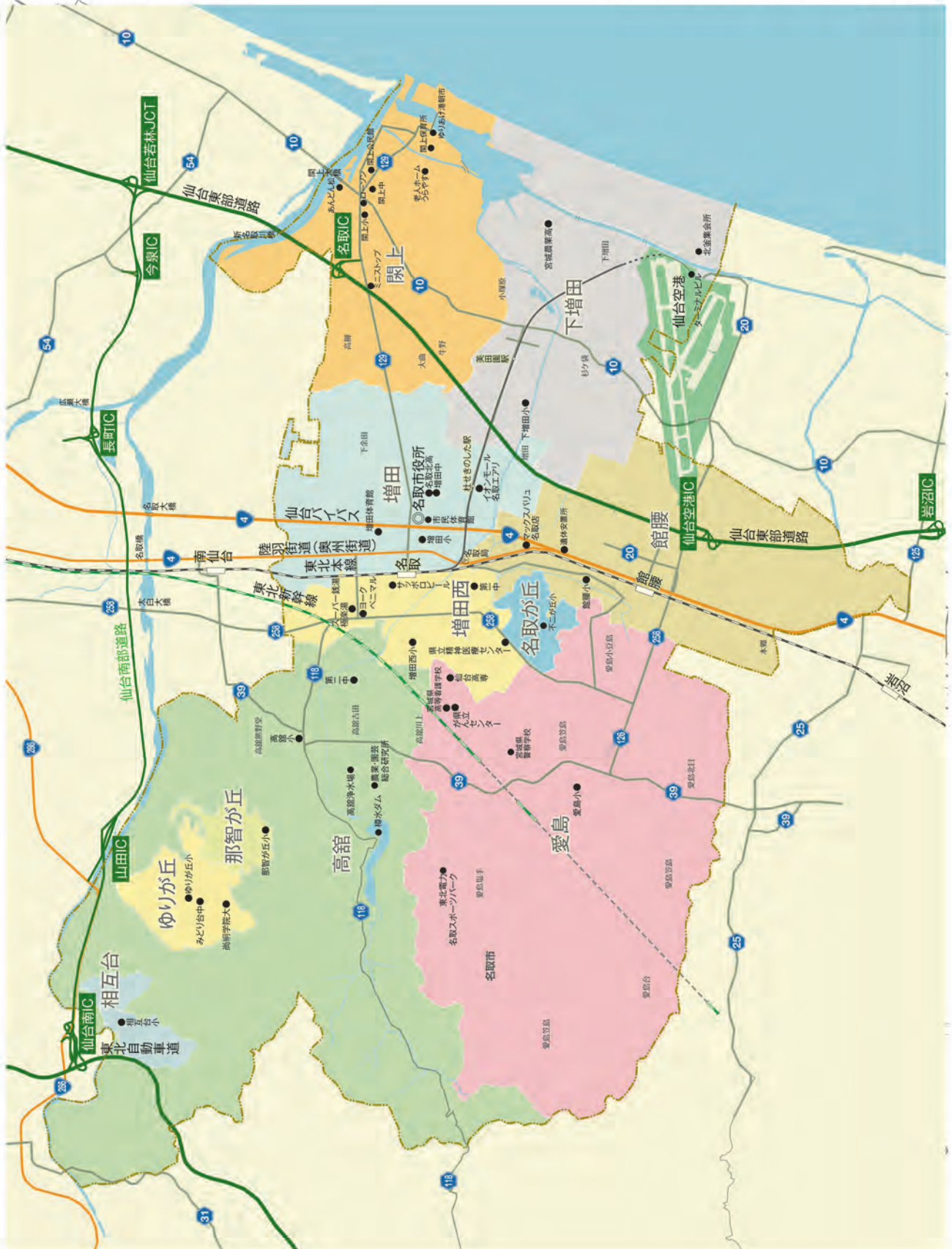
最大(平成23年3月11日時点)、52か所に11,233人が避難。

全ての避難所は、6月22日までに閉鎖。

避難者数は、名取市で把握した数であり、概ねの数である。他にも地区の集会所等や親戚や友人宅などに避難したり、夜間を自動車内で過ごすなど、数字として表れない避難者も相当数あったと推測される。

# 名取市行政区地図

※地図の表記は、震災当時のものです。



# 名取市沿岸部地図

※地図の表記は、震災当時のものです。



## 関上地区沿岸部地図

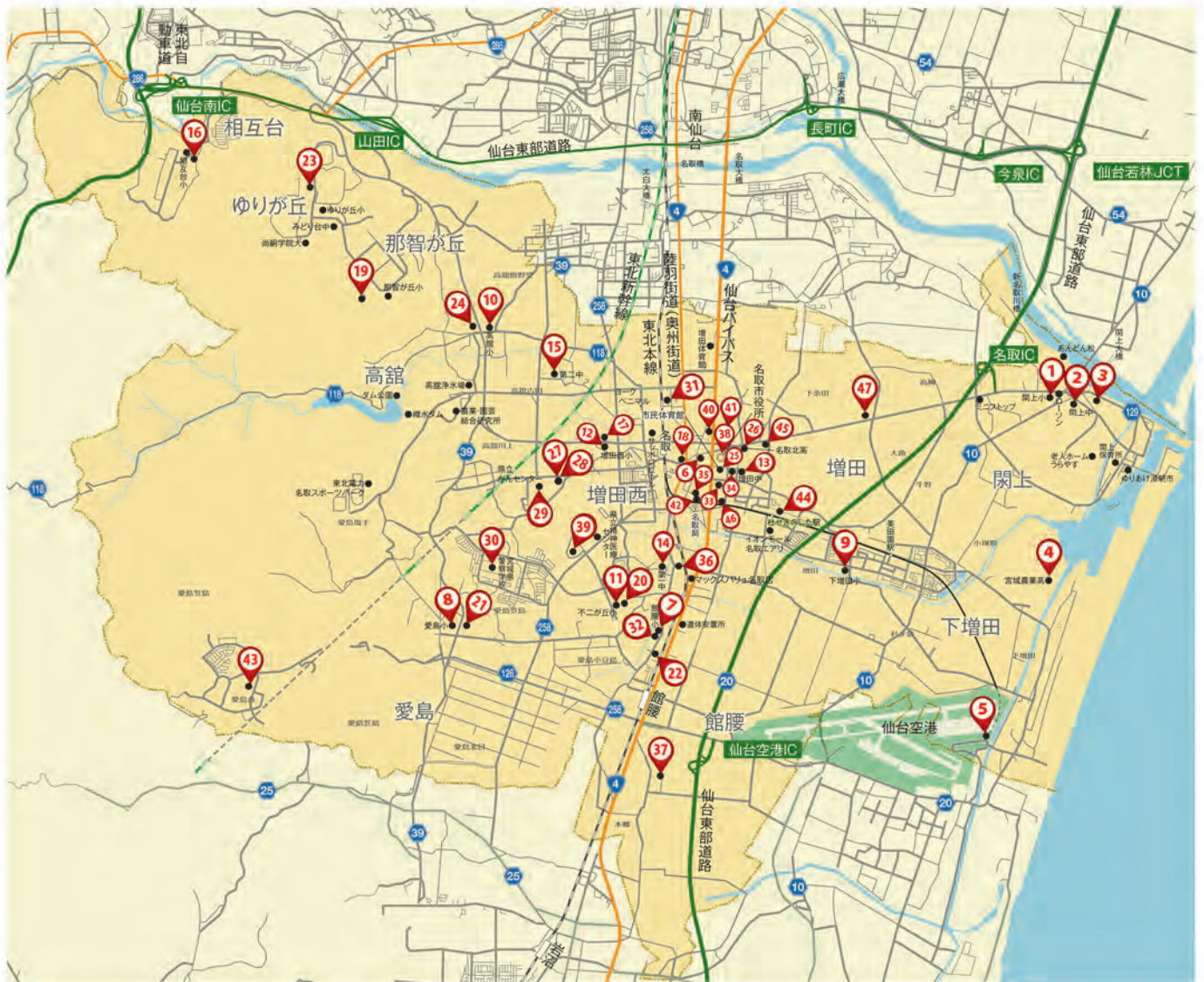


## 下増田地区沿岸部地図



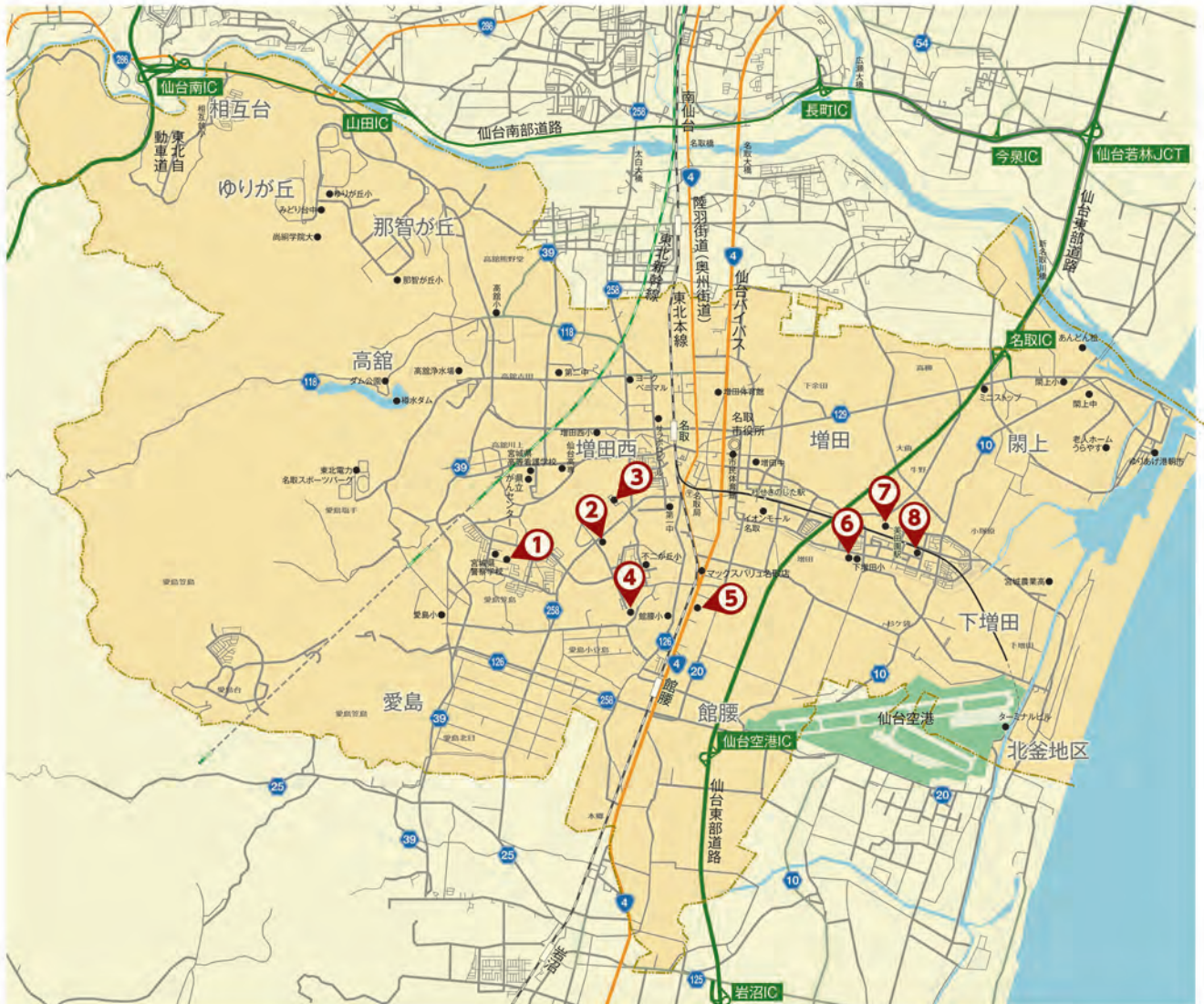


# 避難所



- |               |           |                     |                     |                     |                     |
|---------------|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| ① 関上小学校       | ⑩ 高館小学校   | ⑲ 那智が丘公民館           | ⑳ 名取が丘公民館           | ⑲ 那智が丘公民館           | ⑳ 名取が丘公民館           |
| ② 関上中学校       | ⑪ 不二が丘小学校 | ㉑ 愛島公民館             | ㉒ 館腰公民館             | ㉒ 館腰公民館             | ㉒ 館腰公民館             |
| ③ 関上公民館       | ⑫ 増田西小学校  | ㉓ ゆりが丘公民館           | ㉔ 高館公民館             | ㉓ ゆりが丘公民館           | ㉔ 高館公民館             |
| ④ 宮城県農業高等学校   | ⑬ 増田中学校   | ㉕ 市民体育館             | ㉕ 市民体育館             | ㉕ 市民体育館             | ㉕ 市民体育館             |
| ⑤ 仙台空港ターミナルビル | ⑭ 第一中学校   | ㉖ 宮城県名取北高等学校        | ㉖ 宮城県名取北高等学校        | ㉖ 宮城県名取北高等学校        | ㉖ 宮城県名取北高等学校        |
| ⑥ 増田小学校       | ⑮ 第二中学校   | ㉗ 仙台高等専門学校名取キャンパス   | ㉗ 仙台高等専門学校名取キャンパス   | ㉗ 仙台高等専門学校名取キャンパス   | ㉗ 仙台高等専門学校名取キャンパス   |
| ⑦ 館腰小学校       |           | ㉘ 仙台高等専門学校名取キャンパス学寮 | ㉘ 仙台高等専門学校名取キャンパス学寮 | ㉘ 仙台高等専門学校名取キャンパス学寮 | ㉘ 仙台高等専門学校名取キャンパス学寮 |
| ⑧ 愛島小学校       |           | ㉙ 宮城県立がんセンター        | ㉙ 宮城県立がんセンター        | ㉙ 宮城県立がんセンター        | ㉙ 宮城県立がんセンター        |
| ⑨ 下増田小学校      |           | ㉚ 宮城県警察学校           | ㉚ 宮城県警察学校           | ㉚ 宮城県警察学校           | ㉚ 宮城県警察学校           |
|               |           | ㉛ 県営増田六丁目集会所        | ㉛ 県営増田六丁目集会所        | ㉛ 県営増田六丁目集会所        | ㉛ 県営増田六丁目集会所        |
|               |           | ㉜ 館腰児童センター          | ㉜ 館腰児童センター          | ㉜ 館腰児童センター          | ㉜ 館腰児童センター          |
|               |           | ㉝ 文化会館              | ㉝ 文化会館              | ㉝ 文化会館              | ㉝ 文化会館              |
|               |           | ㉞ 保健センター            | ㉞ 保健センター            | ㉞ 保健センター            | ㉞ 保健センター            |
|               |           | ㉟ みのり園              | ㉟ みのり園              | ㉟ みのり園              | ㉟ みのり園              |
|               |           | ㊱ 飯野坂集会所            | ㊱ 飯野坂集会所            | ㊱ 飯野坂集会所            | ㊱ 飯野坂集会所            |
|               |           | ㊲ 本郷集会所             | ㊲ 本郷集会所             | ㊲ 本郷集会所             | ㊲ 本郷集会所             |
|               |           | ㊳ 市役所前駐車場           | ㊳ 市役所前駐車場           | ㊳ 市役所前駐車場           | ㊳ 市役所前駐車場           |
|               |           | ㊴ 十三塚公園駐車場          | ㊴ 十三塚公園駐車場          | ㊴ 十三塚公園駐車場          | ㊴ 十三塚公園駐車場          |
|               |           | ㊵ 消防署倉庫             | ㊵ 消防署倉庫             | ㊵ 消防署倉庫             | ㊵ 消防署倉庫             |
|               |           | ㊶ 社会福祉協議会           | ㊶ 社会福祉協議会           | ㊶ 社会福祉協議会           | ㊶ 社会福祉協議会           |
|               |           | ㊷ 増田本町集会所           | ㊷ 増田本町集会所           | ㊷ 増田本町集会所           | ㊷ 増田本町集会所           |
|               |           | ㊸ 愛島台二丁目集会所         | ㊸ 愛島台二丁目集会所         | ㊸ 愛島台二丁目集会所         | ㊸ 愛島台二丁目集会所         |
|               |           | ㊹ りんくうタウンステーション同和警備 | ㊹ りんくうタウンステーション同和警備 | ㊹ りんくうタウンステーション同和警備 | ㊹ りんくうタウンステーション同和警備 |
|               |           | ㊺ 名取ディサービスセンターさふらの家 | ㊺ 名取ディサービスセンターさふらの家 | ㊺ 名取ディサービスセンターさふらの家 | ㊺ 名取ディサービスセンターさふらの家 |
|               |           | ㊻ ホテルルートイン名取        | ㊻ ホテルルートイン名取        | ㊻ ホテルルートイン名取        | ㊻ ホテルルートイン名取        |
|               |           | ㊼ 大聖寺               | ㊼ 大聖寺               | ㊼ 大聖寺               | ㊼ 大聖寺               |

## 仮設住宅団地



① 愛島東部  
② 箱塚桜

③ 箱塚屋敷  
④ 雇用促進住宅

⑤ 植松入生  
⑥ 美田園第三

⑦ 美田園第一  
⑧ 美田園第二

## 震災写真

日付は、撮影日。氏名・団体名は、写真撮影・提供者(敬称略)です。



液状化現象

平成23年3月11日 小齋誠進



津波による「黒い煙」

平成23年3月11日 名取市消防本部



①働く婦人の家 ②関上公民館 ③関上体育館跡 ④関上児童センター ⑤消防署関上出張所 ⑥貞山運河  
⑦老人ホーム「うらやす」

平成23年3月30日 名取市



津波襲来(関上小学校)  
平成23年3月11日 小齋誠進



津波襲来(仙台空港)  
平成23年3月11日 松木良夫



火災(関上地区)  
平成23年3月11日 松本康裕



避難(関上小学校)  
平成23年3月11日 小齋誠進



①関上中学校 ②関上小学校 ③五叉路 ④関上大橋 ⑤県道10号「塩釜－亙理線」 平成23年3月30日 名取市



救助活動(消防)  
平成23年3月12日 名取市



避難者名簿の掲示(市役所1階ホール)  
平成23年3月13日 名取市



避難所(館腰小学校)  
平成23年3月17日 名取市



避難所(文化会館)  
平成23年5月20日 名取市



仙台空港と下増田北釜地区

平成23年3月30日 名取市



津波被害(関上中学校)  
平成23年3月14日 八森伸



津波被害(関上公民館)  
平成23年3月17日 名取市



ボランティアによる泥出し作業  
平成23年4月29日 名取市社会福祉協議会



仮設住宅集会所  
平成23年10月7日 名取市社会福祉協議会

## 地震の時

その日はもう大変でした。卒業式があって、すごく忙しくて。朝7時半頃から予約びっちりだったんですよ。たまたまお客さんと、地震の話になって。「最近、閑上地震が多いよね」なんて話だったの。「こんなとこに地震が来たら、大変だよ。うちなんか1発で駄目だね。」という話をしてたのね。本当に偶然しゃべってたの。その日の朝です。

お客さんがずっと6~7人いて、2時半の予約の人がいたので、準備をしていた最中でした。

2時半にパーマをかけて、半分までかけたところで、すごい地震になったので、お客さんを保護するために丸いでっかいテーブルがあったので、「その下でじっとしててよ」、「そこから動いちゃダメ」って言って。余震が続いたので「まだダメだよ」って言って。そしたら私が「窓、ドアを開けないと逃げられなくなる」と思って、こけたの。

少し落ち着いたので安全になったのを確認して、物もあんまり落ちてこなかったの、「あっ大丈夫だ」っていうこと。そしたら、お客さんが「家に帰る」っていうんですよ。「帰りたい」というのを止めるわけにはいかないし、とにかくロットを外して「薬液がついてるから、とってね」ということを言って、「後は自分で、安全を確認して逃げるんだよ」っていうことを言って。彼女は家に帰りました。

私は、うちの夫がいつも事務所にいるのに、いないから、仙台市四郎丸にも事務所があったので、「四郎丸の方に行ったんだな」って思って行ったんですよ。そしたらいなかったの。お嫁さんもいなくて、私の実家が大曲にあるので、そこに行ったら、誰もなくて。また余震がきて、「うわあー大変だ」って思って、もう見てるうちに全部落ちてきたの。「あっ、これはまずいな」って思って、もう1回、四郎丸に戻ったんですよ。夫とお嫁さんを確認しに。でもないんだわ。「うわー大変」って思って、今度、閑上に戻ったんですよ。その時に、名取川の方を走った時は車がいっぱい渋滞だったんだけど、すり抜けていったんですよ。また閑上に入って、家に着いて車の外に出たら、津波が目の前だったんです。

「うわあああー」って「もう死ぬな」って思ったが、エンジンをどうしてかけたらいいか分かんないし、もう家の中には入れない。もう震えて、腰が抜けた状態で、「ああ、これでは死ぬな」って分かった。目の前にもう黒い津波が来てる。そして、「ブワァァァー」って白く煙が立って、「はっ、あれは津波だ」って思って。戻った時には、地面が液状化になってたので、「あっこれはもうダメだ」って、逃げようとした時に、心臓がバクバクバクバクになって動けなくて、でも液状化のところ、宮下橋まで行ったら、消防車がいたの。震えながら、とにかく追い越したの。だって本当にあと数秒で、私…ダメになりそうで…。あの…ちょうど…全部もう…道がいっぱいになってて、逃げようがなくて、ふっと見た時に、細い道、来た道だったんですけど、そこがガチャガチャしてて、「もう死ぬんだから、もう…どうでもいいや、とにかく走ってみよう」と思って、ものすごいスピードで走り抜けたの。後は…もう、夢中で戻って、着いたらちょうど夫とお嫁さんが、ちょうどまた私を探しに行こうと思って出てたんです。そこで会ったんです。

その後、孫を迎えに行こうとしたら、もう行けないんですよ。津波が四郎丸のどこまで来て、どこにも動けない状態だったの。今度は孫のことが心配で心配でねえ。夜通し…お嫁さんは「私が悪い、生協なんかで待ち合わせたから」って、もう1日中大変。寝られなかったですね。1日中心配で、もちろん何もかも止まったので、ストップしたので。

地震になって、うちのお嫁さんが臨月の状態で仙台市の四郎丸にいたんですけれど、「お母さん大丈夫？」って四郎丸から飛んできてくれて。それで小学3年生の孫がいたので、その子と生協のところで待ち合わせしているっていうので、「とにかく子どもがいなかったら、四郎丸へ戻りなさい」って指示したの。で、その日は1日大変だったんですよ。そしたら小学校で預かってくれて。学校から出る前だったから良かったのね。でも「死んじゃうわ死んじゃうわ、どうしようどうしよう」って、1日大変だったんです。

私、もう…あん時も、尋常じゃない…。「人類破滅のノストラダムスの大予言なんだこれわ」って思って、「もう死ぬんだな、人類が滅亡するんだ」って思ってたの、本当に。だけど助かったの。

逃げてきたこと、なんかそれ言ったら頭痛くなって…まだ…本当にそのくらいね、大変だったの。もう、本当にね、ああいうのを死にも狂いっていうんだろうね。紙一重ですよ。本当に、うん…うん…本当、私よく助けられたんだな…って。ご先祖様に助けていただいたのかな…って本当に思う。だって、行き詰まっていたから。渋滞してて、どっさり車がいたんだもんね。それでなんか事故ってみたい。それ、分かんなかったのね。ラジオも聞いてなかったし、ラジオをつけることすらも分かんなかったもんね。夢中で走り続けたので。何がなんだか分からなかった。

## 孫との再会

次の日ね、孫がいる館腰小学校に行った時に、孫が2時か3時頃まで来るのを待ってて、生きてて、そんな時はもう安心した…。う…ってうなだれてね、もううれしくてね、「あー生きてたわー」って。お嫁さんももう大喜びで。その日の朝、弟に「行ったって無理なんだ」って言われても、私が狂ったみたいに小学校に向かって、すたすたすたすたって、呼ばれるように行ったんですよ。もう見られない顔だったって。そんな時はボロボロな状態で。

孫は関上小学校にいて、その後、館腰小学校に移されたそうです。あの時は、私たちも大変だった。飲み食いきないで、パンをちょっと、飲み物をちょっと飲んだだけで、誰にも連絡できなくて。孫が、「お母さんとかいた人はいいけど、私一人で孤独で1日泣いていたよ」って言うから、「ごめんねー」って。「ママも心配で、心配で、みんなあなたの無事を願ってたんだ」って、そしたら孫が、お嫁さんの携帯の番号、覚えてたんだね。携帯持つてる人に言ったんだ、「無事であることを伝えてほしい」って。そして夜中に、メールが入って、分かったの。でもまだ、顔見るまでは…。メールだったから。

でも今は、「言わない」って。もうみんなつらかったんだって。だからみんなのいる前では言えない。孫はもっと大変な人を見てるし。体育館から、教室に上るときも、「つぶされそうで怖かったー」って、いつも言うねえ。

## 震災のショック

それから、ずっと、ホームレスみたいに歩いたのね。どういう風にしたらいいか分からなくて。しばらくして、ガソリンが入れられるようになって、「ああこうしてられない。」って思って。被災しているところに「とにかくカットしてあげよう」と思ったけど、何にもないわけでしょ？ なくなっているのも分からなかったんだからね…その時はね。

閉上最後の時。不気味な、グレーで何一つ音のない、最後の閉上を見たっていう感じでしたね。ものすごく不気味でした。うん…怖かったです。それがやっぱり後を引いて、1か月過ぎた頃病院に行ったら、「今、みなさんね、その時は夢中だったので、出るんですよ」「おかしくありません」って言われて。寝言でうなされて、もう、大変でしたね…。

## 美容ボランティア

少しガソリンが出てすぐに、とにかく美容の本部に行って、「はさみ下さい」って、はさみとカットの用品をいただいて、館腰小学校に行ってカットをしました。私の知ってる被災した美容の人とボランティアというか、カットしに何回か行きましたね。

そのあと、地震の朝しゃべった人から電話が来て、「どうしてもカット…パーマかけてほしい」って言われて。その人のアパートでかけたのが、お客さん第1号ですね。

## 閉上さいかい市場へ

行政関係のほうから、仮設住宅で仕事をしてもよいと言われて、5月29日に愛島東部仮設住宅に入居したんです。電話してきたお客さんだけをやってました。そうしているうちに、さいかい市場ができるということになったので、「うわー、ぜひ必ず入れて下さい、仕事したいです！」って言ったんです。

さいかい市場は今の私の超生きがいで、ずーっとここにいたい感じで。閉上の人たちで、お家を建てられた方々からも「どこにも行かないで」って言われて。で、この付近の人も来てくれているので、おかげさまでなんとかかんとかね。前みたいではないけど、ほどほどお仕事させて頂いてることが救いですね。

## 仮設住宅での生活

震災後は、四郎丸にいた息子のところで5月までお世話になっていました。5月の29日だと思えますけど。うちの人は、娘のところで8畳ぐらいの事務所を開いています。

でも、仮設の人はまだまだ大変なんです。「あんたは行くところあるからいいね、でもオラあん時死ねばよかった」という人の声とか、路頭に迷っている人がまだまだ…。今は仮設で、尚綱学院や東北学院など、いろんなボランティアなどからイベントをしていただいたりしています。

仮設に入っているんですけど、東京で孫が生まれて行ってきたり、四郎丸の子が生まれたり…。だから、仮設に入ってる時間が少ないんです。あと、朝早く仕事に行って、夜遅く帰るんで、先月はほとんど行けなくて、2回ぐらいしか仮設に行けない…。この2年半は、何か怒涛のように時間が流れていきました。生命の誕生が、3回あったことで、希望が持てたり、



喜びが大きかったことが一番の救いだったかなと思います。

## 美容院を再開して

このお店を開いて良かったことは、津波を見ていない人には理解できない、例えば、「津波にあつてびしょ濡れになって5日もそのままできて、パンツそのままだった」とか、「津波が後ろから押し寄せて、下まで潜って上までいったら、何かに掴まって生きた」とかっていう人がいっぱい来てるんですよ。ここに来ると本当に分かるので、涙ながらにしゃべってくれたりして。「ずーっとここにいてね」って。ほら、心の病ってみんな持ってるんですけど、ここでしゃべると、「理解してもらえるし、落ち着く」って。「そういう人のところじゃないと、分かんない」って。本当にそういう目にあつた人じゃないと、分かんないよね。いろんな人がいっぱいいた。自分の家族が8人亡くなったとか、もう本当に大変でした。

みんなが家を建てるのが本当に喜ぶ、「よかったね」って。1人でも、復興していく姿が私にとっては今一番うれしい。自分はいつになるかは分からないけど、でも、希望を持ってね。でも、ここ（さいかい市場）にいたいっていうのが正直なところありますね。

お互いに、私も心の奥底に隠されてるものを吐き出せる。まだ日常生活で「あー」って、思う時があるので、忘れるってことはないですよ。あんな強烈な思いはない。でもまあ、本当に周りの人たちに助けられて、ここまで来れて、自立まではいかないけど、市や行政関係に助けられ、いろいろな人たちにもいっぱい助けられて、ここまで来れて感謝ですよ。

もう本当にね、大変なの。閑上に行くとね、私、動けなくなるんです。2回行ったんですけど、立てなくなって、もうぐったりになって、なんかね、つらかった。

## 感謝の気持ち

私が使っていたはさみが1丁見つかって、あとこれ（石仏）がね、私が大事にしてたんですよ。これが頭だけ光ってみえて、うちのお父さんが捜して見つけてくれたの。何にもなかったのに、これとはさみだけ見つかって。

毎日、日々感謝で「今日もありがとう」ですよ。「今日も頑張る」っていう、なんか石仏に「いつも見守ってもらってる」のかなーって思うので。はさみが見つかって、「あっ、仕事ができるかもしれない」っていう、すごい勇気と、前向きな姿勢でいけるっていうのかな、「これで生きられるかもしれない」っていうなんか希望をね、いただいたような気がして。だから、あの時を思い出すとすべてに感謝ですよ。

一瞬一瞬を大切に生きることしか、今はないですね。その瞬間瞬間を大切に生きることが今の自分の生きざまかな。要求されたら、それに応じるようにできれば幸せ。日々感謝します。そういう意味では本当に、こうしていただけることを感謝していますね。

命あればこそ何かができる。命あればこそ今生きるっていうか、そういうことしか今ないですね。生きられる、生かされているという感覚を大切に日々生きたいな一と思ってます。

## 閑上の復興

閑上は全然復興が進んでないので…。とにかく心身ともに病気とか、うつ病とか多くなる

のではないかなってというのが心配です。一番心配なのは、やっぱり仮設で結構ご年配の人たちが、「やんだわー(いやだわー)」とか「ここで死ぬんだわー」とかっていう声を聞くと、胸を締め付けられる思いですよ。何も進んでないことに、腹立たしさと、何もできない自分もいるし。

やっぱり早く復興しないと。まず健康と、とにかく安全なところに行きたいですよ。やっぱり安全なところに早く住ませたいなあっていう気持ちがありますよね。大曲あたりにいっぱい住宅を建てて、みんな買い取って、あの辺だったらみんな安心して住めると、閑上の人で、うちに来る人はみんなそう言うので。閑上の人たちがみんな安心してワイワイとにぎやかに。いい町だったので、人がいれば、その地域の活性化というのは、また復活できると思うんだけど。でもやっぱり人情として、あの思いをした人たちに、またあそこに戻れってというのは残酷かなって私は思う。

### **お仕事とボランティア**

仕事はもちろん、命ある限り生きてます。ただ、命ある限り健康でいることがまず第一です。

今まで閑上の「うらやす」(老人ホーム)で、ボランティアを15年間してたんですね。今度は被災にあって、館腰小学校に行ったとき、閑上のクリニックの先生と会ったら、仙台にある老人ホームに来てくれって言われて。私1人で今、行ってます。

すごく喜んでくれますよ。まず、閑上の人と並んで、「お客さん待ってるよ」って。喜んで頂きました。些細なことなんですけど、髪を切っただけでも気持ちいいかなって。何か役に立ちたいって思ったんですよ。みんな大変な思いをしているのは同じなので、私のできることは、はさみしか持てないので、そんなことはできるのと思ってそこにも行きました。

### **閑上の良いところ**

空気も良いし人間も良いし、住みやすかったですね。お魚はおいしいしね。食べたいものは新鮮、とにかく新鮮なもの。空気も新鮮だし、全部新鮮。お野菜だって売りに来たり、不自由しない。お魚だって、直接漁師の家族から分けてもらったりしたから、生活はすごく良かったです。もう、ここで一生過ごすんだって思っていました。そしたら、こういう風な生活になったのでね、でもこれはこれで受け止めなきゃいけないので、まあ今後、少しずつ足が地に着くように、一步一步進んで行けたらいいかなと思っております。

### **今後の展望**

まだ、地に足がついてない。なんかうわの空にいる自分があるので。だから少しずつね、地に足をつけて、生活をしていけたらいいかなと思っております。

まず健康です。こんなに健康を思うようになったのかと、改めて感じますね。もう病院に行かないことにした。もう自分は病人にならないって決めたの。バリバリとやらせていただける場所さえあれば、「行くわ！」そういう感じでいます。

## 地震の時

震災前は、閑上4丁目に住んでいました。定年後は、閑上で釣り船を営んでいました。うちの船は5トンでしたが、津波で公民館の所まで流されて来て、一番最初に解体しました。

地震の時は自宅にいました。家は、名取川の土手のそばです。表に出たら、すごいんですよ、陥没しててね。陥没したところに車が落ちていて。「ああ、これはだめだ」と思って、隣近所の人をみんなで手分けをして乗せて行って、最後に4丁目界限に残っている人がいないことを確認して、市議員で亡くなったN君と逃げました。N君は自転車で、俺は車で。日和山の所が渋滞だったので、バス通りに向かって水門の所まで来たら、津波の第一波が来たんです。ちょうど水門の所に2人立っていたので、「逃げろ」って言って逃げて。七十七銀行まで来たら、ちょうどKさんが、家に入っていくところだったから、「逃げろ」って言いました。そしたら、「今、妻を連れて逃げる」っていうことで、やっぱりその人もだめでした。とにかくここで第一波が来たから「もう、ああダメだな」って思った。そして、ちょうどどっちからも対向車が来なかったの、閑上の五叉路のそこからまっすぐ逃げて、小塚原のミニストップに差し掛かって左手を見たら、空港の方からもものすごい津波が来ました。だから結局、後ろと横から挟まれた状態で「ああ、これではだめだ」って思って、すぐ高柳っていうところから仙台市四郎丸に逃げて助かりました。バックミラーを見ると車がパタパタパタと流れて行くんだもの。

その後は、宮城社会保険病院の駐車場に1時間ぐらいいたかな。雪は降ってくるし、みんなどこに避難してるのかなって思ったんだけど分からないから、相互台の友達のところに行って、「こういう訳だ」って言ったら、「なんだ生きてたんだ」って。友人はワンセグで、空港が全部だめだっていうのを見て、「ああ、閑上もダメだな」って思ってたらしいの。友人の兄弟も閑上にいるので、「どうだった」と聞かれたが、「いや、逃げる時は見なかった」って言って、そこにお世話になりました。

その後、友人の兄弟を探しに行こうということになって、2か月半遺体安置所に通いました。そこで同じ町内の人たちのご遺体を140体から150体ぐらい見つけて、その人の親戚にみんな連絡して、それを2か月半通ってやりました。その間は相互台にいて、5月の末に愛島東部仮設住宅に入りました。

母親は、津波の6か月前に亡くなったんだけど、親戚なども言っているが、「お袋いたらだめだったかもね」と。高齢なので、避難に時間がかかって2人とも助からなかっただろうと。

## 仮設住宅へ

会長になった経緯は、ここの仮設は、3丁目と4丁目の方が多いんだよね。それでみんなが、「前に役員をやってたんだから会長をやってくれ」って頼まれたので、「みんなが手伝うんだったらやりましょう」と言いました。役員さん方は、7名ぐらい亡くなったのかな、みんな誘導してたりしてね、会長さんはじめ区長さん2名。

最初は、みんな支援してもらおうことばかりしか頭にないんだね。そういうのダメだからって役員会開いて、7月からかな、1か月300円ずつ会費を集めることにしました。みんなも快く払ってくれました。もらうことばかりでは、結局自立にならないので。お祭りでも何でも自治会費集めてるんだからやりましょうと、それをやり始めて3年間。大体自治会では、年に3回の行事はしてるんです。「夏祭り」と「芋煮会」と「花見」と、3回必ずやるんです。みんなも結構参加してくれます。去年あたりから支援がだんだん来なくなったでしょ？

## 会長として

みんなをまとめるのも大変なんです。何でも全員賛成ということはないので、どうしても一部反対の人が出るが、大多数の意見に従ってもらおうと、そういうことはきっちり決めてるんです。

ボランティアは、1回きりっていうのが多いですね。今は1回きりだったらいらないと言ってます。尚綱学院大学さんとか、あの人たちはしょっちゅう来てやってもらってるから、みんなも有り難がっています。学生さんに来てもらって、この辺の人たちは明るくなったよね。みんなに言ってるんですが、「今ここにいれば、来る人が来てちゃんと支援してくれるけども、いざ閑上に戻って自立しようとするとなんか来ないよ。だからここでちゃんと鍛えていかないとだめですよ」って。

## 今後の名取は

閑上に集合住宅を建てるようだが、そこはお寺の跡地だから、先祖の所に集合住宅なんか建てて頭踏みつけるようでは呪いが来ます。だからね、ある程度市も和らいで、住民の意向を聞いて、仙台東部道路から西側に行きたいっていう人にも、希望が叶うようにして欲しい。

いろんな意見がまとまってないな。1年半、2年と経過して、日にちが経てば経つほど、今まで戻りたいって言ってた人が、「俺はどっちでもいい」とか、そういう風になるのさ。危険区域にかかっている部分は、結局買い上げるんでしょ。買い上げたら、西側の方に換地で渡してくれれば、みんなも戻る可能性はあるのね。市は、30年、50年先を見越してやってるんだろうけどさ、まあ年寄りの方以外は閑上には戻らないと思いますね。仮設住宅には80歳代や90歳代の人が多いからね。仮設住宅で亡くなる人も多くなってくると思いますよ。

## 閑上の良いところ

閑上は港町で、昔は底引き船や巻き網船なんかがいっぱいいたんです。いいとこだったからね、あんどん松などの由緒あるところがなんぼでもあるんだね。昔の漁船なんかあんどん松を頼りに海から帰って来たもんだよね。あんどん松が見えれば、ここは閑上だっていうことで。昔は、名取川の水門のちょっと西側が魚市場になってたんです。魚はいっぱい採れたしさ。

## 今後は

仕事はもうしない。「船でも買って、また釣船でもするかな」って言うと、子どもたちに「や

めろ」なんて言われて。

やっぱり閑上に帰ったら、現地が良いければまた釣り場にしたいね。やりたいとは思ってます。戻るは戻りますけども、ただそういうお寺の所とかは嫌です。

### 地震の時

(夫) 当時の家は、ちょうど閑上の魚市場の前だったんです。だから海が目の前っていう感じだったんですね。家業は寿司屋です。

地震当時は、車の中にいました。ちょうど日和山の信号で止まっている時でした。やはり店が一番心配だったんですよ。店に入ったら中がめちゃくちゃで、もう夜の仕事のことで頭がいっぱいで、まさかこんなに大きな被害が出るとは思わなかったものですから。それで、片づけ方をしてたのかな、でもしばらく外で近所の人たちと話をしました。みんなやっぱり出てくるんですね、地震の後。それで、「津波が来る」っていう話もしてたんだよね。津波っていうと、私は生まれも育ちも閑上で、「津波は絶対来ない」っていう頭しかなかったものですから、早く店を片付けて、仕事しなくちゃダメかなっていうのをずっと思ってたんですよね。隣近所の人がみんな出てきて、逃げるかどうしようかって悩んでたんだよね。先に逃げた方は逃げたんですけども。

子どもは3人いるんですけど、その当時は、上が高校生で2番目が小学生で1番下は保育所だったんですよ。私はその日の商売のことで、家内は子どものことで頭がいっぱいで、「じゃあ、どうしよう」となり、そこでちょっと口喧嘩になりまして、私の方が折れたって感じですね。しょうがないので、お通夜のところに断りに行って、予約いただいた所には、「これじゃ仕事にならないから」と直接断りに行きました。

その後、保育所に行ったら、ちょうど所長先生が1人で最後に出るところだったんですよ。そこで所長先生から「子供たちは、閑上小学校の方にすぐに避難しました」っていうことを聞いて、そこでまず一安心して、1回戻ったんだよね、店の方に。戻った時に漁師の方とかが店の前に集まっていたんですよ。その時は、もう隣近所の方は、みんな避難しちゃったんですね。4~5人ほど集まっていたのかな。それで、逃げようか逃げないか、そういう話になってたんだよね。結構時間は経ってたかもしれないですね。その後、家内が「今から子どもを迎えに行くから」って言ったので、「お前1人で行ってこい。俺は店の片づけ方してるから」って言ったが、やはり1人では怖いっていうことになって、私も一緒に行きました。長男は仙台の方に遊びに行っていなかったものですから。

それで、車に乗り込んで、「じゃあ行くか」って言ったら、ちょうど隣の方が顔を出したんですね。目が合ったんで、何気なく「俺らと一緒に乗って行くか」って言ったら、「うん」って言って乗ったんだよね。それでその隣人の奥さんが、閑上公民館にいるっていうので、私たちも1度公民館に行ったんだよね、降ろすために。それで1回公民館で降ろして、「じゃあ今度こそ子どもを迎えに行くか」っていう事で閑上小学校に行ったんです。

(妻) 学校に行ったら、ちょうど子どもたちが上から下に降りて来た時だったんです。引き渡しの前だったんですね。真ん中の子を確認して、「ああ、いるな」って思ったので、今度下の子を確認するのに私は校庭を横切ろうとしてて。

(夫) その時私は、校庭の車の所で待ってたんですが、ちょうど子どもたちが体育館に集ま

ってきて、「ああ、これなら店に戻れるなあ」と思って。そしたら上から、2階か3階かな？、「みんな上がれ、上がれ」って言われたんだよね。そこにちょうど家内が走ってきて、俺と一緒に上がったんだよな。そして一緒に2階から3階に上がったんです。こっちは子どもを探し回って、「所長先生、ちゃんとやってくれるよなあ」と思いながら。保育所の子どもは、屋上で見つけたのかな、それでやっと2人とも見つけました。

### 長男のことが心配に

(妻) 今度、長男のことが心配になったんですよ。ちょうど2日ぐらい前に大学の合格発表があって、合格して喜んでいたところでした。長男は携帯電話を持って歩くような子じゃなかったんで、連絡が取れなかったんです。でも友達の電話から、たまたま私の電話に連絡が入ったんだよね、偶然に。なかなかつながらない状況の中で、たまたま話のできたので、「とにかくこっちに帰ってきて何も無いから、実家に行きなさい」って伝えて。実家は仙台なんで、だから出先から直接実家に行きなさいと言って、それからしばらく連絡が取れませんでした。

(夫) 閑上にいなかったから、津波には巻き込まれていないなって思い、地震でなんともなければっていう安心感は私はあったんで、とにかく戻って来ることだけが心配だったんですよ。戻ってきて巻き込まれたら大変だと思って。

長男は、結局実家には行かず、友達の所に泊まって、名取の避難所に3日目に「探したよ」って来てくれました。

### 小学校に避難

(夫) その日は、1晩小学校の方にいました。私らは3階にいたんです。その時は、もう今後の事とかは全然頭にはなかったです。私らは、家族と再会できましたが、みんなは子どもか旦那さんや奥さんと再会できないで心配してたものですから、私らも喜んでもらえないし、複雑な心境でした。そして次の日、バスでみんな他の避難所に移りましたが、私らは最後で、夕方でした。私らは、50歳過ぎで若いから、最初は年配の人から乗せました。

### 館腰小学校に

(夫) 館腰小学校避難所では、その町内会の人たちからおにぎりをもらいました。小さく、冷たいおにぎりでしたが、あれを食べた時は、「こんなにうまいものかな」って思いました。

私ら当時薄着だったんです。ほとんどTシャツ1枚と同じだったんです。着ていたジャンパーは子どもにやりました。真ん中の子は体育着だったし、下の子はパジャマでしたから。館腰の町内会の人たちが、グラウンドにジャンパーを集めてくれて、そこで私らはジャンパーをもらいました。避難所は、閑上の方が多かったもので、いろいろお話をしました。

2~3日目あたりに「今後どうする」って思ったんだよな。お金も全然持ってないし、個人営業ですから収入がどこからも入って来ないっていうのが目に見えたものですから。今後どうするかっていうのを悩んだよな……。でも、それから大体1~2週間過ぎてからは、だいぶ落ち着いてきました。

(妻) 長男とは、3日目に避難所に来てくれて会えました。歩いて探していたので、時間がかかったみたいで、こっちでもある程度探したんですよ。でもすれ違いだったんですね。でも生きてるっていうのが分かっていたから、焦ったりとかはなかったですね。

(夫) でも周りでは、「うちの息子亡くなった」という話がいっぱい流れてきたものですから。人の手伝いとかをして、みんなお互いに助け合ってやりましたね。

### これからどうやって生活していこう

(夫) 2週間ぐらい過ぎるとサラリーマンの人たちが、会社へ出勤し始まって、私らみたいなのが取り残されて、だから朝が一番つらかったですよ。もう避難所で「ぼー」として居るしかないんだよな。子どもはまだ小さいもんで、「これからどうして生活しようか」というので頭がいっぱいでしたね。どっかにアパートを借りてみんなで入るっていうよりも、やはり仕事を失くしたっていうのが一番つらかったですね。

50歳過ぎると、私らみたいな職業っていうのは、雇ってもらうところがないんです。話が来ても、時給なんぼとかいう話しかないんですね。それに同業者は私ぐらいの年齢になると使いづらいで敬遠しちゃうんですよ。だからもう「寿司屋では絶対働けないな」と思っていました。

3日目に自宅を見に行きました。車を持っての方に乗せてもらって確認しに行きました(ご主人1人で)。

(妻) いろいろ考えて、何週間後だったかな、1か月過ぎてからかな？私(奥さん)が仕事したのは。

(夫) 私も内心は働きたいっていうか、収入を得たかったんです。避難所にいれば何にも心配ないんですよ。食べるものとか着る物とか、ボランティアさんがいろいろやってくれますので、でもそれに依存しないようにして、今後のことを考えないとね。

そのうち、土木関係の仕事の話が入ったんです。私は、高校を出てずっとこの職業だったものですから、力仕事って経験がないんですよ。でもこのまま遊んでたってしょうがないので、家族のためにやるしかないと思い、働きました。仕事は、がれき拾いです。がれきとかスコップを持って泥を掃いたりしましたが、そういうのは、私には苦痛だったんです。寿司屋は、手が一番大事ですし、寿司に匂いが付くようなものは扱わないというこだわりがありました。当時は泥、ヘドロですか、そういうのを平気でやりました。無我夢中だったから出来たということなんだろうな。そういうのをやらなければ、お金がもらえなかった。でも次第に、自分が情けなくなっちゃうんですね。寿司屋をやってきたこの40年間っていうのは何だったんだって。それが自分自身の核でしたから。一生こういう仕事をやるしかないのかなと悩みました。この仕事は4~5人のグループでやるんですが、考え方がみんな違うんですよ。「俺はこのままでいいんだ」とって、そういう人が多いんです。はっきり言って楽して1万円以上の賃金がもらえますんで。でも、私はそういう考えは全然なかったです。場所は、空港のあたりですね。がれき拾いしていると、自分自身に情けなくなってきた、自然と涙が出てくるんですね。それでも家族がいて、家族を食わせて行かないとにならないので、そういう葛藤がありました。家内の実家からも仕事を紹介してもらえたんですが、でもそこまで甘え



て、そういうの私あんまり好きじゃないんです。

本当に慣れっていうのは怖いもんです。最初は、自分自身が情けないと感じていましたが、それが1か月過ぎると1日1万円以上の賃金をもらって、「こういう生活も悪くないな」っていう気持ちに変わってくるんですね。寿司屋は、金額は入ってきますけど出ていくのも多いんですよ。それが当時は入るだけで、出ていくっていうことがないんです。仕入れとかが無いもんで。だから、「こういう生活もいいよな」ってそう思ったり。私らは、もう何十年って盆と正月を休んだことがないんですよ。土曜、日曜も休んだことないんです。でもこの1年間は、土曜、日曜と盆や正月が休みですよ。だからこういうのもいいよなあって、そういう気持ちになりました。

## 店を再開しよう

(夫) その一方で、「お店いつやるの」っていう話があり、しょっちゅう電話をもらうようになったんです。それも地元じゃなく県外の沖縄や北海道あたりからも、私たちを探して電話してくれてくれるんですよ。やはり、「今度いつやるの、どこでやるの」っていう話になるんですね。ほんとは、あの時点ではやめると思って、もう私はやる気はないんだけど周りで盛り上がっちゃって。はっきり言って、お金もそんなにないもんで、50歳過ぎて店をまたやっていけるかどうかっていうのが一番悩みました。

子どもには弱いところを見せたくないけど、やはり自分自身は弱いんだよね。結局「全部子どものためにやろう」と思って。でも子どもはそう思っていないところが憎たらしいとこで、今ちょうど反抗期だし。最初は店やる時も「どうせ誰も助けてくれないだろうな」「自分自身でやるしかないだろうな」って思ったんだけど、みんなが協力してくれるんですよ。

## 仮設住宅

(夫) 愛島東部仮設住宅に、5月ぐらいに入居しました。当時は、アパートは一切考えられなかったですね。収入が途切れたし、あの当時「借り上げ住宅」っていう制度はなかったものですから、アパート代が払えない。親戚の人が心配して、借家を探してくれましたが、結局借りるっていう気にはなれなくてね。仕事を見つけないことにはしょうがないし、仕事を見つけても結局アルバイトだから、いつまで続くという保証もなかったから、安定した仕事があればそういう面も考えられたんだけども。

## 仮設商店街

(夫) 避難所にいる時から、「仮設商店街」というような施設ができるっていう話は聞いていて、それがもしできるんだったら入りたいなって気持ちはありました。引き渡されたのが2011年12月のクリスマスぐらいの時でした。その後、「人の付き合いって、こんなに大事なんだなあ」と思いました。だって協力してくれるんですよ。こっちが恐縮しちゃうぐらい。だから、「そういう人のためにも頑張ろう」っていう気持ちになってきたんだよな。岐阜の方からたくさん支援を受けました。厨房道具から食器から、テーブルもだし。たくさんの方から支援を受けて、買ったのは少なかったもんね。「その人たちのためにも、やるし

かない」っていう気持ちで、今でもそうなんです。「あそこの寿司屋さん、だめになったんだ」ということは、絶対言われたくないですから。今以上にお店を良くしたいものですから。今でも、そういう気持ちが続いています。

### 頑張っていることをアピールしたい

(夫)「がんばってます」って、みんなにアピールしたいわけです。「私はここで頑張ってる」っていうことを、皆さんに伝えたい。テレビで取り上げてもらうのは簡単なんです。でも、それでは意味がないんです。やはり1回来てもらって、それを気に入ってもらって何回も何回も来てもらうっていうのが私らの営業の在り方なんです。だから店のお客さんで何十年の付き合いの方が結構いるんですね。そういうお客さんを大切にしたいですね。だからもう家族と一緒になんです。そういう営業でやってきました。

やはり今は頑張れば頑張るほど、頑張った見返りもあるんですよ。まあ今は、「震災の被災者だから」というのもあると私は思ってるんですよ。でもやはり頑張れば頑張ったなりに、お客さんが来てくれます。寿司の値段を高くしないで、来て食べてもらって、「おいしかった。また何年後には必ず来るからね」ってそう言われるのが、私は嬉しいんですよ。

### これからのこと

(夫)正直言って私は閑上に戻りたいですよ。でも家内は戻りたくありません。子どもも戻りたくない。

(妻)やっぱりあの場所に住むのは考えちゃいますもんね。

(夫)ただやはりね、親が苦勞して苦勞してようやく手に入れた土地なものですから、私は手放したくない。だからその葛藤なんです。どうしても親の苦勞を見てるものだから。両親はもう亡くなりました。

(妻)戻る人数が少なければ、閑上で商売できるかどうかっていうのも分からないですよ。そういうのもあるから、余計私としては、閑上以外のところにお店を構えて欲しいなっていうのはあるんだけど、そうすると相当お金が必要なんです。それを考えるとちょっと無理なのかなって、そういうところが今悩んでるところなんですよ。

(夫)例えば、この辺に店を出すとすると結構な金額になっちゃうんですよ。だから私としてみれば、もうここで何年やれるか分からない。一応5年って決められてるんですけど。ここでもう最後にしたいなって気持ちもあるんですよ。

正直言って、息子の名前でお金を借りて、店を建てることはできることはできるんですよ。でも、そこまではしたくないんですね。

### 閑上の良いところ

(夫)閑上の良いところは、やはり人間関係じゃないですか。人の付き合いがいい。ただ、私らが頼りにしていた方がみんないなくなってしまって。口は荒いんだけど、いろいろアドバイスしてもらった、そういう人がみんな亡くなったんですよ。商売上の相談する人がいなくなりました。

(妻) 良いところも悪いところも結局一緒なんですけども、人との関わりが深いですよね、閑上は。それが良い時と悪い時とあるんじゃないですか。でも悪い思いはあんまりしてないので、結構お互いに助け合いながらやってきて、避難所にいた頃から助け合い、本当に物も分かち合って、自分がもらったら他の人に配って、みんなで一緒に食べましょうって気持ちなんです、閑上の方ってというのは。

(夫) 避難所の時は、何でもそうでした。独り占めをしないと。

(妻) 子どもなんか今でも、避難所の暮らしは楽しかったって言ってます。

(夫) 震災からようやく1年が過ぎて落ち着いて、そうすると震災前の店の雰囲気っていうのが、今できています。前からいらっしゃって、家族の付き合いっていう感じのお客さんが来てくれます。それがやはり嬉しいんですよ。

### 地震の時

(母) 震災の時は、閑上4丁目の日和山の北側に住んでいました。地震の後は3回ぐらいしか行ってません。今は更地になっていて、ここが自分の家だったんだなあと思うと悲しくなりますね。

(子) 隣の息子さんが「津波来るからすぐ逃げろ」って来たんです。それで父を「一緒に逃げよう」と引っ張ったんですけど、「2人先に行け」って言われて、父の大事にしていた書類等を渡されて、それを持って隣の息子さんの車に乗せられて、車をよけながら進んで行きました。父の「バイクで後から行くから先に行け」という言葉が最後になりました。私たちも、もうちょっと遅かったら駄目だったですね。

(母) 長男は、自営業だったので消防団に入っていました。地震の後息子はすぐ家に来て、「ああ大丈夫だな」と言ってすぐ戻り、消防団の仕事で町内の人たちを誘導したり、助けたりしていたそうです。後で分かったのですが、自分の後ろにいた消防の車2台と、乗っていた2人が亡くなったそうです。長男はすれすれで命拾いしたようです。

(子) 父の母(おばあちゃん)は102歳でした。3日前に「うらやす」(老人ホーム)に入りましたが、助けられて今も施設の世話になっています。

### 津波が

(母) 閑上中学校に避難してから15分位経った頃、ものすごい勢いでがれきや船が流れて来ました。みんなで窓の外を見て、びっくりしてもう無我夢中でした。

### 避難所

(子) 閑上中学校から閑上小学校に移動するように言われ、小学校へ行くことになりました。ビニールの袋をもらい、靴に結んで歩いたが滑って転んだりする人もいました。母も階段のところで転んでしまった。一晩中余震もあったし、すごく怖かった。

その後、第一中学校へ移動しました。近くに父の妹がいるので、第一中学校では名前だけ書いて叔母の家に行きました。

(母) 妹は、「姉さん、今までは、ばあちゃんを見てくれたんだからずっと家にいていいよ」と言ってくれました。仮設住宅に入るまで、ずっとお世話になりました。

### お父さんが遺体で見つかる

(子) 重たいくらい重要な荷物を私たちに預けた父は、3月27日に遺体で見つかりました。

(母) 次男がお世話になっている家から、自転車で遺体安置所へ午前と午後通って探して、「ああ今日も見つからなかった」と思っていたら、3月27日の午前中、「お父さんみたいだから来てみて」と言われ、家族みんな集まって確認しました。近くの葬儀屋さんに火葬をお願いしました。火葬は1週間から10日くらいかかるって言われたので、それでは駄目だと思い、白石に

親戚がいるので、そこに頼んで4月2日に火葬しました。

### 仮設住宅に移動

(子) 仮設住宅に入ったのが5月28日の小雨が降る日でした。トラックにシートをかぶせ、叔父にも手伝ってもらいました。仮設は狭いし、いろいろ考えるとイライラして困る時もあるけど、「みんな同じなんだ」と心を落ち着かせています。

### これからのこと

(母) 閑上には、あんなに大きな津波を見たので、行きたくないです。がれきや船や自転車や車、それに人も流されて来て。ものすごい光景で。ああいうのを見たんだものね。

5月5日にお祭りとお市があつて行ったんです。それが最後ですね。更地になった閑上を見て、「閑上ってこんなにちっちゃかったんだな」と思いました。

家は、仙台東部道路の西側を希望しています。この前の役所の説明会の時に2LDKの一戸建てを希望しました。そしたら100件の募集に240件の希望があつたと言われたので、「100件に漏れた人はどうするんですか」と聞いたら、「東部道路の東側か災害復興アパートに入るようになる」と言われたので、「それは保証してもらえるんですか」と聞いたら、「それはできると思う」と言われました。「何百人も同じ思いをしているんだから、みんなの希望が叶うようにしてください」とお願いしたんです。

### 閑上の良いところ

(子) 閑上の良いところは浜風が涼しい。あと、子どもの頃遊んだ日和山は、上へ登ると海が見えた。日和山の斜面をダンボールで滑って遊びました。「おつつるばつば」という駄菓子屋があつて、幼稚園から帰ると、「はい100円」と言ってくじ引きしたり楽しかった。あと港町で、おじいちゃんが漁師だったので、活きの良い魚が食べられて良かった。人間関係も良く、友達もたくさんいた。今も仮設で閑上の人たちとみんな仲良く暮らしています。

閑上に帰るんだつたら、「仮設から出て行け」と言われるまでいても良いと思つてます。今は集会所でお茶飲みしたり、踊ったりして楽しんでいます。

### 地震の時

家において、テレビを観ていたら揺れ出したから、「あー、こいつ強いな」って思って、あわてて外に飛び出したら、隣が実の姉の家で姉も飛び出して来て、姉の旦那も散歩から帰ってきたところでした。立ってられないくらい揺れて、液状化で泥水が溢れ出てきたんだよね。立ってられない揺れでしたが、車は普通の感じで走っていました。ラジオでは、「大津波警報」だと言ってたんだけど、まさかこっちまで来るとは思いませんでした。甥っ子の嫁が帰ってきたので、「津波来るから逃げろ」って言ったら、「会社に教えに行くから」って言って、教えに行きました。

私は、ヘルメットを被って、足の先に鉄が入っている安全靴を履いて、車で姉と義兄を乗せて閑上公民館まで避難しました。公民館では車の誘導を少し手伝いました。公民館に避難してた人は、みんな中には入らないで外の車のそばで話をしていました。小さい子どももいましたが、大人がほとんどでした。

その後、甥っ子の嫁も合流しました。うちの小学3年生の男の子がいたので、心配になり閑上小学校まで見に行きました。小学校では、3階にみんな整列しており、今から体育館に移動するということだったので、子どもに「ちゃんと言うこと聞いてろよ」と言って公民館に戻りましたが、途中、屋根が空を飛んで来るように見えて、向こうからみんな走ってきたので聞くと、「ダメだ戻っては、津波が来てる」って言うわけさ。その時は、公民館近くの交番や生協あたりまで戻ってました。見ると、屋根が空を飛んで来るような感じで、「あれが津波だ」と思って、走って小学校に逃げようとしたけど、津波のほうが早く、追いつかれそうになって、右と左から水が来て、「もう水来たから、ああダメだわ」って思ったんだけど、ちょうどそこに、ごみを入れる鉄の箱があったんだ。鉄製の四隅にフックを掛けるところがあるやつさ。そいつに飛び乗ってその上に這い上がりました。高さは結構ありました。

### あんどん松のところまで流された

そして、そのまま流されていきました。箱には何箇所か水抜き穴が空いていて、だんだん沈んできたので、仕方がないから飛び降りたら、偶然土地の高い所で足が着き助かりました。そしたら、車が流れてきたので、車の後ろのガラスが壊れていたところから車に乗り込みました。それで、仙台東部道路があって、あんどん松がある辺りでちょうど道路のガードレールの間に引っかかって止まったわけさ。そしたら今度は車が沈み始めたんで、仕方がないから車の上に這い上がりました。たまには波で水被ったのかな。そしてそこに次の日の午前1時頃までいました。結局、あんどん松があって仙台東部道路の辺りまで流されたが、とにかく流れが早くて、もうジェットコースターみたいな感じでした。

そのうち、土手の所を消防車が行ったり来たりして、「もうちょっとがんばれー」って言われるけど、全然助けに来る様子がなく、ヘリコプターもライトを照らすけど、「あの人大丈夫だな」って思えばUターンしていくんだな。だからヘリコプターはだいぶ来てたけど、パッ

と照らしてUターンしていただけなんだから。

そっちこっちから「助けてー」と聞こえるし、プロパンガスの「シュー」と吹き出す音がするんだ。最初「何の音かな」って思ったら、ガスが臭ってくるのさ。プロパンガスのホースがちぎれて、ガスが出てるんだ。他にも燃えた車が流されて来たりしました。

午前1時頃になって、ゴムボートで消防の人が来て、赤ん坊の泣き声がしていたから、「赤ん坊があっちにいるから、先に行ってくれ」って言ったんだけど、「ダメだ行かれない」って言われて、がれきで進めないんだと。だからがれきを避けながら越えて来るわけさ。ゴムボートから俺が乗っていた車の上までは結構あったんだけど、梯子を渡したが、立てなくて、力を入れるんだが寒くて体が固まったんだな。だから這いながらゴムボートに移って、それで、「あっちに人がいるから」って行ったら、3人いたんだけど、既に亡くなっていた方1人はそのまま置いて、親子のおばちゃんと娘さんを乗せて、3人ゴムボートであんどん松の土手に着いて、消防の車に乗せられて名取北高校まで行きました。

名取北高校に行ったけど、発電機で丸い大きなストーブが点いてただけで、他には何もなくて、高校のジャージをもらって、その前に毛布1枚を消防からもらって、それだけでした。しかし、下着が濡れているからいくら毛布を羽織っても暖かくなりませんでした。それで、そのまんま一晩中ずっとストーブにあたっていました。その時は、気が張ってるから痛いところは何もなかったが、2日経ってから痛くなってきたので、見たら体中あざだらけでした。

名取北高校に3日か4日いたのかな。何も無いんだ。食べる物も、おにぎり1個とあと水だったかな。こんな小さなおにぎりだったんだ。その後、家族や親戚を探すために、市役所に通ったので、市役所に近い文化会館に移りました。

## 文化会館に避難

文化会館に避難して、最初は仕切りも無かったけど、後でダンボールで仕切ったりしました。アパートを借りたりして避難所を出ていく人もいました。その時は、まだ仮設ができていないから。

文化会館にいた時、甥っ子とその子どもは閑上小学校に避難していて、その後移された館腰小学校で見つけて、それから2人が文化会館に移って来て一緒にいました。遺体安置所にも毎日通って家族を探しました。

「もう諦めろ」って甥っ子に言ったんだ。なんぼ見たって生存者のところに名前が無いし、病院に運ばれた人の名前にも無かったのさ。それで、毎日遺体安置所に探しに行っていました。毎日死人の顔を見るが、それが一番辛かったね。兄と甥っ子の嫁は、遺体で見つかって、火葬にしたの。亡くなっていたの、逃げ遅れて。姉は、結局遺体安置所にいたって言うんだけど、探し出せなくて。DNA鑑定でやっと姉が見つかりました。だから3人亡くしています。

## 仮設住宅へ

仮設住宅の希望調査には、どこの仮設住宅でも構わないと書いていましたが、5月13日か14日に、雇用促進住宅（仮設住宅扱い）の鍵を渡されて、すぐに避難所から出ていけみたいなことを言われたので、「2～3日の時間をもらわなきゃ引っ越せない」って言ったのさ。結構荷

物もあったし。でも、明日から晩飯が出ないからって言われて、だからすぐ引っ越して来ました。

ここに決まったけども、「嫌だ」って言う人もいました。「こんな古い所は嫌だ」とかさ。私は、避難所にいるよりは、ちゃんとした部屋があって、プライバシーも保てるので、なんぼ古くてもいいと思いました。別に、住めないような具合でもないからね。

### 人間関係は

いい人はいいけど、話が合わない人もいるからな。だから大変だ。自治会は、5月に入居してきて9月1日発足しました。その間は、俺の所に持ってきたんだ、パンでも何でも。パンも多い時は、300個来たりするのを配ったり、逆に掃除機は20台しか来なくて、どう配るか悩んだりして大変だった。だから、やるもんじゃなくなってるね。だけど誰かがやんなきゃダメなんだからね。

### 今後のこと

名取が丘に、災害公営住宅を建ててくれって陳情してるんだけど、それがなかなか市が「うん」って言わないんだね。そこは名取市の土地で、水道もガスも来てるし、嵩上げすることもないし、整地すればすぐに建てられるので、閑上を嵩上げするより早いと思うんだよね。だからそこに災害公営住宅ができれば、引っ越すかなって思ってるんだけど、なかなか市が首を縦に振らないんだもん。

これから住むなら、やっぱり高台がいいな。どうしても名取が丘に作らないんなら、仙台東部道路から西側に災害公営住宅が建てば、そこに行きたいと思います。

### 閑上の良いところ

良いところね、みんな隣近所は仲が良かったよ。知り合いの漁師が、魚を持ってきてくれたし、売り物にならないような魚を持ってきてくれたの。



## 地震の時

震災時は、大学が春休み期間でした。その日は、祖父と弟と3人で自宅にいました。地震が起きた時、揺れが今までに経験したことがないくらい大きいものだったので、「すぐに逃げなきゃ」と思いました。そこで祖父と弟を車に乗せ、閑上公民館のグラウンドに避難しました。その時は正直、津波が来るかどうかというより、「今の地震って宮城県沖地震かな、これからどうなっちゃうのかな」ってことばかり考えていました。

公民館に避難した後、防災無線も聞こえなくて、弟が持ってきたラジオから「高台に逃げてください」とアナウンスがあって、公民館より高い建物は閑上小学校か閑上中学校だったので、とっさの判断で小学校に移動することにしました。車で小学校に避難する際に、中学校に向かう車が渋滞しているのを見たので、渋滞を逃れるために脇道を通りました。

私が小学校に着く頃には、津波がすぐ近くまで迫っていました。車から降りた時に「津波が来るぞー、早く上に上がれー」という叫び声が聞こえたので、一目散に校舎の3階まで上がりました。もし、脇道を通ってなかったら、逃げ遅れていたかもしれません。

校舎の3階から黒い波が押し寄せるのを「本当に津波が来たんだ」と呆然と眺めていました。

## 小学校に避難

小学校の教室の床は、タイル貼りで底冷えが激しかったため、とても床に座っていただけませんでした。そこで底冷えを防ぐために画用紙やカーテンを床に敷いて、辛うじて寒さをしのいでいました。私は寒さによる体力の消耗を防ぐ意味で横になっていました。津波によって流されてきた、がれきと大量の海水によって孤立した状態になり、水が引かないと自衛隊が救助に来れないと学校の先生から話がありました。

小学校で1晩過ごすことになり、何もすることが無かったので、教室の窓から遠くを見て、「家は大丈夫か」という心配をしていました。周りにいた人たちは、携帯電話で家族や友人の安否確認をしていました。また、ラジオ等で情報の収集もしていました。余震が起こるたびに、「いつになったらこの揺れは収まるのだろう」という不安を抱えながら、夜が明けるのを今か今かと待っていました。学校の先生方は、自分たちの家族の安否の不安を抱えた中でも、水が止まってしまったトイレ掃除を行うなど精力的に動いてくれました。

次の日の朝、自衛隊ががれきをかき分けて救助に向かっているという連絡を小学校の先生から受けて、「よし、助かった」と安心しました。自衛隊が着いた時に、救援物資としてパンや飲み物が配布されました。その後先生から、「名取市内の別な小学校に移動するように」との連絡を受け、迎えのバスが来るまで教室で待機していました。その間、続々と自衛隊員に救助された人たちが、小学校に運び込まれている様子を見て、衝撃を受けたのを今でも覚えています。

迎えのバスが着いたと連絡が入り、歩いてバスに向かいました。その時に外の光景を見て、変わり果てた閑上の姿に唖然としました。

## 館腰小学校に避難

館腰小学校の体育館には、閑上だけでなく多くの方々が避難されていました。中は、暖房が効いていて、支援物資として毛布なども配布されていたので、寒さを防ぐことは出来ました。救援物資としてパンが配布されていたので、食べるものには困りませんでした。ボランティアの人が来てくれて、おにぎりを握ってくれたり、炊き出しなんかもいろいろあり、温かいお蕎麦や汁物をいただく事が出来ました。

大学は、5月の下旬まで休みだったので、避難所にいる間は、日中は本を読んだり、運ばれてくる救援物資の搬入のお手伝いをしていました。携帯電話が津波で流されたので、早く友達に会いたいという気持ちで過ごしていました。

避難所生活は、2か月くらいでした。その間、様々な方から支援を受けたので、とてもありがたかったです。

## ボランティアに加わる

避難所生活を通して、大学生として何かしなきゃという思いをずっと抱いていたので、大学が始まってからすぐに大学の災害ボランティアに登録しました。授業があったので、すぐに活動に参加はできませんでしたが、秋頃に私が住んでいる仮設住宅の集会所に行った時に、ボランティア活動をしている学生を見つけたので、ここでの活動だったらできるなと思いました。そして、活動していた人に声を掛け、次回の活動から参加する事になりました。それから、何かボランティア活動があるたびに率先して参加していました。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて、合同でキャンドルナイトや催し物をやったりして、すごく充実した日々を過ごさせていただきました。

## 仮設住宅に

私は、以前は一軒家に住んでいたのですが、仮設住宅の中はだいぶ狭く感じます。住んでみて、閑上にいたときより山が近くなったと感じます。逆に海が遠くなってしまったので、夏に友達と海に行ったり、プールに行ったりという機会が少なくなりました。あと、花火を見に行くにも車や送迎のバスを利用しなくてはならなくなった事に不便を感じます。

しかし、悪い事ばかりではありません。ボランティア活動などを通じて、それまで顔も知らなかった方々と接する機会が増えて、人のつながりというのを強く実感します。関西や関東から大学生がボランティアに来てくれて、他の大学生との交流が出来た事も非常に大きいです。

## 閑上の良いところ

海は近いし、空気は良くて過ごしやすい。それと毎週日曜日に朝市があって、新鮮な野菜や魚を買うことができ便利です。

あと、「なとり夏まつり」の花火ですね。ものすごくきれいなんですよ。毎年、友達と見に行っているんですが、いつ見ても感動しますね。

### 地震の時

ちょうど子どもの卒園式だったんですよ。それで、卒園式後の午後1時から場所を移して、閑上公民館で謝恩会をやり、2時に閉会して後片付けを2時半までやりました。その後に公民館を出て、私の家まで自分の子どもとその友達1人を送って、2階に子ども2人が上がって行って、私は工場へ行こうかなって、隣が工場だったもんで、その時に「ドーン」ときました。

「え」と思って、2階に走って行って、子ども2人をベッドの下に隠したんですけど、もうなんかこうジャンプする感じになって、その時に「家が壊れる」と思ったんです。それで、子ども2人の首根っこ掴まえて2階から降りたら、テレビは壊れるは、金魚鉢はぐちゃぐちゃな状態で、それらを足で蹴りながら道路に出ました。

工場には3人の女性従業員がいたんですけど、道路に這いつくばった感じで3人とも泣いている状況でした。それで従業員を家に帰して、母がまだ家にいたので引きずり出して、まず、「子どもの友達を返さなくちゃいけない」とって頭があったもんで、だからすぐ避難するという頭はなかったんですけど。ちょっと異常な感じがしたので、最悪の場合は妹がゆりが丘に住んでたもんですから、ゆりが丘に行かなくちゃならないだろうと思ったので、母を車に乗せて、閑上公民館に向かいました。公民館に向かう途中は、車は走れましたけど道路が割れていて、それに水が「ピュー、ピュー、ピュー」と出ていました。町内会長が道路などを見ていて、近所の人たちがみんな家から出て、歩道で心配そうにしていたのを見て、車でゆっくり走りながら公民館に向かいました。

### 何言っているんだという顔をされた

公民館に子どもを降ろして預けて、車に戻ったら、「10mの津波」というラジオを聞いたもので、10mの津波というのは今まで聞いたことないなって思って、そこで車を止めてずっとラジオを聞いていたら、「10mの津波が、岩手・宮城・福島に来る」とっていうので、ちょっとやばいかなって思って、その時に窓を開けて、200人ぐらいいたと思うんですけど、「10mの津波が来るから、もう逃げろ」と、3回ほど大きな声で外に向かって騒いだんですけど、その時は、「この馬鹿何言ってるんだ」とって顔されちゃってね。私は、相当危機感を持ったんですよ。だから、「逃げろ！」って大きい声で騒いだんですけど、誰1人反応した人はいなかったですね。「えー、くそ！何を言ったって分からないな」とって思って1回車を出したんですけど、また気になって車を止めて、「とにかく車に戻ってラジオ聞け」と2回ほど言って、その時も反応なかったんです。ただ、幼稚園のPTAの会長は、私の声を聞いて車に戻って、ヤバいと思って子どもを乗せて自宅に帰って、中学生の娘を乗せて小学校に避難したそうです。

私は消防署から火葬場（斎場）の方の道路を走って、右に折れて美田園方面に行ったらイオンモール名取エアリの所から左に抜けて、田んぼ道をずっと岩沼方面に行ったら、空港につながるバイパスの大きい橋に車をずっと止めて、ちょっと渋滞になっていて、この間も余震で揺れてました。「あー、大丈夫かな」とって思ったが、まあなんとか抜けられて、その後、愛島

の方に行って、山道を歩いてゆりが丘の妹の家に着きました。停電で、ろうそくを点けて、冷蔵庫には食べ物もあったが、水は断水してました。とりあえずラジオをずっと聞いてましたけど、名取の情報は全然なかったですね。

## スイッチが入る

次の日行った避難所で、「今日はパン1個だ」なんて言うので、「明日は？」って聞いたら、「おにぎりかパン1個ぐらいだ」って言われて、それで「スイッチ」が入っちゃって、朝市をやっている、「この人たちに30何年間も食わせてもらったんだなあ」と思って。

それで閑上中学校へ避難した人が「朝市があった所は何もないよ」って言って、「えっ、何もないよってどういうことだ」って言ったら、「何にもない」って言うわけ。「朝市は」って聞いたら、「全部流されて何もない」って言うので、「俺んちこのへんなんだけど」って言ったら、「ああ、あのへんも全部何もないから」って言うので、「えっ!？」って話になって。もう朝市がやれるかやれないかも分からないし、組合が「諦めた」って言えば、それで解散しなくちゃいけないなという事も頭をよぎったんですけど、「この人たちにお世話になったから、なんとかしてやらなくちゃ」と思って。たまたま組合に金があったもんで、14日の朝にバイクを出して仙台の中央市場に行きました。中央市場もぐちゃぐちゃで、従業員も働ける状態じゃないし、通勤もできない状況で来れる人だけが来ていました。商売できる状況じゃなくて、本来であれば入荷するものも交通が遮断されて来ないという状況になっていました。ところが、逆に仙台から東北各地に出荷する品物も全部止まってしまったので、とにかくすぐ食べられるやつ、火が必要のないカマボコや珍味類だとか、有る物を全部買まくって、買ったのはいいけど「トラックがないんだな」って思ったら、問屋のトラックを「1か月ぐらいは商売無理だろうから、使ってもいいよ」って言われたんで、それで全部館腰小学校に持って行き、全部荷物を降ろしました。

その次の日から、文化会館、保健センター、名取北高校、増田中学校、増田小学校を回り、品物を配りました。それで、1週間ぐらい経ってからかな、第一中学校、第二中学校、増田西小学校にも品物を回すようにして、配達しました。とにかく毎日、仙台市場に行って買付して、あとは高館の農家に米を買いに行ったり、山形のうちの組合員で、蕎麦や乾麺をやっているとあるんで、「とにかく乾麺全部買うから、他に売らないでくれ」って言って、押さえたりしました。

「人のため」とかじゃなくて、ただ館腰小学校の体育館の中のろうそくで見た、朝市に買いに来てくれていた、おやじやばあちゃんを見て「ああ、この人たちに朝市は食わせてもらってたんだなあ」って思ったんで、「なんとかしなくちゃいけないな」っていうことだけなんです。

3月17日に朝市をやったのは、1回こっきりでもいいと思ったんです。名取市中が困ってるのであれば、なんとか今まで商売してたルートなどを利用して、とにかく値段はどうであれ、食べ物だけは集めて少しでも供給したいっていう事だけで、ボランティア精神とかそういうのは全然頭になく、その一心だけでした。それでやったら、お客さんがいっぱい来てくれて、もう商売にはならなかったですね。「ありがとう」も言えなかったですね。握手されまして、

「がんばれよ」とか言われて、ほとんどみんな泣きっぱなしでしたね。そういう形で、品物を売りました。まあ売ったってほとんど赤字ですけどね。

### 仮設住宅に

1か月間ゆりが丘にいて、そのあとは上余田の一軒家を姉と一緒に借りて、それからマンションに移ったんです。マンションに行ったら、うちの80歳過ぎの母がマンションに籠もりきりになって、なんかおかしくなっちゃって、仮設住宅に行きたいっていう話になって、それで仮設住宅が空くのを3か月待って、愛島東部仮設住宅にやっと入れました。

その間は、もうとにかく朝市を復興するしかないもんですから、朝市の代替え地をどこにしようかっていうことで「ここを貸してくれ」という話をして断られたりとか、あっちこっち借りられないかいろいろ探してたんですけど、なかなか見つからなくて。イオンモール名取エアリ（大型ショッピングモール）が、全て修理するのに6月いっぱいかかるということだったので、その駐車場をお借りすることになり、おかげさまで、うまくいきました。イオンモール名取エアリでの朝市は、2011年4月から丸々2年間ですね。無料で貸していただきました。さらに近くに仮設トイレまで用意してもらって。

### 閑上朝市を海辺で

去年の10月に、住民説明会みたいなのが文化会館であって、その後「ちょっと話があるから」ってことで呼ばれて、「何の話かな」って思ったら、「実は、カナダから建物の寄贈の話があるんだ」と言われ、「受けるか」って聞かれたので、「上・下水道を整備してくれるのか」って聞いたら、「すぐやる」ということだったので、すぐ「受ける」って答えました。土地の確保が出来たということで、県に補助金の申請を行いまして、今工事をしている場所がその県のグループ補助金でやっているものです。

### 名取市の復興のこと

名取市を別にまとめようとはしなかったんです。ただ、あまりにも同じ町でいろんな団体ができて、批判をしたりするということがずっと続いたもんで、まず確かなことは、1人1人の状況が違うこと。家族を亡くした者もいるし、無事だった者もいるし、住宅ローンを残したまま亡くなった人もいるし、地震保険に入っていて保証される人もいるし、1人1人全部違うわけなんです。それでも被災した住民として、「ここだけは、まとまって要求できる」っていうものが必ずあるはずなんですけどね。

### 今後は

閑上に、換地してもらった土地に住むしかないんです。津波が来たら逃げればいいっていう考えで。今回の津波でも、逃げて助かったの。ただし、避難所で暮らして、家族を亡くした人には、そういうような考えは、おそらく絶対湧かないと思うんですけど。私は、逃げられたのでそういうイメージが簡単に湧くんで、どこに住んでも津波が来たら逃げればいいと、次回はちゃんと地震保険や津波保険に入れば何も問題ないなって思ってます。

もうちょうど感情的なものが落ち着いたので、ゆっくり閑上の人間と話し合いができるんじゃないかなって思うんですけどね。だからアンケート調査も、もっと突っ込んだ話し合いとか、やっぱり一番大事なことは、どっちが得だという経済的な面をきちっと説明しないとだめだったんですよ。それが感情論や津波が怖いなどという話になり、もちろんそれも大事ですよ。避難道路も大事ですよ。でもやはり、この国の税金を100パーセント使って、今まで住んでいた土地の価値を上げることができるっていうのは、大きなメリットですよ。名取市は、仙台市と空港の間にあるんですよ。もっと街を大きくする大きなチャンスなんです。何処に住んだって、自分の土地を持っていれば土地の価値が上がる可能性があるんですよ。そういうことをきちっと説明してやれば、もっといい街ができたんですけど。まあ最初からボタンのかけ違いですね、まったくね。これは、我々有権者が悪いことで、もうしょうがないんだけどね。もっと市の職員や行政をうまく使う知恵っていうのを、住民が持たなくちゃいけないなって思いますね。簡単なんですよ、市役所の悪口言うのは。でもそれでは何にも進まないですよ。少しでも優秀な人とその気になってる人を育て上げなくちゃいけないし、行政の在り方を市会議員だけに任せるんじゃなく、民間でいろんな人を集めながら、いろんな話をしていかななくちゃいけないなって思います。

## 閑上の良いところ

閑上の良いところって言うのは、環境ですね。松林は無くなっちゃったけど、貞山堀は何としても観光地として残しておきたいですね。あとはやっぱり気候がいい。内陸の方は暑いですね。閑上は涼しくて、ほとんどクーラーがいらなかったし、暖房もそんなにいらなかったですからね。海が近いってことは、海水の温度でそんなに寒くなんないし、雪が降ってもすぐ溶けるし、環境だけだな。

人間関係はあんまり良くないなあ。いや人間関係というよりも、衰退する町の典型的な例なんですよ。漁業が衰退してきて当然ここに住んでる人は、閑上出身の間人が多くて、仙台に働きに行く。そういう人たちは、町のいろんな催しには参加できない。参加できる人は、公務員とかそういう安定した仕事の人とか引退した人たちやお年寄りということで、どうしても若い人たちとの一体感ができない。子どもが神輿をやるけど、ある程度固まった人たちだけしかやらないということ。住んでる人間の大半が地元産業じゃないので、いい意味での都会型のきちっとした話し合いをするというようなやり方を取れなかったんだね。年寄りのまとめ役がいて、長老がいてね。今回の津波で、これがダメだったことがはっきりしたわけですよ。だからこれからは、メールとかパソコンとかのネットの社会なんで、やっぱり町の住民の中心っていうのは40代とか50代の専業主婦がやらないと絶対だめですよ。だってメールとか携帯で連絡が取れないんだもの。60代・70代でやるから若い人がついて来ないんだから。40代・50代の専業主婦じゃないとだめだね、そういう人たちを選んでその人たちがうまく町の間人間関係を作って、母ちゃん同士がうまく行けば、男なんてみんな言うこと聞きますよ。だから、そういう方向でやっていかななくちゃいけないっていうこと。あと商店街や消防団の在り方もこれから変えていかないとまずいですね。初めは、みんな変わるなって思ったんだけど、変わらないね。みんな戻っちゃったね。

だから町を変えるためには、専業主婦のしっかりした女性グループを主体としなきゃいけないなど。お年寄りとか男とかは、そういう人たちを支えていく恰好にしたほうが、町がスムーズにいくし、防災に関したって機動力に使えるし、機能も果たせるし、やっぱりネットとかパソコン動かせるのは女性の方が強いから、主婦の方がね、それをうまくやっていかなくちゃいけないなど思ってるんだけど、なかなか俺は関われないし。

### 朝市のこれから

朝市のこれからっていうのは、基本的には、あと3年は閑上に人が住まないということがまずあって。閑上っていうのは、昔は魚の水揚げがあったので、魚を食べる文化があり、その文化を継承していきたいということ。「温麺」や「おくずかけ」などの昔食っていた県南の食文化をソウルフードみたいな感じで残しておきたい。それが閑上などの被災した地域を将来に渡って思い出すきっかけにしたいし、あとは年寄りたちが作っていた料理も結構ここにいっぱいあるんで、そういうものも残していきたいし、食以外に文化があったのかなって思うくらいなんだけど。

俺が考えるのは、うまい料理とかじゃなくて、昔から食ってた料理っていうのをどんどん掘り起こして行って、その発信基地にしていきたいなど思ってます。

### 地震の時

3月10日から、私は石巻に泊まりで仕事に行ってたんです。3月10日の朝から、11日までです。家族は6人でしたが、地震があった時には、両親と私の妻が自宅にいました。下の娘は小学5年生で、学校にいました。中学1年生の長男は、中学校の卒業式が終わったので、小塚原の友達のところへ遊びに行っていました。その日に限って、息子がうちの母親に、遊びに行くところの住所と電話番号と友達の名前を書いて、メモ紙を渡していったんだそうです。これは初めてなんです。それが不思議でした。

妻がパート先から2時頃帰ってきたんです。その時、うちの母親がびっくりして、「孫がこういうふうに大人になったんだな」ってね、メモ書き残したよっていうことで。なんかその会話が、妻と母親との最後の会話になったみたいで…。

それで地震があって、妻に息子のところへ迎えに行つて、「閑上小学校に避難しなさい」と、母親に言われたらしいんですね。妻が「一緒に逃げましょう、避難しましょう」って言ったら、「先に行きなさい」と言われたと。

父親は、水門の管理を国土交通省から任せられてたんで、停電であっても水門を閉めに行つてたらしいんです。潮位を観測したり。自家発電装置しか使えないんで、Kさんがたまたまそこを通りがかった時に、2人で発電機を回して、回ったと。

そこから津波が来るのが見えて、逃げたんですが、Kさんは南に逃げたんですが、たぶん、うちの父は家に戻ったと思うんです。家は3丁目バス停の辺りなんで、Kさんは、その後西側に行つて閑上小学校へ行ったわけですね。うちの父親は水門から下りて、家に行つたと思います。なぜなら、家の2階にあった私の持ち物が、閑上中学校のあたりで見つかつていて、父親も閑上中学校の南側で見つかっているんです。隣の家の人の車も、そこで見つかったんですよ。流れは一緒なので、それを考えると、父親は自宅にいたという判断はつきます。

母親は、その時に妻に「私も後で小学校に逃げるから」ってことだったらしいんですよ。母親は、見つかったところが仙台東部道路名取インターチェンジの近くだったんで、たぶん公民館に行ったんじゃないかと。公民館に近所の人といたと思います。その方もね、インターチェンジ付近で見つかるんですよ、御夫婦で。だから、これは震災後に分かったことなんですけど、公民館のグラウンドに避難して、流されて、助かった人がいるんです。家族3人で避難して、その人だけ助かったわけですね。どこで助かったかという、小学校のちょっと先で、つまりインターチェンジの方に流れているじゃないですか。だから、母親の見つかった場所から推測すると、公民館にいたか、もう危ないから中学校行きなさいよっていうことで、逃げて行ったんじゃないかとは思うんですね。だから、インターチェンジ付近で200数名の方の遺体が上がっているということは、たぶん公民館から移動したっていうことが考えられますよね。



## 妻と息子たちの避難行動

妻は小塚原に行って、息子と友だちの中学生5人を小学校に避難させたんです。「なんで避難しないんだ」って言ったら、子どもたちは、大きい地震になって津波が来る場合は、防災訓練で、サイレン・無線・広報車で知らせると聞いているわけですよ。その時、マニュアルに沿って5人で話し合ったそうです。「おお、これはずいぶん長くて、こんなの初めてだし、津波来るよな。」という話になったんだって。「うん、そうか。津波来るな、どこに逃げる？」となって、「じゃあ、仙台東部道路があるから、そこに逃げようか」となったが、「でも、待てよ?」「防災無線鳴るはずだよ、津波来る時は、サイレン鳴るはずだよ。それがない。」で、市の広報車が来るっていう風に教えられているわけですよ。それも来ないってわけですね。まあ、30分かそこらの間に、子どもたちとしても、津波は来ないって結論だったんですよ。もし津波が見えたら、コンビニ、もしくは仙台東部道路の上に上がろうというふうに考えていたようです。後で息子から聞きました。

そこへ、うちの妻が来て、「津波が来るから逃げよう」ということで、「あ、やっぱり来るんだ」と思い、小学校へ逃げた。自転車に乗って行ったんですけども、小塚原からだから、小学校は逆方向の東(海側)へ向かうわけですから。名取方面に行くドライバーから、「津波来るぞー。危ねーぞ。何やってんだ逆だぞ。」って言われて、小学校が避難所だからっていうことで、決まりを守っているわけでもん、住民は。

でも、小学校の西側に堀があるじゃないですか。あそこに差し掛かった時に、子どもたちにも、津波が見えたんです。水、波が遡上するのが見えたんで、「津波だ」と思って、もう車がどんどん来るんで、自転車では行けないと、6人ですから。そうすると、一列でも大変なので、もう自転車捨てましょうと。それで、走って西校舎の方から入って行って、廊下に入ったら、廊下の向かい側から津波が来た。北校舎の方から津波が入ってたんですね。津波が来たんで、窓を開けて上がったそうです。4~5人。うちの息子はまだ廊下でなくて、外の窓にぶらさがってた。それを見つけた同級生が、息子の首根っこをうちの妻と一緒につかんで流されないようにしたと、そういう状況だったそうです。

## 仙台市内から閑上へ

私が地震にあったのは、仙台市の国道4号線、仙台市民球場のところですよ。石巻から戻って宮城野体育館で仕事を終えて、泉方面へ向かうところでした。

4号線で被災したんですけども、その時に、新幹線の高架橋が見えたんですよ。その電線がですね、揺れて、たわんでるんですよ。もしかしたら折れるんじゃないかなって思っていたら、そのうち本当に1か所折れたんです。そこからドミノ倒しのようになって、何本も電線が折れていった。

ラジオから、「強い大きな揺れが来ますので、車を止めて下さい」って。それでフワフワして、「ああダメだ」と思って止まったら、「ガーン」と来たんで、「ああ、これが宮城県沖地震か」と思いました。「それにしても長いな」と思いました。車の中で揺れるんでね、もう脱出しようとしたんですよ。そしたら、シートベルトが首にからまって締められて、揺れで動くから外れないんですよ。少し緩くなった時に外して、車から出たの。道路を這うような状態

で、外に出た。路肩の方において。それで、電線がドミノ倒しに見えた時に、その辺の田んぼとか空き地みたいなところが「ボコボコ、ボコボコ」という感じで地面が盛り上がる感じで、揺れて。

35年前の宮城県沖地震の時は、東北大学の近くにいましたけど、道路が、アスファルトが波状になって。あの時もすごくなって思いましたけど、今回はそれ以上に、ほんとにボコッ、ボコッと盛り上がる感じ。下からモグラが出てくるような、突き上げられて。

それで、後ろの方でなんか変な鈍い音が聞こえたんですよ。振り向くと、黒い煙が見えて、仙台新港のコンビナートが爆発してました。煙突が5本ぐらいあったと思うんですけど、そのうち3本の煙突が煙が出てなくて、ちょうど煙突の3分の1が真っ赤になってた。燃えてるといいうか、たぶん中が折れちゃって赤くなってる。「ああ、もう溶けるんじゃないかな」って。それで、「ああ、これはダメだ」と思って。

でも、揺れが収まってから、近くにいる人と顔合わせて、「いやすごい地震だったね」って、みんな動揺していました。ラジオも揺れてる時に切れたんですよ、「ピーッ」って。気が付いたらラジオから、「すごい大きな揺れでした。今確認を取っているところです。皆さん津波に注意をしてください。」って言って。じゃあもう戻ろうと。たぶん停電になっているはずだから、地元に戻って家族がいるから避難させないといけないなと思って、戻ることにしたんです。

それから10分ぐらい経って、会社から電話が入ったんで、取ったら切れちゃったの。で、もう南に向かうところがね、ちょうど渋滞しかけてたんで、箱堤交差点を左折したんですよ。卸町東の方に向かい、これもまた右折したんですよ。七郷中学校方面に行こうとしたんです。産業道路渡って、ちょっと行ったら左側にコンビニがあるんで、その駐車場が空いてたんです。そこに車止めて、会社に電話をかけました。そうしたら1発でつながったんですよ。そこでこっちの状況を20~30分話したんですよ。で、その後、東京の友達から2~3人電話が入って通じたんです。そこで、30分ぐらい時間があつたんです。

ラジオで3m、6m、12mとか、女川でも10mの津波が来たみたいなことを言ってるし、これは危ないなあと。またコンビニに行って、菓子パン6個と500mlのペットボトルを6本買ったんです。家族の人数分だけ。他のお客さんはいっぱい買っていました。

そのコンビニで、レジに並んでいる時に、近所のおばさんだと思うけど、「アイスクリーム？冷蔵庫使えないですよ。」って。でも、自分の家は停電していないと思っているんですよ。「これいるね、これいるね。」って買い物カゴに入れている。「こんなのいるかな」と思いながら見ていました。

あとは、缶詰のキャットフードを取った人がいたので、「それキャットフードですよ、猫いるんですか？」って言ったら、「いない。」って。で、カゴに入れてるんですよ。もう焦ってるし、慌てふためいている感じでした。

そこで、「津波来るかしら？」、「ラジオで来るって言ってますよ、あれだけ言われたら来ないはずない」。「ここまで来るかしら？」、「それはわからない」という会話はした記憶があります。

コンビニを出たのは、3時40分ぐらいなんです。それから七郷中学校のところに出て、荒浜

方面目指したんです。その荒浜方面に向かっていく時に、田んぼの用水路に、今考えると、水が溢れていたんです。「あれっ？」と思った。仙台東部道路の桁下あるじゃないですか。その100mか200mぐらい手前で、前に車がいたんです。かなりゆっくり走ってるんですよ。「何でゆっくりなんだ？」と思ったら、桁下の先が普通見えるんですけど、黒かった。そうしてる間に、「あれ何だろな」とと思ったら、桁下から男の人が、手を振って走ってきたの。多分止まれっていう合図で。前の車は減速したんですけど、突っ込んできたんですよ、桁下に。で、その時に、水しぶきが「バー」と上がったんです。「ああ、津波だあ」と思ってすぐUターンしました。で、後ろの車もUターンして、窓開けて、「戻れ、戻れ！」って言ってもみんな聞かなかった記憶があります。

荒井小学校の所でも、車の西行きが止まってしまったんです。ちょっと行くと、左側に仙台東高校に行く農道があるんですよ、そっちに出たんです。もう、のろのろで進んだけど、左側を見たら東部道路がありますから、桁下、小さいけもの道みたいのところから水が溢れ出てるんです。「ああ、やっぱ津波だ」と思って。

そしたら、東部道路の上側に煙がモクモクモク、燃やしてる煙じゃなく、土煙みたいなやつが上がってました。それでのろのろと仙台東高校の方に出て行って、途中で渋滞で車が動かなくなったんで、前の車についてったんですよ。めちゃくちゃに、左、右に曲がって。そしたら、着いたところが、門暮っていうところで、仙台東高校のちょうど南の町の方に出たんですよ。結局そのまま六郷中学校の方まで行っちゃって、ガソリンスタンドの人が道路に立って、「もう行けないから、ここから先」と言っているんで、「すみません、今泉インターのどこに行けないんですかね？」って聞くと、「いや、あっちもだめ。津波でだめだ、戻れ」って言われたのね。仕方なく戻って、それから2時間半かけて名取市役所まで行きました。

でも、素直に名取市役所に行ったわけじゃなくて、高柳の運送会社があるじゃないですか、そこまで行った時に、パトカーと消防車が道をふさいでて、「Uターンしなさい」と。で、「どこに避難したらいいんだ？」って聞いたら、「車だったら、今日は市役所の駐車場に行って」って言われて。行ったら、名取北高校にも避難する人がいて。「あれ、名取北高校って避難所だったかな」と思いながら、その前のコンビニの駐車場もいっぱい車止まってるし。恐る恐る市役所の駐車場に行ったら空いてて、職員がいて、「どうぞ、空いてるとこ止めて下さい」って言われて。

1時間ぐらい経ったら、市の職員が、水とバナナとパンを持ってきてくれました。市役所の庁舎は、いろんな人でごった返してたので、その日の夜は車に。ずっとラジオとメールとか電話はいろんな人にかければなしですね。

## 家族との連絡

会社と友達から連絡が来た時には、妻の携帯と自宅の電話番号を教えて、時間あったらかけてくれと。俺が今どこにいるかを教えてくれって頼みました。

私も今ここにいるっていうメールを、災害の関係で、どこかの放送局に入れたのかな。2～3回、11日と12日と13日だったかな。それを見て、友達が訪ねてきたってのもあったし。

11日の晩は、車の中でラジオを聴きながら、「たぶん、俺1人になるんだろうな」と思って

ました。状況がだんだん、携帯のワンセグでテレビ見て、「もうダメだこりゃ」と思いました。

何でダメかってのはね、父親が水門には、たぶん、何があっても閉めに行ったなと思ったんで。停電だから、自家発電でもし1人だったら、かかんないなと思って。何回か2人でかけたことがありますから。そうすると、母親がそれを見ているだろうなあと。たぶん、母を置いては行けないなと。息子はどこで遊んでいるか分かんないし、もし家にいたら、たぶん、家にいるだろうなって。

12時過ぎぐらいにラジオを聴いてたら、「閑上小学校の当日、今日登校した児童は全員無事です」というアナウンスが入ったんですよ。それで「あっ、娘は助かった」と思って。1人ではないと思った。

娘が助かったということで、11日の晩、深夜になって、その時思ったのは、いずれは明日になるし、どうすればいいのかなと、どうしていいか分かんないですよ。これから先のことが考えられなかった。

12日の朝4時前ぐらいに、だんだん薄明るくなってきたので、市役所のロビーに行ってみました。地元の知っている方もいっぱいいて、そこで近所の先輩と会って、お話して。まあ、「寒いから私の車中でちょっと話しませんか、腹減ってるでしょ」と。菓子パンとかあったんで、分けてあげて、状況話したら、最初は私に同情されたんですよ。「大丈夫だよ、お父さんも家族も皆いるよ」と言われたんですよ。その方もあの当時は、両親と奥さんと子どもさんたちも独立してたんで、4人家族だったんですね。それで、地震の後、3時半ぐらいに奥さんと電話が通じたっていうんですよ。「あーよかったですね」と。で、5時頃メールしたら、電話とメールしてもつながらないんだって。「避難しても、その頃はつながないでしょう」という話をしていたんですよ。「そうだよね」と。そしたら、「3時ぐらいはどこにいたんですか？」って聞いたら、「両親は公民館に避難させた。それで、着替えとか持ってくるのに、家に寄って今、車に乗って自宅の前だよ」とってことだった。「そうか、じゃあ、あと迎えに行くからな」とみたいな感じで電話を切ったらしい。後で分かったんですけど、その方の奥さんは、車の中で亡くなったんです。で、ご両親は助かったんです。

朝の7時ぐらいのラジオで、「閑上の町の中が渋滞していた」という情報が入ったんです。その後、もう気の早い方は、その辺まで見て来て、報告に来ている人がいましたから。状況聞いたら、どうも「けっこうな数の方が亡くなっているよ」とか、「火事だよ」とか、「閑上の家ないよ」と言われて。やっぱりダメかなと思って…。

市役所のロビーに行くと、「避難者名簿とか、そういうのが分かんないのか？」というやり取りをしているんですね。でも、こういう状況でどうやって避難者名簿すぐ分かるのかなって。電話もつながらないし、分かるわけないだろうなって思っていました。「自衛隊が救助に向かっています」とってことだったんで、できるだけ多くの方が助かって欲しいなっていうことだけでしたね。まあ、それしかないですよ。

当日、私がここにいますっていうことを、メールで読んで、親戚が何人か市役所の方に来てくれたんですよ。とにかく、俺は市役所にいるので、ここ行ってくれって。それで、親戚が何人かで、手分けして探すからっていうことになりました。

あと、弟夫婦も閑上にいました。弟夫婦は2人とも仕事に行ったから大丈夫だなと思って。

姪っ子は同じ小学校5年で大丈夫だと分かったんで、で、甥っ子が当時高校1年かな、高校生だったんで、そこだけ心配でした。でも部活やってたんで、「まあ帰ってねえな」と思ってたの。後で分かったんですけど、帰ってたんですよ。それがね、12日の昼過ぎに、甥っ子が自宅にずっととどまっていたのが分かって、「もう流されてんじゃねえか」ってことだったの。それもまだ未確認で。だから、13日の朝か昼ぐらいに、甥っ子は無事だということが分かって、弟の家族4人は大丈夫だったと。後は、おばさんの家族が閑上の上町にいますけど、そこは全員助かったっていうのは分かったんですよ。

12日の夕方、家族が館腰小学校に運ばれたのが分かりました。迎えに行ったら、もう座る所がないような状況でした。それで避難してる人の中でも「文化会館がいいよ」ってことを言われて、知り合いに迎えに来てもらったんですよ。我々4人を運んでもらって、文化会館に行ったんです。

でも、文化会館のいい所は皆埋まっちゃってて、後から行ったら寒くて寝れないんですね。そしたらまた連絡があって、保健センターは少し空いてるよと。2階の和室、畳の部屋が空いてるからと言うので行ったんですよ。そしたらまあまあ、4人ぐらいは寝れると、バラバラにですけど。そこで過ごして、12日の夜から16日の昼までいたんです。13日からは、弟家族も保健センターに来ました。

両親のこともあったんで、親戚の人たちと、13日中探して、どこも見つからないってことが分かって。14日だけちょっと待とうということで、14日、1日待って、15日に両親の行方不明、捜索願いっていうか、届けを出しました。

16日の昼過ぎから、我々は増田西小学校に移動しました。増田西小学校は、16日から約1週間を教室に、22日までいたのかな。それ以降、増田のマンションが見つかるまでは、学校の体育館でした。マンションは、3月末には入れそうだったのですが、電気と水道は大丈夫だったんですけどガスが通らなかった。それで、ガスが通る4月3日に引越したんです。賃貸ですよ。運よくそこが見つかったんですよ。もう名取に空きはないから仙台に行こうか、という話までなっていたんですけど。

## 避難所生活からマンション生活へ

避難所の教室は、3家族だったんですよ。私の家族と弟家族と、別の大人だけの3人の家族に当たって。なので、教室は余裕を持って使えたんです。そこまではまだ、良かったわけですよ。それが体育館に行ったら、全員もうギシギシでした。

寒さが一番堪えましたね。特にすきま風。朝、歯を磨いて顔洗って、全部外の水道でやるから、それが一番きつかった。あと、トイレですよ。教室にいる時は、教室のトイレを使えたんで良かったんですけど、体育館に入ってから、仮設のトイレしか使えなかったんで。

敷布団と掛布団は、妻の親戚から頂いて、その他にもいろいろなものを頂きました。それでも足りなくて、マンションが見つかった日に、電化製品だけ買いに行ったんです。そこで、テレビ、洗濯機、冷蔵庫、炊飯機、念のため電気ポット、掃除機、その6つは買って。それとね、シャワートイレのウォッシュレットを買ったの。あるものしか買えなかったんで、選ばせませんでした。それでも、リストアップしたものは買ったので、生活できると一応満足しま

した。

あとは、買えないんですよ。それから1週間くらいして、私が千葉に行って、テーブルとか、カーテンとか、テレビの台とか、今まで生活していたレベルに、ほんとにわずかですけど、近づけたかったんで、買ってきました。

移動は、運ぶ時は会社のトラックで運んでもらって。私は高速バスの往復で帰ってきました。東京に行った時は、家族には悪いけども、2日間外食ですよ。正直こんなに食べていいのかな、みたい。でも、好きなものとか食べれなかった。結局、こっちにいる時は食べないから、菓子パンとかばかりだったから、胃が小さくなってるんですね。だから、食べれなかったですね。

あとは、食器類とかもこっちで売ってなかったんですね、その当時は。だから、そういう細かいものとかも買ってきて。あとは、こっちであんまり手に入らない、例えば切り餅とか、餅はね、震災の時便利だったんで。あとは、コーヒーとお茶はやっぱいつも通り飲みたいなど思ったんで、そういうのも買ってきました。

## 仕事への復帰

仕事に復帰したのは、4月6日です。今でも覚えてます。世話になっている代理店へ挨拶しに。営業ができる、仕事ができる状況ではないですから。お互いに被災してますので。会社からは、まず両親を見つけるようになってことで、無理しないようになって言われていたんですけど。

## 現在のマンションへ

平成24年9月に、増田のマンションのオーナーから「3月いっぱい契約を打ち切りたい」という連絡が入ったんです。そのマンションを購入するか、出るか、どっちかなんですよ。3LDKだったんですけど、狭かったんですね。どうせ買うんならもうちょっと広い方を、ほんとは戸建てが希望だったんですけど、なかなか高騰しているじゃないですか、便乗みたいなので。それなら、しばらくはマンションのままの方がいいのかなと思って。いろんな物件探したら、今のところに住んでた人が、不動産屋を通して「3月に引っ越ししますよ」と。

「もし、買うんだったら見て、決めて下さい」と連絡が入ったんですよ。名取のマンションよりも10年以上新しく、広さも4LDKで広がったんですよ。金額も希望していた価格ぐらいだったんです。だったらこれは買いだなって思ったんで。あとは、マンションだったら少し古くなくても、戸建てよりは売り易いし。すぐ決めようと、迷ってても仕方ないからって。それで、3月に引っ越しました。

最初に入ったマンションは、みなし仮設になりました。みなし仮設の扱いだけでも11月くらいまで、家賃は毎月支払ってました。

現在の住所は仙台市中田です。だから名取市民じゃなくなったんですよ。マンションのすぐ後ろが名取川の堤防なんですけど、そこをずーっと東に歩くと閑上に着くんですよ、ほんとに。これも何かの縁なのかなって。

## 閑上の良いところ

うーんと、いいところ…、みんな、なくなったからね…。

今、増田と、仙台に移ってきてマンション住まいしていますけども、隣近所のコミュニティ、これは全くないですよ。挨拶しても返しませんからね。名取のマンションにいる頃も、左隣の方は全然挨拶しなくて。右隣の方は挨拶してくれました。右隣の方が、うちの父親を知ってたみたいで。だから、いる時に気にかけてくれたから、やっぱりそういうのはうれしかったですね。地元にいる継続っていうか。今はそれが全くないですから。

仙台市のマンションでは、隣の方は関東の方なんです。仕事で来てるんで、全く分からない。だから、こっちが被災者ってことも知らないし、そういうレベルですよ。名取にいる頃は、何軒かが、あそこあそこは閑上の人だっていうのも分かってる。

ちょっと差別みたいなのには、あったことはあります。「家賃払ってないんだよね」みたいなことを言われるんです、陰でね。

閑上の場合、近所はだいたいほとんど知っている。私らが小さい頃は、隣近所でご飯を食べるのはあたりまえだったんですけどね。

小学生の頃は、水産加工業の小さい工場がいっぱいあったの。環境とか、そういうのが整ってないから、臭かったんですよ。貞山堀は異臭、臭いがきつかったし、魚を加工するから、やっぱり臭いわけですよ。それが嫌だった。それはね、朝市のSさんも言ってますよ。「オレも嫌だった。同じだったな」って。でも、笹かまぼこ工場で焼いているところを見ていると、「おい、(製品になんないようなやつ) 食べろ」とか、そういうのあったしね。町の中が家族のような、親戚のような、お節介が日常の町でした。

### 地震の時

3月11日は、寒い日でした。いつもなら、午後からは畑仕事に行くのですが、その日はなぜか畑に行きたくなく、家でテレビを見て1人でいました。夫は市内の眼科に行っており、地震は夫が眼科から帰る途中の、すぐ家の前で起こりました。地震の揺れが強かったので、家の駐車場に入れなくて、道路に止まっていたそうです。私はあまりにも地震が強かったので、外に逃げ出しました。地震が収まるとすぐ、家の中に入ってみましたら、大変なことになっていたの、片付けをしていました。その時、空港に勤務している長男から電話が来て、「仙台空港は、津波が来て、もう水浸しになっているから、早く遠くへ車で逃げろ」と言われて、すぐ夫と2人で車で逃げました。6丁目の道路から閑上の火葬場に通じる橋は、もう段差がついていて危なかったです。それまでは、防災のサイレンも消防車もまだ何の知らせもなく、避難する車もほとんどなく道路は空いていましたので、空港線を通って名取のイオンに向かいました。駐車場で一晩車の中で過ごしました。その夜は、閑上の方へ救急車、消防車がサイレンを鳴らして向かって行きました。翌12日の朝に、閑上の様子を聞きに市役所に行きましたが、もう市役所の中は大勢の人でごった返していました。

### 閑上は全滅だ 避難所に移る

市役所で近所の人に会いましたが、その人は「もう閑上は、津波に流され全滅だ」と言って泣いていました。私たちは、津波の翌朝12日に文化会館に行ったのですが、入る場所も毛布もなく、ただ通路が空いていたのでそこへダンボール箱を敷いて、ほこりが舞い上がる冷たい床で起床し、トイレは水が出なかったの、ダンボールの箱に丸い穴を開けた中に何か入っていて、それに皆するので、トイレに行くとアンモニアの臭いで具合が悪くなりました。私も体調を崩しました。文化会館での職員の対応の悪さも酷いものでした。

### 子どもの所に避難

体調もますます悪くなって、手も震え、字も書けないまでになったので、文化会館は10日ほどで出ました。山形の子どもの所に行って、病院に連れて行ってもらい助かりました。子どもの所でやっと暖かい布団に寝た時は、涙が止まらなかったです。山形の霞城公園が避難所になっているので、行ってみました。福島の人たちが多かったのですが、福島の人たちは、みんな暖かい布団上下にストーブを付けてもらっていました。私も霞城公園の市の職員の方々やボランティアの方々にお世話になり、頭の下がる思いです。霞城公園が閉鎖になり、落合のスポーツセンターに変わりましたが、皆さん職員さんにやさしくしていただいたことが一番嬉しかったです。山形には7月16日までいました。

### 仮設住宅

平成23年7月16日植松入生の仮設住宅に入居しました。初めは狭くてよく物を落として壊し



たりしましたが、だんだん慣れてくると座っていて手が届く場所なので、動かなくて取れるのかなと思うようになりました。ただ隣との距離があまりないので、大きな声でお話が出来ないことや、床が冷たくて大変でした。

尚絅学院さんからのいろいろな支援や生徒さんたちが寒い日に仮設の窓ふきやお爺さんたちの将棋の相手をしていただき、どれほど頭の活性化をしてもらったことでしょうか。また、編み物やお茶会等本当に有り難いことでした。

元の家は先祖代々の土地で、ご先祖様が大変苦勞して取った土地だから、私はこの閑上は絶対離れたくない。この土地を守らないといけないと心に決めていました。でも私の土地は貞山堀の東側で、家も建てられない所です。また夫の姉や親類が7人くらい亡くなっているので、そんな所に家を建てて、そこで気持ちよく住めるかと言われるとやっぱり閑上を捨てなければならぬのかと思ひ、何とも言えない悔しさ、悲しさがこみ上げてきました。でもこれからは、津波の来ない安心して住める所に行きたいとも思ひます。

### 閑上の良いところ

閑上の良いところは、魚介類がおいしかった。口は悪いが人情が深かったです。春は日和山のお祭り、秋は湊神社のお祭り、夏は花火大会がありました。

私が今回感じたことは、今、日本が平和だからこそ、全国からいろんな人たちや支援物資がいただけたのではないのでしょうか。これがもし戦争中であつたならば、日本中は物資の不足や人の不足で支援などしてもらえなかつたと思ひますので、戦争だけはどんなことがあつてもしないで下さいとお願ひしたいです。

全国の多くの方々からご支援をいただき、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございました。

もやに湿った大漁の  
うたが流れる貞山堀よ  
わすれたいのに  
わすれたいのに  
思ひ出させる事ばかり  
ああ閑上  
閑上の夜は花火

## 地震の時

元は、閑上3丁目。日和山のすぐ近くです。地震の時は、自宅にいました。すごかったです。立ってられませんでした。玄関から逃げられるような状態にして、太い柱のところにつかまっていました。下駄箱は倒れるし、これはまずいと思いました。とてつもなく揺れて、一瞬だめかと思いました。その時は1人でいて、心細かったです。しばらくして、大きな揺れが止みました。「すぐ家の中を片付けなくては」と思い、夢中になって片付けをしました。茶の間の仏壇の花瓶は、倒れたけど壊れなくて少し安心しました。台所は、冷蔵庫は倒れてなかったけど、あたり一面凄かった。とにかく、早く片付けることにばかり夢中になってました。

外に出て道路に行きました。そしたら、みんな近所の人たちが出てて、瓦落ちたとか、みんな3分ぐらい話して、ほんと安堵したような顔でした。宮城県沖地震が来るって言われて、オオカミ少年じゃないけど、何回も言われてきましたから。今後は、それほどの大地震にはあわずに済むと思うとほっとしました。

片付けに必死でした。多分、皆さんもそうだと思います。30分以上も片付けした後、停電に気付き、携帯のラジオを思い出し、スイッチを入れました。「津波が来る」と言っていました。でも大したことないと思いました。閑上には津波は来ないと誤った先入観を持ってましたから。津波が来ても、1mぐらいだろうと自己判断し、それでも車で逃げることにしました。とりあえず免許証とバッグだけ持って、着の身着のまま出ました。すぐ戻ってくるつもりでいました。避難する道路に迷いましたが、バス通り、閑上中学校、生協の通りは渋滞すると思い、斎場を通り、小塚原に行き、田んぼの中を宮城県農業高校方面に向かって、塩釜―亘理線の県道を西方に越えればと考え運転しました。その道路は、あまり車は通行していません。交差点を慎重に渡ってから、コンビニに寄りました。ひと安心しました。みんなコンビニでパンとか、食料品をいっぱい買ってるので、自分もペットボトルのお茶やパンを10個ぐらい買いました。その時コンビニの前の道路に、サラサラと水が流れてきました。まさかと思いながら慌てて車に乗り、すぐそこから脱出しました。間一髪でした。さらに西の、イオンモール名取エアリ方面に脱出しました。ラジオもつけてて、仙台の藤塚あたりに200人が砂浜に打ち上げられたと聞いた時は、恐ろしくなりました。仙台空港にも津波が来たニュースで、事の重大さを知りました。それでも我が家は、床下の水位だと思って戻ろうとしました。この時まで、まさか津波で閑上の町が失くるとは夢にも思いませんでした。

消防団がいて、「もう行けないよ」と言われ、2か所の検問で戻れないことを知りました。バイパスに出ようと走行したが、大渋滞。車が全然動かさず困ったが、増田に弟がいるから、とりあえずそこを目指し、何時間もかかって着きました。雪もちらついたり、夜になり、泊まることにしました。主人は仕事でしたが、携帯はつながりません。娘に何回も電話しましたが、つながらず心底困りました。それでも夜遅く連絡が取れた時は、ほっとしました。

## 公民館には避難しなかった

多分私は、渋滞すると思ってました。とにかく県道より西に逃げることに決めました。逃げる際も県道は、大渋滞するからそこを走行してはまずいと思い、農道を走りました。

## それからの避難

弟の家には2泊しました。ガソリンも少ないし、動かなくていいと弟に言われ、みんなで買って来たパンを夕食にしました。2日目は、姉がおにぎりを大量に持ってきてくれました。その後、利府町の次女の家で生活しました。長女は、仙台市にいたので孫の世話、食事作りなどそこでも生活しました。食料確保が一番大変でした。

だいぶ期間が過ぎてからアパート探しを始め、美田園の物件を探しましたが、空きがなく、今のアパートを借りました。入居したのは4月中旬からでした。第2の人生が始まりました。

## アパートを借りる

友達もいなく、近所の付き合いもなかったから。家財道具など何もかも流出したので、不自由と戸惑いは大きかったです。今まで何気なく生活していたのが、一瞬にして慣れない生活になったから、大変でした。家財道具、必需品の購入が思うようにいかずに苦労しました。冷蔵庫、ガス台、電灯など売り切れ状態でしたが、かろうじて購入、確保しました。

このような生活は、もちろん今まで経験したこともありません。必死なだけで、なんとなくの生活です。閑上の地域の方々が、当方面に生活され、時に顔見知りの人と会うと、お互い無事を確認し、いろいろとお話をしたり言葉をかけあっています。懐かしさがこみ上げてきます。とてもうれしくなりました。

日本赤十字からの支援物資は大変ありがたく、生活を援助していただきました。また、いろんなところや企業からの心温まる支援は、私たちが元気づけるものでした。遠い長野からの炊き出しで、みんなでいただいたおいしい蕎麦など涙が出る思いでした。借り上げ賃貸も徐々にご配慮いただき、ありがたいと思っています。また、家賃も全額補助していただき感謝しています。

## 一番悲しいのは亡くなった人のこと

一番悲しいのは、亡くなった人のことです。親戚、友人、知人、近隣の人など大勢の方々が亡くなって、言葉を失いました。震災前まで気軽にお茶っこしたり、お話した方々が一瞬にして命を奪われたのですから、滅入ってしまいました。

## 今後のこと

もう閑上には、戻らないつもりでいます。土地をかさ上げしても、住みたい気持ちがわいてきません。何十年も住んで、閑上の良さは心に十分染みております。思い出は、一生胸にしまっておきます。

## このサロンは

(名取市では、みなし仮設住民に対して何か所かの拠点サロンを置き、支援員を配置している)

このサロンは、去年の確か24年12月17日に開設していただきました。閑上に住んでいても、初対面の人がほとんどです。サロンで何回かお話したりして、友達になったことが一番大きいです。同じ被災している者同士、心が通い合えるのだと思います。福島からの方も交え、和気あいあいという雰囲気です。バッグなどの物作りや、西本願寺さんなどの遠方からの元気づけの支援は、滅入っている心を明るくします。私は、ストレッチにできるだけ欠かさず参加しています。皆さんが集まると、笑い声が絶えません。本当にサロンに来てよかったと思います。ありがとうございます。

## 閑上の良いところ

これは、いっぱいあります。気軽に言葉をかけあって、話しやすいところです。事件とか事故もないし、安心して住んでいられるところです。私も嫁にきて、ここで一生を終えたらいいなと思っていました。食べ物も豊富だし、気候もいいし、地域の人もいい人ばかりです。みんな知っているから、安心感があります。いつも子どもとか孫に自慢していました。ここはいい地域だと。閑上は雪も少なく、冷房もいらず、食べ物も豊富で、新鮮な魚が獲れて生活はしやすかった。

大震災にあって、とにかくこれは、天災だから仕方ないと思ってます。日本の国に生まれて良かったと思います。国を挙げての復興や支援、全国からの多数の方々からの支援、応援に深く感謝申し上げます。これからの人生を前向きに生きたいと思います。

### 地震の時

日和山のすぐそばの、閑上3丁目に住んでいました。家族5人で生活していて、震災の日は、午後から防火クラブの閑上地区の役員会で、閑上公民館にいて震災に遭いました。息子と娘がちょうど休みで家にいたんですね。地震がすごかったから逃げようということで、息子と娘がとりあえず公民館に来て、息子は会社へ行こうとしたんだけど、閑上大橋が渋滞で行けなかったみたいです。それで戻って来て、津波が来るって聞きました。私は、公民館で「ここはもういっばいだから閑上中学校に行ってくれ」って言われて、中学校に行って、正面の昇降口から入った時に津波が来ました。私は、階段で半分まで濡れながら2階から3階に上がりました。娘は、私より先に中学校に着いていました。すぐに娘と合流できて、そこで一晩過ごしたら、次の日に息子が来たんですね。息子は、近くの2階に避難して助かったっていうことでした。そのちょっと後に夫ともう一人の娘が来たんです。「中学校に避難してる」と、携帯で前の日に連絡してたから。メールだけはつながったみたいなんです。夫は、震災の時は会社で働いてたんです。それで閑上に戻ってこようとしたんだけど、戻れなくて高速道路（仙台東部道路）で津波が来たのを見て、少し津波が引いた後に、車で仙台的の街中に行ったみたいで、もう一人の娘が仙台市泉区にいて、仙台駅まで向こうの人が送ってくれて、娘はその後夫と合流して、パチンコ屋さんの駐車場で一泊したって言ってました。娘同士でメールのやりとりをしてたから、心配はなかったみたいです。その日は何にも食べ物なくて、夜に避難していた子がお菓子を持ってたんですね、それを皆さんで食べました。朝は、息子が持ってきたお菓子をみんなで食べて。

### 避難所に移動

次の日の午後3時頃、第一中学校と館腰小学校に避難することになり、私たちは館腰小学校に行ったんです。バスも来たんだけど、夫が乗ってきた車があったので、私たちはその車で館腰小学校まで行きました。館腰小学校に12日から22日か23日までいました。私たちは教室に入ったので、空け渡してくださいって言われて、教室にいる人たちは、全員高館小学校の体育館に移動になりました。館腰小学校では、自衛隊がご飯を炊いて、みそ汁も作ってくれたので、私たちはおにぎりを握るくらいだったんだけど、高館小学校に行ったら、自衛隊も何もなくて、ガスボンベとお鍋があったんで、「自分たちで作れってことなのかしら」って思って。そこにある材料でその日の夜から何とか作って、ご飯はおにぎりが配られました。朝はパンだったけど、みそ汁は作って食材はいくらかはあったんです。わかめとか玉ねぎとか。最初は米までありましたが、米は炊飯器がなくて炊けなかったんです。それからボランティアの人たちが来たので、「米はあるんですけど、炊けないんです」って言ったら、「私たちが調達してきます」って言って、5月の初めくらいに持って来てくれました。その後からは、ご飯を炊いて食べました。その時避難者を、AからFまで班分けしました。AとBが1階グループ、CとDが2階の人達、3階までありました。それで曜日ごとに班を割り振って当番でや

っていました。食事当番や生活係など作って。あと体育館のシャワー室が使えたので、みなさん時間を決めて、名前を記入して使っていました。私は、シャワーで風邪引いたらおしまいだと思って、入りませんでした。風邪が怖いので、インフルエンザの注射は必ず受けてます。インフルエンザになって、隔離された人が結構いましたから。あとは、極楽湯（銭湯）の無料券をいただいて入ったり、自分でお金を出して入ったりしました。

### **仮設住宅に入所**

5月21日です。みなさん大体同じくらいに入って来たんですね。家を片付けたりして、ちょっと遅かった人もいたけど。

### **集会所でのイベント**

生活支援相談員は、最初の年の9月から来ました。集会所の行事予定は、ホワイトボードに書いて掲示しています。予定表は、1軒1軒配布してるんだけど、年配の方が「字が小さくて見えない」ってわざわざホワイトボードを見に来る方もいます。

お茶会や寿司屋さんからごちそうになったり、野菜の配布とか以前は行事がたくさんあり、行事に参加してもらうことで引きこもりを防いだり、顔を合わせることで健康状態の把握などができました。しかし、今はだんだんイベントやお茶会も少なくなってきました。4月からは、子どもたちのスカイルームも無くなってしまいました。本当は、新たにカラオケでもしようかという話も出たのですが、役員の負担が大きくなるので、難しい状況です。

### **仮設でのトラブル**

子どもたちがうるさいなどといったトラブルがありました。やはり住宅も狭く不便で、家族や近所にもいろいろ気を遣いますので、ストレスが溜りやすく、心の病になる人もいますが、逆に元気になる方もいます。

### **変わったこと**

あんまり変わったことはないですね。ただ市役所との連絡は多くなったね。何かあると生活再建支援課に伝えて対応してもらっています。

### **今後のこと**

うちは、仙台で個人事業をやってたんですけど、今度の震災で仕事が減って事業をやめました。

私は、閑上に戻りたいので早く名取市に何とかしてもらいたい。戻って閑上をいい町にしたいなと思っています。

名取市の復興住宅ができれば、そこに入ります。だって、私たち、もう家を建てられないもの。息子も「みんなに住みたいってことだから、名取市の復興住宅に入ろうか」って。まあね、結婚して出て行くかもしれないけど、とりあえずは一緒に入ると言ってるからね。

## 閑上の良いところ

なんだろうね、私はね、お祭りが良かったな。町内会の盆踊りやったり、閑上港祭りもありましたし、あと日和山の祭りが5月と10月にあったのかな。5月はこどもの日で、日和山でやったし、日和山の盆踊りは、日和山地区と中島丁地区の合同でやって。私は、お祭り大好き。今回の5月5日の時は、行けなかったですね、行きたかったけど。1人で行くのがちょっと難題だなんて思って諦めたんです。その時、閑上の祭りに行った人結構いたからね、そこでみなさんと顔合わせしたかったなあと思ったけど。

### 地震の時

家は、日和山集会所の前でした。地震があった時すごかったのよ、ものすごかったでしょ。今までにないような揺れだったから、びっくりしてねえ。テレビ見てて、ドラマ終わって、ご飯の準備をするかなって思って、立った途端にぐらぐら来たんです。揺れて、私、テーブルの下に隠れたら、神棚からお札とかが落ちてきたのね。そして、「ああ、これではだめだ」って思って、少し止んだ時に外に出たら、アパートの駐車場の土の所からヘドロが「ブクブク」って、液状化になっていて、「あー、これはだめだ」と思ったが、全然津波のことは頭になかったのね。でも大変だと思って、近所の店屋さんにリュック（保険証、権利書等）背負って行ったのね。その店屋さんのおばあちゃんが1人です。だから、私誘って逃げようと思って行ったんです。そしたらそこに、おばあちゃんの甥っ子の奥さんが赤ちゃん連れて、車で来たんですね。それで「おばあちゃん一緒に逃げよう」って言うんで、そこで私も「じゃあ一緒に」っていうことで、乗せられて最初に閑上公民館に行ったんだけど、公民館のグラウンドに人がいっぱいいたんで、「ああ、だめだ」と思って、「じゃあ、小学校に行くからね」ということで閑上小学校に向かいました。

### 小学校の校舎に

小学校の校庭に車を止めて、すぐ校舎に行きましたが、まだ誰もいないの。避難が早かったから私たち。逃げた時も全然渋滞してないし、だから余裕があって小学校の裏側の駐車場に少し止まって落ち着いてたの。そして10分か20分したら、車がどんどん入って来たのね。なんだかその時無我夢中だったんだけど、誰かが来て案内されて「2階に上がれ」と言われて、上に上がったんだねえ。上がったら今度は「3階」って言われて、3階から今度「屋上」って言われてね、それで屋上で津波見たわけだね。おっかなかったね、あの時はほんとに。雪が降ってきたでしょ？寒くなって。そして少し落ち着いてから下に降りて、それで各自教室に入ったわけ。特に指示されなくて、勝手にみんな教室に入ったのね。そして寒かったから窓のカーテンを外して、子どもに掛けてあげたりしてね。それで一晩そこで過ごしたんだね。すごかったね、ほんとに。火事でガスボンベが、バンバン破裂してるのが見えるしね。

息子とは、連絡が全然取れませんでした。私、携帯持ってないから、3日間行方不明。でも娘の所にかけてもらったら、やっと通じて。そしたら、息子から娘の所に連絡があったということでした。それで私は、閑上小学校にいる事と、連絡を待っているということを伝えました。

### 避難所の生活

次の日、バスで館腰小学校の体育館じゃなくて、教室に移されました。「あんたたちは、教室に入りなさい」って言われて、ところが教室じゃなくて廊下でね。だから夜になって寒いでしょ。それじゃあダメだからって、私たちは体育館に行ったのよ。うん黙って行ったの。



体育館に行ったら、隅の方が空いていたので、そこに陣取って。そこに仮設住宅に入るまでの3か月間ずっといたわけ。大変だったね、窮屈だったからね。自分の場所は自分の場所って囲んでね。結局、館腰小学校は、ダンボールの仕切りを使わなかったの。使うと隣の人と話もできないし、それで使わなかったのね。どうしてもやりたい人はやりなさいって言ったけど、ほとんどしなかったね。着替える場所は、個室があったから、そこで着替えてたね、みんな。食事とか食料は、ちゃんと来てました。自衛隊の人たちが作ってくれて、1か月作ってくれたね。だからその点は楽だったね。後は、いろいろと支援物資が来たり、服なども贅沢を言わなければ、着ていられるからね。

ただ、お風呂がひどかったね。風呂が無いから、1か月に1回ぐらいかな、「極楽湯」(銭湯)の無料券がもらえて、それで入りに行きました。あとは、うちの姉の所に行ったのね、仙台まで息子の車で通って。

避難所は、ほとんど閑上の人たちだけだったね、だから顔見知りだね。班分けをして、12班ぐらいに分かれてました。

息子は、3日後ぐらいに、市役所の掲示板を見て来てくれました。

## 仮設住宅の生活

仮設住宅への入居は、5月29日の雨の降る時にね。自衛隊の人たちに運んでもらったから助かりました。私、市の方に頼んだのね、そしたら自衛隊のトラックが来てくれて、それに3軒分を乗せて引越したんだね。ほんとにあの時は、自衛隊の人たちが協力してくれて、ほんとに助かりました。

買い物は、車に乗せられて1週間分買ってくるわけ。日曜日の息子が休みの時に行って。病院なんかも、個人病院だから土曜日に行って、息子に乗せられてね。あと息子が休みでない時もあるから、そういう時は結局タクシーを利用する他ないんですよね。買い物は、向かいにスーパーができたから今は楽です。来たばかりの時は、「不便だ、不便だ」って言ってたけど。

## 今後のこと

今後のことねえ、私は閑上に戻るつもりでいるんだけど、どうなるか分からない。これから2~3年の内に何があるか分からないから。息子は反対しているの。でもね、どうなるか分からないんだからね、そこはまだはっきりしない。だから、ここにいる間に少しでもお金貯めて。

## 閑上の良いところ

私は元々仙台出身で、閑上にお嫁に来ました。閑上の最初の印象は、「あれー、大丈夫かなあ」って思ったのね、閑上は離れ小島みたいな感じだったんです。そういうふう感じたの、私は。「離れてるでしょ?」。だから「病院とか大丈夫かなあ」って思ったけども、やっぱり住めば都でねえ。主人は、閑上の人で、私も、もう実家よりもこっちの方が長いもんね。

閑上の方は、口は悪いけど気持ちはいい人たち、気持ち分かれるとね。最初は「なんだこの

人」って思うかもしれないけど。口が悪いってほんとに、だけど気持ちはすごくいいの。人の事も言うことは言うけど、あとはカラッとしてるのよ。そんな時だけでね、根に持ってないから。だからうちのおばあちゃんにも言われてたのね、「閑上の人たちは口のうるさい人たちだから、挨拶されたら必ずお返ししろよ。挨拶だけはしろよ」って。今考えると、おばあちゃんの言うことは、ほんとだったなって思ってるけどね。その挨拶だけでも違いますからね。口伝いに広まるから。早いのが広まるのが。恐ろしいのだから。いいことはそんなに伝わらないけど、悪いことは「ばばー」って広まるから。

私は、ずっと勤めてたけど、家のおばあちゃんからは「閑上でなくて、閑上以外の所で働け」って言われたのね。私スタンドで働いてたんだけど、10年近くかなあ。スタンドの事務やってたのね。けども、結局うちのおじいちゃんが病気になって、うちのおばあちゃん1人で看るのが大変だから仕事を辞めて、閑上の近くの会社で働くようになったの。3人見たもんね。おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさんと、3人送りました。

## 地震の時

3月11日は、コンビニでバイトの夜勤が終わって、家で昼間寝てるところに大きい地震が来ました。趣味で登山とかアウトドアを結構やってたんで、トランシーバーとか登山グッズや装備とか全部持っていました。地震が来た後外に出たら、地割れは起きてるし、近くの家は崩れてるわで、これはまずいなってことで、装備類一式身につけて。

経験がなかったんで、最初津波が来るって思わなかったんですね。その前の日も、津波警報が出て実際来なかったんで、来ないと思いました。ただ地震自体は、強かったんです。最初、親と妹を避難させてから、自分は残って近所のお年寄りを避難誘導とか、車で移動する人たちに乗せてもらったりとかしていました。あと結局、個人的に家が燃えて欲しくなかったんで、1時間近く近所のガスボンベの締め方をしたり、ブレーカーを下げたりして走り回っていました。ある程度一段落したので、家の2階に登って、様子を見てから逃げようかなって思っていたら、海のほうから音がして、最初車がぶつかったような音がしたんですね。だから急いで逃げてる人たちでも事故ったのかなって思っ。窓の外を見たらもう100m先ぐらいまで黒い壁が来てました。最初津波って分からなくて、その波の上を車がプカプカ浮いていました。アパートの3階ぐらいの高さに車が浮いていて、「これは津波だ」って思っ、でもその瞬間もまだピンとこなくて。近くの知り合いの家の屋根がゴンとひっくり返ったんです。これ津波だってなって、もうその段階で100m先ぐらいまで来てて。走ってももう無理だっ。思っ、地震とかの時ってよくトイレが丈夫だっ。聞いていたので、最初から潰れてもいいように布団とか一式用意してたんですね。窓の下にまだ人がいたので、一応「津波来てます！」って叫んでから、毛布被ってトイレに飛び込んで。最初は静かで、何にも来ないって思ったら、やっば津波が来た瞬間すごい音がして、「やばい、家ごと潰れるな」と思っ、地震と揺れが違うんですね。地震っていうのは、こう「ガタガタ」って感じなんですけど、津波が当たってるような揺れって、「ドーンドーン」って大きなビルが揺れてるみたいな揺れ方でした。多分一瞬だったんでしょ。けど、自分的には10分ぐらいずっと津波に当たってて、いつまで耐えられるかなと感じました。途中少し静かになったなって思ったら、もう壁に亀裂が入り、車が突っ込んで来て、潰されると思ったら、運よく車だけ流されて行きました。壁の外を見たら、津波でもう周りは何もなくなり、まもなく揺れが収まったんですね。トイレのドアを開けて、廊下に出て階段を見たら、階段から下はがれきで埋まってたんですね。窓開けて外を見ると、一面海みたいになってて、何もなくなっ。その時は、まだ気付かなかったんですけど、家は閑上6丁目だったんですけど、貞山堀通り越して7丁目まで流されてたんです、家ごと。

## 家ごと流された

後で測ったら、300mぐらいあるんじゃないかって。だから実際、揺れていて水が来てると思っ間は、なんかどうも家が流されてたらしいんですね、スピンしながら。逆に土台が外

れたおかげで、潰れずに流されたのかなって思って。最初流れ着いた時も、家の中を見て屋根に出ないとと思って窓開けて、隣にも家がぶつかって流れてきてて、その1階の屋根みたいなのに乗って、屋根に出たんですね。その時の恰好が、ジャンパーやブーツとか登山用の一式付けてたんで、今度屋根に上がって様子見て、周りに何もなくてどこにいるかも分からないんですね。最初、もうてっきり、うち以外全部回りが流されたんだろうなって思って。海沿いに松林あったのわかりますか？、あれも津波の後ほとんどなくなって、もうどこがどこだか。ほんとだったら松林あるほうが海だなんていうのが分かるんですけど、見たら松林がないんですね。あっちこっちにちょいちょい木が残ってるなあって感じで。多少パニック状態なんでどっちが海かほんとに分からなくて、逃げるにも海の方に逃げたらまずいじゃないですか。できれば海じゃない方に逃げたいんで、方向確認するにも家は近所にないし、松林とかの目標もないしで、仕方がないんでとりあえず屋根登って、家が引っかかって残ってるところが結構あって。震災後の河北新報の一面にあった写真ってわかります？、閑上の。写真のど真ん中にあるのうちなんですよ。

それで、流されて、屋根登って、人いないかなって探したら、最初2人屋根の上に登ってる人いたんですね。で、声かけて、そしたら屋根に登ったけど降りれないと言って、写真でもあったと思うんですけど、火事が起こってたんですね。そこにいるとまずい、煙も来てるしまずいってということで、流れてきてる量？、それを発見して足場にして登って肩貸して降ろして。

### いろいろな人を助けよう

1人は50歳ぐらいの方で、もう1人の方が23歳ぐらいの、大学生の人だったんですね。両方女性の方だったんですけど。今度反対側から声が聞こえて行ってみたら、中学生、後から友達の弟だと分かったんですけど、それも引っ張り上げて。そしたら今度奥でおじいさん、屋根沿いに動いてたのが足場がなくて動けなくなってるってことで、今度そっちに行行って落ちてる板とか使って飛び跳ねながら移動して。

聞くと、当時残ってた人って、津波来ないと思って家で片付けしてたみたいなんです。だからみんなスリッパとか裸足って状態で、瓦も濡れて滑るし、がれきもあるし動けないんで、俺だけブーツ履いてたんで、そのおじいさんも引っ張り上げて。あと家の中に凍えて動けない人がいるっていうんで、「じゃあ行きます」って行って。引っ張り上げて出して、最後6人ぐらいになって、ちょうど屋根の平らなところがあって、そこで1回休憩して、そこにいた人たちに「どこの人なの」って聞かれたので、「6丁目です」って話したら、みんな7丁目って言ってたんで、「いやあ、おかしいなあ。7丁目から海に引き潮で流されてきたのかなあ、6丁目まで」って思ったら、冷静に考えて、よく見たら、「うらやす（老人ホーム）は流されないだろうさすがに…ってことは、自分の家が流されたんだろう」って気付いて。

ガスボンベ栓を閉めてないじゃないですか。栓閉めてないやつがその辺流れてきてて明らかにガス吹いてるんですよ。下見ると「シュー」って行って。まず行って思って最初に「タバコ吸う人いますか」って聞いて、タバコ吸う人が何人かいたんで、「タバコはガスが危ないんで吸わないでください」って言って。屋根の上で皆移動できるところ限られてるんですね。

途中から雪が降ってきたじゃないですか。雪で滑るわけで、どうしようもなく火が来た段階で最悪自分の命一番大事にしてくれって言って、それでそこから6人で今度屋根の上を移動し始めて、移動できる所を自分が探しに行ったんですね、がれきとかあるんで最初見てくるからって話して。

## 女の人が怪我をする

屋根の上を移動してて、その過程で女の人（Tさん）が屋根から落ちたんですね。屋根といふかなんといふかこう家が横倒しになってる家とかもあったんですね、窓が横になってるじゃないですか。その上にたまたま雪で滑って落ちたんですね、結構な高さ2メートルぐらいのところから。落ちただけだったら良かったんですけどガラスで手首切っちゃったんですね。一応止血の仕方は講習受けてたんですけど、あの状況だと止血する道具がなくて、一応震災のために救命キットとかトランシーバーなど用意してたんですけど、津波が来ると思わなかったんで、余震でやばいだろうからって荷物とかそういう装備を外に出してたんですね。そしたら案の定流されちゃって、手持ちの装備がほとんどなくて、あったのが携帯電話とラジオで、もうしょうがないからイヤホンのコードで止血したんですけど、結局イヤホンだと止血なんてまともにできないんです。本人は最初大丈夫だと言ってて、途中でもう結局足場なくなって、民家のガラスを割って入って、今度毛布見つけて低体温になってる男性の人に毛布を掛けたり、俺はたまたま濡れなかったんですけど、他のみんなは濡れてたんで、服ある物で適当に着替えてって話して、他人の家だけこの場合仕方がないって話して、ある物着てくれって話して着替えさせて、でも結局行く場所なくて、携帯で1回警察に電話がつながったんですよ。自分の携帯最初何回かけても誰にもつながなくて、うちの妹にメール送ったら、たまたま届いたみたいで、「今どこにいて、こういう状況で、負傷してる人もいるから」「位置ここらへんだから」っていう話して、携帯ってGPS付いてるじゃないですか、GPSで緯度と経度送ってここにいるから、消防か自衛隊に言ってくれって言ったら、「今は助けられない」って言われたみたいで。家族には、歩いて小学校まで避難するように言って、実際は中学校に逃げたみたいですね。自衛隊も来ないってなって、しょうがないから110番して、そしたらたまたま1回だけ110番かかったんです。警察に「こういうわけにいるんですけど」って言ったら、「どうしようもないんで、がんばってください」って言われて、電話切られて。「がんばってください」って、どうがんばるんだって思いながら。まあそんなもんだらうなって思って、そういう話をみんなにして、警察も自衛隊もこの状況じゃ来れない、俺自衛官目指してたっていうのもあって、そういう事情は分かってたんで。ヘリが上空飛んでたんですね、ヘリも見ると何のヘリか分かるんですね。いつでも最悪、川に飛び込めるようにしておこうってなって。その段階でヘリが飛んできて、あれ自衛隊のヘリじゃなくて報道のヘリなんです。ヘリの機種とかで分かるんで、あれ報道のヘリって分かるんですけど、みんな救助のヘリだと思ってしまうんですね。サーチライトとか当てられると、みんな手振り始めて「助けてくれ」って、だけど実際は、ヘリって乗っていると音や声聞こえないんです。ローターの音で声も聞こえないし、煙とかもあるんで高度下げられないので、あの高度だと捜索救難用のヘリじゃないとカメラとか付いてない限り見えないんですね、人とか。

こっちもライト振ってるんだったら別ですけどないんで、そうすると報道のヘリとかも実際は映してそのまま飛び去るじゃないですか、そうするとみんなは「見捨てられた」、「気付かれなかった」、「駄目だ」って言って、それであれば報道のヘリでピックアップの道具とかも積んでないし、助けとか元から無理だからって言う話して、食べ物とか水もないんで、あんまり叫ぶとかえって体力消耗するからって話もして、みんな納得させて、だから叫ぶのはやめようって話をして、多分ここらへんに人居るのは気づいてるだろうって話もして、基本自衛隊でも何でもそうなんですけど、夜間、日没になると救助作業しないんですね。航空機って基本安全の問題で飛べないんで、そういう話もして、もう日が暮れてきたから多分この後は救助来ないから、来るとしたら翌朝だからって話をして、それまで体力を温存してなるべく安全な所にして言う話をして。

火事は、家とその隣にはちょっと間があったので、もしかしたら止まるかなって、風向きの逆風だったんで、海の方へ向かってたんでこっちまで来ないかなって思ってたら、雪降ってくると同時に風向きが真逆に変わったんですね。そしてもう火が一周してきて、ダメだここにいたら燃えるって話して、がれきをぎりぎり渡って行けば次の家に行ける感じだったんですけど、そこもパッと見でもう3軒先から田んぼなんですね。水深を物干しざおで測ったら、どうみても物干しざお全部埋まると、2m以上あるって言うの確認したんで、これをこの人数で泳いでって、普通の人泳ぐの厳しいじゃないですか服なんか着て、厳しいなって話して、皆も最初は水には入りたくないって言って、いいから3軒だけでも先に行こうって話になったんですけど、この火のペースだと確実に3軒先も燃えるし、そうするともう上から見た段階で中学校が一番近い高い場所だったんで、中学校まで行くしかないけどこの距離を中学校まで泳ぐのは無理だろうと、2mの水深だから休むこともできないし、途中何か休む建物も何もないから無理だって話をして、でもやっぱりみんな水に入りたくないって言って、なるべく家を移動したいって話になって、だから仕方ないし、俺もなんだかんだ言える立場じゃないんで、もう最悪「ここからは自己責任で、自分の判断で」って話して。俺はもうあくまで対岸の「うらやす（老人ホーム）」、対岸って言っても結構川って言うか水の幅が100mぐらいはあったのかな。結構あって、今見ると多分貞山堀ぐらいの幅あったんですよ、50mぐらいなのかな、水深測ってもどう見ても足付かないなって、でも結局そっち行くしかないなって、津波って1波来ると2波目も来るし3番目も来るじゃないですか、当時は結構余震で家揺れてて、次に津波来たら確実に終わるって思ってたんで、それを説明して2階の屋根の上に登ってるんで、下の水面まで降りるにも結構大変だったんですよ。

### 「うらやす（老人ホーム）」まで泳ぐことを決意

ふすまとかロープ使って先に下りて、残りの人を肩貸して降ろして、ここからはもうがれき渡って向こうの最後までとりあえず行だけ行くか、川渡って「うらやす」の方へ行くかは任せるんでって話して。「うらやす」のところの前まで行って、水に入って、結局俺は水に入って、とりあえず向こうの対岸まで行ってみますって話になって、ちょうど人居るのは見えてたので、ライトとかで、向こうにも人居るみたいなんで浮くものペットボトルなりなんなり探してくるんでって話して、水に入ったらブロックかなんかそこにあったみたいで浅

かったんですね、で油断して進んだらブロックじゃないところに入ったみたいで「ずぼ」って言って消えて、見てた人みんな「あっ」みたいな感じになって。その時の恰好が趣味も入ってたんですけど、軍用ヘルメットに軍用コートに迷彩のパンツにブーツだったんで、みんな自衛隊だと思ってたらしいんです。後から聞くと「自衛官だと思ってました」って言われて、その恰好だったんで結局泳ぐにも結構重くて、「ブーツはだめだ」ってブーツを1回脱いで、対岸に思いっきりぶん投げて、とりあえず泳いで対岸たどり着いて。それ見たら中学生から順にみんな泳いできて、一応もし泳いで来るならって洋服ケースに使うプラスチックケース、衣装ケースみたいな、あれって水入らなければ浮くんですよ。あれなんか用意しておいて、もし来るんだったらこれ使ってくださいって、俺先行くんで、戻れる時は戻りますって話したんですけど、実際戻れるかどうかなんて分からないんで、万が一の時はこれ使ってくださいって用意だけして、みんなそれ使ってきて、対岸に着いて「うらやす」に着いて。そしたらM先生、「うらやす」の先生がいて、「ここにも避難してる人がいっぱいいるから、中で焚き火やってるから暖まってこい」って言われて、たぶん食堂かなんかなんですけど、そこに30人ぐらいいたのかな、焚き火してたんですね。その焚き火も室内で天井も高いんですけど、窓を全部閉めきってやるんですよ、寒いから。それで、空気が明らかに入った瞬間おかしいって感じたので、M先生呼んで、「ここ絶対酸素濃度おかしいですよ。酸欠になりますよ」「窓開けろ」って言って窓開けて、空気入れ替えて。1回焚き火の前で暖まって。その段階でTさんもその時はまだ調子普通で。

## Tさんの死

結局Tさん亡くなるんですね。そのあと低体温、止血もできない、ほんとだったら縫合とかできるけど、道具が全部流されて、一緒に助けたおばさんっていうのがそのTさんの親だと思ってたら、後々聞いたら親じゃなくて友達のおばさんで、閑上の友達の家にたまたま遊びに来てたみたいで、今年卒業でもうすぐ東京に帰る予定だったんですよ。今仙台の大学に来て、もうすぐ東京に戻るから家に来てって言うので来てたみたいで、その日はたまたま地震のちょっと前、30分ぐらい前に「夕飯食べに来て」って言われて向かってきて、地震来て、どうも娘さんとかは最初に避難して、そのおばさんが忘れ物したって話になって、Tさん車あったみたいで、「戻ります」って言って戻ったところに津波が来たみたいなんですね。あとから全部調べて、その時はもう全然分からなかったんで。でも個人的にはその6人助けてその後「うらやす」でも何人か助けたんですけど、Tさんだけ結局亡くなっちゃったんですね、1人だけ。俺的には屋根から落ちたのも俺がもっと注意してれば落ちなかったし、津波の後屋根に上った時点では一切怪我も何もなかったんですね、全然元気な状態で、もうだから津波で亡くなったっていうよりは、ほんとにもうその後の移動の段階で手首切ったことが原因で亡くなってるんですね。だから人から見たら、ただの事故だろうと。事故って言っちゃえば事故なんですけど、俺の中ではそれが納得いなくて。その「うらやす」にいる間も何にもできなくて、結局翌朝の4時ぐらいに心肺停止になって、M先生とか介護関係者とか医療スタッフいたんでみんな心肺蘇生やって、1時間半ぐらい4時前ぐらいに心肺停止になってから5時過ぎまでずっと心肺蘇生やってたんですけど、結局戻らなくて、5時半近くに亡くなって。

Tさんの時も、最初元気だったんで、まあ大丈夫かなあ、ある程度出血も止まっていたみたいなんで大丈夫かなあって思って。がれきの下とかベッドの下にお年寄りの方が結構流されてたんですね。中でやっぱり津波で潜ったはずなのに生きてる人がいて、結局18人ぐらい助けたんですよ。生きてる人いっぱいいらっちゃって、「助けないと」って言って、もうみんなでがれきよけて、8時ぐらいから11時過ぎまでずっとがれきよけて、お年寄りを引っ張り出して。このままじゃ低体温でまずいからって全員焚き火の前に連れてって、車いすとかも拾ってきたり、担架を布で作ったりして運んで、やっぱり中には亡くなってる方も結構いたんですね。亡くなってる人もそのまんまにできないから、場所決めてそこを遺体安置室みたいにして。そういうので4時間ぐらい経って。ヘリは夜間飛行はできないんだと、夜間仮に飛んでも、ラベリングっていうんです。あのワイヤー降下する救出が、こういう場合にはラベリング降下だけど、この状況じゃ火災の風圧でヘリがホバリングできないし、暗くて無理だって話して。「叫べば場所分かってもらえるんじゃないの」って言う人もいたんですけど、ヘリはローターの音で聞こえないって話もして。「じゃあどうすればいいの」っていう話になって、「とりあえずここで明日の朝までどうにかすれば、基本、救助活動って6時で終わるんですけども、6時に始まるんです、朝の。たぶん普通は6時に始まるけど、こういう状況だったらたぶんもっと早く始まる、夜明けと同時に始まるだろうから、その段階で合図を送ればいいと思う」って話をして、みんなを納得させて。食料も今探してくるからって話して、全員落ち着かせてから、その遺体回収、生きてる人を助けたりとか食料を探したりして、その過程で万が一の場合、絶対夜に救助は来ないと思っても、ああいう状況じゃ言えないんで、ボートとかっていう可能性もあるんで、発煙筒とかないと分かんないだろうなって話になって、M先生が「その辺に俺のとスタッフの車が何台か引っかかっている」って言われてたんで、「そこに行って、発煙筒取って来ます」って。車って発煙筒付いてるじゃないですか、それを知ってたんで、「じゃあ発煙筒持って来ます」「あと消火器もあつたほうがいいですね」「ボンベもその辺にいっぱいあるし、火も向かってきてるんで」って言って。「あと対岸の火も見張っとくんで」って言って、「消火器とりあえず集めます」って、スタッフ何人かで消火器集めてもらって。消火器って比較的重いんで、あんまり流れてなくて、スタッフは大体ある場所分かってたみたいなんで、探してもらって、10本ぐらい集めてもらって。引火するとまずいから、これを周りに置いておいて、「常に誰か見張ってて」って話して。そしてまあなんだかんだで3時ぐらいになって、Tさん心肺停止になって、お年寄りの方とかも低体温症で結構亡くなる方がいて。朝、遠回りしてずっと土手の方通って、最後3階建ての「うらやす」の対岸の方に翌朝の10時ぐらいには移動したんですけど、今度移動の段階で、「食料とかカニ缶とか使えるだけ持ってけ」って言って。動けない年寄りも全員おぶって、2人がかりとか車いすで運んで、距離にすると直線だとすごい近いんですけど、結局迂回して行くようになったんで、100mぐらいあつたのかな。結構な距離あって、往復してる中で今度3階建ての方の上は浸水してないんで、向こうもスタッフとかいてラジオでなんか「津波警報がまた出た！」って言って、また来るって話になって、「みんな走れ！」って言って、走って。結局、遺体とか一番最後にしようって置きっぱなしになってたんですね。でも俺の中ではもう他にお年寄りとかも多数いたけど、「そっちまでは面倒見れないから」って言って、俺の中では「せめてTさんの遺体だ



けでも、家族に返したいな」って。結局、遺体は1階にあるんで津波が来たらまず流されるじゃないですか、そのまんまにしといたら。それで戻って、最初はM先生とかにも「戻るなダメだ」「生きてる奴が大事だ」って言われたんですけど、5分待っても津波が来ないので、「これは来ない」って言って、1人で走って戻って。最初に持ち上げて行こうと思ったら重いんですね。よくドラマとか見ても死体は重いつていうけど、ほんとに重くて。結構、力とかには自信あるほうだったんですけど、80キロぐらいだったら上がるかなって思ってたら、ほんとに重くて全然上がらなくて。仕方ないから引きずって、途中も床に1回降ろして休んだりして、泥まみれになったけど、申し訳ないけどそのまんま運んで。でもそれでも3階建ての手前で、俺も食ってないし夜勤明けで、もうノックダウン状態で遺体をそのまま外に置きっぱなしになって。俺ももう動けなくなってスタッフの人が来て、「遺体は諦めろ」って言われて、俺だけ連れていかれて。それで、もう遺体をとりあえずそのままシートだけ掛けて置いて、今度3階建ての方へ行って、また遺体運んだり食料探したりで、3日ぐらい過ごしました。

### 「うらやす」を出てから

救助が来なくて、一応2日目に1回、「ここにいてもダメだ。助け呼ばないと」って、当時まだ携帯もつながらないし、「じゃあ、あっち側に行けば消防とかいるから呼びに行こう」って話になって。服とか食料も「うらやす」の備蓄倉庫が流れてたのを発見したんで、それを俺とスタッフで取りに行き、なんとか開けて取れるものを取ろうって。食料はあったけど服がなくて、じゃあ中学校が多分避難所として稼動してるだろうから俺とか動けるから、泳いだりがれきの上飛び跳ねたりしてなんとか中学校の方まで行って。小学校行って、なんかやっぱり何にもなかったが音楽室へ行ったら、コカコーラとか飲み物がやたらいっぱい山積みになってたんですね。後で聞いたら、ちょうど自販機の補充にきてたトラックが近くに流されて、その運転手さんが持ってきて、みんなで運んだらしいって。「これ持ってくか」って言って、他にもいろいろ選んで、全部はさすがに持てなかったんで、2人だったんで。2人じゃこれ全部運べないし、服もあるけど運べないなって言ったら、同じこと考えた近所の人が結構入って来て、名前とか聞かなかったんですけど、近所の20代ぐらいの若い人がいて、「よかったら手伝いますよ」と言われたので、事情話したら、「分りました。手伝いますよ」って言われて、「じゃあすいません。お願いします」って言って手伝ってもらって、ジュースや服とかを運んでもらいました。

こっちの町中は、水が引いてましたね。「うらやす」の所は、水浸しだったんですけど。

### ボランティアを始める

家族と会ったのは、1週間後ですね。3日間は孤立してたし、もう町中抜けてからもTさんのことや何だかんだで忙しくて、そっちを優先しちゃってたんで。それも終わって、一安心になって、またボランティアを始めたりして。結構いろいろやって、遺体回収の案内やったりとか、安否確認からあとは極楽湯、お風呂提供企画とかやって、あとボランティアの管理したりとか、いろいろやって。ボランティアの管理のボランティアです。

## 助けられなかった人も

結局助けたのが大体18人ぐらいですね。18人ぐらい助けて、助けられなかった人が30人ぐらいいて。

## 今後は

うちの両親は、なんかどうももう閑上には戻りたくないみたいな感じで、やはりそういうことがあった場所は嫌だし、思い出すっていうのもあるし。名取が丘に住んで、結局閑上って海沿いのはずれじゃないですか、名取が丘だとけっこう町中なんで、「こっちのほうが便がいい」「住み慣れた」って言ってます。

## 閑上の良いところ

閑上は、やっぱり近所間のコミュニケーションが多いですよ。あと閑上の人たちはフレンドリーですね、やっぱり。閑上のいいところはフレンドリーなところですかね。ただ震災前とかは、近所の人にあいさつするとか、ちょっとお茶飲みに行くぐらいだったんですけど。震災後は、いろいろ働いてたんで、結構顔いろいろ知ってる人が多くて、市役所で働いてる時とかも声かけてくれて、そういう意味では「みんな覚えてくれてるんだなあ」みたいな。地域の輪、フレンドリーな感じはいいですね、気楽に話せるっていうか。

### 地震の時

地震の時は、2時にお昼食べたの。最初にお昼食べて、会社に戻った後ぐらいでした。揺れで、テーブルがめちゃくちゃにみな壊れて。外に出るにも出られず。揺れが収まってすぐ家に帰りました。家の中は、割れたガラスだらけでしたが、2つあったサイドボードは倒れませんでした。でも、いるはずの息子の姿が見えませんでした。

私は、近所の娘さんたちと車で避難しました。まず閑上公民館に行きました。早く行きましたが、ここも危ないからということで、閑上中学校に移りました。そして3階に上がりましたが、中学校には、人がいっぱいいました。私達は、避難が1番早かったから、1番奥の1組に入りました。

外を見たら、真っ黒いものが上がってきて、「あー、津波だ。津波だ」って思いました。息子が来るはずでしたが、どこに行ったか分かりませんでした。夫は、仙台で仕事をしていました。夜になっても夫は来なくて、後で聞いたら市役所に3日～4日いたということでした。その後私は、第一中学校に行きました。第一中学校は、閑上の方が多くいました。

山形ではガソリンが並ばずに入れられたので、毎週ガソリンを入れに山形に行っていました。

### 息子さんの死

息子の遺体は、地震の夜に上がっていました。遺体に発見日や発見時間が書かれていました。遺体には、全く傷も何もありませんでした。だから、途中まで逃げただけで、津波に追いつかれたんだと思います。そして高柳まで流されてました。4日目にお父さんが、遺体安置所で見つけました。きれいな顔をしていました。4月の末日、火葬前日に長男が東京から来てお見送りができました。

また戻ってきて片付けるつもりだったので、何も持たないで避難しました。閑上小学校の体育館に、流されたものが展示してあり、子どものアルバム2つ、それだけ見つかって、あとは何も見つからず。孫たちの写真も自分の写真も、何もありませんでした。ただ、子どもたちの小さい時の写真、アルバムしか見つからなかったの、息子の遺影の写真は、同級生に卒業アルバムを借りて、中学校の写真を使いました。

### 第一中学校では

避難所では、班ごとに分かれていました。私の班は12人で、コーヒーとかお茶とかいろいろな物を持ち寄って、みんなで家族みたいに分け合って。出かけて行く時には「出かけてきまーす」ってそのグループに断ってくる。そうすると誰かが来た時に対応してもらえて。

### 仮設に来てから

5月に来て、最初は誰がどこにいるのか分かりませんでした。今では、集会所によく来ています。その後だんだんと知り合いがいることが分かりました。

### 地震の時

住んでいたのは閑上6丁目で、日和山の近くです。閑上生まれで閑上育ち、閑上で閑上の人と結婚しました。閑上の昔は、活気は良かった。5丁目・6丁目は、埋め立てだもんね。

魚は、カレイとタコ、カニ、なんでも獲れたんだ。それを駕籠に入れて、売らせられたんだ。イサバ（五十集）に行行って歩いたんだ。嫁に行ったら、すぐ売らせられたんだから。主人は、74歳で亡くなりました。

向かいの人と、お茶を飲んでたの。地震の後に「家に帰りな」って言って、そこらへん片付けてたんだわ。向かいの人の旦那さんが、迎えに来たの。そしたら、隣組の人が、「早く逃げろー。津波が来るぞ、早く逃げろー」って。「何持って逃げればいいのかー」って言ったら、「パンツ持ってけばいいのー」って、何も持たないで逃げたの。だから家にあったお金30万円流されたんだ。だって、また家に戻ると思ってたんだもんねえ。そしたら入れ歯忘れたんだ。入れ歯忘れたから戻ってきて。

閑上公民館まで歩いて行行った。歌を歌いながら。なんていうことない、いつも歌だの踊りばっかり踊ってるからな。その気持ちで行ったの。そして、友達を待ったの。だけど、その人たち逃げたんだな、先に。だから私1人で自転車引っ張って、荷物つけて歩いたの。おっかないから乗らないんだわ。そして行ったら、「津波だー」って、後ろで騒いだの。閑上公民館の玄関の前で。そして自転車「バーン」って投げて、荷物抱えて上がって行ったら、人に手を引っ張られたの。2階に上げてくれたの。

公民館の2階に避難したんだ。2階に行ったら2人だけで、ほとんど誰もいないんだ。2人っていうのは、体の悪い人。担架で乗せられてきた人が2人いたの。男と女。3人でそこに寝てました。

### 次の日は

水が引いたら、閑上のアパートの人たちは助かったんだね。その人たちが、今度公民館に歩いてきたんだ。その人たちも公民館にいられないから、「あんたらも歩いて閑上中学校に行きなさい」って。私は、濡れたまま歩いて行けないから、「行かない」って公民館にいたのさ。中学校に行かないで。2日ぐらいいいて、車が来て、それに乗せられて避難所に行きました。

### 避難所へ

救急車で、血圧の薬もないから病院に連れてってもらったけど、いっぱい入れなかったのので、第二中学校に連れて行かれた。それでも、閑上の人たちいないんだなあ。3日目に娘が来ました。1人でいたから誰も見なかった。娘が「公民館にいた人たちは、第二中学校と第一中学校に行ったから」って言われて、会えたんだ。涙の対面でした。

ガスもないし、お風呂も入るところないし、洗濯もないし、シャワーも何もない。学校の体育館だもん。ただ広いところで何にもない。雪は降ってくるし寒かった。娘の所には、5

月までいました。

### **仮設住宅では**

美田園第一仮設住宅は、便利です。集会所があって、ボランティアの人たちが来るんだ。踊りや歌や落語など、いろんなの来るよ。今度も、阿波踊りが来るんだ。他にどこにも行く所ないもの。笑って、みんなでお茶飲んで。

自分で食べる分の食事を作るの。野菜が売られるから、野菜買って、炒めたり、大根おろしたり、ゆがいておひたしにしたりね。買い物は、売りに来るから。野菜売りに来るし、あと牛乳屋さんだって来るし、薬屋さんも来るし、魚屋さんも来るんだもの。土曜日・日曜日は、娘に連れられて買い物に行くんだ。だからね、そういうのは不自由しないんだ。

### **ここがいい**

美田園は、便利だ。もう閑上に行きたくないわ。あんな津波のところに。またああいうの来ないってはいえないもんねえ。ここがいいわあ。こんなにいい所ないさ。駅は近いしねえ。買う所も、すぐ近くにあるもんねえ。家賃出したっていいから、ここはいい場所だなあ。

四畳半2つだから、荷物置いたり、孫とか来ると狭いんだよねえ。大きい孫3人いるし。あと夫婦で5人。私と8人で寝るんだ。

### **閑上の良いところ**

お祭り、食べ物、お魚いっぱいだし。朝市が毎週あったから。魚や果物など何でもおいしいからねえ。食べ物は豊富だしね。人間が一番で、人が優しい。人の触れ合いがいいんだね。誰もいじわるする人いなくて、仲良かったなあ。隣組だってみんな一致してたんだな。お茶飲みもしてたし。

## 地震の時

以前は、閑上6丁目の「浜や」の前あたりに住んでいました。私は、閑上生まれの閑上育ち。昭和34年に閑上の住宅に入って、そこで新所帯が始まりました。

地震の時は、5丁目の方に家庭菜園みたいな野菜作りをしていた所があつて、そこにいたのね。そしたら地震になって、そこに座り込んでしまったの。周りを見ると、車にすがってる人も飛ばされ、ブロックが倒れてきたりしてね。収まってから家に帰って、家に入ろうとしたら、玄関の戸が開かないので、ぐるっと回って前に行ったら、戸が開いていたのね。それで、片付けを始めたの。そしたら孫がバスで学校から帰ってきて、バスの中でやっぱり揺れたらしいのね。日と山でバスを下りて、歩いて来る途中で、逃げる人たちから「乗せていくから」と言われたが、「家にばあちゃんがいるから」と言って戻って来たんだね。そして、「ばあちゃん、早く逃げるから、早く逃げるから」って言われたけど、それでも片付けをしていたの。でも、孫が何回も言うし、孫が来る途中で「早く逃げろ」って言われたって言って。

「早く逃げるから」って言うけど、逃げるにも何を持って行けばいいか分からないで、うろろろしてたのね。家の中は、物が戸棚からみんな落ちていて、毛布なども取りに行けない状態で、やっと1つだけ持って、孫に「ばあちゃん歩けないから、自転車で行くから」って言ったの。そして孫に「あんたは何で行くの」って聞いたら、「歩いて行く」って言うんで、「なんだ、自転車あるのに」って言ったんだけど、「歩いて行く」って言うから、「じゃあ、ばあちゃん自転車で行くから」って言って、「閑上公民館で待ってるから」って約束して、自転車で公民館に向かいました。

そして公民館に着いて、しばらく門の中に入らず、門の所で孫を待ってたのね。でもなかなか来ないんだね。しばらく待ってたんだけど、そのうちに「中学校に移動して下さい」って言われて、それで私も孫と会えなかったけれども、閑上中学校に移動してしまつて、だから孫と離れ離れになってしまったの。私は、1人だから、中学校へは自転車でいったの。逃げる時も、1人ぐらいしか会わなかったね。静かで歩いている人もいないし。そして中学校に着いて、昇降口で少し待っていたの。誰も知ってる人がいなかったから。そしたら茶色の風が「バーッ」と飛んできたような、茶色のものが来たのね。「わー」って思って、私もバタバタ上に上がったのね。そしたらすぐ流れてきたんだね。そして、手を振ったり、「助けて」って言う人もいるし。どうにもならないからね、ただ見てるだけだったのね。

そして、中学校に一晩いたんだね。暗くなってから、各教室に避難者の確認に回って来た人がいたので、「孫に電話してもらいたいです」って言ったの。「公民館に電話して欲しい」って言ったら、「電話は通じないからダメです」って言われたの。そして「名前はなんて言うの」って聞かれたから言ったのね。私はその中学校の先生は知ってたんだけど、先生から「そういう名前の子どもは、ここには見当たらなかった」って言われて、それで「あー、だめなんだな」って思ったりして、一晩心配だったのね。そして次の日になったら、公民館に避難している人の名前が、廊下に貼り出されていて、その中に孫の名前を見つけて、「あー、公

民館にいたんだなあ」って思って、そして安心したの。後で孫に「公民館にずっといたの」って聞いたら、1回やっぱり出たんだって、「閑上中学校に移れ」って言われたから。そして齋藤医院あたりまで来たらしいけど、公民館に戻ったらしいの。

次の日、私は、具合が悪くなって、中学校でしばらくベッドに寝かせてられて、あと落ち着いたけどね。

### 避難所に

次の日、「歩ける人は、閑上小学校まで歩いて下さい」って言われたが、私は歩けないから「じゃあ、だめだな」って思ったけれど、道路もしだいに通れるようになり、バスが学校の近くまで来て、そのバスで第一中学校に移りました。第一中学校に着いて、名前を書いて教室に入ったら、姪が迎えに来てくれたので、夫の弟の家に連れて行ってもらって、そこに1週間から10日ぐらい世話になったんだね。でも、4人も5人も世話になっていられないから、娘が増田にアパートを借りて、そこに1か月くらい入って、その後そこを出て、美田園第一仮設住宅に移りました。

### 仮設住宅

美田園第一仮設住宅は、5月30日ぐらいに入居しました。入居者は、隣組と同じぐらいの、知っている人ばかりだったから安心しました。お茶会とかは、最初から参加してました。顔を見ただけで安心だし、みんな隣近所だから、いいなって思って。仮設住宅は、どこに入ればいいのか迷ったけど、いい所に入れてもらいました。

私は長男といえるのね、あと娘と孫たちは増田のアパートにいるのね。「仮設空いたけど」って連絡があったけど、孫の学校もあるし、増田は駅の近くだからいいんじゃないということで、動かなかったの。孫も2人いたからね。ランドセルが流されてしまったから、もったり、制服も友達からもったりして間に合わせてるの。

### 困ったことは

食器類や箸とかを一通り揃えるまでね、鍋なんかは入ってたから、バケツも入ってたし一応そういうのは間に合ったけど、やっぱり小物ね。アパートに入った時にもらったのもあったけど、兄弟や友達からもったり、娘も職場の人たちにもらったらしいのね。だから、不便だっていうのはあんまりないけども、さしあたってご飯食べる茶碗や箸などがちょっとね。

部屋は、狭いって言えばキリないからね。そして何にも物が無いから、そんなに狭いとは思わないしね。でも、だんだん物が増えてきてるので、窮屈になってくると思うけど。

楽しみは、プランターに野菜作ったり、花植えたりしてるのね。あとは集会所でパッチワークしたり、いろんな行事があるので参加してます。

### 今後のこと

うちではね、やっぱり閑上に帰らないっていうので、この際愛島の方に住もうかと考えています。今はまだ体が動くけど、段々と動かなくなれば、家に誰も居ない時に1人で逃げるに

も逃げられないし、やっぱり避難しない所がいいなあって思って。

### **閑上の良いところ**

閑上は、魚も活きがいいし、なんでも豊富だから、住み良いんだけどね。気候は、そんなには悪くないね。年取って風邪引きやすくなってね、寒くて。でも、そんなに気候だって苦になることはなかったし、雪も多く降るわけじゃないしね。



### 地震の時

閑上地区は、その朝ちょうどゴミの日だったんです。それで、ゴミを出しに行く時に、カラスの鳴き声がすごかったんですよ。鳴き声が一斉に「ムワッ」ときて。

地震が来てすぐ表に出て、10秒かそこらで一瞬止まって、急に「ドーン」と下から突き上げるような揺れで。炊飯器が飛び上って落ちて、蓋が壊れたんですよ。家の近くでは、液状化現象になってましたから、これは逃げるしかないと思って。お父さんからもらった形見のラジオを持って。

津波のサイレンは、1度も鳴りませんでした。鳴ったっていう人がいましたけど、1度も鳴りませんでした。何でかっていうと、家は目の前に魚市場がありますから、サイレンが鳴るんですよ。魚取れたとかなんとかって時には、必ずサイレンを鳴らして。本当は、地震の後にサイレンを鳴らしてもらえれば、みんな良かったんでしょうけど、それが一切鳴らなかったの。

それで、主人と一緒に閑上公民館まで逃げたんですが、「津波が大きいので、ここではだめだ」って行って、今度は閑上中学校に行きました。自転車で急いで逃げて、昇降口っていか玄関先から階段昇って2階に上がって、3階に行くか行かないかの時に「ドーン」と津波が来ました。屋上まで逃げろっていうことでしたが、鍵がかかっていたものですから急いで持ってきて、鍵を開けて屋上に上がりました。屋上に上がった途端に、もう放心状態でしたね。

屋上から津波をはっきり見ました。一番上が真っ白で潮吹いて、その次に真っ青なサックス色、3段目が薄い水色、その次に薄茶色。下が真っ黒い泥で。津波のところで、薄い茶色の砂埃が「バー」って上がって、電信柱がバタバタなぎ倒されてきたんです。それも全部見て、これ、夢なのか現実なのか映画なのか、何も分からない状態で。閑上中学校に約1,000名の方が避難して、主人も一緒でしたが主人は、絶対安静で、担架で運ばれて山形の病院に行きました。

### お義母さんが亡くなる

お義母さんが亡くなったんですよ、「うらやす（老人ホーム）」で。館腰小学校の避難所にいた3月16日にお義母さんが亡くなったっていうのを知らされたんです。

### 雇用促進住宅での生活

雇用促進住宅には、5月28日に来ました。そのうちに、主人が10か月後に病気で亡くなりました。精神的にかなりまいりましたが、自分の好きな歌手のDVDやテレビ番組の出演を見て、随分励まされました。

閑上で、タコ焼き屋をやったおばちゃんがいたんです。震災の日に亡くなったんですけど、私自分でレシピを作って、そのタコ焼きを再現したんです。だから今、調理師の資格を目標に、必ず閑上のタコ焼きの再現をやりたいと思ってます。

## 今後のこと

高柳と大曲に閑上の町を作れないのかって思ってます。あれだけの土地があるんだから、土地も国で買うなりやってくれて、そこに家を建てるようにしてもらったらいいと思います。

今回の津波は、みんな初めての経験ですよ。どうやったらあの津波に遭わないで、今度は本当に安心して安全に住めるかで、住む場所を考えるべきだと思います。東側ではなくて西側に考えて、そこで生活をして、東側は津波が来ても防災でなんとかしてもらえるような状況にして欲しいとみんな願ってると思うんですよ。7メートルの高台作ったからって、いいものじゃないと思います。

## 閑上の良いところ

まず、口が悪いのは一丁前なんです。馬鹿野郎。この何やってるんだ」っていうのが閑上なんです。でも口は悪いんだけど、情があるっていうか。昔は、じいちゃん、ばあちゃんて育った人が多かったので、優しいっていうか情があるっていうか。まあ全員が全員ではないですけど。口は悪いんだけど性格がいい。人の面倒見は、やっぱり半端じゃないですね。

### 地震の時

当日地震の時は、私と妻と一緒に仕事をしてたんですよ。家にじいちゃんと、ばあちゃんがいまして、「様子を見て来てくれ」って、妻をまず閑上に行かせたんです。そこに上の息子が現場から戻ってきまして、息子にも「今、かあちゃん行ったから、閑上に行ってちょっとじいちゃんと、ばあちゃんの様子見て来て」ってことで、行かせたんです。私は、仕事場の片付けをしないといけないと思って、残ってたんです。その後、20分・30分経っても連絡が取れないし、「閑上どうなってるんだ」と気を揉んで、私も車で閑上に向かったんです。

閑上に行ったら、案の定家の中がごちゃごちゃになってまして、家に入れなくて、じいちゃんと、ばあちゃんと妻と上の息子、中学生の下の息子と、あと近所のおじちゃんと、おばちゃんが家の前にいたんですよ。じいちゃんと、ばあちゃんが寒そうにしてたんで、息子たちに「じいちゃんと、ばあちゃんをまず避難所に置いて来て、暖かいところに降ろして来い」ってことで行かせたんですよ。私と妻は、家の中を被害状況確認っていう形で見てたんですよ。そしたら何分も経たないうちに、消防が「津波来るから、早く逃げなさい。逃げなさい」って大声で騒いでいたんで、「うちらも避難所に行くか」って、玄関に出たら、もう津波が見えたんですね。まず足、くるぶしぐらいまでの波が見えまして、すぐに車に乗ろうと思ったら腰ぐらいまでの波が見えたんで、「あっこれはだめだ」と思って、すぐ玄関を閉めて2階に上がったんです、2人で。

### 家ごと流された

2階に上がれば、もう大丈夫かなって思ったんですけど、2階に上がった途端に「ドーン」っていう波が来て、一瞬どういう風になったか分からないんですけども、家ごと流された状態だったんですね。窓開けて見てたら、とにかく水は来てるし、自分たちはどうなってるか分からないですしね。たまたま私の家は、屋根裏部屋があったんです。屋根裏の倉庫みたいなのが、2階でも水が入ってきそうになったんで、「ここじゃだめだ」ってことで、まず屋根裏に上がりまして、屋根裏の窓を開けて見たら、また流されてどこにいるか分からない。そうこうしてるうちに屋根裏にも水が入ってきそうになったんで、外に出て、がれきに上がりながら、屋根の上に登ったんですよ。周りを見渡して、その時にはもう波もいづらか緩やかになりまして、なんとか助かったかなって気持ちにはなったんですよ。それでその時は、もうどこまで行ったのか、周りも水だらけで分からないですし、家もまだ揺れてますし、余震もありましたし、とにかくおっかないからということで、屋根の上に座ってたわけです。

そうこうしてるうちに雪が降ってきまして、屋根の上も凍ってきたんです。寒かったですねとにかく。県道10号線があるんですけど、ファミリーマートがあって、小学校があって、その間まで流されたんですね。2キロぐらい流された感じなんですかね。家に上がる時に靴脱いだんですよ。だから家に入る時に靴下のままで、屋根の上に上がる時に靴下が濡れたんですよ。屋根の上に上がって安心したんでしょうね。もう足が冷たいって靴下を脱いで投げってしまったんですよ。その時には、周りも見えなし流れも緩やかだったんで、後は水が引け

ばもう逃げられると思ったんです。結局水が引かなくて、裸足のまま屋根の上にいる状態だったんです。次の日は足が倍ぐらいに腫れましたね。元に戻るのに1年かかりました。もう感覚がなくて、歩くのもひどかったです。

夜もヘリは飛んでました。でも、救助するっていうようなヘリではなかったですよ。はるか遠く上の方を、ずいぶんひっきりなしに飛んでました。サーチライトとかも当ててました。ずいぶん手も振ったんですけどね。手を振ったり、携帯の電気付けて振ったりしたんですけど、結局誰も気付いてくれませんでしたね。

## 翌日救助された

救助されたのが、次の日の夕方4時ぐらいです。自衛隊のボートで救助されました。25時間ぐらいいましたね。屋根の上に体育座りして、このまんまですよ。動けないんです。1回お互いに寄ろうと思ったんだけど、滑って落ちそうになったんです。もうそれからは、動けなくてね。妻と2人でくっついてれば暖かいんでしょうけど、2人は3メートルぐらい離れてるんです。そこから動けなくなりました。

次の日の朝7時・8時頃になったら、いくらか水が引いて、県道10号線が見えてきたんです。7時頃には歩いてる人がいたんです。家の様子を見に行くとか、あとは中学校や小学校に避難した人たちが帰って行くとか、そういう人が私たちに声をかけてくれたんです。消防呼んでくれるからとか、自衛隊に話してやるからとか、みんな言ったんですけど、なかなか来なくて。最初に朝、私たちに声をかけて閑上の様子を見て帰ってきた方が、「まだいたのか」ということで、近くの自衛隊の仮の基地になってた所に行ってくれて、それで自衛隊と役所の人を連れてきてくれて、やっと救助してもらったんです。

その後、自衛隊のジープが迎えに来てくれたんです。当初、足が感覚無し、こんな腫れてたし、俺もちょっと心配だったので、「とにかく、病院かなんか診てもらえるところに連れて行ってくださいませか」と自衛隊の人に言ったんです。だけどその時、やっぱり情報が錯綜しててね、病院がダメ、あとそういう医療関係のところも分からなかった。掴めないんです。だからいろいろすったもんだしてました。なんか無線やいろんな人に聞きに行ったりして、とにかく横になれる避難所、どこでもいいから連れて行ってっていうことで、その時は文化会館がいっぱいだって言われて、増田小学校に連れて行ってもらいました。とにかく、着いてすぐ寝ましたね。

## 感動の対面

家族も、3月12日に閑上から連れてこられて、文化会館に当初連れてこられたけれども、親父たちの行方が分からないっていうことで、市役所に行けば何か情報を得られるかっていうことで行ったんだけど、そしたら私の同級生なんかいっぱいいたらしいんです。私の息子だって分かって呼んでね。「昨日の夜、屋根の上にいるってことで連絡取れたけども、それ以来取れてないけど大丈夫だ。お前の親父ならなんとか生きてる」と言われて、ずいぶん力になったって後から言っていましたね。私たちは、ほんとにラッキーだったんです。

## ボランティアのこと

結構ボランティアとかも、来ましたね。やっぱり力を付けてもらいましたね。今までボランティアっていうものに対して、関心ってあまりなかったですけど、ボランティアっていうのは、ほんとにすごいことだと思いますね。まあ1回きりで来た人は、いっぱいいますよ、それでもいいんです。1回だけでも「みんな頑張ってくれ」って来てくれたのは、ほんと嬉しいことなんです。2年数か月経ってみると、長く来てもらえる人っていうのは少なくなってますし、貴重な人たちですよ。みんな良くしてもらって、ほんとにもう家族みたいな形になってますからね。顔見れば誰々さんって分かるし、「何だ今日調子悪いんじゃないの」っていうのも分かってくるようになりましたしね。だからね、それはうんとありがたいです。

ボランティアの人って、ほんとにやってあげたい、あげたいっていうんじゃないくて、ほんとに力になりたくて来てる人たちなんですよ。

## 神戸の人たちも同じことで悩んできた

私、平成25年4月に神戸に行ってきたんですよ。復興してきた地域の自治会の人たちの話を聞いてきて、同じことなんですよね、あの人たちも。いま私たちが悩んでることも、あの人たちは悩んできたわけですよ。聞くと、やっぱり1年・2年経つと、違うボランティアの人たちがいっぱい来て、やっぱり「はっ」と思うボランティアの方がいて、「あんたたち、何しに来たの」と聞いたことがあるんだって。「いや、ボランティアに来たんですよ」と、なんかこう大きな顔して言ったらしいのね、その人たちが。だから、「あなたね、ボランティアっていうのは、そんな大きな顔してボランティアって言うんじゃないよ」「ボランティアは、誰も知らないうちに来て、誰も知らないうちに物事をやって、誰も知らないうちに帰っていくのがボランティアなんだ」「こんな大きな顔してね、私ボランティアに来てます。なんて言う奴誰もいないよ」って言ったら、さっと帰って行ったんだって。そう自治会長さんが言ってきたから、まさにそうだなと。今、俺たちが思ってることがそうなんだなって思いました。

## 今後のことは

戻りたいっていうよりも、やっぱり閑上の人たちと暮らしたいんですよ。場所はどこでもいいの。今まで閑上で暮らした人たちと、暮らしたいっていう思いなんですよ。

やっぱり一番いいところは、つながりですかね。一番いいと私が思うのは、家の親父82歳で、閑上にいる時は自転車ですね、うろうろ歩いたって何も心配ないですよ。どこに行ったら、どこの人か分かるし、自転車でひっくり返って道路で倒れてたといったって、必ず誰か連絡よこしますよ。分かんない人いないから、ほっとくっていう人もいないんですよ。だから私たち家にいないで、外で仕事しても全然心配ないですよ。だけど、美田園なり愛島なりに行って家を建てた時に、じいちゃん、ばあちゃんが心配で、家に2人で置かれないよね。

年寄りだってねえ、自転車でちょっと行けば、誰々さんの家でお茶飲みできる。それがほんとに閑上のいいところだったのかなって。子どもだってね、あの子どもはどこの子どもっていうのがすぐ分かったし、あそこの孫はどこの孫って言えばすぐ分かったし、閑上だけじゃないでしょうけども、それが強かったですね、閑上は。それを残したいですね。

### 地震の時

地震の時は、家にいて、お昼を食べてゆっくりしてた時に「あー、地震だ」って思ったら、もうガタガタガタガタ家の中が倒れはじめたので、家が潰れると思って外に飛び出して、庭の木にしがみついて、揺れが収まるまで待って家の中に入ったら、倒れた物や棚の食器とかが散乱していたから、何にも考えないでそれを片付けていました。倒れた物をお父さんと上げたりして片付けてるうちに、「こんなに大きな地震だから、津波が来るな」と、30分ぐらい経った頃に思いましたが、家のお父さんは外に出て、後ろの家の瓦が落ちているのや、前のほうのブロックが倒れるのを見てるのよ。それどころじゃないから、「お父さん、逃げるから早く自分の薬や、通帳持って」って言って、寒いからジャンパーと帽子被って。何かあったらこれ持って逃げようって、いつもカバンにお金と通帳を入れて、それは押し入れ開けると、すぐ取り出せるの。他には何にも持たない。それだけ。猫を連れて逃げられなかった事が悔やまれます。

### 津波がきた

閑上保育所のすぐ前が家で、車で逃げたのが閑上小学校の近く。途中歩いてる人や、自転車で行く人などがぞろぞろだったね。その時は、車はすんなり走れました。息子たちの家に行ったの。ここまでは来ないだろうと思って。そしたら嫁は、近所の人に「避難した方がいいよ」って言われたとあって、子ども2人乗せて避難する時に、津波が田んぼを回って来た。泥水が「にょろにょろにょろ」って少し見えて、「あー、水が来た」って言ったら、嫁が「ばあちゃん早く車に乗って」って言うから、すぐに車に飛び乗って、そのまま走ったら、まもなく後ろから「どーん」とトラックが追突した。それでガラスがガチャガチャ割れて、その拍子に田んぼに突っ込んで、逆さに。その時水が「わー」と押し来て、田んぼに「ボン」と逆さに車が入って行った時は、もう終わりだなって思って。運転席から水がじゃんじゃん入って来て、「あー、危ない」って。すぐに後ろの窓が開いたから、ガラスが割れたから、それで助かったの。

その車が、田んぼの真ん中まで流されて行くんだけど、そのうちに何とか脱出したの。2歳の子どもと4か月の孫がいたので、子どもを1人ずつ抱っこして車の屋根に。

私たちは、田んぼにずっと取り残されましたが、近くにも何人かいたの。明るいうちから「助けて、助けて」って、ヘリコプターも飛んでくし、大きなワゴン車の屋根の上まで水があって、2m近くね。屋根に登ったけど滑るのよ。犬はちょろちょろ、4か月の子は赤ん坊だから寝てるけど、2歳の子は泣くのよね、びっくりして。じゃぶじゃぶ濡れて、地獄だったなあ、今考えたら。それでも風邪ひかなかったんだよ。あんなに寒くて凍えて濡れてもね。

次の日の朝、5時に消防の人がボートを漕いできたの。その時、孫2人と嫁をとにかく病院に連れて行ってって言ったの。子どもが濡れてしまったから、それで救急車で市立病院に運んでもらいました。そして「おばあちゃんと犬は後でね、すぐ来るからね」って言われまし

たが、その「すぐ来るから」が、1時間経っても来ない。でも孫たちは行ったから、ほっとしたの。そして今度、ボートが迎えに来た時は、私はもう足が立てなくなってきたの。

消防署に連れて行かれ、低体温になるから着替えてって言われて紙のズボンはいて、あと毛布1枚もらって。それで、そこでどのぐらい休んだかな、15分ぐらい休んだかな。今度、消防の救急車で、増田小学校に連れて行かれたの。何人乗ってたかな、4人ぐらい乗ったかな、犬連れて。小学校に着いて、車止まった時点で。若い男の人が「これ消防署のスリッパだから」って足から取られたのスリッパ。それで、小学校に車から降りて行く時、裸足で私降りて行ったの。あれは、私ずっと忘れられない。

それで、あの寒い時、裸足で増田小学校に車から降りて行った。足の感覚もなかったの。私耐えて行ったら、近所の人たちは来てたの。全然被害受けてないので、ちゃんとした洋服着て。私らはこんな格好して、頭もこんなになっていたの。そして大きいストーブがついていて、「わー、暖かい」って言ったら、女の人が「裸足でかわいそう」「何か探してきてやるからね」って言って、「増田小学校」と書いたスリッパ探してきてくれて、「これ履いて」って言われて、履かしてもらった。その時のことは忘れられない、今でも。

それで、名取川まで流されて行ったんだ。ずっと車の上で「助けて、助けて」って騒いでるでしょ。それなのに消防の車がね、4台も土手にいるの。夜に電気をカーッと付けていて、それで「名取消防署です。必ず助けに行きますから頑張ってください」って騒ぐだけなの。「ガードレールがあるために、ボート行けないから、前から回ってきますから」、そういうことばかり言って朝5時になってしまったの結局。ようやく水が引いてきてから迎えに来たの。消防署だって、自分たちも危ないから来ないの。

男の人ね、穴の開いたボート漕いで田んぼの真ん中にいた時、励ましに来てくれたんだよ、その人。その人が今度ボートから歩いて自分も濡れて歩いてきて、車に乗って来たの、屋根に。そしてうちの嫁の肩を、背中こうさすってやったりして、5時ぐらいまでいてくれたのその人。その人の所にお礼に行けないでいるの。だから行かなくちゃって思ってるの。自分が着てきたジャンパー脱いで嫁に掛けてくれて、「がんばれー、がんばれな」って励ましてくれたのその人。私は、こういうこと忘れられない。

### 増田小学校では

朝になって、卵より1回りぐらい大きい、何にも味のないおにぎりをもらって食べたの。親切は忘れられない。スリッパを持ってきてくれた人も缶コーヒーの人も。お昼になって、おにぎりを配達されて食べた。

娘と孫があちこち探して歩いたのね。それで増田小学校に2人で来て、顔を見て「わー」って、ほっとして。でも「お父さんどこにもいない」って言うんだよ。「じゃあ、お父さんは、明日探そう」って。そしたら、お父さんは、娘の家の玄関に泥だらけで座ってたの。近所の人に途中で車に乗せてもらって行ったらしいの。

お父さんは、自分の車の所に居たの。窓から、顔出して「助けてー」って言って、男の人が2人来て助けてもらって、名取北高校まで連れて行ってもらったの。それは後になって分かりました。お父さんの方は、早く助けてもらったみたい。お父さんはダメだと思ったね。玄

関に座って「うわー」ってみんなびっくりして。娘の家では3か月生活しました。

### **仮設住宅へ**

仮設住宅には、6月2日に移りました。仮設に来たら、びっくりしたよ。みんな隣組の人がいたの、あそこ全部、昔の隣組がいたの。びっくりしたね、あれには。会長がそのように固めてくれたの。どういう人と一緒になるかなって、心配して入ったんだけど、全部顔見知りの人と一緒にあったの隣近所。だからほっとしたよ。あれは、助かりました。

### **自分も具合が**

不安定なの。ダブルだったんだ私ね。津波でやられて、今度お父さんも病気で亡くなって。何が何だか訳が分からなくなって、7月に病院に初めてかかったの。そして血圧の薬と安定剤は、お父さん亡くなってから飲むようになったの。眠れなくて。お父さんが亡くなってからは、しばらく家に閉じこもってたでしょ。ここに出てくるようになったのはいつからなんだろう。ここの集会所の行事には参加するようにしています。

### **今後のこと**

これからのことを考えると、頭が痛い。はあー大変。この頃毎日それを考えてるね。だから夕ご飯食べると、友達と7時頃散歩するの。「ああ、いいなー」って。「ここ誰さんの家だよ、ここは誰さんの家だよ」って。閉上の人が結構家を建ててるの。そういうの見て毎日歩きます。やっぱり今は、今後のことが一番心配だね。



### 地震の時

3月11日は、自宅におりました。私はその時ちょうど2階に上がろうとしていて、踊り場まで上がった時に地震が来て、柱にしがみついても立ってられないくらいの激しい横揺れと縦揺れが続きました。訓練しているので普通だったら机の下に隠れるとかベッドの下に隠れるってことをとっさにやらなきゃならないはずなのに、すごく揺れが大きかったので気が動転して、そういう行動はとっさにはできませんでした。

揺れが収まったので2階から降りて、最初に母の様子を見に行ったら、ベッドの上で横になっていたんです。それで「大丈夫か」って声をかけたら「大丈夫」って言うんで、それで今度は姉の部屋に行ったら姉もこたつにしがみついている、怪我が無いことが確認できました。そんなことをしているうちに妻が戻ってきたので、無事をお互い確認して、「強い地震だね、津波が来るかもしれないから閑上公民館に避難して」という指示をして、妻は母と姉を車に乗せて、出発しようとしたら隣の方が、私も避難するのでこの車に乗せて下さいと言われて、その女性も乗せて避難をしました。

それで私は、町内会長という立場もあったので、自宅で防災ラジオっていうんですか、行政から配置されていた、それで情報を得ようと思ったのですが、スイッチを入れても何にも反応なかったというのを覚えています。接続はコンセントです。テレビも停電で使えないし、どれくらいの規模の地震だったのか、津波が来るのか全く情報が得られない状態で、それに防災無線も全く鳴りませんでした。そういう状況でした。情報がないまま外に出てみたら、もうアスファルトも剥がされて、地面から水が噴き出ている状態が見えたんですね。液状化がはっきり分かりました。さらにブロック塀が倒れてるとか、そういう状態でした。

たまたま副会長と会ったんですけども、副会長から「会長、カーラジオで3mの津波がくるって報道があった」と聞いて、じゃあ避難指示はないけども、とにかく避難させようということで、お互いに身の危険を感じたら逃げろよと話して、さらに顔見知りの人間で手伝うっていう人が何人かいたんで、その人達に「避難しながら、周りにも避難しろという指示をしてくれ」と頼んで、30分くらいですかね、そういう避難指示を数人でやりました。その中の1人がそろそろ避難しようってことで、その人が車を出すっていうものでその車で避難するんですが、避難指示をこちらが出してるのに、地域の人達の反応は「いや津波来ないんでないの」といった声が結構あったんですね。「いや、来ないんじゃないかって、来るかもしれないし、来なかったらそれでいいじゃない」って、そんな会話をしたことを覚えています。閑上には津波来ないんだって先人からそういう話を聞かされてましたから、だけでも今回は3mっていう数字も分かったし、そのあと我々が避難しようとする頃には6mっていう情報もラジオから入ってきたってことも聞かされてたんで、これは避難しなきゃっていう状況でした。消防自動車が、火葬場のほうから来て、もう早口に「逃げろ、逃げろ」ってことを繰り返してましたが、いつもだとそこで1回止まって、世間話や挨拶くらいするんだけど、その日に限ってはそんなことはなくて、とにかく危機感いっぱいの命令口調だったことが印象に残ってます。

## 閑上の津波の碑

津波の碑に関してはここにあるよってというのは、防災訓練とか総会とかでは時々お話は出ました。日和山神社の階段の向かい側のちょっと窪んだところの左側にあったんです。それが今回の津波で倒されて、それで裏側の方に転がってたそうです。誰が今の場所に持ってたのかは分からないですけど、もともとあった場所はあるところではなかった。今は東屋が建ちましたが、あそこの入り口の所です。そこに津波がいつ来て、どの高さで来たかってのが書いてあるんですけど、その話はしてました。あれは昭和三陸津波ですから、昭和33年くらいですかね。

今回の津波が来ないという考えの1つの前提として、チリ地震津波がありました。あの時、5mの津波が来るぞという発表があって、避難指示も出た。それで公民館と小・中学校に避難した人の数が450人って聞きましたので、まあそれなりの人が避難したんですけど、実際に来た津波が50cmだった訳です。そういうこともあって、3m、6mって言われても、この前はこうだったと、それで真に受けなかったって人がいっぱいいたのかなって気もしますね。

## チリ地震（昭和35年）の話

以前（昭和35年チリ地震）も津波来てるんですけども、その時は船が一艘難破してるんですね。その船に乗ってる方のうち2人亡くなってる。その船に乗ってた人で現在も生きてる人がいて、その体験談も防災訓練の中で発表してもらってるんです。生き残りの証人だっているんで。それが市役所でもそんな人がいたんだってびっくりされたんですけど。それは津波の来る3〜4年前ですね。それでも実際に津波が来る意識はなかったですね。

## 公民館に避難

3月11日は公民館に避難しました。それで行ってすぐ確認したのは母と姉の存在なんですけど、その時は研修室が1階にあって、そこに50〜60人くらいいたんじゃないですかね。その後グラウンドの方に目をやったら、公民館長を先頭にして町内会の役員だとか消防団の人達だとか、あとは区長さん達とかね。そういう方々が公民館に来た人たちを閑上中学校の方に二次避難させてるところだったんです。公民館にそんなに人が入れないという判断なのかなあと思いつつその理由も聞かないで私もその行動に参加しました。そうしているうちに閑上の消防団長が「逃げろ」って大声で叫んだんです。私が声の方を振り返った時に津波を見た訳ですが、その時に見た津波っていうのが、どす黒い帯状の水蒸気がこっちに向かって来てたんです。高さは2階建てを2つ足したくらいに見えました。だから9mの津波が来たってのは納得できる。公民館に逃げ込もうとした時に女の人が車から降ろされて、その人が歩けないってことが分かったから、玄関に立て掛けてあった立て看板を担架代わりにして、その女性を板に乗っけて、2階に5〜6人で担架を持って上がったんですけど、2階に到着する前に「じわじわー」って感じで水が入ってきました。自分たちは靴も濡れないうちに2階に上がったんですけど、消防団長が一番最後に建物に入ったために、腰から下はずぶ濡れでした。2階で見た光景というのは、南側の窓越しに建物が流れていくだとか、船が流れていくというのが目に飛び込んできたんです。それで、これ以上水が増えてきたらとか、あと余震も大きいものが

何度も来てたんで、建物が壊れたときはみんな一緒だからみたいな開き直りの心境になりましたね。そのとき40～45名の方がいて、すぐに避難者の名簿作りをやってました。名前と住所と性別と年齢、その4つをチョークで段ボールに書いてもらって、それを集計してカレンダーの裏側にマジックで書いて、それがどんどん増えていく。できあがった段階でホワイトボードに一目で分かるように書き写して、次の日それをもう一回清書して、中学校と小学校に、公民館にはこの人たちが避難をして生存してますっていう情報を提供しました。それから公民館の廊下や床にあった水を、全員で掻き出す作業をやったりしてました。ペットを連れてくる家族が何組かいたんで、その人達を一般の避難者と分けて、ペットの人達は上のホールのステージがちょっと高くなってるんで、そこに場所を決めました。働く婦人の家っていうのが公民館の隣にあって、渡り廊下でつながってるんですけども、そこに女性と年寄りの方は入ってもらいました。それから世話人の男性は、公民館の大広間に待機と。そういう仕分けをしました。夜の食事がないんで公民館長に聞いたら、今日卒業祝いを幼稚園と中学生がやっていて、その残飯があるという話を聞いて、じゃあそれを持ってきてくださいって言って。

## 妻がいない

妻を探したんですけども、見当たらなかったんです。それっきりなんですよ。あとで聞くと、妻の運転していた車の中に2人の女性の遺体が見つかったということで、どうも自分がお世話している生活保護者の方々を自分の車に乗せて避難を手伝ってみたいですね。それが5月の27日ですかね。貞山堀から車が引き上げられた時に遺体が2つあったので、そういうことをしてたんだなあと思いました。

## 中学生の活躍

たまたま卒業のお祝いをして、グラウンドで遊んでた中学生が5～6人公民館に避難してたんですが、私が指示した訳ではないんですけど、自分たちでスコップみたいなものを持ってきて、それで水かきを手伝ってくれて、本当に頼もしく思いました。そういうことがあって、本当に災害の時の中学生は頼りになるなあと感じました。

それが今後の災害対策の1つとして中学生の参加というのを考えるきっかけになりました。中学生に消防署の役割みたいなのを体験して欲しいなと思まして、中学生にはすごい力があると思うので、要介護の人達の運搬などの力になってもらえないかなということが浮かんだんですね。できれば年間何回かでいいので消防署に勉強に行ってもらって、緊急の時は自分たちの町を守るんだよってことを啓蒙されれば、環境づくりにもなるんじゃないか。これからの防災にも提案していきたいと考えています。小・中学校の委員会の中でもその話はしてるんですけども、まあそういうことが本当になったら、いじめなんかなくなると思ってます。新町町内会でも中学生にリアカーを引っ張らせて要介護者の運搬訓練をやってるのを知ってたから。そんなこともあって、やっぱり中学生ってのは本当に頼りになる人材だなんて思いました。

## 奥さんの実家へそして家族を探す

次の日の朝に人に送ってもらって、妻の実家に行って、そこで家族からの連絡を待っていたんですが、待てど暮らせど連絡が来ませんでした。兄貴の車で1回自宅を見に行ったら、もう建物も何も跡形も無くなってました。

それから4~5日した後に増田体育館（最初の遺体安置所）の隣の保育所で、身元不明者の受付が始まっていたんです。とりあえず届出しとこうかなと思って行きました。そしたらもう400人くらいの方が届出ていました。そこで係の方に質問されるのですが、答えられないことがいっぱいあるんですよね。警察官が聞いてくる一つ一つが全く分からないんですよね。特徴とか服装であったり、全く答えられませんでした。だから常日頃から子どもや家族の特徴は掴んでおくことが大切だと感じました。もちろん「ほくろ」とかが分かる場所にあれば一番いいんですけど、もしくは下着なんかに名前を書いておくのが一番いいのかなって。上着なんかは津波で剥がされてしまうみたいですけど、下着くらいはなんとか残ってるんですね。実際に下着で身元が判明した人もいました。

ご遺体は損傷してる人がいっぱいいるんですよ。でも名取の場合は、ご遺体を大切に扱ってもらいました。仙台市だと数も多いからだけど、見るに堪えない状態のご遺体がいっぱいありました。しかし名取では全部洗っていただいて、きれいにしてもらって、なおかつ死化粧までしてもらってました。だから見た瞬間に笑ってるような顔っていうのがいっぱいありました。うちの息子なんかも見ると笑顔のような感じもしました。

息子はどこで車を降りたのかっていうのも分からないし、車はまだ見つかってないんです。多分火災にあったんじゃないかなって感じがします。ビックデータ（注：NHKで放送された）で、こっから来たのが息子じゃないのって、あの線だね。息子は大曲の南側の田んぼの中まで流されてました。息子の会社の社長が遺体安置所で見つけてくれたんですけどね。電話もらって私が確認に行って、息子に間違いはないっていうことで。見つかったのは母が1日早いんですけど、母だって私が認定するのに1週間くらいかかっているんですね。最終的には歯形の照合をしてもらって、お母さんですねって言われて、「うん」っていうことがあるんで。母が3月19日で、息子が20日、妻が27日、姉が30日ですかね。見つかったのは、他の方に比べると早い方でしょうね。

いつまでも火葬しない訳にもいかないんで、息子とおふくろは山形県上山市で、妻と姉は東京で荼毘にふされているんですけど、遺体の損傷が激しかったので、妻は自分の目で発見してあげられませんでした。身元不明者は、名取市で引き取り、4月1日に東京で火葬にするよって告知があったんですが、火葬するまで自分の妻だっということが分かりませんでした。遺骨の隣に遺留品が置いてあって、最初に行った時に遺留品がヘドロで色も何も判別できないような状態だったんですが、それから3~4日経った後に、遺体安置所に行った時に、なんか気になったんですよね。その遺骨のところにまた行ってみたんです。そしたら遺留品が全部きれいに洗濯されて、鮮やかになって、決め手がマフラーだったんですけど、「これ、奥さんのだ」って言われたんですよ。その遺骨の前で、「え」って私が言って、「誰からもらったの」っていうことになって。それから思い当たるところに電話をしたら、「私があげました」って人が判明したんです。姉は私が確認したんですけど。結果的に5月の25日ですかね。4人が

全部揃ったのは。

### 遺体が見つかった後は

最初は何もする気力がなかったし、新聞を見れば涙、テレビを観れば涙、そんな毎日を送ってました。でもたまたま避難所に行った時に、みんなが妻からいろいろとしてもらって感謝していることを聞き、自分もいつまでも鬱ではいられないと思いました。そうしてるうちに仮設住宅の説明を開催すると発表されて、自分もいつまでも妻の実家にいる訳にもいかないと考えてたんで、説明会へ行ったんですけど、そこに行った時に「あれ会長じゃないの」って言われて、振り向いたら日和山町内会の隣組の方でした。そこで聞いた言葉が「会長さんは亡くなったんだか、生きてんだかみんな心配してるよ」「顔出してもらえませんか」と言われて、それで次の日から自転車で全ての避難所を訪問しました。そこで生きてる方々というか、助かった方々と再会する訳です。そういうことをやってる中で聞こえてきたのが「流された家の跡地はなくなるだろうか」とか「我々はバラバラにされるのか」とか、いろんな思いが聞こえてきて、「知らない人と一緒になるのは嫌だ」って声がいっぱい聞こえたので、なんか知らないけどこいつは阻止しなくてはならないっていう気になったんだね。行政側にそれを言うと、行政側はまともに返事しない訳です。それでも粘り強く、避難所に応援に来て、応援部隊にその要請をしました。あの人達は必ず毎日報告書みたいな書くんだらうから、こういう要望があったってことは少しは上に届くかなって。そういうことを考えながらやりました。何時間か残業すればできることを、抽選だっかってこよく言ってるけど、そんなもの仕事の放棄以外の何ものでもないよって。なんかそんな乱暴な言葉言っていましたよね。市長にも同じことを言ってるんです。それがここに引っ越してみたら、こっちが要求してた通りになってたので、逆にびっくりしてしまった。

### 仮設住宅の自治会長に

ここは5丁目・6丁目の人が、90%以上ですね。あとはよそから来てる人が10世帯くらいいます。自治会を作りなさいという市役所からの指導があったみたいなんですけど、トップになる人がいなかったみたいです。それで日和山の会長が来るんだったらみんなで協力するので自治会長になってもらえないかということで、それで7年半ばかりまでに自治会を立ち上げました。

この人達とは総会の席上で、私は「みんな家族だよ」っていうあいさつをしてるんで、みんななんとなく、温かい雰囲気の人達のいるところだなあって思ったのか、その後もお互いに認め合って、いろんな行事に参加してもらったりして生活してるんで、いいのかなあって思ってます。

### 仮設で心がけていること

心がけてるのは、ここにいる方々は65歳以上の方が4割もいますので、そういう高齢者の方々の健康であったり、またはあれだけの悲惨な体験をしてるんで、そういうものが少しでも早く忘れろとは言えないんですけども、元気になって欲しいということがずっとあって、

そういうものを低減するために何ができるのかなっていうことを考えながらやってきたつもりです。

最初の頃は、ここでお茶会などで集まると、本当に3月11日のつらい思い出しかなくて、無表情の人が多かったですね。そういう人たちを笑顔にするのには何をすればいいのかなってことで始まったのがイベントを多く取り入れようということでした。おかげさまでいろいろなイベントの方々が来てくれて、その方々とお話をし合ううちに、元気になってきたなあってというのがここ最近感じることです。

表のホワイトボードの日程表は、お金をかけないで情報交換ができることはないかって考えた時に思いついて、ホワイトボードっていうのは回覧板な訳で、引きこもりを引っ張り出そうということ。それからちょっと工夫もあったんですけど、例えば「あの歌姫来る」とだけ書いて、「誰が来るの」と思わせる。そういう期待感を持たせて発表2日くらい前まで伏せとくわけです。それが結構話題になって、いろんな会話が弾む。

### **自治会長として**

私は、みんなここから、閑上の方々が独立するまで、残っていようかなというのは考えてます。ちょっと生意気かもしれないけど、私がいなくても誰かやると思うけども、ここまで来たんだから、みんなと一緒に最後まで。閑上に帰って、そこで町内会でも作ればいいのかあって思ってるんです。そこでまたね、仮設でやってきたような賑やかな町内会を作って、楽しく生きられる、そんな町ができたらいいいのかなと思ってます。

### **閑上の良いところ**

自分は生まれも育ちも閑上ですけど、よそに無いものってあるような気がするんです。海が見えて、四季折々の山が見えるんですよ。蔵王連峰であったり、泉ヶ岳であったり、名だたる県内の山と海が見える場所っていうのはそうざらに無いと思うんです。あとは潮風の匂いですかね。そういう非常に自然に恵まれてる所で、貞山運河なんかもあって、歴史もあります。

今回こんなことがあったからですけども、伊達政宗公の閑上に関係した演劇を、小学校の子どもたちにやらせたらどうかなと思ってるんです。それを閑上の1つの歴史として、そういうものがあつたらいいかなって思ったりね。そういうものを今提案していこうかなと思っています。

### 地震の時

私は仙台出身で、増田の人に嫁いで、その後閑上に家を立てて。主人は27年前に亡くなりました。主人は学校の先生でした。閑上小学校でも教えてました。

地震の時は自宅にいました。冷蔵庫や戸棚が全部倒れて、階段は書類やなんかで上れないような状態でした。外に出たら向かいの家が地割れしていたので、「ああ困ったなー」と思っていたら、向かいの奥さんが、ちょうど自動車に乗ってて、ラジオを聞いてたらしくて、「すごい地震だから逃げないとだめだ」って言いに来てくれて。それでも前回（1年前のチリ地震）は戻るのが大変だったんで、ちょっと躊躇してたんですけど、思い切って避難場所の閑上公民館に逃げましたが、遅れて入ったから、なかなか中に入れませんでした。そしたら、女の方が出てきて、「ここも危ないから、閑上中学校に逃げろ」って。それで私は自分の車で閑上中学校に行きました。2階に上がって、もたもたしてたら、津波が来ました。階段も車いすなどですごく混雑してて、なかなか上れなかったんですけど、上って下を見たら、海になってました。だから、津波が来た時は階段を上る途中で、直接津波は見ませんでした。

### 中学校から避難所へ

中学校の2階や3階の教室へみんな入って、そこに近所の人もいたけど、寒かったね。娘が名取北高校でお世話になってるっていうので、私も名取北高校に移りました。風邪をひいて咳が出てたもんだから、あんまり小さい部屋には行けないんで、体育館にいました。それから増田中学校の体育館に移りました。ご飯は出ました。年齢も上だから、「お年寄りの方からどうぞ」なんて真っ先にね。慣れてきた頃、班ごとに当番作って、学校の給食室で食事を作っていました。教頭先生がすごくいい方でよくしてくれました。おにぎり出てなかったねえあんまり。あとはカレーライスやなんかがありました。炊き出しも来ました。体育館はダンボールとかの仕切りはなかったです。支援物資は置き場所があって置いていってくれたりしました。洗濯機は体育館のすぐそばにあり、乾燥機もありました。

### 仮設住宅へ

仮設住宅に来たのは6月で、娘も一緒に入りました。息子は東京に勤めてますが、時々仮設に来ます。あそこに大人3人寝ると大変なんだ。

集会所ではお茶飲み会などの催しには、真面目に来てました。あと、電気（ヘルストロン）かけるの。朝に電気を必ず30分ぐらいかけるのが習慣になっていて、ほとんど毎日通ってます。やっぱり一人で縫い物ばかりやっても気分がねえ。閑上にいるときは仕事してたので、常に働いてたから近所のお付き合いはなかったね。集まった時、誰も知らなかったね。最初は少しためらいましたが、打ち解けるとやっぱり楽しいんだね。みなさんと話すのが楽しい。パッチワークとか大好きですね。

足と腰が痛いので、買い物とかは娘が休みの時に乗せてもらって行ってます。

### 今後のこと

震災復興住宅は申し込んでいます。でも子どもたちも年なもんだから、一緒に住むかどうかはまだ分かりません。市役所から電話があつて、「申し込みが殺到してて、当たる可能性もちょっと低いんですよ。どうしますか？」なんて言われて。「年金生活でお金も借りられないし、外れたら外れた時点で考えます」と答えたんです。その市役所からの電話でもかなり遅くなるみたいなこと言ってましたね。

### 閑上の良いところ

野菜は売りに来るし、夏は涼しくてね。そして息子が魚釣り好きだから、将来住みたかった（息子さんが）んだけど……。こうなっちゃうんだからねえ。



## 地震の時

年齢は66歳です。震災前に住んでいた場所は閑上2丁目、家のすぐ前を貞山運河が流れていました。

地震の発生時は散歩中で、自宅から30分ほど離れた仙台東部道路の真下にいました。大きな地鳴りがして、それから揺れ始めました。ものすごい揺れでとっさに田んぼのあぜ道側に逃げて、蛙のように四つん這いになっていました。やっと揺れが収まり、とにかく急いで家に戻る途中、仙台市の上空あたりのヘリコプターから津波警報の情報が聞こえてきました。町頭公園まで来ると、たくさんの人が集まっており、そこで知り合いの人からラジオで6mの津波警報が出ていると聞かされ、「早く避難を」と思いました。

そこから避難所に指定された閑上中学校まで、まわりの人たちと一緒に急ぎました。閑上中学校の近くの親戚宅に立ち寄り、避難の呼びかけをしてから、私は中学校には行かず、自宅に向かって走りました。自宅にいるはずの主人は普段から「閑上には津波は来ない」と言っていたので、避難はしていないと思ったからです。

我が家の近くに来て、ブロック塀の外から声をかけると、主人は庭に出ており、津波の情報を伝えても反応はいまひとつでした。時間がないと思い、車で閑上中学校へ避難しようと、主人にエンジンをかけてくるように頼み、私は非常持ち出しリュックや携帯等を取りに家の中に戻りました。主人はカーナビで10mの大津波警報を伝えたのを見て、瞬時に避難のスイッチが入ったそうです。急ぎ身支度をして、隣や前の人に声がけをし、1人を同乗させ、更に足の不自由な1人暮らしのお年寄り宅へ立ち寄り、4人で中学校へ行きました。

途中出会った人たちにも、車を止めて避難の呼びかけをしました。主人は足の不自由な方を連れて中学校の3階に上った時に、私は車を校庭に止め、2階に着いた時に、津波が町をおそいました。目の前に閑上の町が一瞬にしてのみこまれる様子が見えて、余りの出来事に声も出ませんでした。まもなく雪が降ってきて、中学校は寒く、夜になっても強い余震が続き、更にあちこちで火事が起きており、恐怖の中で一夜を過ごしました。

## 翌日は

朝になり、たくさんの人が家族や親類を探しに、ずぶ濡れになりながら来ました。なかなか水が引かず、やっと午後2時過ぎに中学校を出て、徒歩で30分程度移動して、迎いのバスで閑上を離れました。その後、館腰小学校の体育館に着いて、おにぎりやパンが配布されました。それまでは飲まず食わずでした。

## アパートを借りる

体育館内は寒かったので、主人と私は体育館を出て、歩いて1時間位の親戚の家に向かい、2週間お世話になり、その後アパートを借りました。すべて失ってしまったので、義兄から車を借りたり、また遠くの親戚、友人、知人の大勢の方から食料品、日用品、衣類などのプレ

ゼントが届けられ、本当に感謝に涙する毎日でした。

私は地区の民生委員をしていました。親しく関わってきた住民の方が100人余り震災で犠牲になり本当に悲しく、くやしい思いでいっぱいです。町内会では毎年防災訓練など災害への準備は怠らなかつたのですが、津波に対しての備えは想定外でした。毎日のように住民の方たちとのお別れがあり、それは6月まで続きました。

### **現在は**

現在は仮設住宅を定期的に訪問し、話を聞いたり、相談に乗ったりしながら、みなさんと寄り添っていければと考えています。また、全国の民生委員さんが被災地の視察に来てくださった時は、他の委員さんたちと一緒に、閑上の現状や震災当時の自分たちの思いや行動、そして現在に至るまでの活動などをお話しています。すべての物を失い、親しかった人たちとの突然の別れから、少しずつではありますが前を向いて歩いていかなければという気持ちになっています。

### **閑上の良いところ**

閑上に暮らして40年が過ぎますが、始めの頃は海辺の元気な人たちに圧倒されてなじめない時期もありましたが、今はすっかりなりきっています。気候も暖かく、魚も野菜も新鮮でおいしかったです。友達も知り合いもたくさんできて、楽しかった日々が一瞬にして失われてしまったことが、いまだに信じられません。

### **今後は**

現在は、増田地区のアパートで生活していますが、いずれささやかながら我が家を持ちたいと主人と話し合っています。閑上に帰るつもりでいましたが、町の復興がなかなか進んでいない状況なので、自分たちの年齢を考え、別の場所も今は視野に入れていきます。生かしてもらった今を大事にし、自分に出来ることを頑張っていきたいです。多くの人からの励ましと支援に感謝し、小さな我が家の完成を、みんなに報告できる日が早く来ることを楽しみに、主人と共々健康に注意しています。

## 地震の時

地震の時は自宅にいました。三女が「この地震は、今までと全然違うから、すぐ逃げなきゃだめだよ」と言ったので、犬を車に乗せて、慌てて娘と戸締りをして、非常用のリュックだけを持って急いで家を出ました。次女は「子どもたちがまだ小学校にいるかもしれない」と言って、家族で閑上小学校へ行きました。地震後は携帯も通じなくなり、誰とも連絡が取れなくなりました。その後、私たち家族は、避難所の閑上中学校へ行きました。犬は教室に入れることができないだろうと思ったので、つなぐところがあればと思い、うろうろしていた時、避難して来た人たちが、「6mの津波が来てる」って言うのを聞いて、「じゃあここにいたら車がダメになってしまう」と思い、車ですぐ増田方面に向かって、逃げました。ところが出た当時はスムーズに走りましたが、閑上小学校を越えたあたりから渋滞し始めて、7kmの道のりが3時間ぐらいかかったような気がしました。そんな時長女から「仙台から歩いて帰って来て、今名取駅に着いたけど、どうしようかな」というメールが入り、「近くにいるから駐車場で待ってて」と返信をして会えました。

私たちは増田公民館に行き、「閑上の者ですがいいですか。」と聞くと、「いいですよ」と言われ、そこで何日間か泊めていただきました。2週間ぐらいかしらね。増田公民館は和室もありましたが、そこは小さい子どもさんがいる方や、お年寄りの方が休んでいるので、「他の部屋で」と言われ、パイプ椅子で4日間ぐら寝ました。ストーブがあっただけでもよしとしないといけません。その後、避難していた方々が自宅へ戻られてからは、家族8人でお世話になりました。地震で公民館にも被害が出ていて、余震があるたび外へ出ました。そんなこともあり、「ここは避難所としては適していないので、どちらかを探してください」と言われ、市役所に相談し、「増田小学校の体育館が空いています」とのことで移りました。ここに来るまでですから5月20日まで増田小学校の体育館に避難していました。

## 仮設住宅に移る

増田小学校の体育館では、家族8人で。そしてここにも一緒に来ました。部屋は向かい合いで、別々の世帯で暮らしています。

閑上は、冬は暖かいし夏は涼しく、扇風機もたまにしか使いませんでした。うちは貞山堀沿いだったので、そういう点ではとっても恵まれていました。ここに来て、閑上の良さが分かりました。今まで当たり前のように過ごしてきましたけど、やっぱり違うなあって、この頃は感じています。ただし生活する上ではこの場所はすごく便利です。

## 仮設での暮らし

箱塚屋敷仮設住宅は5月の21日からです。ここには、閑上2丁目・3丁目あと7丁目・1丁目・小塚原・増田の方もいます。主人がソフトボールでこのグラウンドに何度か来て試合をした場所でもありましたので、ここに決めました。

避難所からここに移った当初は、「よかった」と思っていました。けれども段々、「もう少しこうしてもらえるとよかったなあ」という面は出てきました。建物がプレハブの材料ですから、寒くなると結露がすごくて、毎日モップで拭かないとだめなんです。天井等がそうです。湿気でカビが出たり、それが一番の悩みです。

### 集会所での活動

集会所は最初の頃、物はあまりありませんでしたが、いろいろ皆さんに支えてもらい、とても感謝しています。本当に辛い思いをしてここに来ましたが、それと同等に皆さんから優しくして頂き、少しずつ元気を取り戻すことができました。ボランティアの皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。

仮設の住民の皆さんが部屋から一步出て集会所に来て楽しんでもらい、元気になって次のステップを踏めればと思っています。その都度声がけをしています。どうしても「いや、いいよ、行きたくない」と、こちらに気が向かない方もいますが、時間が経てば来るようになるのかなって思っています。集会所では毎週カラオケをやっていますが、歌の好きな人達がサークルで楽しんでいます。

集会所の中も雰囲気が変わるように椅子とテーブルを置きました。結果は良かったようです。困ったことがあっても社会福祉協議会の人たちがいてくれますので、私たちは心強く思っています。

### 今後のこと

家を建てる力もないので、災害公営の集合住宅を希望しています。集合住宅に入り、先のことをゆっくり考えたいと思います。場所は、仙台東部道路の西側を希望しています。何年後にここを出るようになるかは分かりませんが、だんだん年を取って、今度はどうなるか分からないと思うとやっぱり安全な場所を望みます。

### 閑上の良いところ

そうですね、夏は涼しく冬は暖かく、やっぱり魚や野菜等、新鮮なものを食べられたことです。母が行商をしていたこともあって、私も魚を買うことができたので、何年間か市場へ魚を買いに行っていました。魚市場では漁師さんが獲ってきたものをすぐ買えましたので、本当に良かったなあと思っています。閑上は漁師の町なので、中には言葉が悪い人もいますが、気持ちは皆温かい人ばかりです。

## 地震の時

地震の時は家にいました。車にスキーの積み込みをされていて家の外にいました。そこに地震がきたわけです。かなり揺れましたね。3分って報道されてますけど、私には5分以上に感じられました。「まあ、そのうち止むんだろうな」って思ってたんですが、だんだん強くなってきましたし、動けないなって思ったものですから、そのまま車にいたんです。途中でちょっと弱まったんですね、地震が、その時に急いで家の玄関まで行きまして、そしたら家内と娘が家から出てきて、玄関の庇の所に立ってたんですよ。外に出ると、瓦が落ちてくる恐れがあったものですから、そこで地震が収まるのを待っていたわけです。そしたら瓦が2~3枚落ちてきまして、やっぱり動けないなって思いました。

地震が収まった後、孫たちが心配になりまして、孫たちのところに携帯で連絡したんです。そしたらつながらなかつたんですけど、公衆電話だとながらっていうことを聞いてたんで、それで緑色の公衆電話から電話しようと思いましたが、家内が携帯のラジオを聞いてて、「お父さん、津波警報出たよ、逃げよう」って言うんですけど、私は孫が心配なものですから、とにかく公衆電話まで走ったんですよ。家から300mぐらい離れてますかね、海の方に向かってね。そうしましたら、貞山堀の橋のあたりで、けっこう避難してくる方がいるわけですよ。おそらく閑上公民館か閑上中学校に避難しようとしてたんですね。私が海の方に向かって逆行動を取ってるものですから、誰か分かりませんでしたけど、私のことを知ってる人がいたんでしょうね、「何だ、津波を見に行くのか」なんて冷やかされて、それでもやっぱり心配だったものですから、電話をかけにいて、公衆電話で2軒にかけたんですよ、息子たち2軒にね。でもやっぱりつながらなかつたんです。それで今度また大急ぎで家に戻りまして、そしたら家内が「今6mの津波ってラジオで言ってるよ、逃げよう」っていうことだったんです。でもね、6mという高さの感覚がないっていうんでしょうか、認識がないっていうんですかね。それで、恐怖を感じなかつたんですよ。

そのうちに家の周りから、水が噴き出してきたんです。最初は「水道管でも壊れたのかな」って思ったんですよ。細く「ちゅー」と湧き上がるものですから、それが至るところから出てきたもので、「これは水道管じゃない、これが液状化っていうやつか」って思ったんです。それで、隣近所をちょっと見回しましたら、いろんなところから出てきてました。そのうち家内が「逃げよう、逃げよう」って騒ぐものですから、「じゃあ逃げよう、避難しよう」ということになりまして、家の中を見たら、家具が少し倒れてますけど、大したことないなと思います、家にまた戻るつもりでいたので、玄関に鍵をかけて閑上公民館に避難したわけです。

前からそういう時には、車を使わないほうがいいっていうことを、読むか聞くかしてたんですね。車は、私の車と娘の車と2台あったんですけど、娘の車が地震で動いて道路の方へずれてたんですよ。誰かが通ると交通の邪魔になると思ったものですから、それを車庫に入れ直して、それから公民館の方に逃げました。

公民館のグラウンドに行ったんですけど、建物の中には入らなかつたんです。外のグラウンドにいたら、顔見知りの方もいますので、「まあ、ここにいても、家にいても同じだなあ」

なんて話をしてたんです。閑上は平らな所ですからね、公民館も平らなところに立ってますので、さらにグラウンドにいたものですから、ここにいても家にいても同じだなあなんて話をしていたら、そのうちに「今警報が変わったよ、6mの津波から10mに、津波の高さが変更になったよ」っていうことを聞いたんですよ。誰が言ったかは、確認してないんですけど。それで恐怖感っていいですかね、その時に初めて10mっていう数字を聞いて、「これはなんか大変なことが起きるんじゃないか」っていうのが、急に浮かんできたんですよ。そこから娘と家内に「ばらばらになるなよ、絶対離れるなよ」って言って、すぐ閑上中学校に避難し直したわけです。

徒歩で公民館に行ってますので、そのまま徒歩で行きました。行く途中はもう道路は少し渋滞してたんですよ。車は渋滞してたんですけど、歩道を歩いて行きましたし、私らは比較的足も元気だったものですから、そのまますんなりで行けたんです、中学校に。

### 中学校に避難

津波の高さを6mって聞いて、公民館にいた時は、外のグラウンドにいましたが、10mって聞いて、中学校に着いたら、素直に上に上がったんですよ。これは今考えると不思議だなあって思うんですけど、何のためらいもなく上に行かなきゃいけないという気が起きたんですよ。それで、上に上がったんですが、まだその頃は冷静だったんです。私なんか、靴を脱いで入らなきゃと思って、靴を脱ごうとしたんですよ。そしたら家内に「いいんじゃないの、このままで」って言われて、靴を履いたまま上りましたが、靴を脱ごうとするくらいの余裕があったんですよ。

それからやっぱり高いほうがいいなと思ったんでしょうね。2階から3階に行って、3階から屋上に出ようと思ったんですが、ドアに鍵がかかっていたんですよ。おそらく中学生が出ないようにするためでしょうね。鍵がかかっていたものですから、そこに人が少し溜まっちゃったんですよ、何十人かですよ。そしたらちょっとパニックになりまして、「なんだ開けろー！」って騒ぎになって、そしたら誰かが職員室へ行って、鍵を持って来たんですよ。よくあの騒ぎの中で、あの小さい鍵が見つかったものだなって思ったんですけど、それで開けまして、私と家内と娘も屋上に上がったんです。

屋上であの津波を見るようになるわけですけど、結構時間はあったんです。私らが公民館から中学校に逃げて、それから中学校ではそういうハプニングが5分ぐらい起きて、それから屋上に上がって、それでもやっぱり津波が来るまでは、結構時間があったんです。それで「なんだ、なんでもないかな」って思ったんですよ。そのうちに名取川を遡上してくる津波というか、波を見たわけですよ。「なんだ、なんなんだ」って騒ぎ始まったんです。普通は学校の屋上から名取川の水面なんか見えませんので、それが真っ白になって渦巻いて遡って来るわけですよ。それを見た時に「なんだー」ってなったんです。

その後30秒か1分ぐらいしてから、家がこう「じわー」と流れて来て、また「なんだ、なんだ」って。がれきの先端の方に、2か所ぐらい火がついて流れてきたんです。海の方、貞山堀の方を見ると、土煙のようなものが上がって、「あー、これは大変な事が起きてるんだ」って思ったんです。ただ正直言って、何が起きてるのか分からないっていう状態だったんですけど。まだ「津波だ」ってピンとこなかったんですよ。それが次々来るものですから、「あー、

これが津波なんだ、終わったんだ」って思ったわけですよ。ただ茫然としていただけですね。あとはちょっと覚えてないんです。

とにかく「ああ、これダメなんだ」って思ってるうちに時間も経って、寒さも増してきたんで、とにかく校舎の中に入ろうと、屋上にいてもしょうがないし、たぶん1時間以上は屋上にいたんじゃないでしょうか。暗くなってきましたし、まだ3月だったですから、寒くなってきたんで教室の方に入ろうってことで行きましたら、もう3階の教室はいっぱいだったんですね。それでずっと端の方に行きましたら、特別教室がありまして、そこが比較的に入れるなあって思ったもので、そこに入って、そこは特別教室なんで机があんまりないんです。調理台があって、椅子も少なかったんですけど、とにかく3人分の椅子を確保して座って、そこにいたっていう感じですね。何人か顔見知りもいましたので、「大変な事になったな」って話しているうちに暗くなりました。

そうしましたら、ところどころから火の手が、もうその前から上がっていたんでしょけれど、気が付いたら、どんどん火が大きくなっていくわけです。特に私が入った教室からは、家が残った7丁目が真正面に見えたんです。そこは一晩中火の海でした。火の海を見ながら、夜明けを待っていたって感じです。時々プロパンガスなんですかね、爆発するんですよ。「ぼーん、ぼーん」って、なんとも恐ろしかったです。そのうちに雪がちらちら降り出したんですけども、雪雲が去って妙に星空が綺麗でした。そして夜明けを待っていたという感じですね。

### みんな黙っていた

皆さん、まさに黙ってました。静かだったです。犬を連れてきた人もいるんですけど、犬も鳴かないでじっとしてますし、文句を言う人もいないし、子どもが泣いても誰も文句を言う人もいませんし、朝方にビスケットのようなものが出たんですよ、2つ3つですね。そうしましたら、みんな余ったやつを「子どもにやってください」ってね、本当に親切っていうか、みんな仲良くしてました。あとは、沈黙だけでしたね。

ただ誰かが時々ラジオをかけますと、ラジオからいろんな情報が流れてくるんですよ。ただ良い情報がないんですよ。「仙台市の荒浜で200ぐらいの遺体が見つかった」とか、それから個人的には、多賀城市に息子がいて幼稚園の孫がいましたが、たまたまうちの孫が通ってた幼稚園で20人ぐらいの人たちと連絡がつかないんだっていう放送もしてるわけですよ。内心「もう大変、どうなったんだろう。とにかくその連絡がつかない人たちの中に、うちの孫は入ってないよな」って思ったりしながらね。結局その連絡がつかない中に入ってたんですけどね。孫は、助かったんですけども。

そのようにラジオを聞いて、朝まで待っていました。皆さんは、本当に静かだったっていうことだけで、あんまりお話する人もいませんでした。

### 次の日は

次の日の朝、夜明けになって、すぐ私は、屋上に上がってみたんです。どうなってるのか確認しようと思ひまして、屋上は寒くて、凍ってて危なかったんですが、朝日がすごく綺麗に昇ってきたんです。逆光なものですから、閑上の町はよく見えなかったんですが、ただ間

違いなく言えるのは、「ああ、何もなくなっただな」っていうことだけでした。「ああ、終わったんだな」って思ってね。戻って「もう閑上何も無いわ」って家内や娘、周りの人たちに話すともなく、呟いていました。

段々時間が経ってきて、そのうち誰言うともなく「自衛隊がこっちに向かっているんだって」っていうことが言われ始めたんですけど、なかなか来ないわけですよ、その自衛隊が。考えてみれば、道路のがれきをかき分けながら来るんでしょうからね。その後、午後なんですかね、記憶があんまりないんですけど、先遣隊の方が来た時には、ほっとしたっていう感じですね。

自衛隊の方々が小塚原地区あたりにボートを出してるんですよ。その時は何をしているのか分からなかったんですけど、今になって考えれば救助や捜索をしてたんですね。だから、もうその時には自衛隊の方は動いてくれていたんですね。ただ私らのほうに来てもらうまでは、やっぱり心許なかったですね。

午後になりまして、小学校に入っている人たちを今避難所に運んでるという情報が入ったんです。小学校が終わったら俺たちを運ぶんだという話でしたが、「車に全部乗れるかどうか分からないので、増田まで歩ける人は歩いてください」って案内があったんです。元気な人たちで、増田まで歩ける人は歩いてくださいと。その後「車に乗れないかも分からないし、中学校までは車が入れないので、小学校まで歩いてください」っていうことになったんです。とにかく道路は、がれきと泥でいっぱいだったですから、その辺にある物を靴に巻いて、小学校前まで歩いたわけですね。

その時もやっぱり、お年寄りの方にみんな手を貸したりしながら、とにかく小学校まで歩いて、小学校で初めてソーセージとお菓子か何かもらったんでしょうかね。小学校に避難した方々は、もうその頃はあんまりいませんでしたから、中学校から行った者が、次々並ばせられて食べ物ももらいました。

私らが最後の方だったんです。もう完全に暗くなってから、「バスに乗ってください」って言われて行きましたら、富山県の消防隊だったんですね。それで「まだ次の日なのに、もう富山県から来てくれたんだ」って思いまして、びっくりして、感謝した記憶があります。後日、写真集を見ましたら、やっぱり富山県の消防隊が入ってました。それで富山県の消防車に先導されながら、私たちは「どこに行くか分からないんですけど、とにかく避難所に行きます」って言われて、おそらくは連絡を取りながら走ってたんでしょうけど。それで、私らが運ばれたのが、第一中学校だったんですね。着いても真っ暗ですぐには分からなかったんですけど。それで名前を書かせられて、空いてる教室に入れられました。

## 避難所へ

第一中学校でも名前を書かせられたわけですよ。そうすると、なんか気が立ってるんでしょうかね、「何回名前書かせるんだ」ってクレームを言う人もいたんですが、でもそれが情報をつかむ際の最高の情報源だったんでしょうけど。

第一中学校には、私は2週間だけだったんです。というのは、家内の体調が悪くなりましてね。それで、ここ（現在のマンション）が、たまたま娘の部屋（家）なものですから、ここに避難してきたんです。第一中学校避難所は、2週間経って学校が始まるっていうので、教室



を空けて体育館に移ってくれという話だったものですから、「今でも具合が悪いのに、体育館に移ったら大変だな」って思ったんですね。そしたら娘が「じゃあ、うちに来たらいいんじゃないの」っていうことになって、ここにとりあえず一旦避難したわけです。

ここにしばらくいて、市の方に「こういう所にいるんだけど、仮設に入れますか」って聞きに行ったんですよ。そしたら、「大丈夫ですよ」っていうことだったので、申し込みました。一番最後の組ぐらいで、もしかしたら締め切りが終わってたのかもしれないですね。でも受け付けてもらって、5月20日に娘の所から仮設住宅に移りました。

## 仮設住宅へ

箱塚屋敷仮設住宅は、知り合いっていうほどではないですけど、同じ閑上で同じ町内ですからね、大体は顔を見たことのある方でした。ただ私どもの仮設は、比較的いろんな方が入ってまして、2丁目と7丁目以外にも小塚原地区の方とかですね、あと高館の方とか増田地区とか、家が全壊した方なんではないかと、そんな方も入っていたんで、比較的いろんな地区の方が入っていたって感じですね。

## 2代目会長として

前会長が、私より前に家を新築されて、引っ越すっていうことになったものですから、私はたまたまその時に副会長をしていたもので、それに年齢も私とその次に年寄りだったものですから、前会長から「俺は仮設出るから、お前引き受けてくれ」って言われて。私もいつまでもここ（仮設住宅）にいる予定はないので、「私もいずれ出ますよ」って言ったんですけど、「それまででいいから、とにかく引き受けてくれ」っていうことで、引き受けさせてもらったんです。

大体のことは前会長の時に全部作ってくれたものですから、私はそれを引き継いだだけでした。私は、勤めていたものですから、町内のことを一切してなかったんで、不慣れだったんですが、前会長が敷いてくれたルールでやっていければいいなって感じで、やらせてもらったんです。だから、別に新しいこともしなくて、申し訳なかったと思ってるんですけども。

会長として気にかけてのは、一人暮らしのお年寄りの方や老夫婦の健康管理ですね。大変だったのは、支援物資ですよ。数に限りがあるわけですよ。それで平等に渡らないんですよ。それをどのように配ったらいいかということですね。だから「この方にはこれをやって、この方にはこれで我慢してもらおう」とか、「あそこは、若い人がいるからこうしよう」とか、本来であればきちんとすべきなんじゃないかと、そういうようにやらざるを得なくなるんですね、それが一番苦労しました。あとは、今の石鹼でえらい綺麗なやつがあるんです。そうしましたらお年寄りがそれを間違っって口に入れてしまったことがあって、また同じような石鹼が来たものですから、「これは、お菓子じゃないです。石鹼です」ってメモを付けて、それで配布したなんて笑い話みたいなことがありました。

食べ物は、賞味期限をいちいち確認しながら、「まもなく賞味期限が切れますので、早く食べてください」とか、あとは他の仮設にはたくさん支援の方々が、例えば歌とかが入るんですけど、何でここには入らないのかとかね、いろいろありました。いろんな考えの方がいるっていうことですよ。

### 「閑上の記憶」での活動（注：閑上中学校の前にある施設）

家内の具合が悪くなり、私自身も夜眠れなかったりしたものですから、家内と一緒に心療内科に行くようになったんです。そして治療を受けながら、病院の先生といろいろな話をしているうちに、先生は私がたまたま自治会長をしていた仮設で、「スカイルーム」っていう子どもたちのことを支援する活動をやってたんですね。そういった縁があって、先生から『実は、建物を作って「閑上の記憶」をやりたいんだ』というような話を聞いて、その後、「閑上の記憶」が出来上がって、そこでいろんな活動が始まったんですが、何回目かの診察の時に、「そこでお話をしてくれないか」と頼まれて、私の思ってることを話すことはいいことだと。家内も「閑上あみーず」（注：主に閑上の被災者の女性の方々が活動している手芸教室）っていうところに行ってるんですね。それも一つの治療なんじゃないかな。

去年から話してみろって言われて、やりましたが、まあなんとかできて、「自分の経験したことを話せばいいんだな」って思ったものですから、今もお話させてもらってるわけです。やっぱり、いずれ忘れられますので、ですから語り継いでいって欲しいっていう願いですね。

「閑上の記憶」の活動はいつまでやれますかね、それが一番心配です。誰か若い人が出てきてくれればいいんですけどね。それに閑上の工事が始まると、工事の邪魔になるでしょうから、閑上の町を回ることができなくなり、活動がやれなくなるでしょう。ですから、あとはどうなりますかね。工事が落ち着いてからになるのか、また別な方法を考えるのか。

今、「閑上の記憶」では、ここに何があったかという簡単な調査をしてるんです。学芸員みたいな人が「ここに港があった」とか「ここに神社があった」、あと「この家には井戸があった」とか、そういうことを調べて、そこに立て看板のように表示しようということをやっていますが、町の復興工事が始まりますと、それもどこまでできますか。ですから本当は、気仙沼のリアス・アーク美術館ですか、将来はあんなようなものが作ればいいんですけどね。閑上の町のジオラマでも作って、展示して欲しいですね。閑上の町はこんなだったんだっていうような形で。

### 閑上には津波は来ないんだと信じていた

閑上にも「地震が来たら津波に注意なさい」という石碑があったんです。ただそういうものがあったって、これだけの犠牲者が出ちゃったっていうことですよ。「地震があったら逃げなさい」という石碑はあったんですけど、それでも「閑上には津波は来ないんだ」とみんな信じていましたし、私もそう思っていました。友人と飲んだ時なんかよく言ったものですよ。「大丈夫だ、閑上には津波なんか来ないんだから」とね。彼は夫婦で亡くなってしまいました。本当に津波は来ないって思っていました。

今になって地元の新聞をめくってみると、前から何回か載っているんですよ。ここに何編となく津波が来てるんだっていうことが、その認識を持ってなかったんですね。だから語り継いで、昔話のように残しておかないと、100年も経てば全員いなくなるわけですからね。昔のあの稲を燃やした話（注：稲わらの火）じゃないですけど、やっぱり残していけないといけないですね。

## マンションに引っ越す 最初は戻ろうと思ってた

ここに完全に引っ越したのは、2013年9月2日です。結果から言えばここしかなかったってことですね。避難所にいた時は、私らと同年代の人もいましたし、やっぱり閑上に帰ろうと思ってました。でも、市の説明会の時もまだ統一的なこともできてないような話しぶりだなんて思ったもんですから、今後何年先になるのかなって思い始めたんですよ。だから、私らのような年寄りには、やっぱり時間との戦いなんですよ。それで、閑上に戻るのはちょっと時間的に無理じゃないのかなって思い始めたんですよ。

そのうち土地が上がり始めたんですよ。この辺が3,000万円以上出さないと買えなくなっちゃったんですよ。どうしようかなって思って、中古の物件も何軒か見たんですけど、やっぱりいいのがなくて、娘が「だったら、ここに来なさいよ」「私は、いずれ出るから」っていうことで、「じゃあ、娘から買おうか」っていうことになって、ここを私の名義にしました。金銭的に買えないですよ、3,000万円になるとね。

閑上に土地をもらって、家だけ建てるのであればなんとかなるんですけど、それには今度時間がね、いかんせん何年かかるか分からないですからね。市の計画通りいっても、やっぱり5年以降になるわけですよ、私らが家建てるまでね。何べんも言いますが、時間がないんですよ。

閑上で生まれて、本当は閑上で終わる予定だったんですけど。

## 閑上の良いところ

今になってみれば、潮風ですね、私は。潮風は何とも言えないですね。夏でもエアコンかけないで済みました。それからやっぱり人情ですか。昔から、一つの町で生まれ育ってきて、私のところの地区なんか特にあまり新しい人が入ってこなかった地区ですから、そういう人情的なものがやっぱり一番懐かしいですね。

とってもいいところだったんですよ、海があって風も。冬になると天気がいい日なんかは蔵王連峰がずーっと雪被って見えるんですよ。とっていいところで好きな町だったんです。

できれば何とか戻りたいんですけど。家内は「最初閑上は、おっかなかった。言葉が荒くてね」と言っていました。家内は、別なところの生まれですから。

## 助かったのは私だけ

うちの周りは、みんな亡くなりました（友人・知人）。助かったのは私だけなんです。全部亡くなったんです。

誰かがいればお茶を飲みに行ったりするんですけど、誰もいないんです。2丁目は、200人ぐらい亡くなったんですよ。同じ新町の7丁目でも80人ぐらい。この界限がずっと亡くなってるんですね。

まあ、自然の猛威ですね。あんなすごいものがくるとは、まさに思わなかったですね。

## 地震の時

あの日娘の中学校の卒業式が終わった後、公民館の隣にあった働く婦人の家の2階で、謝恩会をしてました。そろそろ閉会にしようかという時にあの大きい揺れがきたんです。

揺れが収まって、2階からみんな下に降りて外に出て、私の自宅が公民館のすぐ隣だったので、自宅の様子を見に行ったら、外側は特にこれといった被害がなさそうでしたが、家の中がもうすごいことになっていました。

義理の両親が1丁目に住んでたので、そのことが気になって、自転車に飛び乗って、義理の両親のところへ向かいました。

子どもは、娘と当時中学1年生の息子の2人です。娘は私と一緒にいたんですけど、息子は卒業式が終わった後に友達の家遊びに行っていました。

義理の両親の無事と、犬が大丈夫だったことを確認して、今度は息子が心配だったので、また自宅に戻りました。犬が騒ぐので、私は自転車のかごに犬を積んで、義理の両親には、「寒いから上着着なよ」って一言だけ声をかけて、「逃げろ」っていうのは一言も言わずに、そのまま戻ってきちゃったんです。自分がいた公民館周辺はこれといって大騒ぎしてる人はいなかったんですが、日和山から向こうの人たちが、みんな避難指示が出て、公民館のほうに来ていました。

娘は、私が義理の両親の家に行ってる時も、そのまま公民館のグラウンドにいたようです。あとはたくさんの人たちが公民館のグラウンドに集まってきていたので、私も近所の人たちと一緒にグラウンドに留まったんです。「大津波警報が出てるよ」とか、「高い津波がくるよ」っていうのは、誰からともなく聞こえていたんですけど、そんなにすごい津波が来るとは夢にも思いませんでした。大津波警報っていうのがどのくらいの大津波なのか、全く想像できなかったもので、余計な所をうろうろするよりも、この場所にとどまったほうがいいのかと思って、私はどこにも行かなかったんです。

そうしてるうちに「公民館から中学校に避難した方がいい」という避難指示が誰からともなく出ましたが、私は犬がいたので、どうせ中学校に行っても犬を連れて校舎の中に入ることはできないだろうし、道路が大渋滞だったのは見えていたので、車で混んでいるところを移動するよりも、このままここに近所の人たちと一緒にいたほうがいいんじゃないかということで、移動はしなかったんです。でも東のほうを見たら、真っ黒い壁が見えて、「何だろうあれは、火事じゃない？」って誰かに伝えようとしたら、誰かが「あれが津波だ！」って大きな声で叫んで、それで慌てて公民館の2階に駆け上ったんです。

## 津波を見て息子さんは走ったが

公民館の2階の足元すれすれのところで水は止まったので、私は一切濡れることはなかったです。私の何人か後ろにいた人は、そのまま波にもってかれたり、娘の友達も足元が濡れながら上にのぼってきました。たくさんの人がグラウンドにいたと思うんですが、建物に上り

きれた人が40名弱でしたので、ほんとに私は運が良かったですね。

息子は、児童センターのあたりに、友達と一緒にいたらしくて、それで波が見えたので、中学校を目指して走ったようです。でも息子は走りきれなかったようで、2週間後に閑上クリニックの近くのがれきの中から見つかりました。

私は息子を火葬することもできましたし、お墓に入れることもできて、いずれは私も同じお墓に入ることができますが、まだ41の方が行方不明で家族と同じお墓にすら入ることができないという現実があまりにも悲しいことなので、ほかの方々と一緒に協力をして、行方不明者の捜索活動を手伝っています。

### **閑上公民館では**

閑上公民館でとにかく一晩明るくなるのを待ちました。夜が明けると、閑上以外からご家族を探しに来る方が何人か来るようになって、「外の様子はどうですか」と聞いたら、「高柳周辺や仙台東部道路のインターチェンジあたりまで水が来て、大変なことになっている」と。仙台市内で仕事をした主人とは夜中に1回か2回だけ連絡がついてたので、「私は娘と一緒に公民館にいるけど、息子がどこにいるか分からないし、おじいちゃんとおばあちゃんがどうなってるか分からない」という話だけはして、主人が来るのを待っていました。少し明るくなってくると、近所で助かった人たちが公民館に向かって歩いてきていたので、私は、全身ずぶ濡れになった児童センターの先生やお子さんを助けに行きました。

お昼前ぐらいに主人が来ました。「閑上小学校と閑上中学校をみてきたけども、おじいちゃんとおばあちゃんはいないし、息子も見つからなかった」って。私も義理の母や義理の父や息子が心配なので、とにかく下に降りようと思って降りてみましたが、がれきがすごくて、降りて2・3歩あるいただけで、釘で足が切れちゃったぐらいで。無理だって思ってるうちに、自衛隊の方が入ってきてくれて、がれきを寄せ集めて、道を作ってくださったところを歩いて、とにかく中学校まで来ました。中学校からさらに五叉路まで歩いたら、市役所のバスが迎えにきてくれていたので、「息子のことを残していくわけにはいかない」と思いながらも、とにかくここから出ようということでバスに乗せられました。

### **世界全部がこんな状態だと思っていた 名取一中へ**

自分の中では世界全部がこんな状態なのかと思っていたら、5分も走らないうちに、なんでもないあたりまえの世界が周りに広がっていて、「いったい自分がいたところは何だったんだろう」と本当にびっくりしました。「夢なのかな、幻なのかな」と思いました。私は第一中学校に連れて行かれたので、そのままそこで約1か月間生活をしました。その日はすぐ暗くなったんで、一晩そこで明かして。

とにかく息子を探そうと、13日の朝から避難所といわれるところは全部回って、館腰小学校や増田西小学校、名取北高校など閑上の人たちがいそうなあらゆるところを回りました。それでも息子がなくて、「もしかしたら病院に運ばれてるんじゃないか」と思ったんだけど、探しようがなくて、とにかく市役所に行って、安否確認だけはしました。置手紙を私たちも貼って、自分たちが動いてもどうしようもないから、第一中学校で待ちました。

義理の両親も、結局亡くなってしまい、義理の母は1週間後に、義理の父は1か月後に見つかりました。まずは、あけぼの保育所に行き、行方不明者リストを作ってもらい、そのあと15日から遺体安置所が開いたので、見に行きました。どの顔を見てもみんな知っている顔なんだけど、私は息子を探すのに必死だから、この人もあの人もっては思いながらも、他の人のことを気遣う余裕は一切なかったです。

### **息子さんが見つかる でも顔を見ることができなかった**

そうして探しているうちに、息子と義理の母が見つかりました。義理の母は本当に綺麗な状態で見つかったので、良かったんですが、息子は遺体の状態が悪くて、顔が見れない状態でした。私は勇気がなく顔は見れなくて、足だけを見たら、間違いなく息子の足でした。主人だけは顔を確認しましたが、どういう状態だったかは私も聞けませんでした。その時はもう2週間経っていたので、かなりの人が見つかっていて、息子が亡くなって悲しいよりも、見つけて嬉しかったんです。「もしかしたら、もう見つからないんじゃないか」と本当に心配してたので、「ああ、見つけて良かった」と思いました。今になると、「何である時、ちゃんと顔を見てあげなかったのか」とか、「ちゃんと触ってあげなかったのか」と思うんだけど、あの時は現実を受け止めるのが怖かった。

警察から、去年、爪が帰ってきました。DNAがどうのこうのっていうことで。私は息子の身体から、爪丸々1枚はがされてることすら気づかなかった。指も足もちゃんとあると勝手に思い込んで、火葬しちゃったんですね。もし、爪はがされてるとその時気づいてれば、もう少しかけてあげる言葉があったのになあって。今は、後悔がいっぱいあります。生まれた時に、必ず手足があるか確認されますもんね。それなのにね、送り出す時には見るのが怖くて何にも見ないで。こういうふうに普通に当たり前に落ち着いてからだと、みんなちゃんと着物を着せて、綺麗にしてから送り出すでしょ？、私は息子に洋服1つ着せてやれなかった。

ただ、「山形や東京の火葬場に、遺体を送って火葬しないともう間に合いません」って言われたんだけど、息子を1人でやることだけはどうしてもできなくて、待たされてもいいから自分の手で骨を拾いたいって言って、それでちょっと待たせてもらって、閑上の火葬場で火葬ができました。私は親なのに、守ってあげられなかった。

### **お化けでも出てきて欲しい**

新聞に仙台のタクシーの運転手さんの中で語られている話として『仙台で男の人を乗せ、行き先を聞くと、「閑上まで」って言われ、車を走らせると、途中で男の人がいなくなった。「閑上のお化け」』という話が載っているとある方が教えてくれました。

今でこそこうやって来ていただける方に、「ようこそいらっしゃいました」って気持ちがありますが、最初の頃は物珍しく来る人たちのことを、心の中では「ようこそいらっしゃいました」って気持ちにはなれなかったんですね。ボロボロになった建物の前で、ピースサインをして「被災地来ました」みたいな写真を撮る人たちを「何てことする人なんだろう。ここをどこだと思ってるんだ。たくさんの方が亡くなったところでピースサインなんかして」って思っていた。

でもやっぱり少しずつ時間が経っていくと、「忘れられる」っていうことがとても悲しいことなので、たとえどんな形であっても、「まずは来てもらうこと」、「ここで起きたことを知ってもらうこと」が大事なんじゃないかなっていう風に考えが変わりました。

だから中学校前に勝手に献花台を作って、勝手に慰霊碑を建てて、そしてここで勝手にあの日のことをしゃべりだしたのが、語り部の最初だったんです。

私なんかはもうほんとにお化けでもいいから息子に会いたい。私は息子が亡くなったのを理解してるから、お化けでもいいから会いたいって思う。震災のことが少しずつ忘れられていくことが悲しいなって思いますね。

息子は中学校1年生でした。13歳。お盆だからって言って、同級生が何人か手を合わせに来てくれたけど、みんな大人になっていて。自分の中では息子はいつまでも中学校1年生だけど、周りは大人になるから。生きていれば高校1年になります。

### 何度も死のうと思った

今までのことは、夢みたいですよ。ただ家には娘がいるし、自分もやらなくちゃいけないことがいっぱいあります。

ほんとは、何回も死のうって思ったんです。何で生きてるんだろうって毎日思ってた。まだ解体される前の公民館に勝手に上って、ベランダから下見ても大した高さじゃないから、ここから落ちてでも死なないだろうなって思って。今度、中学校に行くと、中学校の3階から外見ると、ああここから落ちたら死ぬるかなって考えたら、普段一切鳴かない犬が、そういう時だけ鳴くんですよ。「ワンワンワンワン」って鳴くから、「ああ飛び込んじゃだめだ」って言ってるのかなって思った。

### 中学校の前に記念碑を建てる 息子さんのゴールを作りたい

とにかく私は閑上に来ることが全然苦痛ではなかったんで、震災の翌日からは息子を探したり、あとは何か自宅のものが流れ着いてないかとか、息子の鞆1つないかってことで閑上に来てたんです。

最初のうちは田んぼに入るといろんなものがあつたけども、段々と片付き始めて、いつの間にかきれいに片付いて、ほんとにその年のお盆には今の景色と変わらないぐらい綺麗に片付いちゃって、何にもなくなつて。そのうち工事の人以外来るってことがなくなつて。だからそれがすごい悲しくて、「もしかしたらこのまんま何にもなかったことにされちゃうんじゃないのかな」っていうのがすごい心配になつたんですよ。

亡くなった人のことで悲しんでる人もいないような気がして、もしかしたらこのままほんとに蓋をされちゃって、新しい町が出来て、津波なんて過去の話ですよってされてしまうんじゃないかっていうのがものすごい怖くて、勝手に中学校の教室から机を引っ張り出してきて、ペットボトルを置いてお菓子を並べてお花を供えたんです。そしたら次の日に来たら私が置いたのではないものが置いてあつて、「ああここに来てるのが私だけじゃないんだ」ってそう思ったので、「ここに子どもたちが生きて証の記念碑を建てるにはどうしたらいいのか」って考えて、国際クリニックの先生に相談して、第1回目の遺族会を開いたのがその年の11

月でした。

私は「慰霊碑が欲しい」「手を合わせる場所が閑上に欲しい」「贅沢言えば、息子が走って逃げて、目指した中学校にゴール地点を作ってあげたい」と思い、そしたら賛同してくれる方が何人かいらっしやったので、慰霊碑の形と設置場所とを遺族会の中で決めさせて頂いて、遺族会のお金で建てました。中学校は市の土地なので、「場所だけはお借りしたい」、「一切迷惑をかけません」という約束で慰霊碑を設置して、次の年の3月11日には慰霊碑の除幕式が来ました。

私が毎日お花のお水とかを替えに来てる時に国際クリニックの先生が「水道ないと不便だよね」「できればお掃除道具を入れとく場所も欲しいね」って言うてる話がどんどん大きくなって「閑上の記憶」がオープンしたんです。4月の22日にオープンして、第1回目の語り部の会で私が話を始めたのがその年のゴールデンウィークです。

### 人々の記憶から消えることが一番怖い

私だけじゃなく、みんな自殺のことは考えたと思います。遺族会の中には私の様に両親が生きててお子さんだけ亡くなった人とか、あとは本当に家族全員亡くなって、お父さんだけになった人とかいろいろいます。

みんな、表向きは明るく振る舞っていて、本音は誰にも言わないんだけど、話しているとポロッと「生きてる方がつらい」ってみんなおっしゃるから、やっぱり私だけじゃなく、みんな1回は死のうと思ったんだろうなって。

ただ、死んだら、「誰が仏壇にお花あげるのか」とか、「誰が1周忌3回忌お参りするのか」って、そう考えると、やっぱり自分が死ぬってことは考えられなくなるよね。一緒にだったらいいけど後で追うっていうのは難しいと、たぶんみんなも同じじゃないのかなって思います。

閑上には、たくさんの方が来てくれるようになりました。「物」があると、そこを見に来る人がいる。何もない町だったのが、慰霊碑ができたことによって、「ここでは14人が犠牲になったんだね」、「あの日は何があったの」というふうに聞いてくれる人もいます。

もしかしたら自分が一番嫌がってた観光地になっちゃったのかもしれないけど、それでも忘れられるっていうことのほうがつらいから。体がなくなることをつらいけど、記憶からいなくなることのほうがもっと悲しい。私たちは親だから忘れないけど、贅沢言えば周りの人たちにも覚えていて欲しいし、親が死んでも子どもたちが生きてたんだよってことを分かって欲しいなって。

できればたくさんの方が避難しようとして走ったこの中学校が、ゴール地点であって欲しいな。「もう走らなくていいから」って、伝えたいなあって思っているんだけど、残念ながら私はおばけが見えないし感じないから伝えることができないんですけど。

### 午前中は仕事して午後は閑上にできるだけいたい

行方不明者の多くはこの辺りが嵩上げされたら二度と発見されないでしょうから、土が入る前に自分たちが暮らしてたところをもう1回、見るべきだなんて思うし、私は何か思い出の



ものが出てくればいいなって思っています。現に今日もキャッシュカードとか、免許証とか、結婚指輪とか、私、この間パスポートも拾いました。

まだまだ土の中からはいろんな生活の跡が出てくるので、そういうものを探さないまま土を被るっていうのがやっぱり悲しいです。自分の中のけじめとしてじゃないけど、納得することの1つとして、探してそのあと土を入れたらなど。

私は現地再建に賛成でもないし、反対でもないです。この町がなくなることは悲しいけど、この町で生活するのは無理だなって思ってるんで。でもここから離れることもできないんですよ。なのでこうやって、しつこく毎日来てますし、多分これからも私はここには住めないけど、毎日通おうと思っています。

## 閑上の良いところ

閑上ほど人と人とのつながりの濃い町は、ないんじゃないかなって思ってます。隣近所に昔からの知り合いがいて、おかずのやりとりとかもあったけど、それ以上に閑上の人って、本当に親戚以上に深い付き合いをすることであります。

子供会の行事とか、町内会の行事が盛んだっていうのもあるんだけど、この人とこの人は親戚なのかなって思うぐらい深い付き合いをして、実は全然赤の他人だったり。なんかそういう人と人とのつながりが深いのが、苦手な人には嫌な町でしょうけど。

閑上生まれ閑上育ちのことをみんな閑上人って呼ぶけど、本当に閑上人になりたいなって思うぐらいこの町が好きです。

## 今後の事

この町が、ばらばらになったり、なくなってしまうことはすごい悲しいんです。本当にいい町でしたから。でも今までと同じ町では、同じことが起きた時にまた同じ思いをする人が出てくる。私は「もう二度と悲しい思いをする人がいないように」という一本の信念で、ずっとこの2年半生きてきました。

よく「何か一つ願いがかなえられるとしたら、何を願いますか」と聞かれて、最初は「息子が生き返ればいい」ってそうとしか思わなかったけど、段々時間が経つてくると、うちの息子だけが生き返っても、またこの町が同じことを繰り返したのでは、私と同じように、悲しい思いをする人がいるから、悲しい思いをする人がいない町になってほしいと思っています。

去年の12月に津波警報が出た時もまた防災無線が壊れてましたと一言で済ましたり、同じことを繰り返そうとしてるから、そうじゃないよと思います。もう同じ思いをする人がいないようにしなくちゃいけないんだよということを、しつこいぐらい言わなければいけないだろうと思っています。

## ご主人は一切責めなかった

元には戻らないし、戻れないし、まして我が家はもう息子が生き返らない限り復興は絶対ありえない、元の生活に戻るってことは絶対ありえないです。ただ生きていかなきゃいけない

いし、娘の成長は楽しみなので、それなりの生活はしていきますけど。多分私も主人も後ろを向きながら前に歩くんです。前を向いてはもう歩かない、歩く必要がないです。

主人は、私を一切責めなかった。「なんで助けなかった」とか「なんで早く逃げなかった」、「なんで両親に逃げろって言わなかった」って。私が逆の立場なら、私は主人をすごく責めたはずですが。でも主人は、一切何も言わないで、津波の話もしないです。津波の映像も見ないし、津波のニュースも見ないし、閑上のことがテレビで映っても一切見ようともしません。それが主人の供養の仕方だと思います。

私がいろんな活動をしてることも多分主人は知ってるけど、それに対して何も言わない、止めろってもしないし、続けていいよってもしません。

## 地震の時

私は閑上公民館のすぐ裏の、閑上2丁目に家がありました。家族で亡くなったのは、妻と父親の2人で、全部同居で6人で住んでいました。

私は、地震の時は柴田町船岡にいました。この日は、名取市内の中学校の卒業式があり、うちの子どもの卒業式だったので、妻は仕事を休んで家にいました。地震の後に家に連絡したが通じなくて、夜7時過ぎに子どもに電話がつながって「今友達のお母さんの車に乗せられて、亘理町に避難してきた」ということだったので「お母さんは」と尋ねたところ「分からない」と、それですぐ切れてしまいました。5～6秒くらいで。

夜7時のニュースで、閑上が映ったのを観て、ラジオを聞いて、閑上公民館に何十人避難したとか言っていたので、だから避難してると思っていました。

携帯にも、メールが入って「地震怖かった、家の中めちゃくちゃだ」と。でも家族はみんな父と妻と、子どもは大丈夫だということ、3時30分頃かな、メールが入っていました。

## 公民館に避難

2日前の3月9日に地震が来て津波警報が出て、その時は増田に避難したので、今回も（妻は）逃げてるだろうと思ったら、みんな公民館に集まったんだね。町内会の人たちがみんな集まって来ちゃって、そこでいろいろ話してたんじゃないかな、当日卒業式だったからね。公民館が避難場所だから。

2日前は、増田まで避難したが結局津波は来なくて、それで父が「やっぱり津波は来ないんだ」って言うから、私と女房で父に「何言ってるんだ、津波っていうのは前にも来てるんだから、津波警報が発令されたら、避難しろっ、逃げるんだぞ」って言い聞かせました。

今回はNHKでやってたように「同調バイアス」っていうことで、皆さんに安心感があつたんじゃないか、町内会の人たちがみんな集まっていて、1人じゃないから、そういったものに陥ってしまったと思う。

結局は公民館に避難して、町内会の人たちもみんな避難してきて、お互い無事を確認しながら今後「ご飯どうしよう」とか「どこに寝よう」とか「毛布」とかそういう話になってたと思う。

## 妻たちがいない

私はその日、夜7時にテレビを観て、妻の実家の柴田町槻木に行って、そしてラジオで、「荒浜に200人の遺体がある」とか「閑上公民館に避難した」とかそういったのを聞いてたから、避難してるだろうなど、その後第一中学校とか、館腰小学校とか第二中学校とかへ、助かった人や、救助された人を運んできてたので、確認しに行きました。

そしてこれが最後だということ、閑上公民館で助かった人を乗せたバスが来たので、それを見たら80過ぎのお年寄りと小さい子供しか乗ってなかったので、なんでこれしか乗っ

てないのか不思議だったんですが、ある人から公民館に避難した人たちが閑上中学校に行け  
て言われて、避難する途中に大勢犠牲になったという話を聞いたんです。

父は早く見つかりました。妻は29日かな、ブロックにでもぶつかったのか腫れあがってた  
から、痛々しかった。公民館には私の家からすぐ行けるんだが、公民館と中学校の間で見つ  
かってるから。

私は、妻が最後に「あなた」って叫んでたように思える。「あなた」と叫ぶ声が聞こえてく  
る。1回だけ夢に見たんですよ。市に公開質問状作って出す前の平成24年2月頃かな「あなた  
の考えは正しいよ、こんなことできるのはあなたしかいないでしょ。あなたがやらなかった  
ら誰がやるの」ということで背中を押された訳ですよ。「こんな公開質問状は誰が作れるの、  
あなたしかいないでしょ」って夢1回見せられた。それもそうだなと、人が困ってる時にやる  
のが私（郵便局長）の仕事だなと決心した。

### 宮城県沖地震の時は

私は昭和53年の宮城県沖地震の時は、郵便配達をされていて全国からの義援金やお見舞など  
100本以上配達しましたし、当時食糧に困ったのを憶えていました。

その時に、うちの親戚でたまたま井戸水が出たので、温かいご飯でおにぎり作って持って  
いったらみんなから感謝されたということを経験してます。

だから郵便局とその隣でガスが出たので、地域の人たちに2日間で40くらい炊き出しをし  
ました。当時みんな買い出しなどしていて、水道も出ないしガスもなかったから。

被災した公民館にも、女房の実家の母に作ってもらったおにぎり30個などを差し入れたり、  
ティッシュを提供したりしました。それが郵便局長の仕事だと思って、やれることをやって  
いました。その他にも全国の郵便局長からいただいた救援物資を50箱くらい差し上げました。

今は、地元にどのような貢献ができるのか、自問自答しています。同級生も12人が犠牲に  
なっていて（男6人、女6人）、私は同期の会長もやっているの、残された家族、特に小さい  
子どもなどは、これからの長い人生大変なことだと思います。

### 避難そして現在の家

最初私は、槻木の女房の実家にいて、それから郵政の長町宿舎に移りました。その後、知  
り合いの大工さんに忙しいのを無理に頼んで、家を安心して住める仙台東部道路の西側に新  
築しました。

この辺は残っている土地が少なかったんですが、運よく土地が見つかったもので、借金し  
ても建てようと考えました。引越したのは、去年の2月です。

### 閑上の将来

安全は、みんなで話し合っきちんと確保して欲しい。あとは高台の避難場所なども必要。  
今私たちが次の世代、100年後200年後の人たちに伝える義務があると思ってます。

前の世代から我々にうまく引継ぎがなかったからこんな目に遭ってる訳で、180年から220  
年の間隔で仙台平野は大津波が来てるんだから、そうすると文書で残したって100年経てば

100年前の書物となり、そういうものは誰でも見れる形で残っていかない。

だから私が公開質問状の中で言っているとおり、犠牲者1人当たり1cmで名前を刻んでいただいて、大体1,000人亡くなっているから、土台を含めて13mから15mぐらいの慰霊塔を作って、そこにここまで津波が来たという到達点の印を付けたものを設置して欲しいと思います。

多くの人が閑上の日和山に見に来ますよね、ここが大惨事の現場だと。そして素通りして行くが、その近くに大きな慰霊塔があれば、来た人たちがその慰霊塔に、犠牲となった御霊に手を合わせて頂ける。そこに慰霊塔を守るための募金箱でも置いてもらって、慰霊塔をずっと残していく。そういったものを、造ってもらいたい。

200年後に伝えていくために、閑上を見に来た人に少しでもいいから募金してもらえれば、それが力になってずっと維持できると思う。仙台に近いから閑上には人は来るんですよ。そういった取り組みが必要じゃないのかなと、石碑なんて100年後にはもう風化して、読み取れなくなってしまうから、もし予算があれば避難場所になるような高台だといいですね、そうすると閑上から仙台平野が綺麗に見られるから、風光明媚だね。

震災を教訓として、広く国民の皆様に、危機意識を持ってもらうためにも必要だと感じます。国の震災記念公園を石巻の方に計画してるようだけど、石巻ではやっぱり仙台から遠いと思う。

## 閑上の良いところ

良いところって、こぢんまりとした町だけどね、やっぱり暮らしてみると人情味があって、地理的にも仙台駅にも近いし仙台空港や仙台港にも近距離だということ。そしてやっぱり海の幸が豊富だしね、あとは仙台平野は、おいしいものはあるし温泉もある。温暖で冬でもそれほど寒くないし、みんな閑上の人たちはつながりがあるからね、そして共助っていうか助け合い、そういったコミュニケーションが出来てたんだ。仲間意識があって。

## 地震の時

田高（市内）のスーパーにいました。買い物しようと店内に入った途端地震になっちゃって、もうショーケースに掴まって。どれくらいの間揺れたのかおぼえていない。店の入り口のガラスも壊れて。しばらく他のお客さんたちと駐車場に避難させられて。

大体1時間ぐらいして、余震が落ち着いて来たので、スーパーから自宅へ戻ろうとしたんだけど、普通の地震と違うから、市役所で情報を聞いていこうと市役所に寄ったんです。そしたら閑上には帰らないでくれって言われて。

市の職員の方に増田体育館に移ってくださいって言われて、その晩はそこで車中泊して、次の日そこは遺体安置所になると言われ、増田小学校に移ってくださいっていうことで、移りました。

増田小学校が避難所になり、そこにずっといて、もう学校が始まるので、小学校の体育館に移ってくれて言われて移動しました。

増田の町内会の方がすごく動いてくれました。共同通信社の記者の方が1週間おきに2度みえて、他の避難所よりもずっといいと記者の方に言われました。3度のご飯が食べられるというのとは一番安心感があったんですよ。

## 雇用促進住宅へ

入居したのは5月16日です。とりあえず2年間ということで、雇用促進住宅は国の建物なんですよね。網戸もクーラーもついてなかったんですよ。敷地、建物、集会所の使用もままならず、入居者は苦勞しました。

署名を集めて、やっとクーラーが付いたのは10月でした。もう夏終わってますよね。何をするのも時間がかかりました。

草刈りや駐車場、集会所の使用方法など様々な問題があり、全てが初めてなので大変でした。「ひより」さん（なとり復興支援センター「ひより」）が入ることにより、大分楽になりました。

## 今後のこと

私自身職人なので出稼ぎが多く苦勞しました。こうなってみると住むのは閑上じゃなくてもいいですから、その近辺あたりでもいいかなって思ってるんですよ。

パソコンとかそういうのはだめですから、どうしても外でいろいろやるようになるんで、まあ小さくてもいいからちょっとした家が欲しいかなって思っています。

震災の5年ぐらい前に建て替えたんですよ、その家。全部流されてしまったのですが、床だけは残ってるんですよ。それで通行許可もらえるようになって、ガソリンも手に入るようになってから、避難所から半月くらい通いました。毎日行ってましたね。ちょっと掘ってみて、いろんなものがあれば持ち帰ってきました。

ただ、機械とかはみんな出たんだけどだめですよ、砂が入っちゃって錆びて。使えるもの、お皿とかそういうものがあれば、自分の家のものは持ってきて使ったけども、何枚もないんですよ。

### 閑上の良いところ

閑上はすべていいと思いますよ。子どもの時はどこでも同じですけどね、故郷は。

閑上ばかりじゃなく、塩釜であろうと三陸であろうと皆子どもの時は遊び場は同じだと思うんですよ。

ただ今後に関しては、名取市に空港がありますよね。この空港を利用しない手はないと思います。仙台東部道路のインターもあるんですよ。

今の閑上は、漁業としては大変厳しく苦しい状況なんですけども、加工品が多いですよ。カマボコのすり身なんていうのは、アラスカで漁をしてもう船内でみんなすり身にして冷凍加工品に処理する。だから海沿いでなくてもいいので、危険区域っていうか貞山堀から西の一部は商業地帯にしたほうがいいんじゃないかなと思って。だからそれはもう行政で頑張ってもらわないとしょうがないですよ。

市民の負託を受けているのは、議員と市長だけのはずで市民の代弁者ですが、なぜか対立しているように見える。

## 地震の時

地震の時は、ちょうど仕事が休みだったので家にいました。揺れたね、かなりね。そして長く揺れたでしょ。まず行動としては、落ち着いてました。女房があたふたしてる時に、「まずは落ち着け」と。外に逃げようとしてたから、「逃げるな、中にいろ」と。ちょうど孫が前の日から泊ってたんで、孫を抱っこしながらアイスを食べてました。そのまま地震が収まるのを待ってました。その時、まだテレビが映ってたんです。それでまず地震のニュースを見て、「女川で10cmの潮位を感じました」という言葉を聞いて、それで「ああ、なんだ大したことない」って思いました。

そこから外に出て家の物がどうなってるか確認のためぐるっと回ったら全然問題がなかったんで、それで一応車も貞山堀沿いに移動しておいて、家に戻ってまず何かあったら困るなっていうことで、家の中のガスや電気、こういったものの全部の元栓切ったり、片付けをしたり。大体30分ぐらいやったのかな、それから貞山堀を見たんですよ。そしたら、全然水がない。「じゃあお母さん、一応避難しようや」っていうことで、閑上中学校に車で避難しました。その時、地震から30分後でも全然車は混んでなかったです。

避難してからは、ずっと校庭にいたんです。海を見ると、真っ黒くなってきたんで、「ああ、あれが津波なんだろうな」と思って、それに対してはもう対応する余裕はあったんですよ。ところがまさかこっちの、川の方（北側）から、真横から津波が来ると思わなかったんで、私は中学校の校庭の一番東の端、野外音楽堂っていうのがあるんですけど、その脇にいて、そのまま津波に流されました。中学校の一番西端まで流されました。

運が良かったんですよ、田んぼの方に行ったら多分助からなかったでしょうね。校庭の前を流れたから。ちょうど中学校のプールがあって、プールがちょっと高くなってるのでそこで波がぶつかって波の勢いがそこで弱くなって、それで浮き上がることが出来たんです。それで助かりました。その時は、私と娘が同じ所に流されました。

がれきは普通は来るんですけども、ちょうど中学校と、生協（スーパー）前の道路を挟んで田んぼなんです。だから最初がれきに来る前に水が来て、まだがれき来ないから、私も無傷で、本当にかすり傷ひとつなく、浮き上がることが出来ました。大変だったんですけども。まず自分ではこの水は飲んじゃいけないなって思ったから、まずは口は絶対開かず、目は開けたけど、目を開けたら真っ黒だったんで。その後たまたま浮き上がった場所に、流れてきた屋根があったんです。それにすがるって、女房よりもまず一緒に流された娘が心配で、そしたらすぐそばに浮き上がってきたんですすぐ引き上げて、そしたら、娘の足が、血だらけなんで、「なんだ」って言ったら、どうしてけがをしたか本人はもう全然分からないんですよ。

風景は、私は見てないんです。ただ私が怖かったのは、流れて来て、すがりついた屋根、それにすがっていた時、目の前を人が流れて行くんですよ。私を見てるんですよ。でも私はどうすることもできなかった。私もほんとに5~6mずれたら、そのまま速い流れの方に行ったでしょう。



その後、私はある程度水かさを確認して「ああこのぐらいだったら中学校に移動できる」と思い、中学校に移動しまして、女房と孫の安否を確認して、娘の所に戻りました。

その後、娘と中学校に行って、娘のけがが大けがだったので「12日の朝一番に運びます」という連絡をもらいまして、ところが待てども待てども全然来ない、結局一番最後、暗くなった頃にやっと車が来てくれまして、それで第一中学校に避難しました。娘は市の職員が車で待機してて、そこから今度病院まで連れて行ってくれました。

### 避難所へ

第一中学校へは私、女房、娘、孫と4人で13日までいました。そのあとは、娘が上余田のアパートに入っていたので、そこに移動しまして、そこで約1か月間ぐらいおりました。

娘が怪我をしていて入院してるし、それから孫がいるし、まず女房が面倒見なくちゃいけないっていうことで、別のアパートを探して、そこを借りました。

田高交差点が近くて、特に震災でダンプが多く通るようになりました。常に地震が来てるような感じで、それからうるさい。特に、私は前の会社の時は夜勤やってたから、日中寝られないんですよ。

### 仮設住宅へ

2012年の11月に植松入生仮設住宅に引っ越してきました。

仮設には、いろいろな所から来ているが、ここに来てから新しい知り合いが結構出来ました。私はここを希望したんですよ、ここには7丁目の人がいるんで、それで希望しました。

### 今後のこと

震災に遭った時から「絶対私は閑上に戻るぞ」と思っていました。ただ女房がね、「もう絶対いやだ」って賛成はもらえなかったんです。じゃあ上から順序に、「この場所はどうか、この場所はどうか」っていうことで、いろいろ探したんだけど、そしたら「ここも嫌だ、ここも嫌だ」となって「じゃあお前はどこに行きたいんだ」って言ったら、「やっぱり最後は閑上に戻りたい」って。女房がもともと閑上なんで、私は、最初から戻るつもりでいたから、私の元の土地、駐車場、カーポートはなくなったけど、駐車場の石とかそういったものはまだ綺麗に敷いてあるんでそのまま残してくれて、そのままにしてたんです。そしたら災害危険区域になってしまっただけ。もうそこに家を建てられないんだな。私たちは一応集団移転扱いになりますので、閑上中学校あたりなんですけどね。

### 閑上の良いところ

私は釣りが好きなんですよ、海釣りがね。投げ竿で思いっきり遠投する、あれ最高に爽快ですよ。砂浜だとね、100m以上投げるからね、それがもう最高のストレス解消ですよ。以前は時間が空いてる時はいつでも行けたんで。でもやっぱりこの震災で行方不明者が四十何名もいるという話を聞いたらね、釣りをする気は起きないね。そして今は閑上の海岸入れないでしょ。

### 地震の時

市役所建設課ですから、災害等があると自分たちが真っ先に動く部門でしたね。あのような状態になるのは俺は分からなかったんで。どのような状態なのかということで、地元の業者さんに、どのくらいまで車で行けるのかを調査してもらったんですね。そしたら大変なことになってた。

地震の時はですね、市役所におりまして、いやこれはすごいなと。「役所つぶれんでないかな」っていうくらいの、初めてですね恐怖っていうのは。2階の北側で「これはちょっと」ということですね。外に出ようと、西側にちょっと小高い公園みたいな場所があり、そこにみんなで避難しました。

その後、うちの職員3人くらいで、男3人。現場確認ということで閑上の五叉路くらいまで来たのかな？そしたらなんか津波が来るということで。ちょうど高速道路の近く。ミニストップがあるんですけども。そこの高速道路に、これじゃ逃げられないと車を置いて高速道路に登って助かった。

それで、しばらく帰って来ないんで、もしかすると、もしかするのかなと思ったりもしたんですね。その後ですよ「津波が来てる」それだけ分かって、4時ちょっと前ですよ。津波来たのね。ですから5時ちょい前ですかね。戻ってきたのは。次の日、俺たち道路啓開に行く時に、「ああ、ここに車置いて、逃げたんだな」ということが分かったんですね。それ写真に撮ったやつが残ってます。

### 妻と娘がいないことに気づく

たまたま家に残っていたのが、妻と娘。下に娘がもう1人いて。まあ、心配はしてなかったんですよ私は、最初はですね。3.11の1年ぐらい前にあのチリ地震が2月28日に来たのありましたよね。あの時に、うちの妻と妻の姉と一緒に逃げたんですね。閑上公民館へ避難したという実績もあってですね。その時は私は妻にですね「今度地震来たらば公民館じゃダメなんだ」と。あの時津波は来なかったんですね。「今度来た時には、閑上中学校しかないんだ」と。中学校は3階までしかないんで、屋上に行かないと助かないよというような話をしたので、私は何も心配はしてなかったんですね。

息子なんですけども、この間第2回目の追悼式の日を追悼文読んだりしたんですけども、仙台の高校でラグビーやってたんで部活に行ってたんですね。姉のほうから弟に対して大丈夫だったのかみたいなことでメールが入ったみたいで、逆に今度弟が姉にメールを送った時には、もうあとは通じなかったことが後で分かったんですね。それで、その夜中に電車・バスを使って通学してたので、帰る足がないと。長町（仙台市）の先輩の家に泊まるということだったが、状況が変わって顧問の先生が最終的には送ってくれたんですけどね。ちょうど11日から12日にまたぐくらいの時間に帰ってきたんですね。23時55分か50分ころだったですかね。先生に送ってもらって、途中まで高柳の農協らへんまで行ったけど行けないと。これは

大変なことになっているということを感じて。「お父さん、すごいんだよな、大変なことになっている」ということですね。

私は本部に戻ってきて、名取市内に災害応急協力会って、災害があった時にお手伝いいただく協力会があるんですね。そこの幹事会社と会長さんのところに「明日、12日5時半にミニストップに集合をかけてください」と。まずもって道路を作るしかない。孤立してるというような情報がありましたので、小学校、中学校、公民館に避難者がいるということがあってですね、そういう協力をお願いをしました。

電気は全部消えたんですね。ラジオをつけたらば情報としては、仙台の荒浜で200人くらいがどうのこうのっていう、あと塩釜、多賀城あっちの方を見ると、火が出ていて「ああ、これは大変だ」と、ただ、自分の関上だけは、たぶん大丈夫だろうなっていう、俺はそういう甘い考えはあったんですね。何も情報がなかったこともありますし、何にもないんだろうなという感じはありました。

協力をお願いして帰ってきて、ぼちぼち関上の人たちで避難してきている方々が市役所に来たんですね。その時に初めて、知ってる人もいたので、「いや体育館さ逃げたんだけど」と言うので、「うちの女房や娘と会わなかったか」って聞いて、そんな時初めて「えー、どうなってんだべな」っていう。そこで、「ああ、会ったよ。知ってるよ」っていうことになってれば良かったんですけども。

いずれまあ、災害対策本部が立ち上がって、大変なことになっているという状況は分かって、とにかく私の仕事としては、道路啓開、道路作んなくちゃということだったので、12日朝5時半にミニストップに集合ということで、私もその時に行って、後は業者と一緒に道路ですね。2手に分かれて、バス通りと火葬場に行く道と、そこをとにかく切り開いて、あとは県道塩釜亘理線あたりとかですね。関上小学校、中学校、公民館に行ける道路を一緒に現場で早く作ろうと。

その3.11の当時、長男が名古屋に暮らしてまして、災害後1週間しないで来たんですけど、いろいろ情報をですね、名古屋でNHKの映像をちゃんと見てたんですね。情報を見て、妹に対してメールで「津波が、もう仙台空港に来てっからとにかく逃げろ」と。「分かったお兄ちゃん」っていう会話が、会話だかメールだか電話だか分からないですけど。そういう会話をした。「分かった、心配しないで安心して」みたいなことで。だからまあ心配してなかったことがありますねえ。あとは、自分の仕事のことであって、自分のことよりもまずねえ。まあ、かっこよくという訳ではないんですけども、だから俺んちは、とにかくそういうことで非常時には親父はいないんだよと。仕事で出て行くんだということの備えというか、そういうことはあったんで。さっき言いましたけどね、「逃げろよ」というような話をしてたから、もう安心はしてたんだねえ。でも、夜中だんだん不安になって。次の日になるあたりで関上の人々がぞくぞく市役所の中に避難してきたんで聞いてみたら、誰も会ってないと。知ってる人知ってる人に聞いても誰もいないと。会ったっていう人がいない。

### 自宅を眺めながら

それで初めて、ちょっとこれは「もしかすると、もしかするのかな」ってなことを思いま

したね、その時初めて。それとですね、12日の朝にですね、ミニストップから少し50mから100m先にですね。自分の7丁目にあった家が流れてきてたんですね。きれいにそのまま。きれいに1階の床から上がそのまま。約2キロです。ほんとにね、どこさもぶつかんないで、きれいにあったんですよ。少しこう、ずれたくらい。「まさかここに、もしかずっと居るんでねえかな」と思ったりして。まあ、仕事なんで。「ああ、あるな」という感じで、そのまま通り過ぎました。

その時ですね、行く時にご遺体があったりですね、すごかったんですね。業者と自衛隊も来て、ご遺体を横に寄せて、その時初めてご遺体を見て、あれ、うちのかみさんでねえかなとかですね。見ながらこう火葬場のほうに向かってですね。仕事をしましたね。ずっと(間)。業者と自衛隊との連絡調整とか、一般の人が入れないようにしたんですね。とにかく1車線。まずもって1車線確保という。

それで、閑上小学校・中学校の人たちがバスなんかで避難所へ移って、12日と13日ですね。私は、11日の夜中市役所に泊まり、次の日からはですね、妻の姉が同じ閑上に住んでたんですけど、仙台かどっかさ行っていて居なかったから助かったんですよ。その姉が文化会館も避難所になったので、一角を陣取って。畳の部屋だったんですけども、そこに。そこから私は、2週間。3月いっぱいくらいそこを拠点として、役所に通いました。

## 妻と娘が見つかる

娘が早くてですね。1週間もしないで。ええとですね。19日ですね。19日に遺体安置所に行ったら、誰か見ていた人が連絡くれるんですよ。似てる人がいたとか。娘と妻はちゃんと覚悟してたんでしょうね。何かあった時は、みんな全て身につけたもの家族が確認する時、迷わないようにとということで、とにかくありとあらゆるものを身につけていたので。だから、おつきい娘なんかは、これはお母さんかなあって外出するときに時計は身につけるとかはあるんですけどいろいろなことがあって。娘が19日、妻が21日、流された家の付近で見つかったんですね。生きてたんだね。流された家の中で、妻は少し手前のほうで、娘は少し流されたんですね。仙台東部道路の下までくぐって流されたんだね。まあ、でもどっちもきれいな顔してたねえ。ぶつかったりはしてなかったんですね。

## 避難所生活の後

やっぱり早くってことで、3月の末くらいには引越しましたね。市内の館腰の植松っていうところです。ただ、線路脇だったのでうるさいんですよね、慣れないんで。1年4ヶ月お世話になりました。家族3人で。一番最初は姉とあと姉の子どもと1週間か10日くらい一緒にいましたね。あとは別々に近くに。アパートは2LDKですね。車はあったんですよ。車で通勤してたので助かったんですね。市役所の駐車場にあったので。

3月30日に1台目の火葬場が動いたんですね。火葬を3月の末と4月の頭で、仙台市の葛岡火葬場で1人1人という予約を葬儀屋さんと話をしていたら、いやどうも葬儀さんの情報で閑上の火葬場が動くよと。全部は動かないけどもっていうことで。「ああ、だったらば、なんとかそこに、キャンセルしてもいいからとにかく」ということで、一緒に火葬したんですね。

3月30日でしたね。一緒に火葬してもらったから助かりました。

## アパートの思い出

苦労はまあ、仮設住宅はまだできてなかったんですね。それでとにかく早く落ち着くこと、あとは、息子があの時まだ高校1年生なんですね。2年生になる年ですかね。もう大体1年生が終わる頃だったのでとにかくちゃんと、ちゃんと言ってたらおかしいんですけどね。住まいだけはっていうようなことで、早く早くというようなことで。だから、慣れないところで。あと私も閑上で生まれて閑上で育って海の音は、波の音は聴いても鉄道の線路ね、夜中まで走るの。毎日がこう地震だったみたいですね。慣れなかったですね。でもとにかく住むところがないので。まあ、姉も一緒になって探してくれたので、我慢しよう。もっとひどい人がいますから、ずっと避難所にいた人もいたんで。借り上げになるかどうかは分からなかったけど、とにかくどっか住まいを見つけないと動けないので。

避難所ってのは、ほんとに仮なんですね。それで、今いた娘と息子、あと姉と姉の娘ですかね。日中もいるわけですよ、避難所に。娘も稼いでたんですけど、休んでいいっていうのでしばらく休みになって。俺は朝行って夜帰ってくるだけです。俺、服装も市の作業服で。行きも帰りも一緒だったんで、周りの人たちも「ああ、あれ役所の人間だな」みたいなこと。娘に「お父さん、ちょっと服装も変えた方がいいよ」って「なんかここさ役所の奴がいるんだ」みたいなこと。そういうのがあってね。そういう変な気遣いとかね。そういうのはあったですね。

何も物がなくて、職場の仲間たちがみんな持ってきてくれたり、あと名古屋の長男がですね、1週間もしない間に、あん時も高速止まったりして1日かかって名古屋から来てくれたんですね。車に積めるもの積んで、下着だなんだかんだ持ってきてくれましたね。あとはなんだっけな。ああ、炊飯器とか、あとは掃除機とか。とにかく積めるものを積んでくれましたね。あとは職場の仲間が。大きい小さいは関係なく、選ぶはずがないからね。

## 現在の所に

去年の7月30日に引っ越しました。とにかく自立しなくちゃなんないということですね。息子も、勉強できないということでちゃんと落ち着いたとこ、早く早く。とにかく自立したい。早くしないとダメなんだなって。現在の所はですね。私の生まれた家があつてですね。母が1人で住んでたんですけども震災当時から2年か3年前くらいから、ここは空き家だったんですね。かなり古い建物だったので地震で東側の家に倒れ掛かって危険だと。地元の会長さんから電話がかかってきて「あんたの家危ないから早く壊せ」って。この辺は津波は来たんですよ。今道路あるんですけど、そこまで何十センチくらいまで来たんですかね。南側に堀あるんですけど。そこも、がれきがすごかったんですね。それで、ここまで来たのかなってびっくりしましたね。

たまたま土地があつてですね。家もまあ、妻とは退職したらばゆっくり田舎でもいいから家建ててみたいなのも言ってたんで。子どもたち2人に相談したら、「まあ、しゃあねえべ」って。選ぶっていうか、私はたまたまここに土地があつたから家が建てられたんですね。土

地がなければ家は建てられませんでしたね。金銭的に。たまたま土地があったから建てられた。あと、さっきも言いましたけどとにかく早く閑上の人のためにも、やればできるんだって言わないけどもね。戻れると。ここの住所が閑上なんで、冗談まじりで役所では「俺は現地再建なんだぞ」と言ってるんですね。「高速道路から西側だべ」って言われるんですけどね。この堀から南が仙台市なんですよ。閑上の人たちも、「内陸内陸、西側西側」って言うのはたぶんまあ、この辺も含めて高速道路の根っこだとかを言っているのだと思います。

息子の高校の同級生、仙台の高校なんですけども、常磐線を利用している人たちから比べると、ここは快適だって言ってました。朝ですね、6~8時の間に10分くらいの間隔でバスがあるんですね。ここ、終点なんです。四郎丸。駅としては長町まで。そこから泉まで地下鉄で行ける。ほとんど仙台市。私は、小学校の時、いじめられてましたけどね。「なんだおまえ四郎丸だべ」って。小学校は閑上小学校。ここから見えるんですから。居ながらにして学校が見えるんですよ。

### 閑上の良いところ

閑上の良いところです。やっぱりなんていうんですかね。連帯感というかそういうのはありますね。ありましたね。最近、そういうのは希薄になって、なかなか復興計画にもまとまりがないってようなことで。ほんとは、まとまりなかったんだなあ。みんな寄せ集まりなんです。今思うと。寄せ集まりで町が出来上がった。

土・日が休みなんですけども、俺ね歩くの好きなんでね、土・日片方どっちかですね、閑上さウォーキングして。1時間くる一つと日和山に登ったりとかですね、あと必ず自分の家があったところに回って、中学校に行つて。今日も線香あげてきたんですけどね。あそこには、中学生の14名の名前を刻んだ慰霊碑がありますので。土曜日・日曜日と、2日は行かないですけど必ずどっちか1週間に1回は閑上の姿を。何も変わってないんですけども行きたいってうか、行きたいんですね。できれば海までほんとは行きたいんですけどね。私は歩くのが好きで、閑上7丁目に住んでた時も土曜日あたり半日くらいかけて浜をずーっと、まったりと歩いたり。最初は海さ行きたくなかったんですけどね。今は落ち着いたんでね。行けるようにね。逆に行きたくなくなってきましたね。

今後。そうですね、仕事辞めてもまあ、再任用でなくてもいいから閑上の町づくりみたいなところのお手伝いをしたいと。相談の窓口でも。そうすつと「ああ、あそこさ行けば、閑上の奴いたな」って。今ねえ、各自治体からお手伝いもらってますけども。関西弁もいたかもしないけども。やっぱり「ああ、あそこさ行くとなんか」っていう感じのものも。一つそういうことで、恩返しじゃないんだけど、したいなと思ってますね。

### 閑上の今後

やっぱり、色々騒がれてますけども、すっかり再建というのはないんでしょうけども、ちっちゃくなくてもいいから、コンパクトになってもいいから。やっぱり年寄りがますます、閑上に帰りたいってのもあるし。やっぱり昔の閑上ってのはないかもしないけども、なんぼか近づけたらいいのかなと思ったり。色々今ね、「郵便局来ねんだ、生協（スーパー）戻

って来ねんだ」とか「銀行はもう来ねんだ」という噂ばかりあるんだけどさ。

ただ、魚も取れない閑上の中で、赤貝と小玉貝だけで漁師の人たち生きていけねっちゃなって思っているんですよ。朝4時30分か5時頃にサイレン鳴るんですよ。市場開くからって皆さんに教えるんですね。並べるじゃないですか。そいつも閑上海岸の海で獲れたものじゃなくて、荒浜とかあっちの方から仕入れてきたやつとか並べてたとかってというのはありましたね。だから、うーん。今市場も岸壁ですか？震災復興で。復旧で北半分きれいになりましたよね？あとは南側やるとききれいになるんだけどね。朝市（ゆりあげ港朝市）もだね。100店舗ないんだと思うんだけど、70何店舗くらいかな。みんな他から来てんだよね。閑上の人たちっていないんだよね。俺もですね、閑上の朝市一番最初に開いた時に、これは良かったなって思ったんですね。ああ、魚も地元であがったやつだとかですね。これ売れるんだ。これがだんだん廃れてきて今はねえ。志津川とか違うところから来た人たちが持ってくるんですからね。なんだか水産とかですね。寂しく感じるんですよ。だから5月4日に再開したんですけどね、いつまでもつべなくて心配します。

人も住んでいないのに。なんで人間よりもああいう施設だけ最初に行くのかなって不思議でしょうがないんだけど。人だべって、最初に戻って来んのって。こう思うんだけどもさ。何足りねえ、かに足りねえって言われてなのかなあって思って。俺順番間違ってるんじゃないかなと思って。

### 地震の時

住所は閑上7丁目、「うらやす」（老人ホーム）の通りの田んぼ沿いの家でした。

震災の日は家にいました。母親の具合が悪くて、その日バイトを休んで看病をしてたんですけど。午前中に病院に行つて。妹は高校生で、期末試験の最終日だったんですけども、母親が心配で昼ごろ帰ってきたんですよ。部活動をやってれば、高校に残ってたはずなんですけど。

地震の後、たまたま父親と電話がつながって「名取の商工会館に向かっているんだけど大丈夫か」という電話が来まして、その後、閑上に戻ってきてくれました。

地震の時は昼寝してたんですけど、とんでもない揺れで飛び起きて、部屋の電気が落ちて壊れてしまったり、テレビが吹っ飛んできて壊れてしまったりとかして、尋常じゃなかったですね。家の中が散らかってしまつて。そのうち寝ていた母親も起きてきて、妹は家の1階にいたんです。父親から電話がかかってきたのはそんな真ただ中だったんです。

### 津波

地震の後には自分と妹で荷物をまとめていたんです。母親も寝間着姿だったので私服に着替えたりして。停電でテレビはダメだったので、ラジオを付けました。途切れ途切れに確かに大津波警報が聞こえていたんですけども。妹も携帯電話を見て「閑上中学校にみんな逃げている。」とは言ってたんです。そのうち父も戻ってきて。

家の様子を見たり、隣近所に声をかけたりしているうちに、足元に黒い波が来ました。その時、みんな外に出て、妹と母親が隣の家に耳と足が悪いおばあちゃんがいたんですけども、そこに行っていて、父親と自分は道路のほうにいたんです。火事でも起こってるのかなって感じだったんです。煙が上がって。今思えばそれは、津波が家を砕いてる煙だったんです。全く気付かなくて。音が「また地震来るのか？」って感じだったんです。

母親が「津波！」って。となりのおばあちゃんのところで言って、父親が「2階に2階に」って言って、それで自分はそれを聞いて2階に駆け上がったんです。階段駆け上がっている時に玄関で父親が母と妹を待っていたように見えたんです。それが最後の姿だったんですけども…。

母親と妹が隣のおばあちゃんを連れて家に来ようとしていたのか、父親が玄関先で待っていたようなんです。自分が2階に駆け上がった瞬間には2階ごと流されてしまったので。2階の窓ガラスが割れる音がしたんです。その瞬間にはもう、家が流されて。家の廊下が流されて消えて。その奥に見えるはずのない閑上中学校が見えて、グラングラン揺れているような感じで見えてました。それで、もう沈むと思って、たまたまベランダ側の窓が開いていたので、そこから抜け出したんです。がれきに挟まれたりトタンにつかまったり、また流されて流木とかにつかまったりを繰り返しながら、どこからか家の屋根が流れてきて、そこを目指してはいずり上がって、救助を待っていたんです。



救助を待ってる時も火事の火の粉が飛んできたんですね、自分のところまで。自分の近くにも人がいたんですね。父親とその赤ん坊で流されて屋根の上に乗っていた人、それとまた別に離れたところで流されてきた屋根に女の子がいたんですね。すげえヒステリックになってたんですよ、「お母さん！お母さん！」って言って。次の日、父親と赤ん坊のほうは自衛隊に助けってもらったんですね。女の子のほうはいなくなっちゃってて…。

火事がすごかったんです。家々が火事で全部崩れては燃え移ってたんですね、爆発も起こってましたし。その燃えさかる家の中に人がいるわけですよ。小学生くらいの姉妹が、もう、うん…。初めて、人が亡くなるっていうか、命が消えるっていうのを目の当たりにしまして、その、叫び声っていうのがいまだに耳に残ってて。

母親は、かまぼこ屋に勤めてたんですけど、従業員はみんな避難したみたいで、「具合悪くなくて会社に行ったら」って思うこともあるし。父親も、なんでその日に限って名取で仕事があったのかなとか、妹も家に戻らないでいつも通りに部活をしていればと考えることもあります。あの日は、家族が揃って助かったって人もいるんですけど、揃ったがためについてことなんですね、うちは。逃げる準備もしてたのに。だけど遅かったんですよ…。

1年前もあったんですよ、津波来るって。だけどみんな呑気でしたね、今思ったら。どうせ来ないと言って、公民館に避難する人もまばらだったし。町内会長も、拡声器を持って「逃げてください」と言ってたんですけど。あの日はもう、なんにもそういうこともなく、みんな自分の判断で動いてましたから。

地震の後、家の前を車が猛スピードで走っていく、そうやって逃げた人たちもいたんですよ。だから、五叉路で渋滞になってたという話聞くと、ああ、みんな避難してたんだみたいな。自分は避難できなかったという他の人とは違う体験だったんで。

## 避難生活

救助されて閑上小学校へ行った後に、館腰小学校に移ったんです。12日の4時頃、地震から24時間後に、自衛隊の方がボートで来たんですね。閑上小学校の方から。自分以外にも、火事を免れた家の方と一緒に救助されて。閑上小学校の体育館で毛布にくるまっていたんですけど、間もなく移動することになりまして、バスに乗って館腰小学校に行ったんです。毛布とかがいたっていたんですけど、次の日の夜になっても全然、ずっと震えが止まらなくて…。

館腰小学校でたまたまバイト先の方に会えました。その方が流れ着いて助かった小塚原の方と一緒に娘さんを探しに館腰小学校に来てたんですね。その後一緒に行動させてもらって。小塚原で家が残った方の家の2階で2晩泊まって、そのうち自衛隊の方が来て、ここも危ないですからってことで避難所の方に避難したんですね。

最初は文化会館に入りたかったんですけども、そこは人が多過ぎて駄目だったので、自分の母校である名取北高校で1週間ほどお世話になって。妹の担任だった先生や、妹と自分がお世話になった弓道部の顧問の先生もいらっちゃって。いろいろ話をしました。

その後は、隣の増田中学校に移動しました。増田中学校にいる時点で民間借り上げの手続きをしたので、避難所とアパートを行き来してってことになるんですけども、2か月くらいだったのかな。

1人になって心細かったのもありますし、避難所で一緒になった人、近所の人もいたんですけど、そういう人たちと話したりとかして、気持ちを保ってた部分はありますね。避難所がなくなってしまふって時にはちょっと不安になりましたけど。

父と母と妹は、自分が2階に逃げて流された時点でもうだめだと思ってました。親戚が東京と埼玉からこっちの方に来てくれました。叔母と一緒に探してくれました。1週間後に父親が見つかり、その次の日に妹が見つかって、その次の週に母親が見つかりました。閑上の火葬場で遺体を火葬することができたので、自分の場合は運が良かったですね。そのほかのこともいろんな意味で。もっと大変だっという人はたくさんいるだろうし。火葬するのも大変だっということです。

### 妹がテーマとなった演劇

妹の担任の先生が演劇部の顧問で、その先生が震災の年から、「妹さんを題材にした演劇書きたいんです」って、「いいですかね」って言われて、すぐにもう「お願いします」ってことでやってもらったんです。演劇は妹がテーマで、鎮魂の意味も込めて、ほとんどフィクションなんですけど、題材が閑上なんですよね。そしたら、いつのまにか東北大会で優勝して、今度全国大会に行くんだって連絡来まして。

この前、その先生が演劇部の生徒さんを日和山に連れて行って演劇のワンシーンをやったんですね。「閑上の風を感じさせたかった」っていうことを先生が言ってて。先生自身も、日和山に登って脚本書いてみたいで。それで、初めて来た生徒さんもいたので、感じるどころがあったのか、シーンとなってしまいましたね。

その先生は、定年後は閑上に住みたいって言ってた人で。閑上の魅力を語ってくれたんです。コミュニティが密なこととか、閑上出身の生徒さんが素直な子が多いとか、「なんか他の地域に見られない、いい部分があるよね。本人たちは嫌なのかもしれないけど」って言ったりして。それで再確認した部分はありましたね、「あー、閑上ってそう映ってたのかな」って。増田の方の人たちから見るとそう見えてたのかなって。閑上に対する愛着が湧いてきましたよね、そういう話聞いて。

全国大会に行く前に、名取市文化会館の方で閑上の人によってことで上演していただいたんです。それでご近所さんだった人とかいろんな人に連絡をして。それで来ていただきました。

こうやって、地元に残ってるから、そういうこともできたのかなと思ったりして。

### 閑上の人との関わり

いろいろ話を聞いて、自分これからどうしようかなって。ほんとに足取りがすんごく重いです、今。あの、なんか、なんだろう、震災をきっかけに、自分だけ時間の流れから取り残されてる気持ちになって、なんかうまくいってないなあって気持ちです。

今こうやって、閑上の人と話して、その時に「あー、そうだったよねー」とかって、そうやって心晴れる気分はするんですけども。ほんとに、避難所で一緒だったおばあちゃんとかによく遊びに行ったりしますから、よく、いまだに。もうそういうことでしか…。

あとは、保健センターのカウンセラーさんが毎年被災した人を集めて、毎年っていうかも

う、何か月にいっぺんかイベントやってるんですけど、そういうのに参加したりっていうことをやってますね今は。

震災前は閑上から離れるつもりだったんですけども、閑上のことあんまり好きじゃなかったんですけども、震災をきっかけにすっかり閑上の方にお世話になっているので。なんか、地元に残りたいって気持ちが芽生えましたし、どうにかして閑上に、っていう風な気持ちにも少しはなってるのかなっていうとこなんですよね、今。

### 閑上の人の気質

異様にそういう、人んちの細かい事情まで知ってる家が多いかなっていうか、話がほとんどそれってような。

中学校で授業受けてるときに、犬が田んぼ走っていると「あー、あれどこどこさんちの犬だ！」とかって言うてる人もいたし。ほんとに恐ろしいですよ。

ほんとにもう、そういう環境だったのでみんな親戚みたいな。もうそういうのがほんとに嫌で嫌でしょうがなかったんですけどね、今は心地いいんですね、すごく。家族がいなくなってしまったことが影響してると思うんですけど。

### 震災を経て

最初は、大学のカウンセラーを利用していたんですね。そのうち大学卒業になって、名取市の方の精神カウンセラーみたいな方を紹介していただいたり、いろんな被災地回ったりってこともしてましたね、去年は。南三陸とか岩手の方であったり気仙沼とか石巻。ボランティアみたいな感じで、見て回って、ひどいなって。

閑上もみんななくなっちゃったけど。そこで生活していかなきゃいけない大変な人たちの話を聞いて、複雑な気持ちになったりもしましたけど。

震災の後、ほんとにいろんな人と知り合いになって、震災がきっかけで被災者招待ということで、モンゴルに行ったこともありましたし、それで今でも交流ありますし、そのご縁でモンゴルの学生とか、閑上に連れて来たりってこともしたり。留学生のお手伝いみたいなこともしたり。

### 今後の展望

とにかく、今まで出逢ってきた人、これから出逢う人との交流を大事にしていくしかないかなって部分はあるんですけどもね。そういった意味では、恩返しってわけでもないんですけど、できる範囲で返していける人間になりたいと思っています。

## 地震の時

震災前は、閑上7丁目の「うらやす」（老人ホーム）のそばの、新興住宅地に住んでいましたが、津波で家が全壊し、全て流されました。震災前は一戸建てでした。父親は、まだ行方不明です。

震災の時は、津波にのまれて流されました。家において、先に父親が避難所の閑上公民館に行くと言ったので、貴重品を持たせてやりましたが、それっきりになりました。閑上公民館に避難した人たちが、閑上中学校に行かされて。父は、公民館に行くと言ってたから、公民館なら人もいっぱいいるから大丈夫かなって思ってた、その後に自分が避難しようとした時には、もう水が来て、そのまま津波に流されてしまって。

一晩中流されてました。次の日の12日の夕方に、ヘリコプターで引き揚げてもらって、夕方の暗くなるかならないか頃。周りは、がれきがいっぱいで、湖みたいになってました。寒かったですよ。その日の夜は、星が綺麗に見えてました。私は、がれきに掴まった状態で、下手に動いたり泳いだりするよりも、がれきに一晩掴まっていようと。その日のヘリコプターの救助は無理だから、次の日になってから救助が始まるんです大体。どうしても流された人が、ある程度まとまっていれば、まとまった所から救助が始まるから、1人の場合だと最後になると思うんですね。先に救助した人から、こっちの方に流された人居るよって感じで次々に探していくから。

流されてる時に方角が分からなかったから、夜、閑上の町が燃えていたので、こっちの方が閑上の町で、自分は多分この辺にいるんだなって、自分のいる場所が大体分かったっていうか、閑上大橋の上に赤色灯ついてる車が見えて、多分このへんが大橋なんだなって。暗くなった時、自分がどこの方向に向かっているか場所が分からないから、燃えている閑上を見て、自分の位置を推測していました。

## 自衛隊病院へ

救助された後は、仙台駐屯地の自衛隊病院へ運ばれました。自衛隊病院で「民間の人は、ほんとは受け入れないんだけど、今回は特例で受け入れる」って言われて、結局ある程度大きな病院っていうのは、もう満杯なんですよ。そこで点滴を受けて、やっぱり低体温症になってたんです。でも逆に水に浸かっていたのである程度よかったと思うんですけどね。自衛隊病院には、1週間以上はいました。その後は、自衛隊の人に送ってもらって避難所に行きました。

## 避難所に移る

避難所は文化会館でした。私が行った時は、ある程度落ち着いていて場所も空いている状態でした。最初から居た人に聞くと「文化会館は、かなり多かった」って言っていました。避難所での食べ物が、やっぱりつらかったですね、結局きちんとした食べ物じゃないですよ

ね。おにぎりとちよつとした缶詰だったから、それで栄養状態が悪くなって体調崩した人が多かった気がします。朝は菓子パン、昼も菓子パン、夜は缶詰とかでしたね。偏った食事になるんですよ。昼食は「萩の月」(お菓子)だけの時もありましたね。あとは、コンビニなどで自己調達しました。

結局、体ひとつしかないから、そこから始まりました。着の身着のままです。あと、お風呂は入れなかったですね。お風呂は毎日行けたわけじゃないですね、男性の場合はある程度我慢できますけど、女性の人はずらいたらうなと思って。あとは、替えの下着とかも手に入らない状態でした。着替えは、もらったり、もらうっていうか支給されて、1人何枚までとかそういう感じでした。

文化会館は、ペットを飼ってる人が結構いて、鳴き声と匂いなどが大変でした。避難所の中に動物も一緒にいたから、同じスペースに。その後、多分5月頃に上と下に分かれました。動物飼ってる人たちは2階に移動して。

まだ寒い時期だから、風邪ひいてる人たちは隔離されてました。

避難所には、一番最後まで残ってました。一番最後に出て行ったから、6月頃ですね。避難所では、物資を運んだり、あとゴミの片付けとか、自分たちでやらざるを得ないから、ある程度若い人が居ないとできませんよね。自主的に、やらざるを得ないんですよ。結局、特定の人がやるようになる。避難所生活で疲れきってて、誰だってやりたくないですよ。

## 父が見つからない

避難所にいるときは、毎日父を探しました。でも見つからなくて。分からない状態だから。閑上公民館から閑上中学校に行く途中に、津波にのまれたのか、どういう状況なのか分からないんです。何でそういうふうになったかっていうのが。

## 仮設に移って

今まで一戸建てにいたから、一戸建てと仮設住宅の違いがはっきりと分かりました。仮設住宅での夏の暑さと冬の寒さ、季節感は完璧ですよ、違う意味で。

やっぱり、自分が初めて仮設に入って、仮設の生活っていうのがこんなに大変なのかなっていうのが分かりました。よくテレビのニュースを災害が起きた時に大変だなんて感じて見てたんですが、自分が同じ体験をして初めて分かるっていうか「ああ、こういうのが、被災するっていうことなんだ」って。

仮設住宅は、空間が広いわけじゃないですよ、一戸建てにいる時とは違い、ご飯食べる場所、くつろぐ場所、寝る場所、あと一番は、お風呂の狭さ。お風呂が狭いんで、買い物に行った時に、極楽湯(銭湯)に行って、大きいお風呂にたまに入ってきます。あと、お風呂の「追い炊き機能」がなくて、「追い炊き」がしばらくできませんでした。今は改善されましたが「追い炊き機能」を付けてもらうのに1年以上かかったと思います。

閑上って言っても、顔は分かるんですけど名前までは分からないっていう方が多かったですよ。ここの仮設っていうのは、何丁目関係なくみんな入ってますから。しばらくは、みんなただ挨拶するぐらいですね。ようやく集会所で会って話すようになったぐらいで。た

またま集会所の前を通って、声をかけられた時に中に入って行くっていう感じで「ちょっと作ったのあるから食べていけ」みたいな。

### これから

今後のことっていうと、結局現地復興がいつになるのかっていうことですよ。やっぱりみんな気にしてるのは、目に見える動きが無い状態ですよ。そのまんまの状態がずっと2年半ぐらい続いてるわけだから。いつになれば、はっきりするのかなって。とにかく、目に見える形で始まって欲しい。結局みんな目に見える形で始まってないから、困ってるんですよ。「何年後にどうなって、何年後にこうなりますよ」っていうのが分からないから。仙台市と岩沼市に挟まれて隣の市の進み具合が分かるから、どうしても自分たちの閑上の状態と比較して、閑上の動きが分からない感じです。

結局は、戻るしかないんですよ、余裕があるわけじゃないから。余裕のある人は、一戸建てとかマンションとか買うことができますけど、余裕がなければ探すこともできないし、買うこともできないから、閑上に戻るしかないんですよ。戻ってもう1回閑上に住むってことしかできない。災害が起きて再建するっていうことは、自己再建の部分が大きいですよ、どうしても。それはどうしようもないんですよ。余裕のある人もいれば、余裕のない人もいるっていうのが、世の中だから。ただ、みんなが思ってるのは、いつになれば戻るか分からないっていうことですよ。

### 閑上の良いところ

夏は良かったですよ、窓を開けてれば風が来たから、涼しかったですよ。冬もそれほど寒くないし。あとは、夏祭りの花火。閑上でやるから意味があったんですよ、あの花火は。懐かしく思い出します。それと閑上ビーチかな。やっぱり閑上っていうと港町だから夏の賑わいが印象的でしたよね。

あとは日和山。今、日和山に登って眺めると、町があった状態が思い出されます。今は、更地だけしかないから。

### 地震の時

前は北海道で学校の先生をしてました。生まれは埼玉で、育ちがもう閑上なので閑上人です。中学校通りに住んでたんですね。建売住宅を2軒買って。「うらやすデイサービス」と私たち家族と、もう玄関と玄関向き合ってたから、誰が来たとか全部分かるぐらいでした。

津波の時はスーパーに行っていました。姉が、7丁目を出て1丁目にある借家に入ったんです。その日は閑上中学校の卒業式が終わったばかりだったんで、偶然居合わせて。姉の子どもは男の子3人なんですけど、1人は小学生、1人は宮城県農業高校生(下増田の沿岸部に立地)、1人は中学生。私は、中学生の子を連れて、車で増田へ買い物へ行きました。

買い物をしていたら、突然みんな逃げていくんですよ。最初は何が起きたか分からなくて、そしたら陳列物がだんだん落ちてきて、足場が悪くなってきたんで、私も一緒に外に出たら、尋常じゃない揺れに出くわしたっていうか、立ってられないぐらいの揺れで。地べたに這いつくばって、「きゃー」とか「わー」とか。そしてクラクションの音も「プープープー」と鳴っていました。

それでしばらく経って、中学生の甥っ子と2人で頭に浮かんだのは、閑上にいる姉と子どもたち、宮農高校に行ってる子どものことでした。私も理性を失ったみたいに、ハンドルを握って閑上に戻ったんです。途中の道路も大変でしたけど、戻って普段CDしか聴かないので、ラジオに切り替えるスイッチが分からなくて。大曲を過ぎて運送会社のあたりで、「何で町場(内陸)に行く車並んでるんだろうか」と思って、そこで初めて偶然にもラジオをつけました。そしたら「大津波警報、大津波警報」というのが聞こえました。みんな車を乗り捨てて、仙台東部道路に首根っこ掴まれてあがる女性もいました。

そうこうしてるうちに真っ黒い壁が見えました。今思うとその真っ黒い壁の津波の中で、白黒白黒くるくるって見えたのは、たぶん車や船だったんだと思います。ぐるぐるぐるぐる回って。海側から。もう車は渋滞でした。それでも私は閑上の姉と姉の子どもの所へ戻ることに頭がありませんでした。そしたら津波を見た甥っ子が、「おばさん、僕死にたくない、僕死にたくない」って言われて、「はっ」と正気に戻りました。「ああここで死んだらまずい」って思って。車と車の隙間が少ししかなかったんですが、そこにもうギリギリ入ってバックミラーもサイドミラーも見ずに無我夢中で突っ込んで、Uターンして、増田に向かって走りました。そしたら大曲の白十字のところで、トラックが「もうこれ以上ダメだ津波でダメだ」ということで立ち往生してました。そこまで道路が空いてたんで、道路を逆走したんです。逆走して白十字の北側の細い道に抜けて、四郎丸方面へ社会保険病院まで逃げたんですが、そこからが大変だったんです。社会保険病院の前から、今度は車が渋滞して動かないんですよ。ガソリン無駄にできないから、エンジンをつけたり止めたりして、バイパス裏の道を通って。

夜の8時頃にはもう荒浜で200人が死亡というのもラジオで聞いてたんで、「ああ、とんでもないことが起きたんだ」というのが改めて分かりました。それでもとにかく避難しなくち

やっていうことで、深夜2時までずっと並んで、名取北高校のセブンイレブンのところから入って行って、増田中学校に避難したんです。

### 増田中学校に

たき火を炊いていました。体育館の中に入ろうと思えば入れたんですけど、余震のたびに「キャー」「ワー」って外に出てくるような状態でした。その時は、軽装でした。車での買い物だったんで、3月でしたけど私もサンダル履きで、ちょっとジャンパーひっかけて、車の中に毛布も何にもなくて、後ろの座席の薄い座布団かけて。甥に「寒いけど、ガソリン、何かあるか分からないから使いたくないから一晩車で寝ようね」って言いました。甥はまだ怯えていました。「おばさん、地震、おばさん、地震」って、「うん分かってる。ここだったら津波来ないから大丈夫だから」って。でも私の頭の中では、姉と2人の甥っ子のことで、寝れませんでした。携帯もつながらなかったからです。

朝になってちょうど私の隣に車が1台入ってきたんです。泥だらけになってたので、「どちらから来ました」って聞いたら、「閑上から」って。「閑上どうなってますか」って聞くと、「もう見るも無残な姿、無残な町になってました」って聞き、姉と子どもは、もうだめなんじゃないかって思いました。その後、増田中学校の教頭先生に「中入っていいですよ。寒いでしょう。毛布もあるから入ってください」って言われて。体育館に入って、それでもやっぱり姉と子どものことが頭の中にありました。

兄は単身赴任で福島にいました。母が亡くなって一周忌の後に地震が起きました。私は一人暮らしでした。もし母が生きてたら、「津波なんか来ないから」って言っていたと思います。ちょうど1年前がチリ地震で、避難勧告が出たんです。その避難勧告の時はしぶしぶ避難した母だったんです。一周忌を終えてやれやれってとこで今回の地震が起きたんです、多分母が生きてたらきっと、体育館での避難生活はだめだったろうねって。だから、兄弟でよく話すんですけど、まあ早く死なれて悲しいけど、あれでよかったねって。お墓にも納まったし、一周忌もちゃんとやったし。

教頭先生にすがるって、「姉と会えますか」と不自然な質問ばかりしてました。「ここ追い出されませんか？大丈夫ですか？」とか質問して、「会えるから大丈夫だ。きっと会えるから」って言われました。2日目にやっと再会できました。後で聞いたら、姉は、子どもを連れて歩いて、閑上小学校に避難したそうなんです。

姉たちは私たちを探して館腰小学校や増田小学校などいろんな避難先に行って、それでも見つけれなくて、市役所に行って探して、最後に増田中学校にたどりついたそうです。

そして姉は、今度1番上の宮農高に行ってた息子が心配で。のんびりやで、そのうちなんとかなるだろうみたいな感覚を持ってる子なんで。姉はもう泣きじゃくって。私が市役所に確認に行った時、濡れた靴を持って、その子が偶然歩いてたんです。そしたらその子は小学校の向かいの民家のガラス窓を割って入って、7~8名のおじいさん、おばあさんたちを2階にあげて、自分が逃げる時に冷蔵庫から食パン2袋、持ってたやつを食べさせてあげたそうです。だからお礼の言葉がたくさん来ました。甥っ子さんに助けてもらったって。

増田中学校避難所には3月から5月までいました。途中で移らなかったです。名取北高校で



入学式が始まるというので、逆に入ってくる人がいるくらいでした。増田中はすいてたんです。そこに名取北高校の体育館にいた人たちが入ってきましたが、来たのはやっぱり閑上の人たちでした。

### **仮設住宅へ**

箱塚桜仮設住宅に入りました。最初は、姉が1丁目なので、私も1丁目の登録で仮設3部屋あるのを借りました。

その後兄が仕事を辞めて戻って来て、それで6人では住めないってということで、市の復興部に3度も4度も足を運んで、箱塚桜内に部屋を借りるためにお願いしに行きました。区長さんが口をきいてくださって、今の部屋に住んでいます。

最初知り合いはいませんでした。元の地区では役員やってたんですね。自治会の総務で。それで1丁目の方と仲良くなることができました。今は、どこに誰が住んでるとか、名前も分かるし顔も分かるようになりました。

### **今後は**

兄弟ばらばらになっちゃいました。兄は今年の2月に仕事の都合で京都に行きました。今私は一人暮らしです。姉は閑上に帰りたくないと言っています。私は資金もないですし、体が不自由なので、集合住宅に入ります。まあ宝くじでも当たれば家でも建てたいんですけどね。

津波が来たから閑上は嫌です。今でも地震の後テレビを見て、「念のために津波に注意してください」ってコメントを見ると、やっぱり動揺しますよね。

### **閑上の良いところ**

近所付き合いは良かったですね。これに尽きますね。亡くなったことを聞いて残念なご家族の方もいました。要は、閑上っていうのは、幼稚園・保育園、小学校、中学校って全部閑上の学校なんで、そこから高校に行ってバラバラになったりするだけなので。だから親御さん同士もみんな知っています。

## 地震の時

震災前は、閑上7丁目のアパートにいました。平成12年に来ました。それまでは、ずっと北海道旭川にいたんだね。

娘が、閑上に嫁にきてたから、まあ近いほうが安心だからということで。

地震の時は、病院から退院して家にいた。退院して1週間ぐらい経ってから地震が来たんだね。

俺寝てたんだけどもやっと起きて、洋服ダンスの前に寝てたものだから、倒れたら下になっちゃから押さえてたら、高校2年生の孫が来て、「そんなことしてたら下になって死んでしまうから、はやく外に逃げろ」って言われて、外に逃げたら、「今お母さんの車呼んでくるから」って、そして着の身着のまま閑上小学校に避難しました。

妻は、平成21年の11月に亡くなったんだ。妻が倒れてすぐ、俺も具合が悪くなって入院した。俺は、ばあさんの49日も正月も、病院にずっといたの。

病気のため、インシュリンを朝晩打たないとだめなんだが、ぜんぶ津波で流されて、救急車で運ばれて赤いのをしばられて、「付けておいてください」と、この目印付いてる人は「1番に救急車で運んでくれるから」って言われました。

閑上小学校に避難して、次の日に名取北高校の避難所に行って、10日ぐらいいて、それから増田中学校に行きました。増田中学校には、しばらくいたな。仮設住宅に来たのが5月20日だから、それまでいました。

## 仮設住宅へ

仮設住宅に申し込んで、運よく当選しました。娘の家も流されたので、娘の家族は、借家に入ったんだ。

ここは全然知らない人ばかりだよ。同じ閑上だって、町内会が別だったら分からないからね。だから覚えてる人は誰もいなかったね。仮設に来た時歩けなくて、避難所にいた時も歩けなくて、学校行けない福島の看護学校の生徒が病院の送り迎えをしてくれて。

仮設の自治会長さんが俺のこと一番心配してたね。集会所でなんかあると呼びに来て、また終わったら送ってくれる。

食事は、元々家内が具合悪いから自分で作ってたから、まあなんとか。病院はタクシーで行きます。

仮設に来て気持ちが落ち着いたっていうか。ほとんど知らない人ばかりだけど、みんな親切だから、本当に気持ちは落ち着いた。避難所にいるより気持ちの面ではずいぶん落ち着きました。集会所では、カラオケとかお茶会とかに参加してます。

この仮設に来てからも、1週間ぐらい入院しました。自分で電話かけて救急車呼んで。今は調子いいですね、おかげさまで。

## 今後のこと

この仮設がなくなれば、市営住宅か公営住宅に入って。この前申し込みはしたんだけどね。1LDKでいいからって言ってね。

ほんとに今、仮設のみなさんの顔を大体覚えてきたから、生活するのは安心してはいるけどね。でもまたバラバラになるからね。それこそ公営住宅の5階建てのアパートなんて当たったら、全然分からなくなるよね。

一軒家なら、付き合いができるかもしれないけど、5階建てのアパートになったら隣の人ぐらいとは、付き合いができるかもしれないけど。

## 閑上の印象

正直、印象はあんまり良くなかったんだけど、仮設に来てからは、ちょっと閑上の印象が変わり、みんないい人だね。会ったら朝・昼・晩にあいさつして皆さん声かけるから。自分も極力そういう風に声かけるようにしてるけどもね。

## 地震の時

今は、息子が1人、同じ団地にいるんです。近所です。後は、お父さんと私が2人で住んでいます。長男たちは愛島です。もう1人の子は、上余田の方でアパートを借りて向こうに行きました。下の娘は一緒に仮設住宅で暮らしていましたが、この間、結婚して、今は別の場所で暮らしています。

家族は、地震の時は5人で住んでいました。

1回目の地震が来た時は、まだそんなに物が倒れていなかった状態だったから、「あっ、やばいな」という感じで。たまたまちょうどその日は、息子が2人いました。強い地震が来たんで、私は腰が抜けたみたいな感じでしばらく動けなくて、家から出れなくて。お父さんと息子に抱きかかえられるように外には出たんですけど。その時に、ちょうど消防車が来て「10mの津波が来るから逃げてください」と言われました。

## マックスバリュへ避難する

たまたまその時、長男が閑上小学校から、地震後に走って来たので、息子の長女が小学校1年生だったから、学校に迎えに行ったんだね。そしたら学校で、子どもは帰されなかったみたい。待機ということ。そこからすぐ長男が我が家に向かって走ってきて、「お母さん、すぐ逃げろ、津波来るから」と。 「10mの津波が来るから、冗談じゃねえぞ」と言っていた。「早く車乗れ、早く乗れ」と。玄関の鍵閉めようとしたら「大丈夫だ、泥棒なんか入らないから」と。

1丁目までは津波が来るとは思ってなかったのね。だいぶ離れているから。だから息子は「帰ってきてから片付ければいんだから、鍵なんかかける必要ないから早く逃げろ」と。これを言われなかったら、多分、私らは逃げなかったと思う。息子が走って来なかったら多分、私らはもたもたしてたと思うので。ここまでは津波来るとは思ってなかったからね。ただ、今考えてみれば、2階はそのまま残ってたわけだから、もしかしたら2階に上がったたかもしれないけども、私たちは息子が来なければ流されていたと思う。

息子が車運転して、家にいた息子と、お父さんと私と。長男が運転して逃げたんだけど、長男は、海に向かって車を走らせたのね、4丁目に向かって。「どこに行くの?」って私が聞いたら、「いや、妻と子どもたちがいるから…」って。「家で待ってるから」と。

そっちに向かって行ったら、車が混んで、津波を見に行くっていう感じの人たちがいるんですよ。追い越そうと思っても追い越せないから、後ろでクラクションを鳴らして、「前から車来ないから、いいから右走れば」と言われて右走って。長男を4丁目の家の前で下ろして、「お母さん先にマックスバリュ(スーパーマーケット)に行ってる。俺は必ずそこに行くから、そこで待ってる」と言われて。私らはこっちから逃げれば車が混んでるから、「火葬場の方に行け」と言われて。火葬場の方は誰も通ってないから。「車ぶっ壊れてもいいから早く逃げろ」と言われて。息子は息子で「俺の車だと思ってる壊すなよ」と冗談言いながらも私

らは必死になって逃げたんですよね。車は本当に通ってなかった。走っているのは私らだけだった。

ところがミニストップあたりまで行った時に、後ろから波が追いかけてきて、「ああやばい、ああ…ダメかもしれない」と思った。

高柳かな？あの辺りで水が止まったんですよね。だからマックスバリュまで行った時は、水はもうなかったんですけど。一晩ずっと外にいて、火がものすごかったですよね。閑上がもう真っ赤に燃えて、爆発音も聴こえて。ドーンドーンって聴こえるから、「うわー」って思ってた…。

三男が、利府町で新幹線の仕事をしてたんです。利府から電話がかかってくる、「新幹線のトンネルに閉じ込められて出れない」って連絡入ったんですよ。次男が「助けに行くぞ」って。真っ暗でしょう？ 信号も止まって、仙台の長町あたりまで行くのに何時間もかかったね。電話がかかってくる、「誰かに助けられて大丈夫だから、とりあえずそこから脱出はできたから」って言うので、「長町駅で待ってるから」って言って、そこで合流しました。

「みんなは？」って言うから、「みんな分かんない」って言って。「お兄は？」って言うから、長男は途中4丁目の家の前で降ろしたと話したら、「兄貴は自分が死んでも家族は助けるから」って言った。「諦めんな」って三男に言われて、「でも無理でねえか、あの時間では…」って言ったのね。本当に津波が来てるから、「無理だなあ」って言ったの。でも「大丈夫だ」って何回も言うので、「諦めるな」って何回も言われて。「でも絶対無理だよな」って何回も言ったの、私は津波が頭から離れなかったからね。

## 息子たちとの再会

一晩中マックスバリュで待ってたんだけど来なくて、連絡も取れないし、半分諦めてたんです。一晩明かした次の日、市役所に行ったら、もうごった返してたので、どこに行けばいいのかなと思って、文化会館に行ったんです。たまたま文化会館でうちの親戚の人に会って。息子が友だちから、親が見つからないから探しに行ってくれって言われて、その人と一緒に出かけて、「お母さんは絶対にここから動くな」って言われて、私一人置いていかれました。

私は文化会館で一人残されて、誰とも連絡取れないし、3日目に、長男たちが生きてるってことを知らされました。「息子さんたち元気だよ、館腰小学校に避難してるから」って言われて、館腰小学校に行ったんですよ。そしたら保育所の退所式の後だったから、嫁さんはスカートはいてブラウス着て、着の身着のままです。そのまま逃げたのでとてもかわいそうでした。

## 息子たちの避難行動

息子が助かったのは、判断力。車に乗せてすぐ逃げようとしたら、家に嫁さんたちがいなかったようです。

自分の住んでるところの隣の家が地震でペチャンコになってたので、いなかったんだ。嫁さんは、市議員さん(亡くなって今でもまだ見つかってない)から、「逃げろ！」って言われたが、「パパを待ってるんです」って言ったら、「先に逃げろ！待ってるんだったら逃げろ！

津波来るから」って。子ども1人おんぶして、2人手つないで、走って逃げたんだって。議員さんに「パパ待ってないで逃げろ」って言われて、その時逃げなかったらたぶん…。

閑上の太鼓橋(開運橋)の手前で息子が、子どもの服が見えて、クラクション鳴らしたんだって。そしたら「パパの車だ」って。そこで拾って、「早く乗れ、早く乗れ」って言ったものの、車は渋滞で前に進まない、五叉路のところももう車がごった返してたから、そのまんま行けないと思って。

歩道に車を乗り上げて、「ママ、ここから小学校まで走るぞ」って。娘が待ってるから。幼稚園の子どもを脇に抱えて、3歳の子どもの背中の服を持って、ママはパパのベルトに手を回して、「絶対に離れんなよ」「走るぞ」って。車を歩道に乗り捨てて、そこから走ったんだね、小学校に。

うちの姉さんも80歳なんだけど、その5歳の孫を抱えて走って、足をケガしても気づかなかったんですね。「よく、その子ども抱えて…」って自分で言ってました。「馬鹿力って出るもんだな」って後で言ってましたけどね。

小学校の階段の2段目を上がった時に、「パパ！」って。「後ろからなんか変なのが追いかけてきてる！」って幼稚園の孫が言うので、後ろを振り返ってみたら、黒だか茶色だか分からないけど、ゴーって音が聴こえて、ドーンっていったみたい。だから危機一髪だったのね。本当にそれ聞いた時は私も「ああ良かった、助かったんだ」って思ってた。

## 避難所での生活

子ども8人とも全員無事だったんですよ。行動はバラバラだったけど、3日～4日は連絡取れなくて、お互いに探し合いはしたのね。ただ文化会館に行った時に雪は降ってるし、食べ物は何もなし、冷凍のおにぎり1個にお水頂いたんですね。コンクリで、3人で毛布1枚で。ちょうど親戚2人と、年寄り2人といたから、その人たちに毛布3人でかけて、椅子に座って一晩明かしたんですよ。

次の日、朝市の会長が来て。朝市で働いてたのね、閑上にいた時、もう20年以上働いてた。「今な、俺、市に交渉して、温かいもの何でもいいから作ってやっから」って言ってくれた時、涙ポロポロ出てきて、嬉しくて。それから次の日、味噌汁と冷たいおにぎりだったけど、頂いた時には、嬉しかったですね。

あと、うちの娘、いろんなところを回って探してくれてたみたいだったのね。私らが連絡取れないから。その時にカップラーメンとお水を持ってきてもらった。

お父さんが具合悪くなって、私、登米市から閑上に嫁いだんですけど、実家に頼んで、お父さんを2か月ぐらい預かっていただいて。閑上にもしばらく連れて行かなかったんですよ。お父さんは、閑上生まれの閑上育ちだからショックが大きいですよ。歳も私と10歳違うので、ショックも大きいかなと思って。

落ち着いて片付け終わってから、初めて閑上に連れて行ったんですね。自分が生まれ育った閑上には戻りたいって今は言うのね。今まだ何もなし、いつ戻れるか分からないし、私も迷ってる段階です。

## 仮設住宅へ

自宅は閑上3丁目にあったんですが、1丁目に引っ越したんです。流されたのは3丁目の家だったんですよ。1丁目は、全壊はしなくて、2階は大丈夫だったんですね。下だけはぐちゃぐちゃだったけど。1丁目の人たちが、先にここ(箱塚桜)の仮設住宅が当たったんですよ。

仮設住宅が当たった時、市役所に行って、「子ども優先、お年寄り優先、それから障害者優先」って言われたのに、「何で私らみたいなピンピンしてるのが最初に当たるの？」って聞いたら、「1丁目から順番に仮設が決まったんです」って言われて、3丁目、4丁目、5丁目が5月の最後だったのね。それまで私は仮設に入らずに、一緒に文化会館に最後までいたんです。一番最後に、「今日が全員まとめて一緒に引越した」って言われて、私も安心してここに来たんです。

長男家族たちは、愛島東部に入ったんです。私は1丁目にいたからここに来ただけでも、やっぱり周りの人は知らない人ばかりで、最初は、引っ越したばかりだったからね。でも今は「住めば都」ってね。皆周りの人もよくしてくれるからね。

## 今後の展望

私の実家の登米は、山なんですね。ちょうどうちの実家の目の前に仮設が350世帯、南方町鴻ノ木って所に、石巻の人たち、三陸の人が入ってきてるんですよ。この間も行って来たんですけど、お盆に。その人たちも言ってたんですけど、私たちと同じ境遇だから、同じような気持ちで。あっちもお家がいっぱい建っていて、うちの近所にも家がいっぱい建ってるんですよ。三陸の人たちで戻らない人たちはもう家建ててるんですよ。建ててる人は結構いましたね。やっぱり不安だっけ。

私らも今そうなんですよ。ちゃんとした、心配のないような形にして欲しい。でも、今のやり方では、私は気に食わない。閑上には何もないですよ？

閑上の人口がないし、みんな家をもう建ててるから。戻るって人の年齢みても、75歳以上の人たちだったり。

うちのお父さんだってそうなのね。75歳だからね。「お父さん、ここに今から2年いるか3年いるか分からないけど、どうする？」って聞いたら、「閑上生まれだから閑上には戻りたい」って。でも子どもたちは「行きたくない」って。この間みんな集まって話し合いました。そしたら「戻りたくないって人が多いみたいだね」ってお父さんが言った。でも、お父さんの気持ちも分かるのね。生まれ育った町だから、それは分かる。今、話を聞くと、何も答えないし。今日のインタビューも本当はお父さんに来てもらいたかったんですよ。「今日お父さん行って、話してきな」って言ったら、「行かない」って。

(復興の)建物自体が、今、立てる場所自体があまり思わしくない。お墓の上に立てるような感じですよ。見るとね、計画が。そういうのでなくて…でも場所がないからそういうのかなって思うんですけどね。住めばまた、元通りにはなるとは思うんですけどね。まあ住んでみないと分かんないけど。

学校だって、孫たちじゃなくても、「閑上小学校に行きたい、転校したくない」っていうので頑張ってるけど。でも今、人数がないのね。1年生で8人、来年は1人しかいない。入るの、厳しいですよ、学校だって。今この仮設にいる人だって、「小学校にはもう戻れないでしょ

う」って。うちの4年生の孫だって、小学校には入れないでしょ。そこまではできないですよ。時間的には難しいと思いますね。

### **閑上の良いところ**

私は、朝市で24年ぐらい働いて。生協でも委員さんやりながらやってましたので、閑上は本当は住みやすい場所なんだよね、何事もなければ。私は山の方から海の方に嫁いできたんだけど、閑上のお友だちもみんな和気あいあいで、朝市で働いてるから。あと、新聞配達もしたり。閑上は、場所的にはいい所でしたよね、津波さえなければ。

閑上の家に行った時は、涙涙で。孫がまだ何年も過ぎさない閑上だけど、土台だけ残ってたから、土台をピョンピョンピョンって越えて歩いて、「ここがばあちゃんの部屋、ここが台所」とかって歩いた時に、私、涙ボロボロ出てきて、ちょっとしか孫がここで生活してないのになって。孫とすれば悲しかったよね。家がなくなるっていうのが、今でも写真に残してあるけど、本当にね。

やっぱり閑上はいいですよ。3丁目は日和山の真下に家があったんですけど。でも今見ると、日和山まで歩いていると遠いなって感じてたんだけど。

### **前回の津波警報**

前の時は、津波は来なかったからね。来るって言って逃げて私らはこっちまで逃げて、娘と2人で待機して、「大丈夫だから1回戻るか？」って戻ったら、入れられなかったのね。「まだ津波が来るかもしれないから入ってダメだ」って言われて。そして火葬場の方に行ったんだけど、警察と消防車が入って入れなかったのね。でもその日は津波、来なかったんだけどね。だから今回も来ないと思ったんじゃないんですか。みんなそう思って、逃げない人はみんなそうだったんですね。前にそういうことがあったからだと思います。



### 地震の時は

地震が、あまりにも強く長い揺れだったので、これは直感的に津波が来ると思いました。でも私は、小さい時から「閑上には、津波は来ないんだ」と教えられていました。金華山沖で津波が分かれて閑上には来ないで、気仙沼や三陸の方に行くっていうことでした。

私の家は、築50年と古かったので、地震で潰れたのではないかと心配で、家に向かいました。家には、妻と娘と孫2人がいたから。行く途中で、みんな道路に立っていたので「なんだ、あんたたち避難所へ行った方がいいよ、ここにいちゃ危ないよ」と、とっさに言った記憶があります。「津波来るからね」って。私は、消防も来ないうちにそう言って歩いてました。そしたら「どこに避難すればいいの」って聞かれたので、「避難訓練を上町町内会で前にやるでしょ。避難所は中学校か公民館だって。上町の閑上中学校に行きなさいよ」と言って、「とにかく早く避難しなさい」と伝えました。家に着いたら、うちの駐車場に近所の方が20人ぐらい集まっていました。私は家を見て「ああ俺の家まだ立ってたんだな」って思ったね。立ってたんだから、ちゃんと。

妻と2人で近所の方20人を避難させましたが、小学校5年生の孫がまだ帰って来なかったので、私は小学校へ向かいました。空港通りの道路を行ったら、みんな道路に立っていたので「とにかく津波が来るから、小学校が近いんだから小学校に避難しなさい」って言って小学校に入り、3階に行ったらそこに孫がいました。小学校では、地震が起きてから体育館に避難させたいのですが、必ず津波が来るからと、急いで3階に避難させたようでした。

私は、自分の家に行って通帳と権利証だけは取ってこようと思い、家に向かいましたが、途中で北区の裏側に40軒ぐらい家が建っていますが、そこでもみんな道路に立っていたので、その人たちに「とにかく小学校がすぐ近くだから小学校に逃げろ」と叫びました。家に着いて玄関を開けたら、いろんなものが倒れて散乱していて、2階に上がれませんでした。それで、あきらめて自転車で妻が避難していた中学校に私も避難しました。その10分後くらいに、津波が来るのが見えました。3階に上がったら、空が真っ黒で津波が膨れあがって、みんな「あらー、津波だ」ってびっくりしていました。さらに屋上から見たら校庭に青い津波（本当に海の青いやつだった）が来て、これは校舎が飲みこまれるんじゃないかと体が震えました。船や家などがみんな流されて来て、中学校の2階にぶつかりました。そして「助けてください」って声が聞こえましたが、誰も助けられませんでした。五叉路が地震による事故で車が止まっていたので、消防署の裏側から空港に抜ける道路にも車がたくさんいて、そこに大きい波が来てみんなパニックになって降りて逃げるんだけど、囲まれてしまって。2階からそういう光景が見えました。

私は、一晚中閑上中学校にいましたが、停電で寒かったです、あの時は。濡れた人の着ているものを脱がせたり、ライトで部屋を照らしたり、携帯ラジオで情報を聴いたりしていました。

## 中学校に避難その後

翌日、私たちは閑上小学校まで歩いて行きました。閑上中学校には200～300人近くいたと思います。周りにはまだ水があり、そこを裸足で濡れながら歩いて小学校へ向かいました。

その後何台もバスが来て、子供たちもみんな移動しました。閑上小学校でバスに乗ったら「みなさんは、第一中学校に避難します」と指示されました。ところが第一中学校まで行ったらいっぱい、館腰小学校の体育館に移動させられました。館腰小学校には、体育館に500人くらいいました。みんな風呂にも入れない、ご飯も食べられない、水も飲めずに体育館にいました。そして、ものすごく寒かった。その後、人数が多いので、館腰小学校の教室に200人くらい移動しました。私は、体育館に残りました。残ったのは、上町町内会の人が多かったようです。その後が大変で、一番ひどかったのが女性のトイレ。電気も水道も止まっているから、バケツを30個以上集めて、プールから水を汲んでそれでトイレを流しました。2日目かな、自衛隊が来ました。パンなどのいろんな配布もありました。最初は何もなく、灯油もなくて、その後ストーブは点いたんだけど、寒くて。そういうことが1週間か2週間続いて、防寒もやっとで、風呂にも入れないし、トイレが一番心配で。水は、ペットボトルで配給されました。医療班にも来てもらいました。

サッポロビールさんとかいろいろな所から支援されて、いろんな物をいただきましたが、1週間の間は大変だったですね。風呂にも入れないし、着の身着のままだから、ホコリがすごくて、マスクを渡されて、マスクをして寝てました。ちょうど寒いから良かったんだけども。

その後、当番制でトイレ掃除や体育館の掃除を始めました。掃除は館内が乾燥していたので、濡れたモップで行いました。

自衛隊さんが来て、炊き出しをしてもらい、あれは本当に有難かった。自衛隊は、1か月以上いたのかな。本当に自衛隊には感謝してます。それから警察官や市の職員にも、今でも感謝してます。復興が遅れて市長の悪口を言ってるけれども、市長だって大変だと思うのね。

それから「今度、風呂に入れるようになったから」って言ったら、みんなが「わー」って騒いで、「極楽湯（銭湯）」にバスに分乗して送ってもらいました。風呂に入れたのが一番良かったね。ところが、風呂も次々と待ってるものだから、30分っていう時間制限があり、しかも下着や靴下などが無料配布されていたので、それをもらうのに時間を取られてしまい、実質20分くらいしかお風呂には入れませんでした。2回目以降は、1時間くらい時間があり、ゆっくり入れました。本当にパニックになりましたね。物が無くて風呂にも入れず、水も心配で。それが実感ですね。

## 仮設住宅での生活

避難所生活を1か月続けた時に、仮設住宅の第1回目の公募がありました。箱塚桜団地は、仮設住宅では一番最初に出来上がり、閑上の上町町内会の方が多く入居していました。入居後に市から私に「自治会についてはお任せします」と言われたので、前の上町町内会の役員をやっていた方をお願いして、仮設自治会の役員をやっていただきました。役員が決まり、ここの団地の名称を決めてくれと言われて、その時は桜が満開で、5月13日だと思いますが、

その年は遅かったんだね。それで「桜」と付けようとなって「箱塚桜仮設住宅団地」と名付けました。私は、区長の任期がまだ残っていたので上町町内会の区長として残りました。

仮設住宅は、サッシのガラスがペアガラスではなく寒いし、トイレの便座が温熱でなかったり、風呂の追い炊き機能がなかったりして苦情がありました。追い炊き機能はすぐに付けてもらえました。それから断熱材も入れてもらい、それらを整備するのに1年ぐらいかかりました。その後エアコンをもう1台設置してもらいました。他にも屋根の雨どいや側溝が無かったり、集会所の暑さ対策などをお願いしています。その他、時間を決めて解放する「ちびっこ広場」という子どもの遊び場を作ったりしました。あとは、一番怖いのは火事です。ここでは、石油ストーブは絶対使わないように徹底しています。

### **防犯対策**

市内の他の仮設住宅で盗難事件があったり、ここでも、自動車をいたずらされたりということがあり、私は、每晚9時に見回りをしています。警察にも巡回を増やしてもらうようお願いして、市役所に頼んで防犯カメラを設置してもらいました。

### **高齢者が多い**

とにかくここは、70歳以上の高齢者が多く、一人暮らしの方も多いので、市役所や民生委員が一人暮らしの所を回って歩いています。

苦勞するのは、人間関係だね。中には、周りになじめず孤立しているように見える人がいるので、それが今でも苦勞しています。

一番苦しいのは、男たちが行事に参加しないんだね。やっぱり女の人たちが多いから女の人たちの中に入れないっていう事もあるので、私が呼びに行き参加してもらっています。自立ということも考えて、できるだけ行事に参加してもらいたいのですが、男たちは声を掛けないと参加してもらえないですね。

### 地震の時

地震が「がらがらー」って来た時は、店にお客さんが3・4人いました。すぐ「外へ出る」って出して、「とにかく逃げろ。逃げろっていうか家に帰れ」って言いました。

地震から20分ぐらい(注)じゃないかな、「家に帰れ」と言った瞬間に津波が来ました。その津波の早いなんの。どうともできなかったから。お客さんが1人津波にさらわれてしまって。あの津波の速さには驚いたね。店の前を人が流れて行くし。

地震の1年ぐらい前に、女房が脳内出血で倒れて、右半身が不随になりました。手すりにすがって女房と2人で逃げようとしたが、水が来たの。それで、逃げられないまま泥が家の中に入って来て、女房は体が不自由だから、あの瞬間は助かるとは思わなかった。そのまま手すりに何時間掴まってたかな。若干水が引いた時に2階に上がりました。次の日の何時頃かな、自衛隊に救助されました。

### 文化会館へ

その後、文化会館に運ばれて、そこに2か月ぐらいいたのかな。混んでました。最初は部屋が満杯で、廊下のはずれにいました。しばらくすると、段々と中が空いて、中に入ったのですが、その中でも雑魚寝だったから、まずものすごかった。暖房ついてなかったし、冷凍のおにぎり1個と水をもらって。寒かった。

### 仮設住宅へ

仮設住宅では、みんな知り合いで来た時は「あ、みんないるな」みたいな感じだった。でも、仮設はやっぱり、今までの暮らしから比べると狭いね。

ここの集会やイベントには参加するようにしています。普段はテレビを観たり、新聞を読んだりしてます。

### 今後の事

やっぱり閑上はいいね、人間が明るいし。こっちの方は何を考えてるかちょっと分からないところがある。土地柄っていうのかな、やっぱり閑上は人がいいな。

家は、災害公営住宅に入ろうかなと思っています。どの辺に建つんだかな。

注：実際には約1時間6分後。

### 地震の時

自宅に1人でいました。俺、1人住まいだから。しばらくしたら民生委員が「避難しなさい」と家に来て。多分俺は独居老人と障害者で登録されてるんだ。「はい」なんて言ってたんだけども避難する気はしなかった、だるくて。でも民生委員は一緒に行くって言って離れないし、余震きたりもしたから、しかたなく歩いて閑上中学校に避難したの。中学校の3階の教室に入って、しばらくしたら「どーん」って津波が来て…どれぐらい時間が経ったかなあ、そのうち1人2人と具合悪くなる人が出てきて横になってるから、机を片づけないといけなくて。寒くて震えだして、なんにもかけるものないので、若い人たちがカーテンを外してかけてあげてたんだ。気は心だなって思っ。しばらくして行政だかなんだかは分からないけども、住所と名前書けて大学ノート1冊配られたの。1人ずつ書いていって、俺書けないから書いてくれて女の方に頼んで書いてもらったんだ。それから水が飲みたかったんだけど、水はなかったんだな。寒くても毛布ないしね。一晩中、一睡もできなかったんだ。

### 次の日は

次の日の朝10時頃、仙台から自転車で息子が探しに来たの。息子には何かあって避難してる時はハンカチみたいな赤いきれを玄関にとめておくからって前々から話してあったの。それを見たから息子は俺が避難してるの分かって閑上中学校の教室を探して歩いたのね。家は流されてはいなかった。うつらうつらとしてたら肩たたかれて。あとで車で迎えに来るからって言って、そして16時頃かな、車が通れるところまで来て、そこまで歩いて。その時行政から一般の人は館腰小学校に移動すると声かけられたの。館腰小学校に移って炊き出しもできるから向こうに移します、バスが来ますって言った。

### 避難所には行かなかった

俺は避難所へは行かなかった。子どもが迎えに来て、そのまま仙台市に移ったの。名取市で仮設住宅の申し込みがあったのも何も分からなかった。他の人が仮設に入ったっていうのを聞いて、俺も申し込んだら箱塚屋敷に決まって。5月22日から入居。ここには閑上2丁目と7丁目の人たちが入居していた。

### 大変だったことはしゃべられなかったこと

仮設に移ったら知らない人ばかりなの。顔なじみがないの。仮設で一番大変だったことはしゃべられなかったことだね。見たこともない人に「こんにちは、あんた何してるの」なんて言われて。同じ仮設にいてもあいさつするぐらいでなかなか話することができない。閑上の家にいた時は毎日しゃべってたから。家に1人しかいないから、いろんな人が集まってきたの。そしておしゃべり仲間が5人いて、そのうち津波で3人死んじゃったの。そして1人は施設に入ってた、だからもう俺1人しかいないんだわ。だから1丁目の人がいる箱塚桜にばっか

り来て遊んでた。だから、ボランティアは、箱塚桜でも会うし箱塚屋敷でも会うし、あれ？  
って。箱塚桜に来ると旧友とおしゃべりできるからね。移動する時は自転車。買い物は箱塚  
桜の買い物バスに乗っていくのと、生協の配達便を頼んでる。

**地震の時**

ご主人：自宅は閑上1丁目。妻はこのとおり（奥さんは車いすで介護が必要）だから、私がつきっきりの介護で。

奥さん：いろいろ世話になってたり、デイサービス行ったり、お風呂に入ったり、週2回ぐらいヘルパーさん来たり。

ご主人：俺は増田生まれ。

奥さん：私は閑上生まれ。

奥さん：地震が起きた時は、ヘルパーさんがいてくれて、「大丈夫よ、大丈夫よ」って体をさすってくれたり、すごい揺れでガタガタガタガタいってたから、私は泣きながら「ウワー」って騒いでいたんですよ。

ご主人：津波が来るって、町の人が、スピーカーで言ったの。だけれども、そう騒いでも、（奥さんが）このとおりだから、公民館とかに避難しても、ベットと、車椅子と、ポータブルトイレを探さないと、生活できないんですよ。

奥さん：地震が終わったら「逃げてください」って、ある人が来たのね。

ご主人：市の職員か何かね。でもね、「逃げてください」って言われても、逃げられないんだからさ。車も、人も来てくれるんだったらいいけれども、ただ「逃げてください」って言われたって、どうにもならないんですよ、うちはね。だから、津波が来た時は、もういいわって、2人で死ぬ覚悟をしたんですよ。

奥さん：「逃げてください」って言われて、呑気に家の中で、「逃げらんないよね」「車でも迎えに来たんならね」って、そんな話しているうちに、表を見たら、向かいの家の車がなくなってたから、「あらー早いね、逃げたんだよね」って話をして。そしたら、最初の津波だと思うのね。スーっと主人の車が流れてきたのね。「お父さんあれ、車流れていったわよ」って、何分もしないうちに、波が高くなって、下が真っ黒になって、もやが雲を生んだみたいな感じになって、船とか車が何台も流されていって、見ているうちに自分の家に水が「バーン」っと入ってきたって感じ。それで水飲んだり…。

ご主人：水飲んだんですよ。でも、最初から2人で「しゃあねえな」って、死ぬ覚悟だったから。何しても…、もう死ぬ覚悟だったから、正直。2階建ての下の茶の間にいて…

奥さん：2階に上がることもできなかったから…

ご主人：できないもの。だって、俺1人では、（奥さんは）全然、歩けないんだから。

奥さん：持ち上げたっていうけども、その記憶は全然、私は残ってない。津波が名取川からのぼってきたし。

ご主人：途中から、横からも来たでしょ、津波が。だから、後ろ前から来たから、これはどうしようもないなって思った。茶の間の場合は、65か70cmまでは入ったの、水が。それで「ダメだー、死ぬー」って俺騒いで、騒いだ途端に引いたんですよ、水が。助かったのは、奇跡なんだね。あの襖で、入ったとこに、襖が縦に、防いでくれた。中間

の襖が、茶の間に入ってくる波を防いだんだって。それで助かったのね。後から階段見たら、2m以上（津波が）上がったんだね、びっくりしたの。

奥さん：テーブルが高かったから助かったんだから。

ご主人：テーブルもね、今、流行りの家具調のやつだったからさ、布団かけたり。水がきたら、浮いたから。一晩はそこで。

奥さん：表のサッシも、あんまり開かなかったのね。

ご主人：開かなかったんだよね。

奥さん：出られなかったから。地震で凹んだ隙間から、水がバーって入ってきたから。

ご主人：仏壇はみんな、玄関に流れたのね。それで、挟まれたりとかしなかったのね。ここで挟まれたり骨折してれば、2人とも完全にダメだったね、正直言って。水が引くまで、その時は夢中というか…大変だったね。身体を抱えて、出してね。一晩中ね、いろんなことしてね。

奥さん：それで次の日、「助けて、助けて」って言って、人が来たんだけど、「助けてください」って主人が言ったら、「今、自衛隊来ますから」って言われて。津波の後は、誰も町の中を歩く人もいないし、車で騒ぐ人もいないし。だから、全然分からなくて。2階はなんでもなかった。

ご主人：茶の間の家具調こたつに、この人（奥さんさん）、上に乗ったの、うまく。車椅子は流されたから。あの日は寒かったでしょう、布団じゃ俺寒いから、こたつかけてたでしょう。それが、浮いたんですよ。運良く。だから結局、助かったの。冷えたから。あの日は寒くて寒くて。これでは凍え死ぬなって思ったから、2階に行って、手探りで家内と俺のもの持ってきて、茶の間で着替えて。それで一晩過ごしたの。助けてもらったのは、次の日。

## 救助され、病院へ

ご主人：朝、家の近くを、探している人がいたから、その人たちに、騒いだんですよ。夜明けた途端に「助けてけろー！助けてー！」ってね、俺が騒いだの。そしたら近所のタクシー屋さんがいて、「ああご主人の声だ、私行ってくるから」って。「ご主人！大丈夫ですか？」ってね。「助けてー！」「助けに来たから」って。病院にかかっているから、ときどきそのタクシー屋さん、利用してたんですよ。それでね、タクシー屋さん俺の声聞いて。その人、タクシー屋の所長なんだけど、その人に助けてもらったのと同じなんだよね。

「閑上大橋まで行けば大丈夫」って言われたの。けどもそこまで200m以上あるでしょ。その所長が、車椅子を洗ってくれて、俺と一緒に2人で家内を車椅子を運んでくれて。下は注意しなくちゃいけないでしょ。がれきなんかあるから、それでドロドロでしょ。転んだら終わりだから。でも途中で本当に限界で、「我慢の限界だ、ダメだ」って、とつても我慢できなくて、橋の50mぐらい手前で、我慢できずに置いたの。そうしたら、道路から車椅子が上がんなくなって。すると、自衛隊や、富山県の消防の人が来てくれて、その人たちに手を借りて閑上大橋まで上げてもらって助かりまし



た。考えてみると、全て運が良かったんだよね。大橋まで行けばいいって言っても、まわりに誰もいないでしょ。

家内が低体温症になって、ダメだ、これでダメだってなって。ちょうどその時、救急車がやって来て、その救急車でかかりつけの病院に運んでもらいました。でも病院でも、津波で検査する機械が、全部ダメになったんだって。機材が全部泥だらけになって、病院の役目果たさないからって言われて。治療が必要な30人が病院の会議室に入ったの。

奥さん：私が病院に着いた時、担当の先生たちや看護婦さんたちが、みんな私の顔見て、「テレビで『閉上全滅』って聞いた時、あなたの顔が浮かんで、心配したの」って、「助かってくれてありがとうね」って、先生方と看護婦さんたちと職員たちに、泣かれました。

### 避難所には行けない

ご主人：次の日の午前中に、29人は、移転先が決まったの。うちはこんなんだから、病院では、長年かかっているから知ってるんですよ。4時半まで、1人残されて、心配してもらって。それで決まったところが名取市保健センターなんです。保健センターには来たけど、また寒いでしょ。風邪ひく人がゲホゲホいっててさ。風邪引いたの見てると、俺ら弱ってるし、風邪引いたら大変。アコーディオンカーテンのドアになってて、下から風が入るんですよ。それでもう、寝れないぐらいに寒くて。次の日、また、具合悪くなって。これはダメだってなって、保健センターから、今度仙台市中田の社会保険病院に救急車で運ばれたんですよ。

奥さん：だから、避難所生活はしないで、病院を行ったり来たり。

ご主人：俺1人だけ避難所に行けないから、俺からは行かなかった。一緒にないとダメだ。

奥さん：避難所生活だと、ベットもないし…

ご主人：避難所に行くと、家にいるより苦しむから。俺はそこ、分かっているから、だから行かないよって。

奥さん：そういう経過で2か月病院生活。それからここの箱塚桜仮設住宅に引っ越してきた。

ご主人：仮設に来たの、みんなより10日遅いんだ。5月の半ば。

### 震災の体験談

ご主人：(津波の時)死ぬ覚悟してたから。でも、おかげさんでそのタクシー屋さんの所長に助けられたんだ。所長の友だちが、週刊誌の記者やってるんですよ。それで、3日目に病院に来たんですよ。こっちは全然分かんないのね。タクシー屋の所長のこういう訳で来たんですって。「インタビュー、5分か10分いいですか」って、「いいですよ」って受けて。そのまんま週刊誌に載ったんですよ。写真まで載って。それが、親友が盛岡にいるんですよ。電話が来て、まだ様子が分かんないのに、「何で、誰から訊いたんだ？」って言ったのね。そしたら「何でって、週刊誌に1ページ半も載ってたよ」って言うわけね。それでびっくりして。知らないうちに、単行本みたいな本、3冊あったんですよ。

あと、漫画にもされたのね、名前書いてね。連載漫画にも出たのね。体験としてね。でも連載漫画に出されるとは思わなかったね。こうした体験談を残していくことは、それはいいことです。人間ってどうしても忘れがちだからね。市が、体験談を後の子どもに、伝えて残すために、想いを綴って残すってことは、いいことだと思いますね。「あの時はこうだった」と。

### 家族との再会と亡くなられた方々

奥さん：家族と会ったのは、息子が避難所を探して歩いてたら、私の弟から「1週間探しても見つからないんだから、覚悟していなさいよ」って言われて、市役所に行ったら、「2人で病院にいます」っていうのが書いてあって、「ああ助かってくれたんだ」ってなっ

て。

ご主人：息子も諦め半分で。

奥さん：病院に来て、「お父さんお母さん、助かってるんだよね」って、「ありがとう」って言われたり、なんか先生方に「よかったね、息子さん会いに来てくれて」って、「息子さんたちもなんでもなかったんだ」って教えられて、先生にいっぱいお世話になった。看護婦さんたちも「助かってくれてありがとうね」って、私たちの方が感謝しなきゃいけないのに、逆に感謝されてって感じだったね。

でも、閑上の人で亡くなった人が同じ名前で、「人を尋ねて来たんですけど」って言われたのが人違いで、その家族はショックで帰っていったっていうこともあるし。

ヘルパーさんを「早く帰りなさいよ」って早く帰したら、津波に遭って…

ご主人：津波にあって4日後に、来たんですよ、会社から。帰ってから、どういう足取りだか分かんないから。「何で？」って訊いたのね。そしたら、うちの、Kっていう女の子なの。Kっていう子が帰ってこないって言うんですよ。それでびっくりしたの。俺ら来た時は「こんなところ片付けも何もないから、すぐ帰れ」って帰したのね。でも、流されたんだよねえ。

奥さん：まさか、津波来るとは思わなかったもんね。

ご主人：1か月後ぐらいに見つかったけども、その女の子。

奥さん：絶対津波は来ないって言われてたから、「ああ、あの時2階に上げれば良かったのかな」と思ったりは…。なんかいまだに、そこは抜けないっていう。

ご主人：ヘルパーさんは2階に上げれば良かったんだなって、後悔…

奥さん：なんで、私みたいなのが助かって、なんで元気な人たちが亡くなったんだろうって…。

私の弟夫婦と孫が亡くなったのを、私は全然知らなくて、お葬式の前あたりに、残ってる弟に「姉さん、しっかりして聞いてください」って言われて。

ご主人：ショック受けると、必ず具合悪くなるんですよ。入院してるし。だからね、分かっても、黙ってたの。弟夫婦と、孫が亡くなったけども。

奥さん：知り合いの子たちも、同級生も13人ぐらい亡くなってるから、いろいろショックが、いまだに、なんか、とけないっていうか…。でもここ（箱塚桜仮設住宅集会所）で、お茶会とか、いろんなことやってくれるから、そこに来て、車椅子で来て、まぎらわ

してくれるって、ありがたいなって。

### 仮設住宅での生活

ご主人：ここに来て、みんな同じけども、裸一貫になったけども、ボランティアの人たち来て、ボランティアの人たちにここで明るくされて、「負けないで頑張ってください」って全国から来てくれました。

奥さん：ここに来て具合悪くて、救急車3回ぐらい呼んで、心筋梗塞って言われて、手術をしました。3回ぐらいは入退院をくり返しているうちに、最近は少し落ち着いて。

ご主人：ボランティアの人たちから助けられてるようなもんだね。ここには知らない人いっぱい来てもらって、傷んだ心を慰めてくれたってことは、ここにいる全体の人たちの一番、力になったんじゃないですか、今でも。そうでなかったら大変だもん。引込むもん。

奥さん：ボランティアの人たちに力をもらって。家の中にいるといろいろ考えちゃうから、午前中とか、雨が降らない限りは…。

ご主人：お茶飲みながら笑ったり、それがなかったら大変ですよ。

奥さん：みんな、閑上の人たちだから、知らない人いないから。「元気なの？」とか「大丈夫？」って声かけあってもらってるから、ありがたいなって。

### 今後の生活

奥さん：閑上には戻りたくない。

ご主人：だってさあ、何もありませんよ。現地復興って市が言うけども、何もありませんよ。何もありませんよ。子どもがいないところに行ったら、町は絶対に町にならないです、私から言うと。将来からしても、やっぱりお子さんがいてはじめて、町をよくするってあるんだよ。俺たちはもう終わった人間だから、正直言って。そういう子どもを目の前で見てると、「絶対、お父さんお母さん、閑上には行かないよ」って。

現地復興って言ったって、あんなもん自体が間違ってるんですよ。我々被災者の言うこと聞かないで、自分の考えばかり。だから何年で災害公営住宅に入れるか分からないけど。みんな待ってるけど、(仮設住宅は)狭いでしょ。子どもがいる人はやっぱり大変でしょう。3人いたら大変。借金しても、金ある人は出る。ここら辺の近辺に、借りてんだよ。そういう有様だから。

我々は、年金生活でしょ。家も何も建てられないでしょ。だから、災害公営住宅が出来上がるまで、どんなに苦しくても、待つしかないなって思って、自分ではそう思ってる。みんなも(お金を)借りたいっていうから、借りたいいいんだけど、貸してくれる年齢ではないから、貸すところないでしょう。とにかく、災害公営住宅に入るしかないって自分は思ってるから。いつまでも待つしかないって思ってるから。どんなに苦しくても。

## 閑上の良いところ

奥さん：閑上のいいところは、すごくいっぱいあるんですね。子どもの頃は、お祭りとか…

ご主人：人が、人の気持ちが、言葉は悪いけど、人想いですよ。

奥さん：町歩いててもみんな知り合っていて感じだしね。言葉かけてくれるっていうか。年寄り若い者関係なく、言葉をかけ合ったり。お盆だったらまんじゅう焼きもね。

ご主人：俺は分かんねえけども。

奥さん：あれが興じてね。

ご主人：でも、この間も中学校でやったらしいしね。伝統的なものはやって、それで少しでも心が和めば、それでいいさね。あるものを無くしたんでは、やっぱりね。

奥さん：今は、子どもたちは分かんないけど、お正月っていうと、小正月っていうてね。みんな袋を持って、西の方だか東の方から来ましたっていうと、お金持ちのところはせんべいとかみかんとかくれて、普通の家は何もくれなくて、ただ「ご苦労さま」って言われるので、子どもたちは、写真屋さんとか、せとやさんとか、こういうところを回る方がいいよと話し合っていて、そういうところを回って歩いたりとか、結構、餅とかお菓子とかもらった。そういうのがだんだんなくなってきてるって。

ご主人：そうそう、お餅が好き。なぜかっていうと、閑上は漁師町だけど、お餅なんっていうのも食べたくても食べられなかった人がたくさんいたでしょう。だからそういうお餅はお祭りとかお正月とか楽しみにして、食べるんだよね。

奥さん：物売りに来ても、閑上の人たちは、物売りに来た人たちの物は、いっぱい買うって。

ご主人：これ（お金）だけは、すごく持ってんだ。本当。今は質素な生活してるんだけど、昔はほら、魚がウンとあがって栄えたらしいからさ。

奥さん：おいしい魚も食べられるしね。

## 震災時の要望

奥さん：何年か後にこんな津波があつたら、身体障害者用に車を用意してくれれば、そういうのがあつたらいいなって。一番大事な事かなって。「逃げてください」って言われても…

ご主人：逃げられないもん。ちゃんと来て、逃げられるようにして、運んでくれるようにして。マイクで「逃げてください」って言われても、どうしようもないでしょ？ 手前の道路で「助けてください」っていうと、「今自衛隊来ますから」って慰めの言葉で、全然来ない。

奥さん：何時間も来ない。

サイレンも鳴らなかったし、市の人も騒いで歩くだけだったし。

ご主人：これは市の決まりなんだからって仕方ないけどね。

## 地震の時

理容店をやっていて、その日もお客さんが来ていました。主人は病院に入院してて、おばあちゃんは施設にお願いしてたんですね。家は、新しく建ててから2年弱だったんですが、その家がつぶれるんじゃないかと思ったぐらいです。下の孫も一緒にいたので、孫を抱いて。食器類なんか落ちて来ない部屋の真ん中にうずくまっていたんですけど、一度地震が止んだので、その時に出たんです。その後地震が落ち着いて、お客さんも家に帰りました。停電でテレビもラジオも使えなくて、津波が来るのは全然分からなかったですね。息子も物が落ちてこないようなところに車を駐車場の真ん中に止めて、車に孫を乗せたり、水や食べ物、通帳や現金とかを袋に入れて逃げる準備をしていました。

そのうちに小学校1年生の上の孫のことを思い出して、閑上小学校に行ってくるって言って自転車で向かいました。閑上小学校に着くと、子供たちは体育館にいるっていうんです。体育館に行って孫と顔合わせて、でもまだ返せないっていうんで、息子と下の孫を連れてくるからと言って閑上小学校を出ました。この時も誰も「津波が来るから」っていう人はいなかったんですね。

もと来た道を帰ってくる予定だったんですが、空港に向かう車が渋滞してたんです。それでその車の間を通過して、通称「 magari 新道」に来たんですね。そこで知り合いの人に会って「あっちはなんか煙かなんか真っ黒になってるよ、火事かもわからないよ」と言って。それが津波だったんですね。その時生協の通りのがれきが押し寄せてきてたんです。結構高さがあったので、自転車降りて戻ったら巻き込まれるって感じたんです。それで近くの畑の少し高くなってる所に行ったら助かるんじゃないかなって思って、自転車で全速力でそこに上がったんです。そしたらもう一人逃げてきた知ってる人から「自転車から飛び降りろ！」って言われたんです。それで飛び降りたら畑と畑の間に側溝があったんですね、私は全然そういうの知らなかったんで、それで飛び降りてその側溝を飛び越えて五叉路の歩道橋に向かいました。水は膝ぐらいまで来ていて足が濡れたから滑るんです。2~3段上がった時、がれきが「がー」ときました。踊り場の前まで来てたと思います。津波が家を壊してくんですね、家が流れてきて次の家を「バリバリ」と壊してまたいくんですね。

歩道橋の上で息子や下の孫、小学校に行ってる上の孫が一番心配でしたね。「私が孫と息子を殺した」ってそう感じて。

私も少し津波っていうことを考えてればよかったんだけど、よく水害でお店の中に水が入ってきたんで、4段ぐらい高くしたから「せいぜい来てもそんなもん位じゃない」と。その時は地震の揺れの恐ろしさで津波のことは頭に入らなかったですね。しばらくして、誰かが持ってきていたラジオから閑上小学校は全員無事ということをやっていたり、そのうち息子から閑上小学校に逃げてるから無事だとメールが来て、それでほっとしました。

見ていると、堤防すれすれのところを津波が四郎丸（仙台市）の方に流れて行くんですね。主人が消防団の時、大雨等で四郎丸付近、落合の方でよく堤防切れそうだった土嚢積んだりし

たもんだから、落合のほうで切れたら四郎丸の方も大変だろうなってそういう事を、いろいろ思いました。

### 歩道橋で

歩道橋から降りられたのは、大体夜の8時半ぐらいですね。それまでの間にはいろいろドラマがありました。男性の方が胸まで浸って閑上大橋に行って消防に救助を要請しに行ったり、歩道橋の下で船が燃えていたのをみんなでバケツとか流れてきたやつで消火したり、ヘリコプターが救助のため2度来まして、流されてきた方とお年寄りの方と赤ちゃんと中学生の4人の方が救助されました。近くのアパートの人がいて食料を持ってくるからと言ってくれたり、でもいつ津波が来るか分からないから、食べ物は食べなくても大丈夫だからとみんなで止めました。夜8時過ぎに違う方が、また閑上大橋の消防隊に救助要請しに行ったんですね。そしたら、ロープ持ってきたんですよ。ロープ持って来て、橋と歩道橋のところにつないで、「これでみんなつながって渡ろう」ってなったんですね。で、寒いから水にぬれるのが嫌だっていう人もいたんですけど、近くの船が爆発しはじめたので、それでここはもう危ないということでみんなで渡ることになりました。消防は仙台市の消防だから管轄違いで来れないっていうことなんですね。でもみんな渡り始まったら消防の人も来て間に入って「気を付けてくださいよ」と、声をかけてくれました。私たちが渡った時に、警察のバスがいたんで、それに乗って仙台市立東四郎丸小学校に行きました。

その夜娘とようやく連絡がつきました。娘は仙台のデイサービスに勤めていて、閑上に住んでいましたので、心配して家に戻る途中、四郎丸のバス停まで来て、そこから入れないと言われたらしいです。最初津波だって言われずに水害だって言われたらしいんですよ。水害っていうのでどこか地震で堤防が切れたのかなってぐらいにしか思ってなかったようで、私は「津波で閑上全滅だ」っていうことを言ったんですよ。娘は子どもたちのことを心配していました。

### その後の避難行動

東四郎丸小学校にはすぐその日の夜中に娘が迎えに来て、娘の旦那が増田の病院に勤めるんでそっちのほうに行きました。車の中で寝ました。次の日も車ですね、2日ほど車で。あと娘婿の病院に4日ぐらい泊まらせていただきましたね。それから増田の叔母のところにお世話になりました。そのあと叔母のところのお嫁さんの実家で、アパートを改装する予定だったものがあって、今は大工さんも来れないからってということで仮設に入るまでそこにいました。実家から布団、鍋釜、皿、一応一通り生活できる道具をもらって。

### 仮設住宅へ そしてさいかい市場へ

5月4日箱塚桜仮設住宅に入りました。生活できるすべてが揃ってました。本当に有り難かったです。ちょうど桜のシーズンで、でも、桜を感じませんでした。次の年に、「ああこんなに桜あったんだ」って気付いて。もう生きるのに精いっぱいという感覚がなかったですね。知り合いが多かったんで結構まとまりがありましたね。

箱塚桜団地に来てしばらくしてお客さんに頼まれ散髪したのが、仮設の台所での理容室の

始まりでした。前からのお客さんが訪ねてきたり、人づてで来られる方もいました。お客さんから元気をもらいました。避難所でのボランティア活動として散髪もしました。まだシャンプーはできませんでしたが、三重県のボランティアの方がインターネットで「理髪器具を差し上げます」と。その方と連絡を取り、多賀城に来るといので会いに行くと、シャンプー台があつて、私が興味を持って見ていますと、作って送りますと言われ、1週間程で届き、シャンプーもできるようになりました。

震災後に商工会に行ったら、仮設の店舗ができるかもしれないという話を聞いたんです。でもなかなか出来なかったんで、仮店舗も探しましたが、トイレ等も付いてる立派なところは金額的に借りられず、台所で散髪をしながら仮設店舗ができるのを待ってようかって思いました。

さいかい市場の店は、去年の12月23日に鍵を引き渡してもらって、それから改装して、建築業者がいないもんで、息子と息子の友達、時々私達も手伝いをして断熱材を張ったり壁を塗ったり、息子の友達は建築会社にいる人もいるので、その人に手伝ってもらいながら、店の内装を作り上げました。さいかい市場のオープンは2月4日だったんですけど、工事してまますけどこっちでシャンプーできるようになったからって言って、お客さんにはオープン前のさいかい市場に来てもらってました。

## 今後の計画

市の説明会を聞きに行ってますが、私たちの地区は危険区域じゃないから土地は換地なんですよね。人が少なくなった閑上に帰って行って商売できるのかやっぱりそれが一番不安です。だからこういう慣れたところでお客さんを送り迎えしながら仕事を続けてたほうが良いのかと。でも、土地が高くなってますからね、この辺の土地を求めたくても土地がないから、どういう風にするのかまだ未定です。仕事をしないんだったらどこに住んでもいい。閑上じゃなくてもどこでもいいんですよ。ただ、仕事のことを考えると今のところはまだ決まってませんね。

商店街をつくるっていう、円形の広場を作ってるっていうんですけど、うちはお土産屋さん商売ではないもんだから。観光客が来ますけど、うちあたりはそういうお客さんは一切関係無しですからね。元の閑上のお客さんとか、あとこの辺のお客さんも徐々に来てくれるんで、できるんだったらこの辺に店を作りたいんですけど、やっぱり元の家ローンも払ってますしね。それなんですね、一番は。

## 閑上の良いところ

私は、柴田町の槻木から閑上に嫁に来て、すっかり閑上に馴染みました。閑上は顔が会っただけであいさつもしますよね。うちの娘の旦那も「いろんなところに行ってきたけど閑上が一番親しみやすい」って言ってます。よそ者でも仲間に入れてくれるって。閑上に住んで良かったって。これからも閑上に娘夫婦は住みたいって言ってます。閑上の人とはどっか外で会ったりすると「どこに行くの」とかそういうのが挨拶代りで、すぐ「お茶飲まいん」と言うのがね、懐かしいとみんな言いますね。コミュニケーションがとれてたんだよね。

閑上は便利な町だったんです。買い物にしてもわざわざ遠くまで行かなくてもいいし。閑

上に戻る人たちは、安全な場所がいい。3m嵩上げすれば、水は来てもそんなではないって  
いうけど、その水が怖いんですよね。あんまり上がらなくても今度低いところに流れていく  
から、やっぱりそういうことも考えて排水のこととか、考えて欲しいですね。もし閑上に戻  
るとしたら、皆とコミュニケーションがとれる町にしたいですね。



### 地震の時

主人が県立がんセンター（市内）に入院していて、私は付き添いをしていました。揺れた時には、津波ってということは全然頭にありませんでした。がんセンターはライフラインは全部だめで、電気も酸素もなにもかもみんなダメで、何もできなかった。娘は家に1人でいて、地震になって近所の人たちに声かけしていたようなんだけれども、その人たちがなかなか動かなくて、逃げながら後ろをちょっと見たら、何かお寺の屋根みたいなのが追いかけてきたって。テレビ見てたら、「仙台空港に水が来ました」って。何の水なんだろうなって思ってたからパチって消えたからあとは分からなかった。

17日に夫が亡くなってから大変でした。どこに連れて帰ったらいいか分からず、いろんなところを探したけどもどこもいっぱいって言われて。葬儀会館も揺れて壊れたけども1人ぐらいならって言われてそこに置いてもらって、お葬式も何にもしないで送ってしまった。遺骨があったから、それを持って避難所に行くのも…だから親戚や娘のどこに行った方がいいなって、親戚のところを転々として歩いたけども、娘のどこにも居づらくて、アパート借りて。その時も70歳過ぎてからなかなか貸してもらえなくて、娘の名前で貸してもらって…悔しいね、年取るって。

### 仮設住宅へ

すぐ申し込んでね。5月3日の午前中に説明会ありますからって言われて。最初の頃は人恋しかったね。みんなの声すると、あれ誰かいたんだねって思って窓から覗いたりして、段々「あらあの人もいた、この人もいた」って。最初は誰がどこに入ったか分からなかったから。仮設に入って1年ぐらいは夢中で暮らしたね。1～2年は、いろんな事考えることもあって、夢中で2年は暮らしたけどもこうやって静かになってくると、いろんな事考えてしまう。あの時は生かされたんだから一生懸命死ぬまで生きないと、なんてかっこいいこと言ってきてたけども、この頃はあの時に夫と一緒に亡くなったほうが良かったのかなって思ってしまったり…

### 集会所での活動

集会所の行事には行きます。みんなにも誘われるし、毎回来てる人が来ないとなんでって言われるから。でも、何でも人にばかり頼ってはだめだと私は思ってます。ボランティアさんも「来なくなったね」って言ったって、そういうのもだんだんなくなるのも当たり前だと思ってるし、やっぱりいつかは自立しないといけないから。

### 閑上の良いところ

住みよくて、ほんとにいいところだった。すぐ目の前はバス停だし、隣は肉屋だ、隣は魚屋だってほんとにいいところに住んでたのね。人はいいし、食べ物から何でも良かったね。ほん

とに心から思ってたね、私は。野菜だって魚だってなんだっていっぱいあって、新鮮なのばかり食べられて、こんなにいいところないねって思ってた。みんな口は悪いけども親切っていうか気持ちはそうではないね。そう思ってる。

### **閑上に帰りたい**

だから早く、私は閑上に帰りたいの。私、閑上の小塚原っていうところだったのね。そこから1丁目に行って、学校も閑上で、ずっと閑上で暮らしてきたの。私は、閑上の風の吹くところに帰ってきたいと思って、頑張ってるの。でも、みんなお年寄りばかりだから、なんていうか希望も何もないんだね。贅沢しなければ年金でなんとかやっていけるんだけども、住む場所が決まれば、和むと思うんですけどもね。安心して住めるっていう公営住宅に入って、閑上に戻って、娘と2人で静かに。

### 地震の時

地震の時は、妻と娘と自宅にいました。娘が「お父さん、お母さん、地震が強いから家の中はだめだから外に出て」って外に出たの。ある程度地震が収まったんで、娘が閑上小学校に子ども2人を迎えに行つて。俺たちはそのまま家にいたんだけど、しばらくするとマイクかなんかで「逃げろー！！」って言われたのね。津波だとかも何も言わないの。ただ逃げろって声だけで、それで「なんで逃げないといけないんだ」って。津波なんて一切頭がないから。どうせ娘たちも閑上小学校にいるもんだから、そこにとりあえず行こうってことで妻と2人で閑上小学校に行つて。着いた時は、誰かが津波が来てるって叫んでた。体育館に集まっていたら、そこに水が入ってきたんだ。それで全員校舎の3階に上がったんだね。津波は校舎に人がいっぱいいて直接は見れなかった。3階に上がってしばらくしたら雪が降って来てしまって。子どもたちが寒がってる中、余震はくるし。それである程度収まってきたので、各教室に戻って朝までいたのね。朝までいるのはいいんだけど、水もトイレも全然使えないんだよね。子どもは泣くしね。

### 次の日

次の日のお昼頃かな、ここじゃ危ないから避難所に移るって言われたんだね。閑上小学校だけでも何百人もいるからバスも5台も6台も来ないとダメでしょ？「俺は最後までいいから」って最後まで残った。そしたらバスもガソリンがなくなって迎えに来れなくなったのね。それで俺の家族だけ残っちゃって。消防車がちょうどいたんで、それで館腰小学校に連れて行ってもらった。館腰小学校に一晩いて、姉が仙台にいたんで、そこに俺と妻だけが仙台に避難したの。娘と娘の婿と子ども2人は村田町に避難したのね。その後、俺と妻は村田町の別のところで、下の娘のところに行ったのね。そこで1か月過ごして、次に岩沼市にある妻の実家にお世話になって、4月末に文化会館に避難してきたわけ。

### 文化会館から仮設住宅に

すぐに仮設住宅が決まって、文化会館にいたのはそんなに長くないんだわ。こちらの仮設には、知ってる人はほとんどいない。話すれば分かるんだけど、顔もほとんど見たことないんだわ。1人や2人なら見てるけども。仮設では、妻と2人で住んでます。隣の部屋に娘たち夫婦が住んでる。でも娘たち夫婦とは、もう行ったり来たりはしてないね。完全に離れちゃって。地震前はずっと一緒に住んでたんだけど、震災になって部屋が別々になってからは一切口も利かないで、俺たち夫婦無言って感じで。一緒にいれば、なんとかかんとかっていうこともあるんだろうけど。このまま戻ったって、そう簡単に前みたいに一緒に話すことは、ちょっと不可能だろうね。

津波は7丁目からこう来たんだな、こっち（東側）はかなり堤防高かったから、堤防からちょこちょここと入ったけどそんなには来なかったね。家は1階ぐらいしか津波は入ってこなかつ

たけど、2階は揺れで壊れて。1階も津波で風呂からトイレからめっちゃくちゃになったもんだから、家を建て直すのはもう無理。年金生活だし、年齢が年齢だから金も貸してもらえないし、財産も何もないんで市に一戸建ての災害復興住宅欲しいって言ったら、家賃に応じて部屋数や一戸建てとか集合住宅とかに決まるって。アパートなんて住んだことないし、人の付き合いがあんまりないもんだから、新たに戸建が欲しいなってね。

津波で兄貴を亡くした。兄貴は2丁目、実家だった。遺体は1週間ぐらい分からなかった。うちの近くで見つかったんだね。そこで見つかって安置所に行って、棺桶に入った時点で対面してる。

### **閑上の良いところ**

やっぱり景色がいいとこだったな。2階だと金華山の方までみんな見れるしね。仙台市もみんな見れるでしょ。風呂に入りながらもみんな見れるのね。だからそういう景色。もう、今からそこに行くって言ったって行けないし。もうずっと釣りしていない。釣り道具も一切なくなったし。

### 地震の時

閑上1丁目には、爺さんぐらいからですかね。2・3代だからもう戦前から。戦争になった時、一旦自分の実家がある福島県の相馬に逃げたそうです。戦後また戻ってきて、またお店を始めたと言ってました。店舗で作って店舗で売っていた。店を開業したので3代目、業界では4代目。だから100年超えてたんですね。作っていたのは飴ですね。黒飴、他にはかりんとうを作ったり、お饅頭などの和菓子。洋菓子は、ショートケーキをちょっとやってたというぐらいで。自宅で作って。全部流されましたね。だから今もみんなに、「店やったら」って言われるんですけども。結局うちは、親父も震災前に亡くなっているんで、私1人で、おふくろに店番やってもらってたんですけど。

地震に遭ったのは増田、市内の中心部で地震に遭って、駅前にあるお菓子屋さんでお話をしてた時に地震が来たんです。店の中の物が全部落ちてきたんで、これじゃ危ないってことになって、店先に、外に出て、そしたら今度外は、電柱がもうすごい勢いで揺れてるって感じでしたね。かつてないですね。3分間ぐらい揺れてましたんで、ほんとにもう終わりなのかなと思いました。ほんとに電柱が折れるんじゃないかなっていう状態で。

それで、車は止まるわ、歩いている人はしゃがんで、歩ける状態じゃなかったんです。すぐ停電になりましたね。目の前に車を停めていたので、すぐ飛び乗りましたが、お菓子屋さんに「帰るのか、戻るのか？」って言われたから、「戻る」って言ったら、「じゃあ気を付けて戻れな、たぶん津波来るからな」「気を付けなきゃだめだぞー」なんて言われて。

ちょうど車の中に消防のヘルメットを積んでいたんでヘルメット被って、また地震になったら危ないなって思って、そしたら一番難関だったのが、このバイパスなんですよ。横断しないとダメなんで、そしたらこう、うまくトラックの人たちも、私ヘルメット被ってるの見つけてくれて、全部止まってくれて、やっぱりトラック止まってくると乗用車も止まってくれるんですよ。クラクション鳴らしながら行ったら、止まってくれて、すんなり行けて。でも、いつもだったら15分ぐらいで行くところが、やっぱり20分ぐらいかかりましたね。途中電柱が倒れてて、そうしたら大型トラックが、運良くこう、なんかどっかにひっかけて電柱倒れてるのをうまく避けたんですね。そして私もすんなり行けました。五叉路は、事故が発生してて、トレーラー車が積んでたコンクリート支柱が対向車線に落ちこちて、対向車線の乗用車の上に乗っちゃったんですね。運転手さんは、即死だったようですね（注：事故現場は閑上大橋）。それで渋滞がもう発生してて、私の道路は渋滞っていうのはなかった。まあちょっとはあったんですけども、うまく逃げられた。うまく、渋滞にはまる前に五叉路を通れたんです。

### 地震後すぐにまず母親の元へ

行く時に、「もう家潰れてるな」って思ってたんで、「もうだめかな」って思いながら行ったら、家は残ってた。家に着いてまず近所の人に「おふくろが出てこない」って言われて、

それで、車を目の前にある空き地に止めて、降りて店の中に入っておふくろを探したら、おふくろが腰を抜かした状態で、裏の方にいました。でね、涙の対面になるのかなって思ったら、怒られてしまってね。相当怒られました。「なんで私が大変な時なのに、あなたいないの」って言われてしまって。結局私消防団だから、何かあれば、おふくろは1人になるわけですよ、親父いないから。だから寂しいんだと思うんです。台風でも何でも出動かかれば、私出ていくので。それも結局親父の時もそういう思いしてたし、私2人兄弟なので2人置いたまま親父は出て行って、おふくろは子どもの面倒見てたし。それで、怒られてしまって。おふくろに「とにかく津波来るから、指定の避難所に逃げろ」っていうことで、草履はいてたんで、ウォーキングで歩いてたもんだから、運動靴に履き替えさせて、親類の80歳になるおばあちゃんと、とにかく2人で逃げたんです。「絶対2人で動きなさい」っていうか、「離れ離れにならないように動くといいよ」っていうことで逃がしたんですね。

## 母親との再会

その後、母親と会ったのは、次の日12日の閑上中学校だったんですよ。小学校の避難誘導がある程度落ち着いたんで、上司というか消防団の上の方から、「閑上中学校に行って、ちょっと見てこい」「どうなってるか調べてこい」って言われたんで。行く途中にちょっと自宅に回って、家を見て、「あー残ってんなー」って、そしてある程度の服やTシャツを、2階が助かったので上に上がって、持って行く物を簡単に持って、それで中学校に行って職員室にいたら、一緒にいた人が私を呼ぶので、「何したんだろう」と思ったら、「探してる人がいますよ」っていうことで上に行ったら、仙台の叔父が、なぜかその中にいたんですよ。それで「何でここにいるの」と聞くと、「いやお前が心配で来たんだ、この」って逆に怒られて、そうして「おふくろ、いないんだ」って言ったら、おふくろが後ろにいて、「ああ助かったの?」って言ったら、「うん。あんたも助かったのか」なんて、そこで初めて対面して。叔父は、結局車でぎりぎりのところまで来て、あとは歩いて閑上に入って、そしたらなんか中学校に避難している人がいるよって話聞いたんで、私もいると思って行ったら、おふくろと会ったようです。

そこで一応「こういう状況だ」っていうのを確認した後に、また小学校に戻ったんです。それから、避難者は、名取市内の指定の避難所に全部輸送されてしまったので、またそこからおふくろが、どこに行ったのか分からなくなりました。私たち消防は、一番最後に引き上げました。もう13日になる頃ですね。

## 消防団員としての活動

私は、ポンプ（車庫）の小屋の鍵を持ってたものですから、鍵開けて消防車引っ張り出した感じですね。ポンプ自体は、上町の町内会の集会所にあったんです。鍵を開けて、消防車を引っ張り出して、それで誰か来るかなあって思ったら、1人しか来なかったんですね。とにかく、2人で巡回しようってことで、消防のマニュアルがあるので、「震度4以上になったら自主的に消防の詰所に来て、本部からの指示を仰げ」ってことなんですけども、「仰げ」って言っても何も来ないんですよ。でも、マニュアルに従って消防車に乗って、自分の管轄の巡回

をしました。管轄は上町区域になります。ただ現場に何も指示が来なかったもので、結局私たちがマイクで、「大きな地震がありましたので、津波が来る恐れがありますので、自主的避難をお願いします」って言うしかなかったんですね。何mの津波が来るとかそういうことは、言わなかった。余計パニックになっちゃうので。上司と一緒に来てた人と「とにかく自主的避難をお願いします」っていうことで、ただその時に避難してもらう前に、「電気のブレーカーと、プロパンのガスボンベの元栓を閉めて逃げてください」ってお願いしたんですね。知ってる人とかは声掛けてきて、「どうすればいいの？逃げたほういいかな？」って言うから、「何かあると困るから、指定の避難所に逃げたほうがいいよ」って、車で逃げてくれた人もいるし、「一緒に隣の家のガスのボンベ閉めてあげるから」とか言って、閉めてもらった人たちもいますね。それが終わって、一部の人には逃げていましたね。閑上っていうのは、隣近所を大事にしていますので、隣の人と一緒に車で逃げたり、ただみんなどこに逃げたかっていうのは分かんないですけどね。

### 閑上には津波は来ない

どこのおばあちゃんかは記憶にないんですけども、消防車止められて、「あなたたち津波来るって言うけど、ここって津波来ないんだよ」って、こう怒られた記憶があるんですね。というのはなぜかっていうと、昭和8年の3月に、津波が来てるんですよ、三陸沖の。その時、閑上の半分に津波が来て、上町って津波来なかったんです。だからやっぱり、おばあちゃんの記憶の中にそれがあったのかなって。それで、おばあちゃんに、「何もしなければいいけども、もし津波来て命なくなったらどうしようもないよ」って、「逃げて何もしなければ、家に帰ってくればいいでしょ」って言ったら、「ああ、そうか」って言われて、逃げてったんですね。そのおばあちゃんは、ちょっとどうなったか分かんないんですけど。結局悪気じゃなく、質問じゃなく、お話して。

みんなと喋ってるから、ラジオの電源を入れたか入れないか分かんない。ラジオって頭がなかったんですね。ラジオ聞けば、即座に大津波警報が出てるの分かったと思いますよ。どこで分かったかっていうと、仙台市の防災無線が風で全部閑上の方に聞こえたんですね。仙台市の方はもう大津波警報が発令されていたので、もう避難勧告から指示まであがってました。それで、そこからマイクの呼びかけの方は「大津波警報が発令されてるから、避難所に逃げろ」と、そういう形になってから、みんながもう血相を変えて車で逃げ出したっていう感じですね。

### 再び消防団としての活動

うちの前にバス通りってあるんですけど、旧道。あそこは渋滞してないんです。私が確認したのは、私が逃げる時に確認したんですけど、私が最初巡回してて、閑上の私の自宅の前の、閑上線の宮下橋の水門あるんですけど、今も水門残っているんですけど、あそこの橋へ消防車を乗った途端に、もう名取川が津波で溢れ出していました。向こう側にはもう津波が。これではもうだめだから逃げろっていうことで、どうやってUターンしたかはちょっと記憶にないんですけど、くるっと回ったんです。そこから今度サイレン鳴らして、「津波来たから

逃げろ！」ってマイクで騒ぎながら、そんな時に、逃げたと思った商店街の人たちが戻ってきてたんですね。逃げなかったのか、戻ってきたのかは、ちょっと分からないんですけど。だから商店街の人たちは私分かりますから、サイレン鳴らしながら「逃げろ！」って言ったけども、確かにブレーキを踏んで、その人たち助ければいいんですけど、もう後ろに津波来てますし、もうその人たちを見捨てた形になってしまった。結局その人たちも私の顔覚えているから、後でノイローゼ気味になったのがそれで、夜もちょっと夢の中に出てくる。亡くなったっていうのも分かってますので。その人たちが結局俺の顔見て「お前は、見捨てて逃げた」って思ったまま死んだのかなって考えてしまう。そういうので、その時はそのまま逃げてって、そしたら私のマイクで騒いだ声で、2階に上がって助かった人もいるし、七十七銀行の人たちも、あの消防車がサイレン鳴らして来たから、2階か屋上に上がって助かったっていうし。4日か5日して、文化会館に行った時に、避難所になってたので、そんな時にも「マイクの声で、うちの娘助かったんです」って言われたし。

旧道通って逃げてって、途中から私も閑上中学校に逃げなきゃだめだって思って、中学校に逃げる途中で、閑上線と中学校の前の新しい道路の間に、もう1つ細い道路がありますよね。そこを横断する時に煙が見えたんですよ。最初「火事かな」って思って消防車をそのまま入ってしまったんですね。そしたら津波で家そのまま目の前に押し寄せてきて、そしてみんなも津波が来たんで走るんですけど、「車に乗れ」って言っても、やっぱりみんな必死だから乗る気配もないんですね。今度私たちも危ないってということで、サイレン鳴らして中学校に向かったら、渋滞しているのが分かって、でも私は、間に合わないと思ったから、Uターンして小学校に逃げようと。小学校に逃げる時もサイレン鳴らして、マイクで「津波来たから逃げろ」って言って、そんな時に渋滞、さっき言ったあの閑上大橋でもうトラックから何から身動き取れないんで。

そして小学校のグラウンドに消防車止めたら、小学校の体育館から子どもたちが逃げて来た。というのは、親御さんたちが迎えに来るということで、引き渡しの準備してたようなんですよ。そこにPTAの役員さんが「津波来た」って言って、先生たちが3階に上がれっていうことで、私がそれに直面して、まさか小学生より先に逃げられないんで、下で、とにかく「上に上がれ！」「止まらないで教室に上がれ」って上がらせて、それで私も上がった途端に津波が来ました。ただその時に大人の人たちが階段の途中で止まって、「あ、津波来た。来た。」って指差して。だから子どもたちが止まってしまうんですよ。狭まってしまってるから、1人2人しか登れなくて。ちょっと頭にきて、その時注意した記憶があるんですよ。

そのまま上がって、津波来たって言うてる時に、うちの消防の副分団長がちょうどいて、逃げ遅れた人が学校の校舎に掴まってるんですよ。流されないように。それを上司から、「助けるぞ、救助するぞ」って言われて。でも消防車も何も全部流されてるから、何もない。装備がないっていう時に、誰が考えたのかちょっと分からないですけど、非常ベルの下に消火ホースって付いてますよね。あれ全部2階と3階から持ち出して、つなげて1本垂らして、その1本が私だったんですけど、上司に「手上げろ」って言われましたから、私も素直に手を上げたら、ホースをくるっと巻かれて、「行ってこい」って言われたんですね。2階から下に落っこちて救助活動して。私がちょうど降りたところに入口があって、雨よけのサッシっていう



か、そこにポンと乗ったから私は濡れなかったんですけど、他の人たちも消防団がやり始めた時は、もうどっぷりつかって、やってましたね。私はその上に乗かって濡れないで、その下に若い男の子が、じいちゃんとおばあちゃんを両脇に抱えて、津波に立ち向かってたので、ホース1本持たされたやつを、「それにつかまってろ」って、そしたらその人が、「この人上げられないから、私教室の中に無理やり入れますから」っていうことでおじいちゃんを。私がホースと一緒におばあちゃんをつかまえて、そしてその男の子が帰ってこないと思ったんで、上げようと思ったけどやっぱり、雪降ってきてしまって、私も段々手がしびれてきた時に、その男の子が戻ってきたんですよ。そして、おばあちゃん渡して。そしたら今度次の人たち「どこに逃げればいいのか」って、濡れてますから、もう少し頑張れば津波も収まるってということで、収まってから教室の中に入れて、中の階段から、上に上がって行きました。

それから1回上がって、また上司から「もう1人いるから」っていうことで小学校から150mぐらい離れたところに70代ぐらいのおばあちゃんが、ブロック塀の上に乗かってたんですよ。それで、「その人救助して来い」って言われて、もう「どぼーん」と入って。竹の竿みたいなのをよこされて、なんでよこされたのかなって思ってた、「そこにドブあるから、ドブに落っこちたらもうスポンと落っこつてくから、それで検索しながら行け」って言われて。それで行って、途中で車が流れてきて、もう山になってるからその2台ぐらいに飛び乗って、ホース足りなくなってもホース次々付け加えてもらいますけど、やっぱりホース重いので、体とられるんですよ。おばあちゃんのとこたどり着いて、「救助に来たから一緒に逃げよう」って言ったら、「水冷たいから降りたくない」って言われて。そんなことやってるうちに後ろから「早くしろ」って言われて。とにかく血相変えて私も、その人降りないから、無理やり降ろして、そしてもうずぶ濡れになりました。けど、そのおばあちゃん途中まで行ったら、もうおばあちゃんも寒くて小学校までたどり着ける様子もないから、そしたらちょうど隣の家の上から男の人が首出してたんで、そしたらそのおばあちゃんが、何言うのかなって思ったら、「あれうちの旦那」って。それで、旦那さん呼んで、「奥さんもう連れて行けないから、この上に上げるから手伝って」って言って、必死になって2階に行って、そしておばあちゃんと2人に、「この家の毛布何でも使っていから、次の朝まで救助来ないと思うから、くるまって、寒くないようにしててね」って言って、私は小学校に戻ったんです。そういうのもやりましたね。それで今度、私がずぶ濡れになりました。

消防団とか学校の先生たちは、職員室に全部集められて、「どうするか」って話をした時に、学校側から、「白い紙とペンで各教室ごとに名前と病気持ってるかっていうのを書いてもらいましょう」っていうことで、書いてもらったんですね。それを、教室のところに貼って、この人はここにいるよっていうのが分かるようにして。救助隊来た時に一番最初に誰を出すか、「健康な人を出すより、病気持ちの人が良い」ということになりました。その夜、結局私たちずぶ濡れになってたんで、学校の先生たちが、かわいそうだと思って、先生たちのジャージだなんだって置いてあるんで、それを全部出してくれて、着替えてくださいって言われて、着替えたんです。ただパンツがなかったんで、使っていない教室に行って、消防団の人、裸になってパンツも全部脱いで、絞って、どうするかなって思ったら「またはかないとだめかな？」ってはいって、着替えたんです。

学校の先生たちがすごかったなって思うのが、子どもたちがいるんで、まさか先生たちがいないとだめだとなって、先生たちが教室に、どの教室に何人いたかは分からないですけど、教室に先生たちが順番で、1時間おきに交代で入りましょうということで、子どもたちを安心させようってということで、そういうこともありました。親御さんいる子どもは、親御さんに渡すってということで、やりましたね。

そして朝になって、私は音楽室の方に入ったんですけど、ほんとはお年寄りしか入れなかったんですけど、濡れてるからやっぱり消防団の人たちも寒くて、今後活動できなくなると困るから入っていいよって言われて。

そんなことやってるうちに、7丁目の方がもう火災になってて。それを見てみんなして、「ああ、町も燃え出したわ」なんて言ってましたね。引火したのは、車のガソリンもありましたね。あと船の重油、船も流されてるんで。何が火元っていうのかは分かんないんですね。バッテリーがショートしたっていう説もあるけど、全然分かんないです。仙台東部道路名取インターチェンジの方が、夜中にパッと明るくなったんですよ。救助活動始まったんですよ。そんな時に自衛隊とか消防も入ってたけど、一番最初はやっぱり、名取市が協定結んでる、建設業組合の人たちが、重機出してもらって、それで重機で道路のがれきを除去して。ただなんか話聞くと、そのがれきを除去してると絶対出てくるものって遺体なんですよ。遺体も、処理っていうかそういうので困ったって言いますけどね。だから遺体見つかると、すぐ警察が来て見聞して、自衛隊が安置所に運ぶ。

12日の朝、明るくなると、みんな屋上に上がって行くんですね。それで学校の屋上から「町がなくなったわー」なんて、中にはずぶ濡れになっても「こっから出たい」って言って出て行った人もいますね。それで、そこでなんだかんだってやってるうちに、自衛隊が入ってきて、自衛隊ここまで入ってきてもらったんですけど、何も装備持ってこないってということで、自衛隊の人と話してるうちに、ある人が「7丁目の火災燃えてるところに、中学生がいるかもしれない」って始まって、自衛隊の人に話して、自衛隊の人が「調べてみるから」っていうので、調べてもらって助けてもらったっていう話は聞きましたね。

がれきを除去してもらった道路を自衛隊が先頭になってきて、後ろから市役所のトラックに食事運んでもらってきたんです。そしてその食事を全部2階に上げて、学校の先生たちと、数が決まってるからパンも半分ずつとか、ちょうどコココーラのボトリングカーが、学校の近くに横倒しになってたんです。運転手さんも助かってたんで、運転手さんが「非常時だから、あそこにあるジュース全部使っていいです」って言うんで、私たちが全部運び出して、学校の先生が濡れティッシュで飲み口を全部綺麗にしてくれたんです。それと一緒にパンとかも全部配って。配布する時に、2回も3回も並べられると困るってということで、取りに来る人はこっちの方向からで、帰る人はこっちから帰るってルートを作って、前の教室の人が終われば、次の教室の人呼びに行ってという形です。そういうのを繰り返しました。そして終わってから、「あー俺たち何もなかったなあ」って思って、私たちは、もう自分たちも食べられると思ってなかったんで、一番最後っていうの分かってたんで、「どうせ食えないな」って思ってたら、学校の先生たちが、市が運んできた中に弁当入ってたそうなんです、コンビニの。その弁当をみんなに見えないように箱に入れて、そしたら先生たちが箱をよこして、「これ食

べてください」っていうことで、「ただその代わり隠れて食べてください」って言われて端の方で食べて。そこから、透析が必要な人とか、寝たきりのお年寄りの人とか先に出さないとだめだっていうことになって、それでやってるうちに今度警察が、護送車みたいな大きい車で来て、その人たち遺体探しに来たんですけど、そういう車もそのまま置いてあるんで、その隊長さんに「閑上小学校に避難してる人がいるんだけど、どうにかしてこの人を町の方に連れて行きたい」って言ったら、「じゃあその護送車に運転手の警官付けるから、それに乗っけて行くから」っていうことで準備してたんです。そしたら今度消防が来て、救急車が来て、「何やってんの」って言われたから、こういうんですって言ったら、「いやそれは私たちがやる仕事だから、勝手なことはやめてくれ」って、そこで問答始まったんです。そして何だかんだやってるうちに、もう私たちも呆れてその消防署の人たちに、「じゃあ勝手にしてください」っていうことで、下まで降ろしてた人たちをもう1回上に上げるって。「上げてくれ」って消防隊員に言われて、「ふざけるんじゃない」「下に濡れないように5人か6人でベッドを持ったまま待ってるんだよ、みんな」「それを何、また上げろって言うの」って言って、それで「ちょっと待ってください」ってそこで消防の救急隊が話聞いたりして、「なんのためにやってんの？」「とにかく救急車の中に入れろ」って言って入れて。そういうことやってるうちに、次から次へと何が悪いんだかんだって始まったんです。救急隊がまた俺のところに来て、「さっきの警察の車を、もし出してもらえらんだったら、貸して欲しいんです」って言われて、警察の方はもう出ないと思ったから、車を別のところに持って行って、署員もいないんです。それで、また現場に歩いて行って、中隊長さんか小隊長さん見つけて、「すみません。まだいいですか」って聞いて、「いいよ」って言われて、それで5回ぐらい輸送してもらいました、消防署の方に。

そんなことやってる時、市の方でもバス、大型バスから何からみんな出してもらったので、それに順番に乗りましたが、やっぱりバスがなかなか戻って来ないので、もう応援隊の他の地区の消防団の分団長さんが、消防団のポンプ車が置いたままになってたので、「これに4人でも5人でもいいから乗せて、ピストンすればいいべ」っていうことになって、その人の判断で、消防車に5~6人ずつ乗っけて、ピストン輸送したんです。そしたらやっぱり本部の方から「勝手な行為はやめろ」って来たんです。そしたらそこにちょうど消防本部の方がいて、「本部からこういうふうに言われてるんだ」って言ったら、その分団長さんが「いやそれは俺の指示でやってるから、何かあったら俺が責任取るから、あんたも見ないふりしてくれ。俺責任取るから」って言ったら、その人が「いやそういう訳にもいかない」って。でも、「確かに分団長さんがやってることはいいことだから、私も目つぶります」っていうことで目をつぶってもらって、そしたら消防本部の大役の車が来たんです。ずーっと、それをみんなで睨み返したら、そのままスルーして行ってしまっただけ。あれがあったから人も運べて、結構すんなり救助活動が終わった形になりました。それで、私たちそこで、ある程度終わって初めて「じゃあお前ら閑上中学校へ行こう」って言われて、中学校に行っておふくろを見つけたっていうことです。

そうして戻って来てまた救助活動っていうことで、人を次々乗っけて連れて行って、そしてバスもなかなか来ないので、やっぱり歩いて行く人もいますね。途中で誰かに乗っけ

てもらったりして。そういう人もいたし、主に、館腰小学校と、第一中学校かな、そこに運んで。距離はちょっとありますね。私たちが一番最後に何を残されたかっていうと、私たちが救助した、70歳ぐらいのおばあちゃんが、低体温症で亡くなったんですね。その人をまさか健康な人と一緒に置けないから、教室のカーテンを剥がして、鍵のかかる理科の実験準備室、薬品庫があるところに入れて、学校の先生に鍵かけてもらってたんです。それで、その遺体をどうするかっていうことで、なんか本部とのやりとりがうまくいなくて、消防団に「残ってる」っていうことで残ってたんです。そして「あと迎えに来るから」って言われて、待ってても、もう12日の夜中で、13日になるよってぐらいまで残ってましたが、もうどうしようもないっていうことになって、そしてバスがちょうど1台来たんです、市の、中学校の方から。それを止めて、「もう、この車で終わりだよ」って運転手さんに言われて、「乗れわ」っていうことで乗って、遺体は後日誰かが収容してくれたようです。

消防署との連絡は、消防署員が1人付いてたんで、無線でのやりとりになってたんですけども、その署員も応援隊が入ってきてるので、一番最初に富山県の消防隊、緊急援助隊入ってたんで、その人に付いてたりしているので、その人がいないと本部とのやりとりができませんでした。電話もつながらないし。そして最後にそのバスに乗っけてもらって逃げる時に、途中で火災が起きて、その火災の家が、燃えてる時に何かの拍子で、道路に倒れたんですね。そしてもう逃げられなくなったんで、もう一晩泊まるのかと思ったら、消防署と他の消防団が来て、消し方してて、私たちもバスから降りて消し方しようと思ったら、「いや、あんたたちはバスに乗ってて、そのまま避難所に行っていから」っていうことで、そしたら重機持ってきて道路をかき分けて、火が付いてるのを脇のほうにどかしてくれて、そこを私たち通って館腰小学校へ行ったんです。そしたら館腰小学校は電気付いてるんですね、体育館。建設業の人たちが、暗いところで可哀そうだと言って、発電機持ってきてくれて、発電機で体育館の照明に線をつなげて明るくしてくれてたんですね。そこに行ったら、やっぱり知ってる人たちがいて、そしたら市の職員から、「消防団の人たちご苦労様でした」って言われて、並んで、水とパンもらって、体育館がもういっぱいだから、居るところがないんですね。そしたら1か所だけあったんです。出入り口で脇から風が全部入ってきて。そしてみんなは、市の方から毛布とか何かもらってるんですけど、私たちもらおうとしたら「まだ市民ももらってないから、もうちょっと後にして」って言われて、そして何回か待ってもらいに行ったら、1回もらった人もやっぱ並ぶんですよね。そして「消防団の人たち先にもらっては、ちょっと」となって、混乱するからっていうことで、私たちまで手伝いさせられて、毛布の配り方。終わってから、もらった毛布にくるまって寝て、寝たけども寝れないんですね。

そして結局今度おふくろのことが心配になって、もう1人でいいから探しに行こうって、なんか第一中学校にもいるって言われたんで。館腰小学校にはおふくろさんいないって言われて、助かってる、生きてるのは分かったから、じゃあ探しに行こうと思って。ヘルメットから装備持って歩こうかなと思ったら、後輩が、「どこに行くの」って聞くので、「ちょっと探しに行く」って言ったら、「1人で行っちゃだめだ」って言われて、「それじゃあ私たちも付き合うから」って言われて、館腰小学校から第一中学校まで歩いたんです、3人して。第一中学校の近くに親戚がいたんで、親戚のところに行ったら、親戚も鍵かけていないから、逃げ

てったんだなあって思って、そして第一中学校に行き、ヘルメットにライト付いてたんで、それで避難してる人の名前が全部あったので、それをみんな見てから、新しいの来たなって思うと、また見たものも来たり、それ全部見れる訳じゃないんで、もういないっていうことになって。そしたら「どうする？」って言われたから、「1回戻ろう」となって館腰小学校に戻って、それでその朝に、寝れなかったんですけども横になって少し仮眠して、朝4時頃にまた私1人だけ起きて、確かこの辺に公衆電話あったなって思って、公衆電話探しに行ったら、朝4時でもみんな並んでるんですね。公衆電話に並んで、公衆電話ってNTT無料で電話できますんでって言われたんで、受話器取れば電話できると思ったら、1回100円か10円入れないとだめなんですね。「電話のお金持ってるの」って言われたんで、「あー」って言ってたら、10円玉を後ろの人が貸してくれたんで、電話かけて。兄貴のところに電話したら、ちょうどつなげて東京にいたんで「今東京から高速もう無理だから、一般道でとにかく向かうから。あんた助かったのか」って、「もう全滅だと思ったんだわ」って言われて、「最後ぐらい、骨ぐらい、遺体ぐらい見つけないとだめだと思って、車にガソリン満タンにして、今向かってる」って言われて。「何必要だ」って聞かれたから、「とにかく携帯用の充電器と、乾電池持ってきて」って言って。そこで「じゃあどこに行こう」ってなって、ちょうど親戚が、大曲ってあるんですけど、市役所とちょうど閑上の間の地区あるんです。そこ津波来なかったんで、そのところで待ち合わせしようっていうことになって、待ち合わせさせてもらって。電話してから館腰小学校に戻って、パンもみんな全部食べないで少しずつ食べてたから、それを食べて、4人して、5人かな。

その後「もう1回、俺第一中学校に行く」って言って、また朝と夕方に館腰小学校に戻るからって約束して、私は第一中学校に行き、おふくろ探しして。そしてそれでもいないので、どうしようって思って、ちょうど閑下の近くに親戚がいたので、そこまで歩いて行こうと思って行ったら、そこもないんです。そしたら近所の人「どうしたんですか」って言うから、「こういう訳で、閑上はもう津波で全滅して、親戚なんでちょっと頼ってきたんですけどいないんです」って言ったら、「いや朝早くね、家族の人たち車に乗って、出て行ったよ」って言われたから、「あーそうなんですか」って言ったら、その奥さんがいい人で「じゃあそこにメモ書きしていけばいいんじゃないですか」って言うので、「メモも何も持ってない」って言ったら、全部ペンもメモもセロハンテープまで持ってきてくれて。そして書いて貼って、帰ろうと思ったら、「それ持ってっていいですよ」って言われて持って。ちょうど親戚のところに自転車が並んでたんで、全部鍵かかってたんですけど、1台だけ鍵かかってなかったのあったんで、ちょっと拝借して、親戚のところに大曲まで自転車で行ったら、その叔母から、「お前大丈夫なのか」って言われたから、「俺は大丈夫だ。おふくろは、生きてるのを確認したけど、どこに連れていかれたかは分からないんだわ」って言ったら、いとこがいて、軽トラックにガソリン満タンになってるから、それ使っていいからっていうことで「探しに行くぞ」ってなって。「まずは飯食え」って言われて飯食って、そして、まず遠くからっていうことで第二中学校から始まって。第二中学校に行ったら、「ここには閑上の人はいないよ」って言われて。そして、また第一中学校に行くかっていうことになったから、「そこは見ただ」って言ったら、「いやちゃんと見ないとだめだ」っていうことで、第一中学校に行き、また

全部調べたら名前が出てきたんです。そしておふくろ探ししてたら、近所の人がちょうどいて、「おふくろさんこっちにいるぞ」って言われて、おふくろとそこで対面して。そしたら親戚が「じゃあここにいるより、叔母のところに連れて行くから」っていうことで叔母のところに軽トラックで連れていってもらいました。私は自転車持ってきてたんで、自転車降ろして、約束の館腰小学校に戻ったんです。それで館腰小学校で、「いやこういうことで見つかったから」って言ったら、なんか消防団閑上分団から、「閑上の消防関係は、いったん解散」っていうことになって、それで私はそれからまた自転車でおふくろのどこまで向かいました。叔母の所に何日でしょうね、1か月以上いたかな。その間に、閑上の自宅に行って、2階は助かってたので、そんな時にはうちの兄貴も来てたので、兄貴と「とにかく泥棒がずいぶん入ってるっていうから、1回家に行ってパソコンとかテレビとか、そういうものは全部引き上げてこよう」っていうことになって、軽トラックに全部積み込んで持ってきたんです。そしたら、それやってるうちに、今度やっぱり家にあるもの全部持ってこないとだめだということになって、取りに行ったんです。あと、金沢だ広島だっていううちの親戚いるんですけど、みんな集まってきて、そしたら、うちのじいさん、ばあさん、親父の位牌が見つからないっていうことになって。みんなして1階部分をくまなく搜索して、じいさんとばあさんののは見つかったけど、親父のだけ見つからなくて。それで3日間ずっと泥だらけになって、みんなで探しても出てこないっていうことになって、もう諦めた時に、仏壇の後ろ側だけは見てなかったんで、うちの親戚が何気なく手を突っ込んでたら、そこに位牌があったっていう、そういうのもありましたね。そして親戚にも、とにかくなんだかんだ持ってきてもらって。

大曲の方で「一緒にここにいろわ」って親戚の方が言って1か月か2か月いたかなあ。1か月ぐらいかな。そしてすぐ仮設住宅作りが始まったのですが、私は仮設の申し込みはしなかったんです。そしたら市の職員で知ってる人が「なんだ申し込みがないと、申し込み分しかないから、入る入らない関係なく、申し込みだけしろ」って言われて、申し込みしたんです。そしたら仮設住宅の箱塚桜団地が一番先にできたんです。そしたらあそこって上町地区の人たちが住むところになってたので、電話来たんです、役所から。「入ってもいいですよ」って言われたから、「私より、ほんとに避難所にいる人たち入れてください」って言ったら、逆に怒られて、「当選したんだから入ってください」って言われて、「なんでそういうこと言うんですか」ってちょっと揉めて。そしておふくろに言ったらおふくろも、「仮設には住みたくない。ここにいていいんだったら、ここにいたい」っていうから、それでもう1回市役所に電話したら、「いやそれでは困るんです」って言われて。それじゃあしょうがないから「俺だけ入るから」っていうことになって、一応おふくろも入ることにして、そしてたまにおふくろも来て泊まったりはしてるんですけども、おふくろは、親戚のところにまだいます。

おふくろを、なぜ仮設に置きたくなかったかっていうと、前に親父が亡くなった時に、やっぱり寂しくてちょっと鬱になったんですね。それでまた再発されるの嫌だから、自分の姉妹だから姉妹のところにお世話に。叔父からも再発されると困るから、やっぱ仮設より、大曲に置いてもらえるんだったら置いてもらえっていうことになったんです。そしたら、その大曲の叔母が、具合悪くなって倒れて、救急車で運ばれたんです。そんな時ちょうどおふくろがいたもんだから、おふくろが救急車呼んで病院に連れて行ったんです。隣にその家の長男

が、家を建てて住んでいるんですが、こっちも共稼ぎなんで日中いないんですよ。そしたらそっちから、「おばさんがいれば、日中仕事行っても安心だから、逆にいてくれ」って言われて、そしておふくろに言ったら、「いいよ」っていうことになって。でもそこで、あっちの方の親戚関係からクレーム出るわけですよ、「なんでまだいるんだ」って、「仮設できたのに」って。そしたらおふくろが、「そういうふうに言われてるようなんだ」って言うから、「仮設に戻るか」って聞いたら、「どっちでもいいよ」っていうことで。それが隣の長男とこに聞こえたようで、長男がおばさんや親類たちに言ったようで、「俺が決めたことなんだから、何もあんたたちが言うようなことじゃない」って。「そういうことで、うちのおふくろも助けてもらってるのに、俺が決めたんだから」って言ったら、おばさんたちも何も言わなくなったって。今「いてくれ」ってまだいるんです。でも、そろそろなんか戻りたくていいんですけどね。私と一緒に暮らしたいけど、私の仕事も朝早くて夜遅いから、あっちにいてもらったほうがいいんですけど。

震災後1か月大曲にいる間に、私商工会の役員とかやってたので、商工会に顔出したら商工会職員から、「閑上どういう状態なの」って聞かれたから、「閑上は全滅で、誰が亡くなって誰が行方不明だかも分からない」って言ったら、「商工会と会員さんが、どうなってるかって調べないとだめだ」って始まった時に、「手伝わないか」って言われたので、ボランティア精神でどうせ仕事も何もないから、「じゃあ手伝います」っていうことで名簿の照らし合わせで、仮設、その時はもう軽トラックも使ってたし、商工会の公用車使って運転して仮設巡りしました。ただ問題になってくるのがガソリンですよ。

## 避難所の様子

特に夏頃だと支援も来て、受け入れる方もまあすごく助かったんでしょうけども、いっぱい来たんで、その対応が大変だったようです。あそこの班長っていうか責任者になった人と、いろいろと情報交換をしてたんです。何かあれば、話し相手になって、相談乗ったりして「商工会関係でもこういうんだ」っていうのは、「じゃあ分かった」みたいにやり取りしてて、だから1日に1回はあそこには絶対俺顔を出してたんです。それで、やっぱりその方からも、いろんな支援来るけども、誰でも初めてだからどうやって受け入れればいいのかとか、そういう話もしましたね。そして、そのうちに自分が長になってた。それでなんだかんだ手伝ったりして。館腰小学校の避難所のいろんなことも手伝ってたんで。「こういうのやってくれ」って言われると、そういうのあそこから話もらうか、商工会でこういうことできないかっていう。あとうちの商工会長が、避難所を回ってお話したり。一番ひどかったのは、やっぱり文化会館ですかね。避難所の中では、文化会館がひどかったような気がしますね、硝子張り。そしてやっぱり子どもたちですかね。あの、テレビとかでよくやりましたけど、閑上中学校の生徒さん14名亡くなったとかありますのでね。だから子どもたちも今一生懸命頑張ってますからね。

## 消防団として

私は消防団だから、マニュアルに従って地域の避難活動をして、ただその時に、大津波警

報が発令されたの全然分かんなかったんです。結局いろんな方が、後で言っていたけれど、防災無線が壊れてたんです。それで私たちは、ただマニュアルに従って活動して。避難誘導活動しているうちに津波が来て、それで30秒遅かったら私は死んでたんです。おふくろは、もう死んだと思ってたんです。店舗兼自宅の家は残っていましたが、ただ1階部分は壊滅ですけどね。3mの津波だったので。避難して私も小学校に逃げて、おふくろは公民館に逃げる途中で、なんか知ってる人か誰かに、公民館に逃げるんじゃなく逆に逃げてきてる人がいたので、「どうしたんですか」って言ったら、「公民館は人がいっぱいいて、逃げたって無理だよ」って言われて、中学校に逃げて助かったんです。あれで、もし公民館にいたらだめだったって。そういう時に運命感じますよね。私と同じように消防活動した人も亡くなっていますからね。おふくろは、私は死んだものだと思ってたんですけども、「消防団壊滅した」って言われたって。

訓練っていう訓練は、確か3年に1回だけ、心肺蘇生と人工呼吸の講習だったり、あと年に1回、まあ消防大会だなんだっていろいろあるんですけど。特に組織だった訓練っていうのはそれくらい。あと私の場合は、消防団だから機械の操作っていうのがあるので、1泊2日で消防学校に行ったり。あと消防団に入る時に、基礎教育っていう2日間。私の時は、消防学校の教官が名取に来て60人規模でやらせるっていうのだったんですけど。それ終わって私3年ぐらいしてから、消防学校に行って機械の操作や消防車の運転の仕方だの、そういう教育受けて来いって言われて、名取市内から年に3人か4人ぐらいしか出て行かないってそういうのに選ばれて。活動としては、活発な方じゃないですか？町のこっちに来れば、こっちは火災が主で、台風とかそういう水害はないですけど、閑上に行くと水害救助が入りますんで。

## 商工会の活動

商工会の活動は、会計や面倒見たり、そういうのばかりですね。あとはよくあるのが、震災の絡みで、結局店を直すとかそういうものの補助金。閑上に関しては、全部国の補助金入ってますので。閑上にも商店街っていうの、増田にもありますし、まあ商店街っていうのは、ほんとに2つあったんですけど、今は名取は増田だけしかないでしょう。閑上にも商店街あったんですけど、震災前にどうするかって、商店街が解散するかどうかでなく、ポイントっていうかスタンプっていうか、そういうカードシステムやってたんで、それをどうするかっていうので揉めてたんで、今回の震災であとはもうできなくなったっていう。でも「さいかい市場」（仮設商店街）の方で23店舗のお店が始めたので、そちらでもスタンプカードを今始めていますからね。地元つながりでいろいろ交流とかありますね。私の場合商店街の役員もやってたし、商工会の青年部の部長なので、やっぱり今この増田の商店街の人たちとも仲良くさせてもらってるし、無理難題とかもありますけど、逆にこっちが相談に乗ってもらったり。さいかい市場も担当していますので、でも、もう1年経ったんで正直自分たちで全部やらせようっていうことで、私たちはあんまり手を出してないんですね。そうしないと地元に戻った時に何もできなくなると。

名取の被災者の人たちは恵まれてると思いますよ。今被災地の中で、名取は人口が増えます。内陸の方に借りられて住む方が多いし、あと福島から入ってきた方とかですね。さい



かい市場も5年で出ないとだめですからね。まあ、あと4年ですか、閑上がどうなるか分からないのに、出て行けって言うことを言えないだろうって、今騒いでますね。いざ蓋を開けて、「じゃあ閑上に戻りますよ」って言っても何事業所が戻るかっていう。でも住民に聞くと、「戻るのはいいけども、商店街、病院、銀行がないのに、戻るっていうことはできないでしょ」って言うと今度は、商店街の人たちは「住民が戻って来ないのに、戻れないでしょ」って。どっちが先かって。今行政が考えてるのは、閑上って震災前は、お店と住宅って一緒だったんですね。それをね、別々にしようっていう構想が出てきてるんで、二重の負担がかかるんですね。店作って、別な場所に住宅を作って。あともう1つは、グループ補助金。あのグループ補助金ほんとは、現地に戻るっていうための補助金だったんですけど、閑上は先が見えないのでどうしようもないですね。

名取を出れば、土地はいっぱいあるんですね。やっぱり閑上が好きだから、住みたいけども、あの気持ちはもう味わいたくないので、みんな周りに住んで人口流出が少ないんですね、名取って。市長が、そういうんだったら戻したいと思って、今一生懸命やってるんですね。このあいだ市長から「若い人たちが、どうしたいんだか聞きたい」って。

さいかい市場の店の作りは、地元の人たちは嫌がってる。閑上っていうか、結局魚屋さんに入って、隣で買って、なんか自分のところで買ってもらえないって言う人がいるんですよ。最初、あれ出来た時に、引き渡しの時にしこたま文句言われましたもんね。「なんで、こんな作りにしたんだ」って。位置とかは、全部行政が決めた。東京の、霞が関にいるお役人さんが設計図で、現地も見ないで。

2011年7月から商工会で臨時職員として働き、ほんとはその年だけだったんです。12月31日付で終わりの予定だったのが、3か月間延長するって言われて、3か月間延長になったんです。そしたら、なぜか知らないけど「また1年いないか」っていう話になって、それで、1年いってもう終わりだなと思ったら「もう1年いない？」ってなって、延長できるって言われて。でも上司のほうからは、「いい職、仕事あるんだったら、そっちに移ってもいいんだぞ」って言われてるけども、確かに菓子屋も最初やろうって気力はあったけども、おふくろから、「もう私はいいわ」って、「少しねえ、ゆっくりしたい」って言われたし、俺1人ではできないし。まして今から家も建てないといけないし、ローンにローン抱えて、今の生活で払えるかって言われると払えないし。兄貴からはもう「商売辞めていいから、お前好きなことやれ」って言われたんで。だから今のうちは来年の3月までは、今の職を復興支援っていう形で「仮設からなんだ」ってやっていますんで、そっちでいいかなって今ちょっと考えてるんです。

ただ今、仕事やって一番残念だなって思うのが、うちの職場で震災にあって家がなくなったというのって誰もいないんです。だから結局俺の見方でしょうけど、外から見るともう震災は終わって、普通の生活をやってるんですね。結局、仕事終われば、自分の家に帰って休める。だからある人にも言われたんです。「商工会職員なんて、俺たちの気持ち分からない」って、だから普通の職員が何か話したって「あいつら、話したって通じない」ってやっぱり言われるんです。でも俺だったら分かるから、いろいろ言えるんだって、しっかり聞いてると、話してはくれるんです。「商工会のなんでこういう対応なんだ」って怒られる時もあるんです。

仕事は、去年までメインにしてたのは、案内ですね。その案内の、なんていうんですか、パイプ役ですかね。あとは、さいかい市場でイベントをやったり、あと補助金申請は職員が全部やるんで、私の場合そこまでいくように話し付けたり、あとは行政に「さいかい市場で、こういうことに困ってるけど、少し力貸してくれない？」とか、やっぱり事務的なことですかね、あと一般の職員の手伝いとか。パソコンの打ち込みとかいろいろするんですね。確かに今もう2年経つんで、職員の間でも薄れてますね、震災。市の職員も自分が被災してない人は、やっぱり分かるんです、態度が。職員の、温度差有りますね。あの仙台東部道路から向こうが被災地で、ある人が言ってました。「仙台東部道路から海側は地獄、こっちは天国」って。そういうのがあるんで、確かに温度差も出てきたなあって。

## 仮設住宅での生活

仮設はですね、まあ私も朝早く夜遅いので、日中どうなってるかっていうのは、ちょっと分からないんですけど。結構いろいろなイベントっていいですか、お茶飲み会だなんだってということで、ボランティアさんがやってもらってるのは分かってたし、そしてやっぱり、同じ町内の人たちが入ったから、つながりはすごいですね。じいちゃんばあちゃんたちと話したり、そしてやっぱり挨拶はするし、朝なんて早く出ていくと「何？仕事に行くの？」って馬鹿にされたり。「ちゃんにご飯食ってるのか」とか。

仮設で大雨が降った時、まず市長ですよ。市長のところにも文句「こんな、雨いっぱいになるところに、なんで仮設作ったんだ」なんて始まって。だから市の方の対応も早かったですね。すぐバス出して、名取が丘の公民館に全部避難させて、私たちは現場で、水引くのを待ってるって感じだし。だからそれからですよ。名取市ですぐに箱塚桜仮設住宅につながる排水溝っていうか、それを別ルートに直して。だから今大雨降っても大丈夫なんです。

## 今後のこと

今後どうしようかっていうのは、確かに来年の3月で終わるっていうのは分かっているんで、悩んでるんです。どうしたらいいかなって。行政の方から、もう1年延長できるようなニュアンスはもらったんですけど、でもこのままの給料ではやっていけないっていうの分かっているんで、ほんとにボランティア精神でやるっていうのは、そろそろ終わりだなって思って、やっぱり臨時だと臨時の仕事しかできないんですよ。

以前の商店街に代わるものとして、さいかい市場の振興会を作りましたので、その人たちが中心になって、町をっていうか商店街を地元、閑上に戻すかっていう話をして欲しいんですけど、でも結局は今の自分のことで精いっぱいなんです。どうやったらお客さん呼べるか。確かに今私たちがやってる案内っていうのは、予約をもらう時に、さいかい市場で買い物をしてもらうっていうお約束で入ってるんです。それで去年は、結局私1人でやってたんです。受付から全部、それを今年の4月から、3人が私と一緒にやってくれるっていうことで、地元の有志の人たちが話に乗ってくれて、市役所もちょっと絡む形にして、いろいろ相談したら、じゃあ商工会の方からはずして、宮城県の観光復興支援センターって、観光の方の支援センター、そこを窓口にして予約来たらそこで予約を取って、今度3人だったのが5人にな

るんです。その5人が今活動していて、その5人が活動できない時に、私が入って案内をしてるっていう形ですね。だから先は、ほんとに分かりません。今ほんとに悩んでいます。どうしたらいいか。そしてやっぱり、震災の温度差を一番感じてきてますね、今。もうほんとに家壊れなかった人は、今回の震災は、終わったことになってますから。

1年間は復興させようって店やろうかなって思って入ってた人も、やっぱり無理だと思って辞めてる人も多いです。残念ですけどね、やっぱ辞めていくんですよ商工会。

## 閑上の良いところ

閑上の良いところ、やっぱり隣近所との仲ですね。あの絆？あそこで何かあったっていう時に、みんなで心配してくれたり。幼稚園から中学校までそのままずっと上がっていく。絆は強かったですね。あと自然ですかね。海が近いし、空港近いし。でもねえ、みんな閑上に戻りたくなくなってくるんですよ。「閑上はいいんだ」ってみんな言いますが、でも買い物するんだったらこっちのほうが。閑上ねえ、呑気で良かったですね。

## 今後の住居

うちのおふくろは、もう戻りたくないって言ってますので、別な場所を買おうかなっていうことで、物件探してるんですけど、今物件ないんですよ。うちの兄も、閑上に、最初は戻って騒いでたんですけど、今この状況で戻ってというのはもう無理だと、そしたらやっぱりおふくろのためにも、少しでも安らげるとこにちゃんとした家を建てろと。それで、閑上はその後考えたって良くないかと。「今からみたって10年はかかるぞ」って言われてしまいましたもんで、そのうちにおふくろだって病気になった、亡くなったっていうんだったら、家を買って、少しね、呑気に暮らした方が良くないかって。そのためにうちの兄貴が、「金の工面は、全部俺が責任持つ」って言われたんで、物件だけ見つけたら金かからないと言われたんで。

私も閑上好きなんで、すぐ閑上に行けるので最初に探してるのは、杜せきのしたとか美田園。美田園はもういっぱいなんで。閑上に住みたくないけど、やっぱり名取市内。それで「山の方に行くべ」って言ったら、「山は嫌だ」って。やっぱりおふくろもね、先が短いっていうから、思うようにさせてやれって、うちの兄貴のあれもあるし、叔母たちからも、ちゃんと考えてやれよとは言われてるんで、そうするとやっぱり考え出すと、今の仕事をやっていいのかなって。

### 地震の時

震災の時は、仙台市の西多賀の鉤取っていうところ、郵便局勤務なんで、そちらを配達してたんですね。場所は286号線をはさんで北側ですかね、山の方って言ったらいいんですか、そこを配達してて、それで地震直後はまずそのまま配達は続けてたんですね。なんでかっていうと、ちょっと壁が崩れたとか瓦落ちたとかぐらいで、配達地域のところは何もなかったもんですから、これはそんなに大したことはないんだなって、揺れは長かったけども地割れとかは一切ないでしょう。西多賀病院の近辺でちょうど地震に遭ったものですから。あそこらへんは地盤固いせいとか何にもなかったんですね。周りの建物自体が。そのまま配達続けてちょっと向こうに行った時に、階段崩れたり地割れしたり瓦落ちたりとかっていう状態になって、その時にたまたまタクシーの運転手が車でテレビ見てたら女川に10m以上の津波が来てるっていうのを聞いて、すぐに郵便局に戻ったんです。鉤取の新仙台郵便局っていうところで、そこに戻って多分これは閑上もやられてるだろうと、ただ、メールで嫁さんと連絡取れたので、それで、うちの娘と嫁さんは中学校で、うちの下の息子の方は小学校にいるよっていうのは確認できたので、助かってる、避難してるっていうのは分かってたので、まずとにかく帰らなくちゃと思って。ただ、車の鍵とか局の更衣室にあったもんですから、局の中はガスが充満していて中に入れない状態だったんですね。何とか中に入って全部荷物を持って、それで車で閑上に向かおうとしたんですけども、こっち側から行くとどんどん渋滞で、ホームマック（ホームセンター）の跨線橋を結局渡れなかったんですね、渋滞で。それでこれではとてもじゃないが行けないっていうことで、実家が鉤取にあったので、1回戻って行って。

私は、閑上小学校のPTA会長をやったものですから、その時学校で避難してる子どもたち多分飲み物もないだろうって思ったので、実家から飲み物とか懐中電灯とか集められるだけ集めて、布団とかも全部車に積み込んで、それで夜に閑上の方に向かったんですけど、多分閑上街道の方はだめだろうっていうことで、川沿いの裏の方から入ろうと思ったら、結局警察に止められて、その時にはそこも親とかが集まって、どうなってるんだって状態になってたのですが、この先にはもう進めないとと言われて。どこまで津波が来てるんだって聞いたら、警察の人にすぐ目の前まで来てるんだって言われたんですけど、実際ぴんと来ないで、みんな「こんなとこまで来るわけないだろ」っていう顔で。その時にはみんな携帯の充電とかも切れてる状態で、顔見知りの母親とかに携帯貸したり、俺の車は充電器ついてたから、そういうのやって。今度は閑上の通りですか、そっから移動したんですけど、そこも警察は止めてたんですけど、とにかく「小学校に飲み物届けるんだから、とにかく入れろ」と。「どうなっても知りませんよ」って言われたんですけど、いいから行けるとこまで行くからということで。閑上の交差点っていうか信号あって車屋さんとかあるところ、そこでもまた止めてたんですけど、とにかく警察に無理やり入れてもらって入った瞬間に、もう船とかがある状況でそこでもう頭が真っ白になったんですね。車で行けたのが結局ミニストップの100m手前ぐらいかな。そこまでぐらいでもう行けないと車ではだめだってなって。そこでとにかく

飲み物だけでもってことでリュック持ってたんで、リュックに詰めるだけの飲み物詰め込んで、そこから歩き出したんですけども、結局夜で真っ暗でとにかく分かんない状態だったんで、道路を外れるのは危険だって、側溝にはまったら浮き上がってこれない。俺なんか泳げないんで、とにかく直線で行くしかないって思ったんですけども、がれきが何重にも横にずっとある状態で道路がふさがってたんで、どれくらいの時間かかったんだろ。あと火災が起きてたんで、火が道路をふさいでる状態とかもあったんで、とにかく向かってたんですけど、仙台東部道路の名取インターチェンジの方からかな、懐中電灯が見えたんで声かけたんです。「誰？誰来るんだ」って、そしたらたまたまうちの副会長で小学校PTAの。それで2人で向かったんですけど、そこから火災起きてるところを避けるのに副会長が側溝にはまって、大丈夫だったんだけど、俺は反対側の方に向かおうかなって思ってたら火の周りにプロパンガスとかボンボンシューシューいいながらあるものだからちょっと危なすぎて、端の方ぎりぎりを通って行って、何とか小学校までは辿り着いたんです。

### 何とか小学校に辿り着いた

小学校に辿り着いて、私のイメージ的には小学校には小学生しかいないってイメージしかなかったので、300人ぐらいだったんです児童数が、300人だったら背負ってきたものでなんとか1杯ずつでも飲ませられるだろうと思って教頭先生に聞いたら、800人だか900人避難してるっていうことで。結局それで飲み物は回せない、無理だっていうことで職員室に置いてくって話で。まず最初に「子どもたち、みんないるの？」って聞いたら、28人だか下校してるって話聞いた瞬間にもう頭真っ白で、そこからちょっと身動きできない状態になってしまったんですけど。もう学校にいないで下校してた。あの時間帯ちょうど下校ギリギリの時間帯だったので、それが私のイメージ的にはとにかく小学生が助かってれば中学生も助かってるだろうと。まだ2時50分とかだったから中学生は学校にいるって頭があったんで、中学生はみんな助かってると思ってたんですけど。

その状態で職員室にいたんですけど、下の子はどこにいるのか分からなくてちょっと呆然として、そしたら職員室で話し合ってたのが、死にそうな人がいると、音楽室で。AEDは学校の1階にあったものですからやられちゃってて、誰かこれを外に通報しないとイケない。誰が行くんだっていうそういう話し合い。それで俺と副会長が呆然として聞いてて、そしたら結局うちの副会長が「じゃあもう1回戻る」って話になって、「俺も戻るか」って言ったら、「いや大丈夫、今来たから1人で行ける」っていうことで。俺もちょっとそのとき呆然としてたものですから、「そうだな1人で大丈夫か」って思ってたんですけど、後から考えてみたらまずかったなって。そこからですかね、子ども探して、見つけて、子どもとはあんまり一緒にいれなかったんですけど、職員室に張り付いてたりしてたもんで。

とにかく何かできないかっていって、その時たまたま氷砂糖の袋を持って行ってたんで、これだったら一粒ぐらいずつ配れるかって思って、ある程度配れて、そしてみんなに声かけて「大丈夫だ、今俺はここまで歩いてきたんだから大丈夫だ、明日になれば自衛隊の人たちはそこらへんまで来てるから、あそこのインターにまで来てるから、明日になればみんな助けに来るから待ってろ、朝になれば大丈夫だ」って話をして。次の日の朝になってから、自

衛隊の人が来て食料を置いていったんですね、校長室に。そこから校長室で小学校の分と中学校の分という風に分けたわけですよ。そこで、小学校の分をとにかく配るっていうことでその手伝いをしてたんですね。全員に配り終わったら、小学校の前まで道路が通ったんですよ、みんな歩いてるのが見えたんで。それで俺は、車を置いてあった場所に車を取りに行きましたよ。先生たちの携帯とかも全部電池なくなったんで、俺の車持って来れば充電できるだろうっていうことで、学校の前まで持ってきて充電して、その間に知り合いの人が中学校から歩いて来て、「歩いて来れるのか」って聞いたら、歩いて来れるって。それでじゃあうちの嫁さんとかこっちに来てくれ、うちの下の子がいるから、俺忙しくてできないから見てくれてってことで来てもらってそれからですかね、それからバスの避難が始まったんですよ。閑上小学校800人900人の避難者で、最初館腰小学校に行くっていうことで、どんどん乗っけていって。次は第一中学校に行くとなったんだけど、じゃあ最初に乗った人と後に乗った人が別れる、家族が別れるだろうって言った時も「とにかく第一中に行く」っていうことで第一中学校に行き先が変わって。今度は、このバスはどっちに行くか分からない、また館腰小に行くのか第一中に行くのかごちゃごちゃになってきて、その間にもう閑上中学校からは、みんな歩いて避難してきてたんですね結局。

そしたら、放送機器が復活したんですね。小学校のそばを歩いている人たちに、小学校に飲み水と食料がありますからっていう放送があったのを聞いて、閑上中学校に食料行ってないんだって分かって、そこで俺ちょうど入り口側でバスに乗っていたので、中学校から歩いてくる人たちに、「中に入ってくれ。とにかく飲み物と食料はあるから」っていうことで誘導して、その間に津波警報出たからって「とにかく小学校に入って上がってくれ」って誘導して、結局一旦人数が減ったところにまたどかっと避難の人が増えて。それでその間にほんとは小学校から避難することになっていたバスが来なくなった。中学校にバスが行ってしまった。それで「なんだ最初小学校から避難じゃないのか」と話してたのですが、全然来なくなってしまっただけで。そしたら名取市の消防団、館腰とかの消防団の人たちが来てくれてたんですよ。それでその中には、名取市のPTA会長さんとか顔見知りの人とか来てくれてて、その人たちが消防車で4人でも5人でも乗っけて、とにかくピストンやってくれたんですけど、消防車を使うなど上から指示がきたとかで、俺がプチッとキレちゃって、「お前らふざけんな何考えてるんだ」みたいな。それでとにかく暗くなる前には避難完了しないとやばいっていうことで、なんとか暗くなる寸前には終わったんですけど。

閑上小学校は、それで校長先生と俺とで最後に校舎内を全部見て回って誰もいないっていうの確認して、亡くなった方1人理科室において、それで先生たちもバスに乗っけて、俺は車でとにかくうちの家族が館腰小に行ったっていうことで館腰小に向かったんです。

### 館腰小学校に避難

自宅の方は、大丈夫だと思ってたんですよ。わかば幼稚園の近くだったんで、他のところよりも1mぐらい土盛りをしてたんですね。それで土台からすると1.5mぐらい高かったんですよ、家が。だから家は大丈夫だろう、水をかぶったとしても流されたりはしてないだろうって思ってたんで、そのまま館腰小のほうに向かいました。そしたら館腰小も結局800人か900

人ぐらいいたのかな。最初体育館にいて、布団は持って行ったんだけど結局うちの家族分のワンセットだけにして、あとは全部周りにばら撒いたものだから、俺の分がなくなって毛布1枚で寝る状態になってしまったんだけど。

館腰小学校では、食料とか大量に来てたんだね。ステージの上にパンとかずら一と並んでたものだから食料の心配はないけども、これはどうやって配布するんだって聞いた時に、市の職員に「適当に」って言われた瞬間に俺が切れてしまって、「お前らには任せられない」って結局そこで俺が指揮をとるような感じになったんですね。勝手にやったんだけども、ただあの時ああいう状態で適当にやったら、もう暴動みたいになるって俺的には思ってたんですよ。とにかくみんな一切何も持ってない、自分の持っているものっていうのは自分の身に着けているもの以外何も無い状態だったんで。だから「適当に持ってけ」って言ったら、もうババって持って行ってしまうという、全部なくしてるからそういう状態なんですね。ただ館腰小ですずっと叫びまくってたんだけど、「言われたことには従え」ってやってたんだけども。もともと地元ではないんで、俺はもともと仙台なんで、10年ぐらい前に閑上に来て、うちの嫁さんは閑上だったんだけど、知り合いもいない、幼馴染もないし。ただPTAの会長を4年間やって、上町って1丁目の町内会の役員もその時同じぐらい一緒にやってたものですから、指揮するのは町内会長とかやってた経験のある人じゃないとできないだろうと思ったんで、俺なんかいくらPTA会長っていったってよそから来た者で知り合いも誰もいない。ほんとに館腰小行った時にほとんど知ってる顔がいなくて、ほんとにこの人は閑上の人なんだろうかと思いました。なんていうんですか、結局PTAやって町内会やってあと町内運動会とかっていうのも必ず全部出てたはずなのに、あそこに行った時に「あの人たち顔も見たことない人たちばかりで、ほんとに閑上の人なのか」っていう人ばかりだったんですよ。それで町内会長とか区長とかっていうのも一切、いやうちの区長は1人いたんだけども、扱えなかったから、区長とでは話にならないって思って。でも町内会長ぐらいは出てくるんだろうなって思ってたけれど出てこなくて、てっきりここにはいないんだ町内会長は、そういう指揮とれる奴はいないと思ったんで俺がやってたんですけど。まあ余計なことだったかもしれない。結局1週間ぐらいしてから館腰小は世話役が決まったと思うんですけど、ただ俺的にはもう焦ってたんですよ。正直言って、仕事休んでずっとかかりっきりになってたんですけど、そのあいだ家も一切どうなってるか分からない状態のままやってたんで、それで、3日後か4日後ぐらいにうちの家族は、実家の鉤取に移したんですね、それで俺だけ戻ってやってたんです。

## 避難所での仕事

避難所では食料の配分とか、今晚何にするのかとか、人数、300人分のおかず、それを今日はこれ明日はこれとか、炊き出しっていったら、じゃあここから取りに行けとか、そういうことですかね。毛布といっても古かったんでとにかく寒かったんですよ。それで毛布とか中古の布団とか大量に来てたんですけども、ずうずうしい奴はバンバン持ってくんだけども、遠慮する人たちはもらえないっていうか、みんなのためっていう人が床に毛布1枚敷いて体育館にいる状態だったんで。夜に回って日中もグルグル回ってとにかく確かめて、「これは固

いからダメだ、持ってきてやるから待ってろ」って言って、夜寝てる時も1個1個回って、あゝ毛布足りないと思ったら上から持ってきてとか、そういうことやってたんですね。あと携帯も充電器が足りないの、充電するのに「みんな置いてけ、充電してやるから」って言って夜にずっと充電して、そういうことをやりましたね。テーブルすらないから、飯もそのまま毛布の上で食べている状態だから「ダンボールをテーブルにしてダンボールの上で食え」とか、そういうのもやりましたね。

それで会社からは、「いつ出てくるんだ」ってやいのやいの言われてたんで、とにかく休ませてって、有給休暇なくなったら欠勤でもいいから休ませてくれって言って、いざとなったら辞めてもいいからって、それでギリギリまでそこでやってて館腰小を。そして最後に3日ぐらいだけ空けて家の方へ、その前にはもう家ぶっ潰されてたのは分かってたんですね。

### 自宅がなくなっているのを知る

家は、4日目か5日目に上町集会所ってあるんですけど、そこの小屋が残ってるっていう話を聞いたんですね。それで中に、防災用の炊き出し用具があったので、それを取りに行けって言われて行った時に、家まで行ってみて家がなくなってたんで、それでその2日前ぐらいに、俺の家流されてるよと、流されてるけど立ってるみたいな感じに言われてたので、流されたのかと思って。でも流されて家残ってるんだったら、ここからだから海側来てるんだから、こっちへ流されてるから幼稚園の敷地に流されてると思ってたんです。じゃあ大丈夫だと思って戻って荷物なんかは後で取りに行けばいいと思ってやり続けて、そしたら酒屋の小屋にくっついてたらしいんですね。結局道路側に流されてた。ぶっ壊されてたんですね家が。それで道路の脇に家の残骸があるわけですよ。でもまあいいかって、ほんとは、何かしら物取りたかったんだけど、そんなことやってる暇もない。それで後から取りに来ればいやってそのまま避難所でやり続けて、それで、結局ずっと避難所で。

避難所でもみんなに手伝ってくれとかあえて言わなかったんですね。なんでかっていうと、うちは家族が助かってたから。当初2,000人やられてるって話だったから閑上って何千人いたんだっけって、6,000人とか7,000人っていうことは3人に1人やられてたらね、家の中で誰かは死んでる。それを結局探しに行ってるんだらうと思ってた。日中とかいなくなる人たちにはあえて聞けないし、誰が助かってるのかとかも一切。だから単純に皆探してるんだって思って。俺は家族が助かってるからと思ってやってたので、そしたら実は家の片づけとかしてたらしくて。「あっ、なんだそうだったんだ、俺もやってりゃよかった」みたいな。まあ探しに行ってた人たちもいっぱいいたんだけど、知ってる人とかは自分ちで持ち物取りに行ってた人もいたらしくて、「あーやっぱりそうなんだなあ」って思ってあえて何にも言わなかったけど。

そっから4月入ってやめて、それでその4月の3日ぐらいあけて、家に物が取れるかなって思って行って見たんだけど、結局その頃にはもうがれき撤去していて、家のがれきが運ばれていた。ただね、遺体探してるのかなって思うと、無理に何にも言えないしね、やめろとも言えないし。俺だって「何やってんだ、俺んちまだ品物取ってないのに何やってんだ」みたいに思うんだけど亡くなった人探すの最優先だから仕方ないなと思って。ただ残ってるがれ



きを一応探してみたけど娘の雑誌とかそういうものしか取れない、もう何にもほんとに取れなかったですね。ぶっ壊されてやられただけなんだ俺はって、ちょっと腹立たしくもあるんですけどね。だからボロボロになった写真だけですから家の物は。

鉤取の実家に移ってからも休みの日には館腰小に手伝いに行ってたんですよ。PTAの会長ってというのは、その年度で終わりだったんですよ。4年目で、予定では。次期会長ももう決まってる、引き継ぎすれば終わりだよっていう状態だったんですけども、その次期会長さんはもう引越しちゃってて、転校しちゃったもんですから、じゃあ俺が続けるしかない。役員もとにかくやれる人だけ集めてやろうってということで、やったことが運のつきだったんですね。

### 復興会議が始まる

そっから復興会議とかあったから、復興会議、未来への会議だかなんだったかというのに出席しました。なんともいえないねえあれは。若いメンバーは小・中学校のPTA会長が入ったんですけども、会議ってというのは日中なんですよ、平日の10時とか、それが5日前とかに言われるんですよ。普通に働いている若い人たちってというのは、出れないわけですよ。普通に考えたって4日とか5日前に、「じゃあこの日休ませてくれ」って行って俺休みなんか取れなかったんですよ、最初の方。それで出れなかったんですよ。それで休みっていてももう震災の時に有休は全部使ってしまったから一切休みが取れない。最初の2~3回ぐらいは全く出れなくて、その後は予定組んでもらって、それに非番って平日休みがあったんで、それを組み込んでもらって出れるようにはなったんですけども。

そんな状況で、震災から復興会議は8月ぐらいですか、まだとにかく休みが一切なくて、ほとんど毎日夜仕事終わってからは会議とか、いろんな団体とかに出たりPTAやったりとかだったから、夜はほとんど仕事終わってからそういうのに全部取られて、もう月に2日か3日ぐらいしか予定入れられないっていうぐらい、それが8月頭までずーっと続いて。

私は現地再建に反対してたから、そんな危険なとこに住まわせられないって、一貫して反対してた。それで散々やられたんですけどね。「何おめえ、そんなこと言ってんのや」とか、だから会議ってというのは、私最初出れなくて私がやっと出れた時には、あの案ありますよね、あの案で進んでるような話だったんですよ。だから私が「これ決定したんですか？」っていう話をしたんですよ。そしたら「お前は地元じゃないんだから」みたいなことで、さんざんやられましたね。今は仮設住宅の会長やってますけども、ここでも散々叩かれてますからね。だからもうやる必要ないのかなって思って。体も壊しちゃいましたし、髪の毛も全部、眉毛も全部なくしたし、こっち睫毛も全然なくなってる。必死こいて何とかしようって思ったのをやられちゃったもんだから、一気に精神的にやられちゃったんですね。だからどうにでもしてくれと。でも危ないなあと思ってるんですけど、今だに。前より危険度は増してると思うんですよ。仙台側で塩釜ー亘理線を6mだか嵩上げすると言ってるじゃないですか。ってことはそっちの津波全部こっち側に川の方から押し寄せてくるわけですよ。前よりも危険な状態にはなってるはずなんですよ。それをわざなりにして結局今話を進めて意地で。そこがもうおかしいんだ。「1mの津波ってというのは建物が流されないから安心でしょ」って言われ

たんですよ。それを私は「1mって子どもの身長何cmあるんですか？」って、「あんた多賀城とかの映像見ましたか？30cm40cmの高さで車流されていくんですよ」って言ってたんですけども、結局は無理だったんですね。だからもう諦めましょうと。今更もう遅いと、もう若い人戻らないんですよ、だから今から例え話し合おうとしてももう遅いと。もう若い人たちが出ちゃったもん。この人だったら将来閑上を背負って立つっていうのは大げさかもしれないけど、この人たちがいれば閑上こうやって盛り上げていけるっていう人たちみんな出ちゃいましたから、もうだめだなと。

閑上小学校も現状見ても分かるとおりに、復旧してるのかね。入学児童が8人でしたっけ、半分ずつ減っていった状態なんですよ、毎年。ということは来年4人、その次2人、その次どうなるのって、ゼロってなると、それでこの復興が5年6年経った時に閑上小学校って生徒いるの？いないでしょ？どうしたって年寄り連中しか戻らない。はたから見えてこれってどうなんですか？いや内部から見るんじゃないかって外部の人ってこれを見た時に、今こういう風になってるのを見てどう感じてるのかなって思っ。

## 仮設での生活

この仮設に来たのは、おととしの5月か6月あたりかなあ。確かそれぐらいだと思いますよ、うん。1丁目2丁目がここだということで。一応申請はしてたんですけど、たぶんうちは後だろうと思ってたんですね。うちら遅れても覚悟の上だと思ってたんですけど、一番最初になったんですね、うちらが。私は鉤取が実家だし、家は母親しかいないんで、あっちに住むっていう選択もあったんですけど、PTAの会長もやってるし出ちゃダメでしょと、みんなと一緒にいなくちゃダメでしょと思ったから結局ここに来たんですけども、結局それが失敗だったと。いや一こんなどころに来るんじゃないかって。ひどいもんですよ。夏は暑いし冬は寒いし、プライベートっていうの、そんなもんじゃないしね。だから精神的にやられてからは、人の目がとにかく気になる今は。

だからここに戻ってきたくないっていうのがあるんですよ正直言うと。じいちゃんばあちゃんたち結構出てるじゃないですか外に。あれがだんだん嫌になってくるんですね。疲れてとにかく帰りたいんだけど、いるから、とにかく暗くなるまでちょっとそっこのほうであれしてみたいな。そういう状態ですね最近は何に。誰にも会いたくないみたい。

髪の毛とか抜け始めたのは去年の9月かな。9月に1回医者行ったんだ。髭とか生えなくなりましたよ全部。最初髭生えない鼻毛も生えないおかしいなって思ったら、俺元々ここはげてたんでそれで坊主にしてたんで髪なかったんですけど、それが手でなでた時に全部抜けてる、一面真っ黒になっちゃって。ほんとは休みたかったんですけども仕事が忙しいんですよ特に俺いるところは、配達が専門で。それでずっと今年の2月あたりからとにかく休ませてくれって言うんですけど、まとめて休みくれ、医者に行くから休み取らせてくれって言っても、いまだに休めない。それでもうだめだって言ってなんとか医者に行ってる状態なんですよ。ストレスっていうか精神的なものだからもう解決策がないんでしょうね、多分ね。とにかく朝とか体動かないですもん。だからちょっと困ってて今。だから早く出ようかと思っ、一生懸命探してるんですよ家の方は。

## 復興会議の進み方

妻の方がずっと閑上で、家建てようと思ってこっちに来たから、震災がなければいい町だったのかもしれないけど、いざ震災があってこういう状況になってみると、悪いところばかり目につくね。例えば、若いやつが出てこない、出てこないっていうか頭押しえつけられちゃうんですね、上から。だから復興の会議やって、この現地再建間違ってるじゃんって若いやつが思っても、その会議をやってるやつが結局誰々の父ちゃんだ、あの人には逆らえないんだよって言って結局言えない、若いやつらは言えないっていう状態なんですね、つくづく思いましたよ。今回いろいろ話してて、若いやつが何か言うもんなら押しえつけるっていう。そういうのが閑上ですね、ほんとに悪いです。俺も結局叩かれちゃうからね、さんざん。俺も口が悪いからズケズケ言うからね、ただ、間違ってることを言ってるつもりはないんだけどね。

復興に関しては、よそ者がなんだかんだって言われたから、俺が反対してることで「PTAが復興を邪魔してる」ってても言われたんですよ。だから私は復興のことには一切関わらない。そうして今の人たち、やってる人たちが作った町がどういう町になるのか見てるだけです。どれだけ立派な町を作れるのかあんたらが、みたいな、あんたらが作った町にどれぐらい人が戻ってくるのか見てやろうと思って一切口は出してないんです。

話し合ったらと言われても、結局はいくら話したって、市の方で聞き入れないからね。俺は最初から分かってましたよ、市はこのままいくんだっていうこと。5月のあたりでもう、復興会議ある前の時点でもう分かってましたもん。何でかっていうと市とPTAとで結構話してたんですよ。あの案を出されてたんですよ初期の段階で。私たちは、「いやこれ危ないだろ。こんなの話にならない、移転案とかそういうのも出してくれ」と「これじゃあ危ない。どうしてこれが安全だって言えるんだ」ってさんざん言ってました。それで市では「はい」って返事していくんですよ。そしてまた次に会議があって、市はまた同じ資料出してくるんですよ。それで私たちは「ああこの間言ったこと理解してなかったんだ」と、そしてまた説明するわけですよ。「これじゃだめだ、移転案とかいろいろあるだろ」って、また「はい」って言って戻って行って、それで3回目も全く同じもの出してくるんですよ。それを見た瞬間に「ああ、もうこれで進める気だ」と、うちの話は一切聞く気がないっていうのはもう分かってました。未来会議とか現地再建で決定ってなったら、もうその時点でアウトだっていうのは分かってたんで、だってどんなに移転案とか出してたって「いやそれでもう決まったでしょ」と言われれば、もうアウトだもの。市の方でそう言われたら、あとはもうだめだと思ってましたね正直言って。

「どうする閑上」っていう会議みたいなのがあったの知ってますか？あれ館腰小学校の避難所で立ち上がった団体なんです。あそこ一貫して集団移転だったんですね。いろんな資料持ってきて「ほらこんなに危険でしょ」っていうのは言ってたんで、いけると思ってたんですけどね、いざふたを開けてみたらビックリみたいな。育成会のほうも、全部現地再建オッケーだと、漁協すらもオッケーだと「潮風や潮の香りがしないと閑上じゃない」とかとんでもないこと言い始めて、結局はだめだった。誰に何言われても俺は曲げなかったから、いろんな人に「そんなこと言うな」と、何だかんだってさんざん言われるんだけど、全然変えなかったものだから俺は、結局それでやられたんでしょね。なんともいえないんだね。

### 地震の時

家で洋裁の内職をしていました。また、ハーモニカが大好きで教室に通っていました。津波がなければまだやっていたんだけどね。みんな家ごと流されてしまいました。実家は仙台市で、そこから閑上に嫁に来てもう52年だね。閑上は住みよい所でしたね。

揺れはすごかったですね。その時テレビ見てたんだけど、わらわら（慌てて）外に出て、家の前が草むらになってたから、そこに座り込んでしまいました。余震も多かったからしばらくそこにいたんです。そのうち向かいの方が「今おっきな津波が来るから避難した方がいいよ」と言われて初めて家の中に入り、ジャンパー着てリュックを背負って、歩いて200m位の閑上中学校に行ったんです。

### 閑上中学校では

津波は見ました。中学校の3階に上ったんだけど、その時はもう各教室ともいっぱいになってました。15分位経ってから、津波が来ました。家や車やがれきなどが流されてきて。水もどす黒い色で、本当に映画でも見てるみたいだったね。この先どうなんのかわかったね。中学校には何も食べ物なくて。次の日、12日の午後2時頃、自衛隊が仙台東部道路あたりまで人が通れるぐらいまでがれきを片付けてくれて、そこまで歩きました。ずい分遠く感じました。大型バスが4～5台来ていたんですけれども、その時間だとがれきがまだまだあって、そこまでしか来れなかったようです。それでバスに乗せられましたがどこに連れて行かれるのか分かりませんでした。結局、館腰小学校の体育館に運ばれました。

### 避難所へ

私は、7年ぐらい前に主人が亡くなってから1人暮らしだったんです。避難所では不安だったけど、みんな近所の人たちだったので安心しました。着の身着のままでした。お風呂は10日に1回くらい入りました。極楽湯（銭湯）とか秋保温泉に連れて行かれました。妹が迎えに来てくれてお風呂に入ったりもしました。着替えがないので出かけた時に買ってきたり、みんなにもらったりしました。食べ物は、わりと不自由はしませんでした。自衛隊の方々が炊き出ししてくれたので、とてもありがたかったです。12日の夜、おにぎりを食べた時は本当においしかったです。また、水も電気もつかないので大変でした。

### 家を持っていかれるとは思わなかった

家は流されたんです。勝手（台所）の方だけちょっと残ってました。この辺（1丁目）はみな残ったんだけど、家のまわりは道路や田んぼだったので、そっちからもこっちからも津波が来てごちゃごちゃにされました。地震の時は、古い家だったんでいつ倒れるかと思って、外で見ていたんだけど倒れませんでした。だから津波さえ来なければ住めたのに、みんな持っていかれてしまって…家の2階が道路にたまったがれきの上にポコンと乗ってました。1

階が流されて2階がね。よもや家まで流されるとは思わなかった。

### **婦人会の活動**

仮設住宅には平成23年5月3日に入居しました。ここの仮設には1丁目、2丁目の人たちが住んでいて、婦人会の人たちもみなばらばらで何をするにも大変です。閑上婦人会というのは各地区に分かれていて、その中に各支部長がいるんです。私もその中の1人で、ある婦人会の支部長を務めていました。震災の年は行事は何もできなかったのですが、平成24年25年と市婦連大会の時に、閑上保存会の閑上大漁踊りをしました。増田西公民館で踊ったり、名取が丘公民館で踊ったり。閑上にいた時は、公民館祭りとか町民大会とか行事がいろいろあったから、その度に婦人会でバザーをするため弁当を作ったりなどの活動をしていました。

### **仮設住宅では**

仮設住宅に入った時は、荷物はあまりなかったので、1部屋でもいいと思っていましたが、月日が経つにつれて荷物も増えて、4畳半一間ではとても狭くなりました。もう2年5か月も経ちますからね。週1回ボランティアに買い物に連れて行ってもらえるので助かっています。集会所でお茶会があるので、行って楽しんでいます。

### **閑上の良いところ**

バスの停留所が近い、病院、生協（スーパー）、郵便局、店も近いし、道路も平らなので自転車でみな用足し出来ました。浜風も、夏は涼しくてほんとうに住みよい町でした。

### **今後のこと**

自分の帰る所は閑上だね。1日も早く復興してもらいたい。それまで健康に注意して過ごしたいと思っています。

## 地震の時

仙台市の深沼で地震に遭いました。家も潰れたと思い、閑上大橋を渡ろうとしたら、通行止めでした。閑上大橋でトレーラーが荷崩れして、通行止めだったのでバイパスを回ってきました。家に着いて、家の周りを見まわったり、外に出てた人たちと話をしたら、近所の神社が潰れていくのが見えました。何かがおおいかぶさるようにしてその周りの建物も潰れていって…それが津波だなんて理解できなかったけど、何か恐ろしいことが起きてるんだと思って「逃げろ！」って、近くにいた人たちに言ったんだけど、おしゃべりしてて誰も逃げない。子どもとかお年寄りがいたから必死に「逃げろ！」って言ったんだけど。

車で逃げようとした時に30cmぐらいの水が来て「津波が来たんだ」って思って、もうとにかく水が来たんだ。

五叉路まで来た時には、がれきと一緒に津波がまた追いかけてきた。それで、五叉路のところで行き止まりになった。そこで右側走ったの。とっさに右車線や裏道を走って、それで俺らは助かったの。それから、増田の方にまっすぐ行きました。

家からは何も持ってこなかったの、着のみ着のままでした。それで、バイパスまで抜けて、バイパスのケーズデンキの駐車場に暗くなるまでいました。それから、息子が北釜にいるので、それが心配で今度探しに行きました。どこに避難したかは分からなくて、暗くなって8時半か9時頃に息子が見つかったの。北釜の人たちは地震になった時点で逃げたから皆助かったけど、自家用車は全部流された。息子は名取市民体育館で待っててくれたの。何回もそこに行って、ようやく見つかったの。

## 館腰小学校へ

その後どこに行ってもいいのかも分からなくて、一応文化会館に行きました。ところがいっぱい、食べ物なくて、どうしようもなく今度市内の県立がんセンターに行きました。そこで夜の6時頃までいて、「別のところに行ってください」って言われて、今度愛島の集会所みたいところに行った。そこに一晩泊まって、その後館腰小学校に行きました。その時毛布ひとつで寒かった。くるまって寝ても寒くて、ストーブたいてくれたんだけど広い体育館みたいところなので、寒くていられなかった。それで「ごはん」って言われてもおにぎり1つだけでした。息子と女房と3人でいました。館腰小学校には5月3日までいました。

館腰小学校で20日ぐらい経ってから炊き出しが始まった。着るものもなく寒くていられないし、物資が来ても俺は体が大きいので何一つ合うのがない。その時は全然なかったです。ずっと3人で行動してました。俺は仙台の藤塚の出身で、閑上に来たのは姉や親戚がいたから、もともと閑上ではないので閑上のことはあまり分からなくて。でも、ここではまわりに知ってる人が多いから、寂しいっていうのはなかったけど。

## 現在のこと

この間、市役所の人が来た時は全然話が進んでないから、バーッと言った。だけど俺の言うことなんか聞いてくれない。東部道路の西側に最初から集団移転ってなればみんな戻ったの。こういうような話ばかりしてるから、話っていうのは進まないのさ。

## 今後の事

閑上には戻らない。仙台東部道路のちょっと手前ぐらいならば戻るけど、閑上に家建てて入りますっていうのは、本当にもう年取ってる人ばかりだ。あと船を持ってる人たちが戻るだけだと思う。あとはほとんど戻らないと思う。閑上の町がそんなに大切なのかと俺は言いたい。それより自分の命が大切なもの。

姉も1丁目で流されて亡くなってるから、戻るも何も今のところは何にもないの、増田が一番いいの。なんでかっていうと買い物も便利で、医者も便利で、交通も便利でいいわけ。

## 閑上の良いところ

今は全然ない。昔は、静かで、賑やかかっていうことはないんだけど静かだった。昔は、映画館やパチンコ屋があった。住みやすかった。面白いしね。みんながそういう風に思うかどうかは分からないけど、俺にしてみれば良かったのよ。

## 震災の時

大きな地震だなあと思って。宮城県沖地震の時は、茶だんすやガラスの入った棚もひっくり返ってね、粉々にみんな割れたから散々たるもんだったけどね。その時は会社にてよく分からなかったけど、今回は家にいたからね。大きい地震だったから、外に出て屋根瓦落ちてきて怪我するよりも、家の中にいた方がいいなあと思って、揺れが収まるのを待ってました。家の中は、2階はタンスがひっくり返ったり倒れたりして、2階に入れないうような状態で、そのあと家の周りがどうなっているか、痛んでるかなあと思って見てまわってました。屋根瓦、あれが半分くらい落っこちてたのね。あと古いブロック塀が心配だったんだけど崩れてなかった。向かいの方に声かけられて、会社の社長さんに津波来るから自宅に帰るようになって言われたんだって。広浦の水がなくなると。「ああこれ間違いなく津波来るな」って思ったけど、よもやあんな大きいのが来るとは思わなかった。地震のことは耳にタコよるくらいよく話は聞かされていて、宮城県沖地震の発生確率何%とか。今、こうして津波に遭うとね、なんで津波の話がなかったのかなあって。昔、閑上にだって小さいけれど津波が来て、江戸時代にも大きな被害があったんだよね。そういう話はほとんど地域で分からなかったから、津波に対する警戒心はなかった。全く無防備だった。ただ科学的に根拠がない話だから、やっぱり公にしっかり話せる問題ではなかったのかなあって思うんだけど。若い人のほうが敏感だったって言われる。うちのお嫁さんが外出先から急いで帰ってきて、すぐ逃げましょうって引っ張りだされた感じ。戸締りもしないで逃げたんだな。500mぐらい先の閑上小学校目指して逃げました。その途中で歩道橋があって、そこに足を踏みかけた時にもう足元に水が来た。だからもうみんなで一目散に歩道橋へ駆け上がって。お嫁さんは犬抱いて。雪は降ってくるし、「ああこれ一晩もつかなあ」って思いまして。薄暗くなる頃に、ヘリが歩道橋の上に飛んで来て、人命救助を始めたんだな。俺は2回目か3回目辺りに乗せてもらったのよ。仙台の駐屯地、そこに病院があり、そこに着陸して、病院は患者が入ってくるように待ち受けてたんだね。俺は元気だから大丈夫だったけど、子ども連れ、赤ん坊連れとかね、元気のない人はそのまま病院で診てもらってた。そこで毛布もらって、何も心配なく一晩過ごした。

## 翌朝は

翌朝はどこも悪くないし元気だから、看護師さんにおいとまするからって言って。仙台におばがいて、歩いて行ったら思ったより時間がかかって。そこに名取が丘にいる姪っ子が訪ねてきて「これからどうすんの、おんちゃん」と聞かれましたが、お婆さんのところに泊めてくれとも言えないから、増田に妹がいるからそこまで車で乗せてもらって、ひと月その妹のところにいて、その後千葉県にいる娘のところに行って、そのあと仮設住宅に入った。だから避難所の生活はなかったの。



## 現在の生活

現在の生活は、住宅が小さいだけで、あとは設備が良いから。子どもの頃は1軒の家に2軒所帯持っていて、電灯付けるのだから壁ぶち抜いて、真ん中に2軒の家で1つの電灯。8畳1間。井戸も1つ。昔を考えると今の生活は良しとしなければ。

## 今後の事

俺は閑上に帰れば土地があるから、そこについて思ってた。ところが若い人たちは、閑上は怖いって。こういうことが1回あるとね。増田の方の土地を探して、いい物件が見つかって、今リフォームしてる場所なんだよね。今後はこの地で生活することになるんだろうね。

## 閑上の良いところ

思い出はいっぱいあるさ。閑上の地は先祖伝来、5代目かな俺が。海あり川あり、ホントに自然の恵みっていうのかな、それがいいねえ。あとは人がざつくばらんでさ。言葉は悪いんだよな。俺も船乗りしてたから、船の上で仕事する時はもうけんか腰だったからね。

## 地震の時

ちょうど仕事(バスの運転手)してました。14時55分発の深沼(仙台市若林区荒浜)行きのバスで、地震の揺れが始まった時はバスにいました。大体5分前に停留所につけるから、駐車場で待機してて。2回か3回ぐらい揺れた時点で発車時間が来たから、停留所につけて発車しました。定禅寺通り(仙台市街)に入った時には、会社員などがケヤキ並木の下に避難してました。仙台駅近辺もそういう状態で、仙台駅まで30~40分かかってます。仙台駅でお客さんを乗せて、五橋の停留所で近くの会社の外壁がすぽーっと停留所の真ん中に落ちてたので。「お客さんそこで待ってたら大変だな」って思っていると、営業所の方から、運行中止の無線が入りました。お客さんを降ろして霞の目営業所に帰るとの指示でした。途中道路の段差や電信柱のトランスがぶらさがっていて、大地震のすごさを実感しました。仕事で閑上の町のことは全然頭になかったのですが、その時、俺の家大丈夫かなと思いました。営業所では自家発電でテレビは映ってました。その時流れてた映像っていうのが仙台市の映像だけで、閑上の映像っていうのはほとんど流れてなくて、「なんだ閑上大丈夫なんだなあ」と思ってました。

## 閑上は全滅？

でも閑上全滅だって聞いて、閑上小学校と中学校と消防署ぐらいしか残っていないという話でした。営業所には閑上の人が7~8人いたから、ほんとかって聞いたら、「なんかほんとだぞ、間違いないんだって」っていうわけ。その時テレビで津波の画面が何度も映ってました。「見たことあるとこだなー」って思ってるうちに「なんだここ藤塚だ」って気付いた。そこで初めて閑上もダメだなって思った。何時間か経って、そろそろ帰ってみようかなと思って、行けるとこまで帰りました。そして仙台南部道路の今泉インターチェンジまで行きました。夜9時か10時頃かな？田んぼに海水がここまで来たんだなと思い、ここから先はバリケードがはられて、俺はUターンして、家にも帰れないから営業所に戻りました。

震災後は、バスは走れるところだけ走ってました。仙台バイパスの東は全然走れないから。ただ、霞の目から大和町、あと荒町経由とか、ある程度運行しました。次の日からもやっぱり走れる路線だけで。無線っていうのはほんと便利だったね。地震の日に無線なかったら全車両ストップさせるっていうのは大変だったもんね。回送で帰れっていうそういう指示が出たからね。無線付けて正解だったね。信号が停電で止まり、徐行しながらバスは運行しました。

営業所には1夜だけ泊まって、次の朝6時頃我が家に行こうとしたけれど、大曲の所でバリケードがあって、途中でまた営業所に戻ってきて、家も家族も心配だから今日休ませてくれと休みをもらいました。

3月11日の午後11時頃家族と連絡が取れて安心しましたが、その後1日以上連絡が取れず不安の連続でした。美田園の保育園に行っていた孫が、夜の10時頃にならないと引き取り出来

ない状況でした。美田園はまだ水が引かなかったからね。次の朝になっても連絡取れなくて、心配でならないので女房と2人で美田園に聞きに行きました。そしたら夜11時頃、レスキュー隊に頼んで、増田小学校に避難しましたから大丈夫ですって言われて。それで一安心しました。

## 文化会館へ

それから文化会館で箱塚桜仮設住宅に来るまでお世話になって。文化会館は、避難者でいっぱいでした。それでもね、やっぱりよその避難所に比べると、文化会館はトイレの数は多くて、トイレの心配はなかったね。小塚原地区の知り合いの人たちと、ちょうど一緒になり生活しました。

## 自宅は

自宅は浸水して、海から離れてるから2階はほとんど残りました。下はだめでした。家の途中まで3回位見に行って、震災後の6日目にやっと家まで行けました。最初遠くから見た時、屋根見えて「あー俺の家残ってたな」って安心しましたが、だんだん近づいたら、下がえぐられて、「あーやっぱだめだったな」って。玄関はぶんぬけて外れて、覗いてみたら仏壇などすべて流れ、他の家のがれきで足の踏み場もない状態でした。それでもまず安心したことは安心しました。

## 仮設での生活

同じ町内の人が多かったから、心強く心配することはほとんどなかったですね。家族4人で住んでいます。避難当時買い物するにも何時間も待ってました。それに比べればね、今はすごく楽ですね、行けばすぐ物が買えるし。だから不便っていうのはないですね。今のところは全然不自由ない。かえって閑上に帰ると不便になるんじゃないかって心配です。スーパーは閑上では生協ぐらいだし。

## 今後は

今後やっぱり閑上に帰りたい。元の場所にね、かさ上げして。でも娘たちがもう帰らないって言っているんで、それが悩みの種。退職して年金暮らしだし、だから土地のある閑上に新築したいです。最初は市で「国と県と市で出すから3mの嵩上げはタダだ」って言う訳ね、それが何か月、何年経ったらね、100万円になって、更に50万位また上がって、150万。閑上の復興遅れているからなおさら、若い人たち帰りたいんだね。病院も店も学校もないんだってなれば、戻る人も少ないよね。家を直して入っている人もけっこういる。だから私もね、段々日が経つにつれ、「あー閑上に住めるんじゃないかな」って思ってた、「俺もけっこうな（帰るかな）」って、やっぱり閑上で生まれて閑上育ちだから、帰ることにしたんだけど、今度娘が帰らないって言うから心配しています。1人でも多くの方が閑上に帰ることを願っています。

## 閑上の良いところ

夏は涼しくてね、海があるから、やっぱり仮設とはまるっきり違うね。閑上は真夏の暑い時に熱いラーメン食べたって汗流れてこないんだからね。仮設の冬は結構寒くて、フロントガラスは1週間に3回も4回も凍るの。閑上の場合、月に2、3回ぐらいしか凍らないの。だからそれだけ違うんだね。

### 地震の時

(妻) 震災前は、閑上小学校のすぐ前に住んでいました。閑上に来て15年経ちます。子供はおらず2人で暮らしています。

(妻) 地震の時、私は小塚原にカーネーション作りのパートに行っていて、そこで地震に遭ったんです。

(夫) 地震の時は、家でテレビを観てました。地震が結構長かったものですから、一旦外に出ました。そしたら、隣のおばあちゃんが出て来まして、「地震が長いね」っていうような話をしました。一旦揺れが収まったので、家に入ろうかなって思っていた時にまた揺れが来たんですよね。そのようなことが2〜3回続きました。隣のおばあちゃんも入ったり出たりという感じでした。それから妻の職場はすぐ近くなんですが、妻を車で迎えに行きました。その時隣の家のブロック塀が壊れて道の真ん中あたりに大きい破片が落ちていましたので、邪魔になるので大きいものだけ片付けました。

その時は、行く時も戻ってくる時も道路はそんなに混んでいませんでした。一旦戻って来て、隣のおばあちゃんとしばらく話していたんです。そしたら携帯電話のワンセグが「津波が来てます」とか「車が流されています」と言っていたんですよ。それでバス通りまで出て、閑上の方を見ましたが、車が流されてるような感じはなかったんです。そのうち、おばあちゃんのひ孫が来て、隣が避難所の閑上小学校ですから避難しようということで、それぞれ着替えたり猫を連れて行く準備などをしていました。

(妻) 私が戸を開けたら、もうびちゃびちゃと水が小塚原のほうから来ていました。外に出た時水は膝下まで来ていて、足をとられて「さー」って流されてしまいました。20mか30mぐらい流された後、ブロックに足がつかえて立つことができました。すぐにブロックにすがりついて這い上がり助けを呼びましたが、周りから「助けて、助けて」っていうすごい声と小学校の屋上からは「がんばれ、がんばれ」っていう声が聞こえました。

(夫) その時は、車が7台ぐらい流されて来まして、車の上には大きな板とか木が重なってましたので、それにぶら下がっていたんですが、「ああ俺はこの黒い汚い水の中で死ななくちゃならないのか」って思っていたんです。でも、それ以上水が来なくて、この水が引いてくれれば大丈夫かなって思っていました。そのうちにどこからか「隣の家のベランダに上がった方がいいよ」と聞こえたので、車の屋根を伝って隣の家のベランダに上がったんです。それでしばらくベランダにいたんですけども、そのうち「おじさんがんばれー」「がんばれー」と声が聞こえて、自分のこと言ってもらえてるのかなって思って「大丈夫だよ。どうもありがとう」なんて言っていたんですよ。後で聞いたら、学校の桜の木に引っかかっていたおじさんに声をかけてたようなんです。

(妻) そして誰かがね、水に飛び込んで助けに来てくれて「ブロック塀に上がれ」とか「ここを渡れ」とか誘導してくれました。そのうちにだんだん水位が下がってきて、首が出せるようになったので、ブロック塀を這い上がりました。

私は夫と私の1か月分の薬をリュックサックに入れて背負っていましたが、「それを捨てろ」と言われましたが、薬は絶対に人のものは借りられないから「捨てられない」って言いました。

車が螺旋状の階段のようになっていて、それを「登れ」と言われましたが、つるつるして登れない。「うちの人は大丈夫ですか」って聞いたら、「人のことなど考えないで、自分のことだけ考えろ」って言われて、そしたら夫が2階のベランダにいたのが見えました。パンツ一丁でね。

(夫) 脱げたんじゃなくて脱いだんですよ。びしょびしょになったから。隣の家の窓ガラスが開いたものだから中に入って、毛布があったのでそれを借りて助かりました。ただ猫は、キャリーの中で死んでいました。かわいそうな事をしました。

(夫) 私は、ぐっすりと眠りました。

(妻) 私は、寝られなかったね一睡も。真っ暗で、早く朝になればいいなって思っていました。窓は壊れてるから風は入ってくるし、寒かった。

## 学校～借家へ

(夫) 次の日、まだ膝ぐらいまで水がありました。学校は20歩ぐらいの距離で、「こんなに近くにいて、ばかだったな本当に」と思いました。閑上小学校からバスで館腰小学校に行っただけですけども、その近くに妻の実家があったので、そちらへ向かいました。妻の実家に10日ぐらい厄介になって、それから実家の近くの貸家が空いていたので、そこを借りて1か月ぐらい住んで、それからこの仮設住宅に入りました。ですから避難所の生活はしなかったんです。

兄や姉たちからは「家から持って来れるものは持ってきなさい」と言われましたが、私たち2人は何にも考えられなくて、ただぼーっとしてました。何ぼーっとしてるんだって思われたかもしれないけど。

それで家は借りたけど、食べる物がなくて、第一中学校の避難所がすぐ近くだったので「夜だけでも食べさせてください」って言ったのですが、「いったん外に出て、部屋を借りてる方は自活しないとイケない」って言われて、食べさせてもらえなかったのは悲しかったね。

少し落ち着くまで、朝と昼はパンとか食べたけど市役所からも断られたので、夜食べるものがなくて、そしたら避難所にいた人がダンボールにパンだとか缶詰だとか持ってきてくれました。

ガスが使えるお風呂にも入れたから、第一中学校の人たちでお風呂に入れたい人とかに入りにおいでとか、洗濯しにおいでと声をかけてましたので、洗濯しに來たりしてました。

## 仮設へ

(夫) 仮設が一番最初に当たったので、これはラッキーと思っていましたが、意外と狭かった。今まで7部屋ぐらいに2人で住んでいたから、何か今は苦しい。今まで気張ってたけれど、今になって調子崩しちゃって。でも俺たちはずいぶん恵まれた方だと思いますよ。そんなに苦労をしてとは思わないです。私たちは食べるものも住む所もあったから、衣類も妻の幼なじみが揃えてくれて、私の兄弟も器とか皿とか釜とか全部送ってくれて、生活できる状態

になりました。全部集まったんですよね。ですから避難所にいた人たちよりは、苦しいとかいうのはなかったね。

(妻) 病院に1か月ぐらい後に行ったら、先生から「あー、生きてたの」って言われてもう診察どころじゃなくて、看護師さんたちもみんな「よかったね、よかったね」って言ってくれました。先生から「薬はどうしたの」って聞かれたので、「こういう訳で1か月分を非常用のリュックサックに入れてたんです」って言ったら、「いい心掛けだったね」って言われました。震災で薬が足りなかったみたいです。薬は手離せないものね。財布持たなくても薬は持って行きます。

ここに引っ越してきたら、閑上1丁目と2丁目の人たちがほとんどで、閑上の町の方の人たちはみんな知ってる人が多いかもしれないけど、私たちは誰も知らないのと同じなのね。さっきもある人が言ってましたけど、「顔が分かるようになるのが一番いいことだ」って、すごく私も思いますそれは。今までほとんど付き合ったことがないので、みんなと交流して、話できるようになったっていうことだから。

あと通路の所の長腰掛に、夕方と日中の涼しい時にみんなで座っておしゃべりしたりしますが、そういうところはいいなあって思ったね。閑上にいる時よりも。だけど、あんまり聞こえ過ぎて、不便もあるけどね。

## 自宅での避難のこと

(妻) 津波の時は、2階に行けば何でもなかったんだよね、2階に逃げるっていうことは考えなくて、外だけ考えてたね。ブロックがなかったら流されていたと思うのね。津波は「がー」って来るよりは、水かさが次第に増していく感じでした。そしてあの強さね。震災前にテレビで、どのくらいで人間が倒れるかっていうのを観たことがありますが、「膝下何cmぐらいで倒れるかしら」って笑ってました。体験してみたら、本当に倒れるんだね。だから強いんだよね、津波ってというのは。さーっと持ってかれたもんね。

## 今後の事

(夫) 私は、現地復興っていう話だったんで、それでやればいいのかとは思ってるんですけど、妻は津波を体験しているものですから、恐怖のほうが大きいうで、ですから今迷っているところですね。

(妻) 家は壊しました。だから夫は前の所にそんなに大きくなくてもいいから、だんだん年取ってくるんだから平屋で小さく建てたほうがいいという希望なのね。

(夫) 私は故郷というものがないと、寂しいんじゃないかなと思ってます。ですから区画整理をやって換地をやって、それで災害復興住宅を建てると話でしたんで、そのほうがみなさんにとっても良いんじゃないかなって思ってます。しかしね、肝心の生まれ故郷である妻はね、あんまり乗り気じゃないようなんです。

(妻) 閑上自体が怖いので、閑上から離れたらいいと思うの。でもそんなに簡単に故郷を捨てられるのかも思うんですけど。でも内陸の方がいいのかも、今住んでる所はいいしね、津波が来る心配はないし、実家は近いし。どうせならこの辺に建てようかっていう感じです。

(夫) だから私は、市の計画をもっとはっきりさせてもらいたいですよね。

### 閑上の良いところ

(妻) お魚がうまい。私は閑上の海が好きだったね、穏やかで、松林も。でも、昔には戻れないねもう、気持ちからして。

(夫) 土地の人とは、言葉使いも違いますし気性も違いますんで、よく衝突をしてたんです。ところがここに来て話してみると、そんなに悪い人たちじゃないんだなど、よく分かりました。そういう意味でも感謝しています。和気あいあいとしてるね。



## 地震の時

自宅で遅いお昼を食べて、ゆったりしてテレビを見てました。14時46分におっきな地震が来て、テレビが俺の方に向かって「どーん」って吹っ飛んできて、これはいかんっていうことで、外に出たらその時点で車が渋滞してました。塩釜－亘理線が完全に渋滞してて、どこに行こうにも身動きが取れない状態でした。そのうち40分ぐらい経ったのかな、家の目の前に閑上小学校があるんですけれども、そっちの方があんまりにも騒がしいんで行ってみると、小学校の駐車場があるんですけれども、そこに車がいっぱい入ってきてたんですよ。人もいっぱいいて、「早く上がれ！」って。半信半疑で小学校の3階まで上がったと同時に津波が入ってきたんだね。黒い津波がきて、水が静かに上がってきたんですね。こっち(北側)、川の方から入ってきてるんですよ。そしてみんな道路で、立ち往生してるから危ないっていうことで「みんな逃げろ」って言ったんだけど、逃げ遅れた人もいっぱいいるんですよ。それで、止まっていた車が小学校の方に押し寄せられて、校庭のところに流されてくるんです。校庭は、L字型の校舎と体育館に囲まれて、そここのところに入ってきて、その状態で渦巻いたり、中に入った車が外に押し出されてる状況でした。ここでぐるんとなって押し出されて、東道路の手前で止まって、ごちゃってなってる感じかな。

今まで何回か津波とかの経験はしてるんだけど、貞山堀があるのでそんなに大きな被害っていうのはなかったんですよ。私たちの感覚だと、「貞山堀があるから安全だ、大丈夫だ」ということで、ある程度の安心感もあったわけですね、大きな地震にしてはね。それがやっぱり命取りになったのかな。

## 避難その後

閑上小学校に一晩泊まりました。こういう時はお腹がすかないんですね、寒さも感じない。やっぱり気が動転してる関係なのかな。救助されたのが次の日のお昼過ぎですかね。館腰小学校に行って、その時甥っ子の子どもたちが閑上小学校に行ってたから、甥っ子2人を連れて、一緒に避難をして、親たちに子どもたちを渡して、私も一緒に文化会館に避難をしました。

文化会館は、人がいっぱいいましたね。私の場合は、いところがいたからそこにポーンと入っちゃった感じで、4日間ぐらいいましたかね。4日間いて、今度大手町の息子の嫁の実家に居候して、20日間ぐらいいましたかね。今度は息子がアパートにいたから、そっちに移動して、1か月ぐらいいて、その後仮設住宅に移りました。

## 仮設住宅に

仮設住宅に入ったのは5月ですかね、どちらかというとな町の上町の方が多い。閑上には、小さい時からいるから、知ってる人が多いんですよ。だから寂しいとかはなかったかな。私は単身で入ってます。引きこもりじゃないんで、なるべくだったら人の輪に入って、バカを言って、騒いでる方がいいのかなと思います。だからその点に関しては孤独感とかそうい

ったものは一切ないです。昔みたいな長屋形式とはまた今は違うんだけど、欲をいったらきりがないです。だから現状で満足まではいかないけども、みんなと和気あいあいとやればいいかな。ただ一番よかったのは、前の閑上になれば、みんなと馬鹿話したりして、話し合うっていうことはまずなかったと思うね。だから仮設に入ったおかげで、みんなと話し合いをして、いろんなことを聞いたりできる、それが一番いいのかな。

### 自分の体験を伝えたい

津波の時、紙パックのジュースの最後の残りを「ズズー」ってやる音、あの音がしたんですね。「ズズズズー」っと、吸い込まれるような音が出て。そのあと、川の水嵩があがってきたの「ズズー」っと。それと私は、地震の日の朝、朝焼けのところにカラスが何千何万、そういうふうな光景を見てるんです。前に地震がありましたよね、その時も同じ光景を見てるんです。大体同じぐらいの時間で、すごいカラスなんですよ。それが北上していく。みんな見て「わー」って感じ、だから俺だけ見たわけじゃないと思ったんだけど。昔からカラスが夜鳴くと大変なことがあるんじゃないかとかよく言ってますよね、そういうようなものなのかなと感じました。すごいカラスが止まったんです。そして鳴き声がおかしかったかな。だからなんかおかしいな、ちょっと違うなって思ってたら、震災が起こって。だからやっぱり、なんかの知らせだったのかなって自分なりに解釈したんですけどね。

### 今後のこと

一応子どもと同居して、そして今年中にはここを出ようと思ってます。今月の末から、できればここを出る、卒業するようなかっこうで。俺的には戻りたいんだけど、年々歳とるくからね。だから子どもの言うことも聞かなきゃならない時期にもなってるし、それで今が一番いい時期なのかなって、自分では判断したのね。いつかじゃなくて。

### 閑上の良いところ

閑上の良いところは、土地柄ね、住みやすいつていうのが一番でしょうね。六十何年もあそこに暮らすと、いいところっていうのは分かるんですよ。人柄とかみんないいしね。本当なら戻りたいと。でも1人で生きていけないから、いつかは子どもの世話にならないといけない、そういうふうに思うのね。

引っ越したら寂しくなるということ、それはない。意外と誰とでも話し合わせるから、だからそれはないと思います。

## 地震の時

家にいました。午前中は公民館でグランドゴルフやって、私は家にいたら地震が来てテレビから何から倒れました。その頃私は病気であまり歩けませんでした。妻は出かけてましたから、妻が帰ってきてから片付けようと思い、何もしないでいました。妻が帰ってきて、座るか座らないうちに「これ何」って。外を見ると真っ黒い煙が見えました。まるで夜になったかのようなようでした。貞山堀の方を見たら、壁のような水が松の木を越してきていました。「津波だ、2階に上がれ」と叫び、2階に上がったら、まわりは水、まるで海の中の家になっていました。それでも隣に3階建ての老人ホーム「うらやす」があったので、波がそれにぶつかり我が家は流されずにすみました。家が流れてきて、船もものすごい勢いで流され、家の屋根の上で助けを求めている人がいたり、まるで地獄を見ているようでした。

夕方雪が降ってきました。閑上7丁目から出た火が次から次へ燃え移って行って、暗くなるとまるで映画でも見ているように骨組みまで見えて... 朝になっても燃えていました。一晩中パニック状態でした。幸い2階には子どもたちのための寝具7組がありましたので、寒さはたえられましたが、飲まず食わずで2晩過ごしました。

13日の朝になり、ヘリコプターが来ました。水も引いていたので私は外に出て手を振り助けを求めました。しばらくして自衛隊が来て救助されました。一緒に「うらやす」の職員の方もみえられて、「2階まで水が来て布団が足りない、貸して欲しい」と言われて、職員の方5人くらいで寝具を全部持って行きました。私たちはとりあえず「うらやす」に行きました。中は大勢の老人や近所の方でゴった返してしていました。12日の河北新報に我が家が写っていたので、もしかしたら「うらやす」にいるのではと万に一つの望みを持ち、次男が胸まで水に浸かりながら来てくれました。

## 仙台～新潟～名取に戻る 皆のそばにいたいんだ

その日のうちに仙台市の息子の家へ行きました。3月15日になり福島原発事故の話が出て、息子の奥さんの兄が家族、子どもたちに影響が出るということで避難することになり、私たちも一緒に避難しました。夜11時過ぎ、仙台から大型バスに乗り、到着いた地は新潟でした。

「ゆっくり体を休ませてください」と言われ、一部屋を与えていただきました。雪の降る中を東北の災害に対する募金のため声を枯らしている姿がとても嬉しかったです。涙がこぼれるほど感動しました。

何日か過ぎ、情報集めを始めた時に閑上の方の死亡記事が次々と出てきました。妻は地区の民生委員をしていたので、「みんなの確認をしなければ」と気をもみ始めました。それで「単独で帰る」というので仙台へのバスの時刻表を調べている時、支援物資を積んでいる仙台へのバスが出ると聞き、2人乗せて欲しいと頼みました。支援物資はバスにいっぱいでしたが、後席2人分空けてもらって仙台に来ました。たまたま長男が戻っていて、「俺の家が空くから2人とも来たら」と言ってくれました。でも地元の人たちのそばにいないければ申し訳ない気持

ちでいっぱいだったので、息子に頼んで文化会館に連れて行ってもらいました。

### 文化会館の避難所に

震災から15日後に行ったので、避難所は900名もの人であふれていました。大事なペットも一緒でした。ホールの囲いは総ガラス張りで、夜気がビリビリ感じました。私たちの入る隙間はありませんでした。知っている人がいてやっと2人いるだけの場所を確保しましたが、妻はすぐに風邪をひいてしまい、3階の部屋に3日間隔離されました。その間ペットを飼っている人は2階に移り、段ボールが支給されて周りを囲むようになってから、風邪をひく人も少なくなりました。

### 仮設住宅へ

5月の末頃になると仮設住宅へ移る人が多くなり、空間が出来てきました。そうすると職員の方が片っ端からブルーシートを外し始めて寂しかったですよ。5月末に荷物を持って別の避難所に行くように言われた時は悲しかったですが、残された者同士で法務局に行ったら、愛島東部仮設住宅にということで喜び勇んで移動しました。

### 自宅のこと

平成元年に新築した家は、辛うじて流出しませんでした。私たちは市に鑑定をしてもらい、土台も柱もしっかりしているからと言われ、私たちも戻るつもりでボランティアさんに頼んで泥をとったり片付けをしていました。直そうとしたら、「お宅の場所は危険区域になるので家は解体してください」と言われ、目の前が真っ暗になりました。妻もがっかりして自宅に通う張り合いもなくなりました。解体と決まると妻は「辛いから行けない」とそれ以来自宅の近くまで行っても、戻ってきて自宅へは行けません。

### 仮設住宅では

ここの仮設住宅は閑上3・4丁目の方たちが住んでいます。それでも私たちを知っている方に声がけしてもらい、どんなに心強かったか、嬉しかったです。感謝しています。私がおこに来て心がけたことは、ボランティアさんが集会所に来てくれる時は積極的に参加し、妻にも出るように言っています。遠方から私たちを心配し励ましてくれる方々に感謝の心、それは参加することだと思っけてますから。

### 昔は

私の生まれは下増田、妻は閑上っ子。住んでいたところは田んぼ、畑、東の方には松林、西の方を見ると蔵王の山々が広々として、戸をいっぱい開けて外出したりしてね。とにかくのんびりしていたね。

閑上は海が近かったから、夏は涼しいし、冬は暖かい。雪も滅多に降らなかった。とにかく時間がゆっくりと過ぎていった。妻などは「私は街中で暮らせない」と言っていたね。とにかく閑上の方は元気がある。口はズバツと言っても心は暖かいものを持っているからね。

## 今後は

隣組が10軒くらいあったけど流出してしまっただけで。危険区域になったので再建する人はいません。別の地区に移ったりしているから、私たちも自分が生まれた地区、下増田の人たちと集団移転に入れてもらって移るつもりです。でも妻は不安がって「うまくいくんだろうか」なんて言っていますがね。前に進むしかありませんものね。

### 地震の時

私は1人でお茶を飲み、テレビを見ていました。地震に驚き、家を飛び出して庭先をウロウロしていた所に、町内の副会長さんが来て10分ほど地震のことを立ち話していました。その後、一応老人世帯の安否確認のため、2人で軽トラックに乗っている時にラジオをつけたら、津波が来ていることを知り、急いで15世帯ほど回りました。途中、何人かの人はどこに避難したらいいのかと聞かれましたので、「自宅の2階か谷地の高台に逃げた方がいい」と言いました。そうしているうちに貞山堀の方から黒い砂煙が見え、橋の上で「津波だ！」と泣き叫びながら公民館に向けて走って行きました。途中副会長は車から降り、公民館の方へ行きました。

### 津波に流される

副会長を降ろし、公民館の前の道路を走っていると、自宅に向けて波が進んで行くのが見えました。私は自宅にいる妻のことが気になって、そのまま無我夢中で軽トラックを走らせましたが、橋が地震で壊れて交通止めになっていたため、車から降りました。腰まで水に浸かり、目の前の小屋の上に5、6人の人が見えたので助けを求めましたが、その後に津波がまた来て流されてしまいました。無我夢中で近くのがれきにしがみつき、手を離さないよう必死でした。

### 頑張れという声に励まされた

仙台東部道路の上に電気を持っている人が見えたけど、声を出す力もなかったです。がれきの上に上がろうとしても揺れて大変でした。足を使って少しずつ上に上っていったら車が浮いているのが見え、そこに上がろうとしてもツルツル滑って上がれませんでした。左右を見渡すと大きい船が見えて、「その上に行けば助かるんじゃないか」と思い、必死に四つん這いになって10mくらい歩きました。私に気付いた人が電気をつけて「頑張れ」と声をかけてくれた時、「やっと助かった」と思い安心しました。その人が消防に連絡してくれてクレーン車でボートを下ろして助けてもらいました。その後バスに乗り、仙台市立折立小学校で濡れた服のままストーブで一晩あたりりましたが、それでも寒くて、柔道着を1枚貸してもらい朝が来ました。

次の日、ボランティアの人たちによる安否確認の時に自分の住所と名前を言ったら、偶然にも仙台市立愛子小学校に妻がいることを知らされました。それで今度は愛子小学校に移って4日間お世話になりました。

### 避難所に

その後は、名取の文化会館にずっとお世話になりました。妻は避難所生活に慣れなくて体調を崩してしまい、「頭痛い、頭痛い」と毎日毎日言っていたので、友達の家を借りました。

私自身は、文化会館に行ったり来たりしながら、お互いの情報交換をしていました。

### **雇用促進住宅へ**

今は妻と2人で住んでいて、息子夫婦は別の棟に住んでいます。上を見ればきりが無いけど、自分は車の運転が出来るし、また健康なので仮設の友達の家に行っています。いろいろな話をする中で、農家をやっていた人は、「野菜を作りたくても作る場所がない」と言うけど、「健康でこうして生きているだけで幸せだ」と口々に言っています。

私も今は1つ農機が残ったので、修理をして自分の土地に毎日通って畑を耕して、トマト、キュウリなどを作っています。みんなに「おいしい」と言ってもらえるだけで幸せです。

### **小塚原の良いところ**

津波の前は、近所の人と家族のような付き合いが出来て、毎日、朝昼とお茶飲みに行ったり来たりして、楽しく暮らしていました。いろいろな行事への参加も協力的な人が多かったですね。

### 地震の時

地震の時は、家にいました。家業は、息子たちと農家をしています。地震が強かったから、外に出たんです。そして木に掴まって座ったのね。揺れが弱くなった隙を見て、家に入って私の部屋に行き、保険証とかを持って出ました。こんなに強い地震だから、必ず津波が来ると、私は思ってたんです。避難場所は空港になってたので、私は「空港に避難するから」と言って家を出て、携帯で情報を聞きながら避難していたら、津波情報が入ったんです。最初は3mって言ってて、そのうちに5m、そうして今度は10mぐらいついて。北釜集会所の前に行ったら「大津波が来る」と言われて。

うちの後ろの道路が、仙台空港につながってる道路なんです。息子たちは、歩いて避難していたと思います。私よりも遅いから。私が空港に着いた時は、まだ津波は来てなかったです。自転車を途中に置いて歩いて空港に着いて、30分ぐらい経ったら、なんか海の方に白い雲みたいなのが海沿いをずっと向こうの方に行くんだよね。私それがなんだか分からなくて「あれは何なの、火事なの」と聞いても、誰も返事をする人がいませんでした。そうしたら、空港の2階で海の方を見ていた男性が「あぁ、来た、来た」と言うので、何が来たんだろうと思ったら、津波が来たんですよ。そんなに早く来るとは思わなかったの。

まもなく空港に来たんだよね。そうして、駐車してる車が、浮いて横になったりして、流れて行くのを見ました。水は、ターミナルビルの前の車寄せの屋根すれすれのところまで来たんです。ターミナルビルの中は、2階の床すれすれまで水が来て、私たちは、最初2階にいたんですけど「3階に上がってください」と言われました。その後、「萩の月」(お菓子)と笹かまぼこ、あと水をもらいました。それが2日ぐらい続きました。

### 具合が悪くなる

私具合が悪くなって、津波の夜はうんと冷え込んだんですよ。そして左の膝から下が痛いっていか何だかおかしくなったのね。でもどうしようもないから。そしたら血圧が上がってきたんだよね。そうして2日目の夕方には、目眩と吐き気がして、お医者さんがいたので診てもらったら、「血圧が200に上がってます」と言われて、ダンボールの箱を広げたものに寝せられて、上は何も掛けないで、そして先生に血圧を下げる薬を打ってもらいましたが、170よりは下がらなかったんですよ。先生に「明日、一番に救急車で、病院に行きましょう」と言われて、次の日の朝7時過ぎに「国際クリニック」に行って、点滴を1本打ってもらい、「終わったら帰っていいです」と言われたんですよ。血圧は170のままだし、足が冷たくて何も感じなくなっていました。

それで、どこにも行くところがないから、私に付いて来たうちの嫁さんに「あんたはどこに避難するの」と聞いて、「お姉さんの家に避難すると思う」と言うので、「だったらば、私も連れて行ってくれ」と嫁さんをお願いして、嫁さんの姉の家に4日ぐらいいました。でも、嫁さんの姉の家に、あまりお世話になるのもあれだなって思って、今度は、仙台の息子



の所に行ったんです。そこに4日ぐらいいて、その間に北釜の流された所を見に連れて行かれて、全部なくなったのね。ビニールハウスも全部流されて、メロンの苗などもせっかく作ったのに流されちゃって。

その後は、横浜に嫁いだ娘の所に行きました。横浜でも、農家なんですよ。だから家は農家の作りだから、私が世話になっても大丈夫かなと思って、息子に横浜まで連れて行ってもらったの。そうしたら娘に「弟と一緒に来なかったら、母だと思えなかった」って言われて。血圧は下がらないし、着替えもないんだものね。そして、娘の所に2か月半行ってました。私は、子供が4人いて良かったなと思いました。

### **仮設住宅に**

津波の前は、同居していたんですが、美田園第二仮設住宅では、長男夫婦と孫娘と一緒に、私は1人で住んでいます。

入居者の方は、皆さん知り合いです。やっぱり北釜の人たちが多く入ったからね。あとは多分、杉ヶ袋の人が多いいね。だから北釜の人たちと交流して、今は楽しく過ごしています。

部屋はやっぱり狭いけど、しょうがないよね、仮設住宅だからね。家賃も出さないで入れて頂いているんだから、ありがたいです。

食事は、別々に作って食べています。買い物も1人で行って、自分のことは全部やっています。病院にはタクシーで行っています。

### **今後の予定**

住まいは、集団移転するみたいなので、私も多分一緒に生活できると思います。

### **北釜の良いところ**

北釜の良いところは、町内会の人たちとは、みんな知り合いだし、仲睦まじく生活してて、私も震災の時は、北釜の老人会の会長してたんです。高齢者も参加してもらおうようにいろいろやって、だから交流は良かったです。

### 地震の時

北釜に引っ越してきてちょうど9年目なんです。

地震の時はちょうど仙台の大きな施設で仕事をしていました。地震が少し収まったと思い、すぐに施設の責任者と話し合い、お客さんを全員帰すことにしました。本当は自分もすぐに帰ることが出来たのですが、店のこともあったので最後まで残ることにしました。仙台東部道路が通行止めになっていたのので、下の荒浜の方の道を通って帰りました。施設にいた時から10m以上の津波が来ると分かっていたのですが、1年前のチリ地震の時に1m弱しか来なかったのので、とりあえず家に帰ろうと海の方へ向かいました。その時、前の方から光る物が見えてきました。よく見ると津波だと分かり、急いでUターンして農道に戻りました。とりあえず仙台東部道路に車を置き、そこから見た光景は今まで見たこともない、信じがたいものでした。家や車が次々に流されるのを見て、孫や息子、家族の事を思い出し心配になりました。息子に電話してみると孫が出ました。「どうなの？」と聞いたら、「家にいる。1階からドンドンッって音がする。怖い」と言いました。家にいると言っていたのですが、その家の1階部分は津波にのみ込まれ、倒れそうだったそうです。しかし、孫の声を聞き、もう1人の孫も息子も生きていることが分かり一安心しました。

インターから抜けて、とにかく北釜に帰るつもりでしたが、今度は中に入れないうのです。ですから4号線から行こうと思いきや4号線から来まして、最初にイオンモール名取のところから入ろうとしたんです。そしたら仙台東部道路が満杯で、そこから車が先に行けない。ただし下増田小学校が避難所になってるんですけど、ここ入れなかったんですよ。ここもだめだし、この裏もダメだったんです。そして次に耕谷のところの道路を行ったら規制がかかってないから入れたんですよ。入れるんですけども水が入ってて道路が見えなくなってしまっていました。どこまで入っていったらいいのかわからなくて途中まで入ったんですが、道がもう水で見えないんですよ。だからこれはまずいかなって思って1回抜けました。今度は逆に仙台空港のところの、仙台東部道路からの道のところに出まして、そこから下りましたら岩沼の方は水が引き始めたんですよ。そのままストレートに行って仙台空港に入りまして、元々は十字路のトンネルから先まで水が来たんですけど、十字路のセブンイレブンの先までずっと引き始めたものですから、ギリギリまでとにかく行こうと思いきや。その日は、北釜は完全にシャットアウトされまして、入る道が全部塞がっちゃったんですよ。北釜へ入る道が無いってことで、実際に北釜に入ったのは翌日なんです。ただ翌日は普通の道はまだ水が抜けなくて、空港の裏側の川沿いに行きましたら、がれきだけ越えて行けば行けるようだったので、川沿いを行って、それから貞山堀を渡って、北釜に入る形で歩いて行きました。探しに行ったら息子たちはいませんでした。まさか仙台空港に行ったとは思わなかったものですから。その辺を探したんですけど、消防団の方からとにかく仙台空港に向かったということを知ったので、仙台空港のほうに行きました。

## 仙台空港に着く

仙台空港までは、がれきがとても多かったです。息子とは仙台空港で会えました。津波が来た次の日に仙台空港に向かったということでした。孫たちにとっては、家の周りとかで亡くなった方がいるものですから、1年ぐらい経つまでは当時の話ができなかったです。歩くところには必ず遺体があり、しかもそういうところを歩かざるを得ないという異常な世界でした。

## 避難所へ

仙台空港に2日間いました。仙台空港の外側は完全に車が入るようにはならなかったんですが、第二中学校の避難所に北釜の人は移動するということになりました。第二中学校に5月の末までいました。5月の末に仮設住宅が出来るまで、2か月間第二中学校の体育館にいました。閑上の方も一部いたんですけども、北釜の人は150人ぐらいいました。配膳とかいろいろ係を決めたりしました。あと間仕切りが出来たのはかなり最後の最後で、半月後ぐらいかなと思うんですけど。間仕切りは高くないものを使いました。

## 仮設住宅

息子の子どもがいるって事で、美田園第三仮設住宅へ移りました（注：美田園第二仮設住宅と第三仮設住宅は名取市北釜の住民が入っているが、第三は下増田小学校に隣接しており、子どもを持つ方が多く入居している）。美田園第二と美田園第三は違いますね。やはり、第三の方はママ友達が必ずいるというのがあるんですけど、第二は年配の人も多いので、違った感じがあると思いますね。第三は若い人も多いから、イベントなんかでもどうしても時間帯も限られますし、平日のお茶会なんか本当にないんです。逆に、週末にやる場合はある程度出てもらえるので、その辺の違いはあります。

## 今後のこと

住まいは、北釜の集団移転で造成も決まり、造成後は2年ぐらいおかないといけないと言われていますが、来年の7月から8月ぐらいに終わり、住むにはそれから半年から1年はかかると思います。場所は抽選をして決まり、孫たちと並びの場所になりました。

## 北釜の良いところ

飛行機がうるさいといいますが、家は二重サッシでしたので、雨の音も聞こえないくらいでした。冬は仙台よりも暖かく、下増田だけなら冬も普通タイヤで走れるくらいの気候です。環境的には住みやすいです。家にいる犬は津波に遭いながら助かって、海岸を散歩するのが好きでした。今後の移転地の環境は、北釜とは違いますね。

### 地震の時

私は、亙理の荒浜の保育園に孫を迎えに行つて、もう少しで保育園に着くつていうところで地震にあつて、地震が落ちつくのを確認して、それから保育園に慌てて行つたら、子どもたちがみんな園庭に並んでいました。そこからうちの孫を連れて、すぐ我が家へ向かいましたが、道路はアスファルトが剥がれて、ごちゃごちゃでしたが、その時はもう夢中で帰ってきました。

家に着いて見てみると、家の周りの塀は落ちてたんですけど家はあつたんですね。中に入つてみたら、食器棚とかいろいろな物がひっくりかえつていたので、「ああ、今日これ片付けて寝なきゃな」と思つてました。その時、地元の消防団の人だと思うんですけど、「津波が来るんだよ」つて言つて回つていたそうなんですが、私には聞こえませんでした。そのあと弟が町内会の役員をしてたんで、私の家に来て「何してるの早く逃げろ」つて言われて、それまで津波が来ると思わなかつたものですから、慌てて仙台空港に孫と夫と3人で行きました。仙台空港ターミナルビルが避難場所と決まっていたし、前の年のチリ地震の時に1回避難したものですから、頭にはもう「津波の時は、仙台空港だ」つて、それは分かつてたんです。

### 避難所へ

仙台空港ターミナルビルには、3日ほどいました。1日目は国際線の待合室に入ったんで、すごく寒かつたんですよ。1世帯に毛布1枚という割り振りだったのと、食事は「萩の月」(お菓子)とジュースと笹かまぼこですね、それが3食です。それをもらえたんですね。トイレは水が流れなくて、みんな詰まつてだめだつたんです。だから最後には大の方はビニールの袋に新聞紙を敷いて、自分のお尻にあててするつていうやり方でしたね。だからどの部屋もみんなトイレ臭かつたです。

避難したのは、夫と弟と保育園の孫です。3日目に第二中学校に移されました。第二中学校に来て初めて「おかず」が出ました。スパゲッティとお煮つけなどがいっぱい並んで、「好きなもの3品まで取りなさい」つて言われて、それが初めてのまともな食事でした。長男が増田に家を建てて住んでいまして、避難所に迎えにきてくれたので、そのまま長男の家に孫を連れて行きました。

### 仮設住宅へ

美田園第二仮設住宅に来たのは、5月末で夫と2人です。こういう狭い家とか長屋とかつて入つたことなかつたものですから、すごく最初は緊張して「音出すなよ」とか、もう水出す音も掃除機の音もみんな聞こえるじゃないですか、だから最初はそれは神経使いましたね。入つて1週間ぐらいは、もう頭を何かで圧迫されてるような感じがして、とつてもつらくて。それで、娘達が借りた家に1回泊まりに行つたんですね。そしたらなんだか自分の頭から「ぼー」つて上に抜けるような感じがしましてね。それで娘の家に泊まつて、また仮設に来てつ

という風に、少しずつここに慣れていきましたね。

### 今後のこと

集団移転を待っています。一戸建ての災害公営住宅を頼んでいます。寝て目をつぶると、前の家の様子が、こう「バーッ」と見えてきたり、あとはやたら心臓が苦しくなったり、胸が締め付けられるようになっていたり、いろいろ体に異変が出てきたものですから。

前の家は、何回か見に行ったりはしていますが、土台だけで何もありません。近くで暮らしていた姉がまだ見つからないので、北釜に行くと大きな声で呼び掛けています。返事はもちろんありませんけどね。

### 地震の時

北釜に住んでいました。私の家は専業農家で、夫と息子夫婦と孫の5人家族でした。秋から冬にかけて、孫は造園業の仕事をしていました。主に軟弱野菜（チンゲン菜、ホウレン草、小松菜）などハウス栽培し、仙台市場に出荷しておりました。

地震の時は、メロンの定植をするために、息子と孫は畑に行って準備をしていました。

地震での家の被害は、瓦が少し落ちた程度でした。消防団員の孫のところに大津波警報の連絡が入り、孫は消防のポンプ小屋に行きました。

空港に避難しようと思いましたが、北釜の橋に穴が開き、そこから空港までは歩かなければならないとのことで、私と主人は息子の軽ワゴン車に乗せられ、田んぼの農道に一時避難するつもりでした。しかし、余震が長く、息子が空港の方を見たら、真っ黒な津波が押し寄せ、たくさんの車が流されていると。ここも危ないので、すぐに増田の親戚宅へと避難しました。親戚宅には20日ぐらいお世話になりました。

### 嫁と孫の避難行動

孫は消防団員だったので、大変だったと思います。津波の中を、空港まで死にものぐるいで泳いだらしいです。空港ビルの近くに電柱があり、そこで助けられ、難を逃れたらしいです。同じ地区の団員の中で、3名の方が尊い命を落とされました。

うちの嫁は、チンゲン菜の市場の用意も終わり、スーパーに買い物に行っていました。嫁のことがとても心配でしたが、嫁は空港に避難していました。ほんのわずかの時間の差で助かったようで、安心しました。遅く逃げた人は、ほとんど亡くなりました。

空港に嫁と孫は2日くらいいました。その後、息子は第二中学校に、嫁は実家へ行きました。孫と息子はずっと第二中学校に避難していました。

### 避難後、ご主人が亡くなる

3月12日の朝から主人の様子が急変し、救急車は到底呼ぶことができないので、親戚に手伝ってもらい、車で南東北病院へ入院をお願いしてきました。

その後も、私の実の妹夫婦とその息子、実の母の身元確認やらなんやらと本当に疲れ果て、私も体調を崩してしまいました。

親戚の家の後は、仮設住宅に入るまで娘のマンションで世話になりました。ガソリンを買うことも1日がかかりで、本当に大変でしたね。その頃から主人の体調も少しは良くなったかのようにでしたが、5月27日の午前4時頃に急変し亡くなりました。震災がなかったらもっと長生きできただろうと思います。

息子も、体調を崩し入院していましたので、皆様には本当にお世話になりました。その後に私は、仮設住宅に入居しました。

## 流された家

津波の後、北釜地区は通行止めとなっていたのですが、ようやく通行止めが終わり、家に行くことができました。私の家は、100年くらい前の古い家で土間が広く、いろいろと改装し、現代風にした家でした。母屋は丸い石の上に栗の柱と、本当に平凡な造りで、よく地震で倒れなかったと思います。屋根裏は天井を見上げると太い材料で、よくあの重さで倒れなかったものだと思います。母屋の方はダンスなど、泥々になった物でいっぱいでした。でも、必ず残っていると思っていた石倉などは、土台だけ残して跡形もなく、そして私たちの離れも全然残っておらず、全部流れてしまいました。本当に津波の強さにびっくりしました。ようやく年数をかけ、こつこつと改装をして、やっと人並みになったと思ったのも束の間、残念でなりませんでした。

## 現在の生活

今は私と孫と、別々に仮設住宅に入居しています。向かい側に入居しているので、何かにつけて心強く安心です。将来の移転先も集団移転で決まり、ほっと一息ついています。若い皆さんはがれきの処理や草刈りなどありますけれども、81歳の老人は大変です。元の家にいれば野菜の袋詰めやメロンの接木などの仕事がありましたが、仕事がないことは苦痛ですね。せめて自分のことは自分で、あまり迷惑をかけないようにと頑張っています。

息子夫婦は白石で生活して、野菜栽培に取り組んでいます。慣れない土地で働き、大変なようです。山で石も多くあり、そこにハウスを建て、雨が降ると土がぬかるんで長靴なんか抜けなようです。それでも頑張っています。

## 移転後の生活

移転後は、家族5人で一緒に住みます。移転後の生活はどうなるのか。宅地の分は、全部入金されたようです。私の家では所有している農地は、まだ買収にはなりません。

また、非住宅地も買収になりません。税金は同じく納めていたのにね。田んぼの方は4～5反くらい去年から頼んで作付けしてもらい、食べるくらい去年の暮れにいただきました。

## 北釜の良いところ

平穏な住みよい地域でした。土地は、野菜作りには最高です。夏はメロン、秋・冬はチンゲン菜を中心に軟弱野菜と、仙台市場でも名前の売れたメロン、野菜でした。共同精神が強く、夏祭り、収穫祭、敬老会と本当に楽しかったね。でも早い人は、1年2年でこの仮設を離れ、他の住民となっている人も多く、本当に寂しいですね。

全国の皆様方、ボランティアの皆様のご支援と愛と絆で私たちは頑張れました。本当にありがとうございました。

### 地震の時

住んでいたところは、下増田で私は閑上出身。下増田に嫁ぎました。旦那は勤めてたんだけど、定年になって専業農家に。兼業農家から専業農家になったんです。私たちは次男と一緒に3人で住んでいて、長男は敷地の中に別に家を建ててたの。そこは、長男夫婦と孫2人でした。

地震の時は、近所の人とうちの旦那と4人で蔵王のホテルにいたんです。すごい揺れで、12階建ての2階にいたものだから、これで潰れたら…と思ったら、私、腰が抜けて歩けなくなったの。旦那に、「早く行くぞ」と言われたけど、私「ここでいいわ」って、それでも支えられて外に行ったんだけど、階段下りる時に、すごく揺れて、シャンデリアがバラバラ落ちてきたの。私たちは早目に外に出ることができたから、車でホテルを出ることができたのだけど、道路が陥没して、なかなか名取に来られなかったの。時間かかったの。車の中で、仙台空港に津波が来たって言ったけど、滑走路にさーっと、水が流れた程度だと思ったの。津波は見なかったから。

### 長男家族の状況

6時間かかって下増田小学校までは来たけど、そこから先には行けなかったの。なので、文化会館に行き、長男の嫁と会えました。長男が仙台空港に娘を迎えに行行って、戻ってこないと聞きましたが、その後、連絡も取れて本人たちも文化会館に来ました。

長男の仕事は夜なので、その日は家にいて、地震になったので、仙台空港でバイトしている自分の娘を仙台空港に迎えに行行って、2人で車に乗ろうとしたら、車がパンクしてたんだって。その時たまたま海の方を見たら、津波が来るのが見えて、それで仙台空港に逃げ込んで、そこに2日間泊まったそうです。パンクしてないでそのまま乗っていたら流されてたって。

### 次男を探す

次男と連絡が取れませんでした。私たちは12日と13日に、水が引いたようなので、下浦の橋のあたりまで行ってみましました。道路に家が流れて来ていて自宅までは行けませんでした。13日の日、近所の人に会えたので、「次男と連絡が取れない」と話すと、「お宅の息子さん津波に流されて」って。毘沙門堂っていうお寺があって、「そこまで流されて、そのハウスのパイプ掴んでたんだ。」って。11日の夜、和尚さんがその通りの歩いてて。電気を点けて歩いてたから明かりが見えて、次男が「助けて」って言ったみたいなのね。道路まで上げてもらって、下増田小学校に連れて行かれたんだって。そのあと岩沼の南東北病院に搬送されたって。私たち南東北病院に会いに行行ったんだけど、人がいっぱい、近所の幼稚園とか体育館とかに分かれて置かれていて、だから会えなかったの。話を聞いたら、若いし体調も良くなってきたから名取市立第二中学校に送られたんだって。そこに行行って、やっと会えたのね。だから、助かる人とね、流される人というんだよね。次男が言うには、自分の家の瓦が落ち



たかなと外に出て見たんだって。そしたら、瓦は落ちてないけど壁などは落ちてたんだって。その後、津波が来たから、車で逃げたんだって。後ろから津波が来て、車から出て逃げたよ  
うなの。無我夢中だったって。今でも津波のことを言うと「言わないで」って言われるの。  
思い出すから、言わないでって。

### **避難所生活**

私たちは、そのまま文化会館にいました。人がたくさんいて、食べ物だって800人もいたか  
らもらうには大変だったね。蔵王のホテルに行って、すぐ帰ってくるんだと思って薄着で  
行ったので着る物だってないし、夫はインフルエンザから肺炎になり危なかったし、あんな  
思いほんとにしたくないね。あの当時を思い出すと涙が出てきます。文化会館には80日間い  
ました。そのあと仮設住宅に移りました。

### **現在の仕事と今後の不安**

長男は、仙台に移りました。次男は、この部屋とは別に仮設の部屋を借りたんです。移転  
先では、次男と一緒に住む予定です。これからが大変だよねえ。今までただで生きさせても  
らってるけど、これからはお金がかかるし、あと年寄りだって税金取られるし…心配です。  
だから、家建てたらいいんだか、公営に入ったらいいいんだか。公営っていっても高いし、一  
戸建てならば借りて入ってもいいんだけど。やっぱり、隣同士見えるようになると私、嫌だ  
なあって感じるから。もともと農家なので、家が離れてたの。それでも公営の方がいいのか  
なあとおったりして、悩んでいるんです。結構高いんだもんね…公営も管理費取られるから  
…。

### **下増田の良いところ**

やっぱり、近所の人たちが一番良かったと思いますね。やっぱり離れるのが辛いです。住  
みやすかったです。隣が離れてるからのうのうとしてね。仙台空港はすぐ前で見えるし。綺  
麗ですよ。仮設に来ると、家ばかりしか見えなくて、風景がね…風景が違うもん。

### 地震の時

かなり大きい地震で停電になったから、すぐに自動車に行ってラジオを聞いたら、仙台市で9mの津波って言って、じゃあ逃げるかと、家族3人でイオン(大型ショッピングモール)まで避難しました。だから津波の状況とか、どういう風に来たかっていうのは全然見ていないです。イオンから増田小学校に移動して、そこでおにぎり1個ずついただいて、夜は体育館が一杯だったから車に戻って、3人で車の中で寝ました。あの時は雪が降ってました。朝になって、名取市の避難場所に、サッポロビールの工場が指定されてたような気がしたので行ってみました。そこでは食べ物も飲み物もトイレの心配もなくて、12日と13日はそこにお世話になりました。14日からは、岩沼市の妻の姉のところまで10日間お世話になりました。その頃に自宅に行ってみました。がれきや水でいっぱい、やっとの思いで家に着いたら、とにかく悲惨な状況でしたね、家も流されてたしね。その後、仙台市の四郎丸にしばらく空家になっている親戚の家があって、そこに住んだらって言われて、そこに移って3月末から3か月ぐらい住みました。そして7月1日にここの美田園第二仮設住宅に来ました。

### 仮設住宅

生まれ育ちはずっとここ、広浦です。仮設の皆さんは知り合いなんです。町場と違って昔から何代も続く農家の方々だからお付き合いが深いんだね。だからこの辺の人は、大体みんな知っています。集団移転の会長をしています。そして今年の6月1日から自治会長にもなりました。兼務してるんです今。苦労はないんだけど、苦労っていうよりも、少しでもみんなの役に立てばっていう精神だね。副会長と俺と、少しでも皆さんのお役に立てればね。最大の目的は町づくりなんです。ここで生活をしながら1年でも早く復興しなくちゃならない。町づくりをして、集団移転先に移転をして、そして充実した安全安心な町づくりをして、そしてそこで生活をするっていうのが、自分の最終的な目的であり目標なんです。ここにいるのが目的じゃなくて、ここはあくまでも仮設住宅であって、最後はみんな良かったねというような町づくり。それが最後の目的なんです。

### 広浦の良いところ

広浦は、名取市内で一番大きな工業地帯だったんです。広浦地区は、働く場所がいっぱいあったんです。すぐ近くに働く場所があって、遠くに出かけなくても近くで農業しながら、朝晩とか土曜日・日曜日農業して、平日は会社勤め。今は全然何もないです。働く場所がなくなったので、生活が大変です。今までは買い物に行くところはなかったけど、働くところはいっぱいあったので、お金を使うことがなかった。だからみんなお金をいっぱい持ってる。今は逆に、お金ないんだけど使うところや使うことはいっぱいある。

## 反省点

今までは、何かがあったら海側の宮城県農業高校に避難するようになってました。増田川の氾濫のために、海側の宮城県農業高校に避難することに決めてました。ところが、今回は津波だから海から来たわけです。海から来たのに海側に逃げる避難経路だったんです。だから、その時々に応じて避難経路は変更しなければならない。我々もいま反省しています。

### 地震の時

家は下増田の杉ヶ袋って所です。ビニールハウスで作業してる時に地震があって、ずいぶん強い地震だなって思ったの。ハウスの中で、カボチャの準備してたわけ。ハウスから出られなくなるぐらい地震強かったね。それから外に行って、作業場の屋根が下がっていて、だめだなって思ったの。津波は全然分かんなかった。

後から地震がだんだん弱くなって、うちの嫁がちょうど作業場の中で小松菜を市場に出荷するために袋詰めしてて。そしたら、うちの嫁が「大津波来る」って言って。私は、大津波来ないんじゃないのかって思ったけど、大津波来るってラジオで聞いて。でも大したことないなって思ったけど、嫁に「とにかく行くよ」って言われて、車に隣の奥さんたち乗せて5人ぐらいで下増田小学校に避難しました。でも下増田小学校じゃだめだと思い、名取市の体育館に行ったわけ。そしてその後館腰公民館に避難して、しばらくお世話になりました。

### 館腰公民館に避難

館腰公民館にお世話になって、1か月ぐらいいました。それから嫁に行った娘が亙理町にいて、心配してちょこちょこ公民館に来てました。それから娘のところに行ったわけ。娘のところに1か月ぐらいいたね。震災から1か月が経って電気など付いたので呼ばれたわけ。

### 仮設住宅に

6月5日に仮設住宅に入りました。狭いです。副会長は2年しました。支援物資などいろいろ仮設にいる方に分けて渡したり、そういう仕事を時々やるわけ。仮設は狭くて、2年と何か月いるから少しは慣れたけど、やっぱり気になるね。

息子は2〜3軒離れてるところにいます。息子は市内の本郷というところに畑を借りてるの。5反分ぐらい借りてるんだね。そしていろいろな野菜を作って、スーパーに出してるらしいんだね。

前の畑は塩被っちゃって、原野のようだね、草ぼうぼうだからさ。今まで農家やって米とれたけど、今は田んぼなんて作れないからね。私の田んぼは集団移転になったから、そのままにしてるの。

### これからのこと

今までは米などの収入はあったけど、今はまるっきり収入ないからね。だからどうやって払ったらいいかとか、やっぱりそれが一番心配だね。

将来は、息子と同居の予定です。やっぱり米を作ったり野菜を作ったりできればいいんだけど。そうした土地のないことが一番辛いね。今後はみんな息子に任せたほうが一番いいなって思ってます。

美田園の交通の便はいいね。野菜とかもスーパーあるからね。ただ交通の便が良くてあん

まり買うとお金が大変だからね。病院には半月に1回、血圧の薬をもらいに行きます。前は農家をやってて、毎日体を動かしていましたが、今はダメだね。

杉ヶ袋で生まれて、父の代からの田んぼを全部継いで。だから先祖代々の土地だから残念なのさ。この辺は来年あたり米作るような話をしてるから、今、除塩やってるんだ。

最初仮設住宅に入った時は、暑いのに苦労したね。夏なんか暑くて。逆に太陽当たらないから冬は寒いわけ。前住んでたところは良かったのさ、夏涼しくて冬は暖かい。ここは、10月～11月になると、やっぱり夕方3時頃から寒くなるね。前は新鮮な野菜作って食べられましたが、ここは食べられないからね。

## 地震の時

当時私は大学2年生で、当日は中学生の弟の卒業式の日で、妹と一緒に祝いを買おうと市内のイオンモール名取エアリにいました。地震は、下りのエスカレーターに乗っていた時にどんどん揺れ始めて、私は即座に反応できなくて、でもなんとか妹が手を引いてくれて下に降りられたんです。揺れがどんどん大きくなって、出口が近かったので外に逃げたかったんですけど、もうちょっとで出口というところで揺れがさらに大きくなって、店員さんの誘導で大きな机の下に店員さんや全く知らない買い物客の方と一緒に隠れたんです。非常時なのに店員さんのプロ意識はすごいと思いました。妹はしっかりしていたけれど、私はパニックになってしまっ。近くに結構ガラス製品があったので倒れてきて、近くの棚とかも倒れてきて「ガシャン」とガラスの壊れる音がして、しばらくこの状態が続きました。地震が終わった時に、店内が全部停電してて、煙みたいなものも上がってました。

その後、店員さんに誘導されて妹と一緒に外に出ました。いったん駐車場で待機して、みんな携帯を開いて情報を集めようとしてて。多分私はそこに30分くらいいて、車で来てたので車に乗ってしばらく様子を見ていたら、みんなもパニックで駐車場を逆走したりしていました。だいぶ落ち着いてきてから家に帰りましたが、信号機も全部止まっていたり、電信柱が折れていたりとかして、戦争の後みたいでした。

## 道路では皆譲り合った

一番感動したのが譲り合いで、バイパスを車で走っている人たちが、きちんと間隔を空けて止まってくれて、脇から来る車を通したりしてて。非常時だったんですけど、そういうところは「日本人ってすごいなあ」と思って。帰宅途中も、遮断機が壊れてたり、道にバラバラと瓦や壁が崩れてたりしてました。家に着くと、家族は外に出てて、無事だったんですけど、中に入ったらずっぱり中はぐちゃぐちゃでした。

## その日は車の中に

数日間は、余震がひどかったもので、家の中にいたら危ないってことになり、近くに公民館もあったのですが、父の車で、当時雪も降っていて寒かったので、暖房をたいて、家の中から毛布を引っ張り出して来て、家族と車の中で一夜を過ごしました。

友達などのことが心配になり、携帯でいろんな人にメールや電話で連絡を取ろうとしたんですけどつながらず、やっと夜になって友達と連絡が取れて、お互いの状況を確認しました。それでも、いろんな情報が断片的に入ってきて、混乱しました。

次の日に公民館で配給が始まって、近くに大きなパン工場があり、その工場がパンを配給してくれました。当時食料が全然ないと言われてたんですけど、私が住んでいた地区はすぐ配給も始まって、食べ物には全然困らなかつたんです。水も他の所だと、市役所に行って1,000人くらい並んだりとかして、水汲むのだけでもそんな状態だったんですけど、給水車が来て

水も全然苦労しないで汲めて、すごく恵まれていました。ただ電気やライフラインは止まっています、我が家はオール電化だったので、夜はロウソクやランプで明かりを取って、あとは手回しで充電できるラジオで情報を聞き、朝になったら家の中の片付けをして、3日～4日くらいはほとんど家の中の片付けと配給をもらいに行ったりの生活をしていました。

## ボランティアを徐々に始める

震災後5～6日目くらい経ってだいぶ家の方も落ち着いてきましたので「何かしなければなあ」というのはあったんですけど、具体的に何をやっていいのか分かりませんでした。それで、電気も復旧したので、パソコンで調べていると、確か震災の1週間後に「名取市災害ボランティアセンター」を立ち上げるため、ホームページでもう受付が始まるというのを見て、行って登録するところから始まりました。学校も休講だったので、そこから通い始めたのがボランティアをするきっかけです。

当時は名取市社会福祉協議会（＝名取市災害ボランティアセンター）の方だけでやってましたが、すごいなと思ったのが混乱することなく体制が出来上がっていたことです。私は初日からしっかりマッチングして、依頼が来ている館腰小学校や名取市役所に行って、活動して帰って来るという流れで、混乱もなくスムーズに運びました。ボランティアをやっていく中で、社会福祉協議会の方だけに任せるんじゃなくて、実際に現場に行って活動している人たちの意見を取り入れて、例えば土砂出しに行った時に、釘が長靴を貫通して足に刺さって怪我をした人がいて、それを報告したら次から「長靴の中に鉄板敷きましょう」となったりですとか、お互いボランティアの方々と、名取市災害ボランティアセンターが協力してやってたような形です。

私はしばらく通ってたんですけど、そのうち尚綱学院大学もボランティアを行うことになり、私は大学のほうでボランティアに登録してまして、全然知らない人から電話が来て「明日から災害ボランティアセンターの方々と一緒に、スタッフとしてお手伝いしてくれ」と言われまして、そのまま次の日から災害ボランティアセンターがやっていたお仕事のお手伝いをするようになりました。それまでは、普通に土砂出しや市役所に行って物資の仕分けやあとは避難所に行ってお掃除をしたりとかをやらせてもらってたんですけど。

5月下旬頃は、尚綱学院大学生の受付や資材や器具の清掃・管理、マッチングのお手伝いをやるようになりました。大学も遅れて5月に始まったんですけども、ずっと受付などのスタッフの仕事をしていて、全然現場に行けなかったのが「行きたいなあ」と思っていたんですけど、カーネーション農家のハウスで、1週間ダメになってしまったお花を全部引き抜いたり、土砂を掻き出す作業をやりました。その時ビニールハウスの中の作業だったので、熱中症で具合が悪くなる人が多発しまして、災害ボランティアセンターのスタッフの方と話し合っ、何時間に1回は休憩を入れるなどの細かいルールが追加されていき、そのような改善を何回も繰り返していきました。災害ボランティアセンターは8月の第1週ぐらいまで開いてたんですけど、今までは毎日開いていたのが、7月と8月は金曜日と土曜日の2日だけになったので、朝大学に行く前に受付をお手伝いしたりとかしていました。

大学に行くのは、最初はずっと自転車だったんです。ボランティアに参加した後に、大学

に行かなくてはいけないって時には、車で通ってました。大学は、交通の便が良くないので、ボランティアをやる時は、大学の制度でタクシーを使うこともできたのですが、学生はボランティアがタクシーを使うということが申し訳ないと思って、あまり使いませんでした。ちょっと違うんじゃないかなって。今でも交通費を出してもらってボランティアに行くのは抵抗があります。

### ボランティアセンターは閉所に

名取市災害ボランティアセンターは、8月に閉所になりましたが、社会福祉協議会の方はもちろんのこと、当時いろんな企業や大学が支援やボランティア活動をしていましたので、それまでにいろんな方々つながりができました。

他の市のボランティアセンターに行っていた人に聞いたところ「名取はすごい」って言ってました。「制度が、管理からマッチングに至るまで、全部きちんと整理されてるからすごいね」って。その人は冗談で「軍隊みたいだ」って言ってましたけど、「他のところと全然違う」って言われたんで。その話を聞いて、確かにきちんと資材の数も把握したりですとか、人数のこともきちんとしていたので、大きな問題も起こることなく、閉所するまで無事にできたんじゃないかなって思いました。

災害ボランティアセンターが閉所になって、今度は尚絅学院ボランティアセンターが立ち上がったんで、そちらで仮設住宅の支援に取り組みました。当時は3年生で、私が一番上の学年でした。9月か10月頃から本格的に愛島の仮設住宅に行くようになって、講師の方に来てもらい、お年寄りの方々が多かったので簡単なストレッチ体操ですとか、オカリナを演奏しながら歌ったりだとか、集まってお茶飲みなどを行い「1人にしない」活動というのを軸にしながらやっていました。

仮設ってどんよりした雰囲気があるのかなって思ったら、比較的みんなフレンドリーで、浜独特の元気の良さがありました。最初も行っても警戒されるというか、人が集まるのかなっていう状況だったんですけど、通ってるうちに皆さんの方から馴染んできてくれて、すごくやりやすかったし、すごく楽しいという雰囲気でした。そこが一番最初で、その後に植松入生仮設住宅とか山元町の方にも行きました。

そうした活動をやってるうちに「これってやっぱり結構自己満足というか、ホントに被災者の方のことを考えてやってるのかな」っていうのを何度か思ったりして、そこが課題なのかなと思い、もっと話を聞かなければということで、入居者の方に「どういうことがやりたいですか」と聞くことで、仮設住宅の方々もボランティアを受け入れやすいという状況になりました。あとは、たまに実際蓋を開けたら皆さんにお知らせしていた内容と違うことをやってる時があって、それが多分一番反感を買ったのかなって思っています。また、仮設の方々に合わないテーマの講座をやったりした時もありました。

歌の慰問や映画の上映などでも、どこでも一律でよい訳ではなく、仮設住宅の入居者の方の状況に合わせて行うようにしなければならぬことに気づきました。このようにいろいろやってみて、自治会や社会福祉協議会、入居者の方から指摘された部分については勉強になりましたが、時には落ち込むこともありました。



だいぶ震災から月日が経って、ボランティアの「支援」っていう形は続けられる限り続けていくつもりですが、お茶出しも無料でしていましたが、そういうのって周りのお店屋さんの経済も回らなくなってくるから、多少でもお金を取った方が良いというような話なども聞こえてきたりするので、そういうことも聞きながら、考えてやっていかなければいけないのかなと思ってます。

私は、大学は卒業してしまったんですけど、仮設住宅でカフェができないかなと考えています。例えば仮設住宅の方々とメニューを考えて、被災地のイチゴを使ったパフェとかを実際にやってる所があり、それは無料提供ではなくてちょっとお金を取ってます。もし仮設住宅内でカフェが開けるなら、やってみたいと思っています。ずっと支援していただくの一方通行から、お互いに一緒にやっていくことも必要で、そっちの方向に持っていきたいと考えています。時間の経過につれて、すごく勉強になりました。

### **名取の良いところ**

名取の良いところって、人の為にみんなが一丸となって、大変な時に活動できる場所ですかね。ほんとに他の所ではないんじゃないかなって思います。今年の4月6日に災害ボランティアセンターの時のボランティアが、またみんなで活動したいということで、それを目的としたボランティア同窓会みたいなのが開催されて、また仮設とかで活動できるような新しい組織みたいなのが立ち上がったようなんですけど。

やっぱり、みんな人柄が優しいと思いますね。絆が強いというか。田舎ならではの感じがします。そういうところは、震災の時は強みになると思います。

## 地震の時

地震の時は、託児所の前でした。地震と同時に子どもたちが抱きかかえられて出てきて、1回目が収まって中に入ろうとしたから、「だめだ、まだ地震が来るから中から布団と毛布を出してきて、駐車場に敷いて」と先生たちをお願いして、子どもたちの頭の上から毛布をかけました。その時2回目の地震が来てサッシが飛びました。少し落ち着いてから自分の事務所に帰る途中、独居老人をチェックしている民生委員さんたちに会って、手伝ってと言われて、手伝って来たものですから、事務所に戻ったのが地震が起きてから1時間ぐらいだったんですね。だから事務所にもう、いっぱい避難してきた方々がずらっと並んで、わいわい騒いでる状況の中に来たんだけど、「なんでみんながここにいるの」と、「館腰公民館が避難所になってるからみんな公民館に移動した方が食料も手に入るし、あっちがいいんじゃない」って言っても、「公民館に入れない。館腰駅に止まった電車のお客さんがみんな入っちゃったから、もう入れないんだ」っていうことでした。その時には少し薄暗くなってきており、これではどうしようもないと思って、米の調達と、それから「家に入れない」っていうことだったから、夜露をしのぐ場所ということでビニールハウスの中に畳を敷いて、80人ぐらいでしたかね、中に入ってもらって、ほとんど近所の人ですね。あとは岩沼の工業団地から逃げてきた人たちもいました。発電機でビニールハウスに電気を点けたんですよ。工業用の大きな発電機があったから、事務所の屋根を盆踊りの電気で巻いて、それで明るくだけはしました。みんな電車に乗って帰ろうと思うから駅に向かって来るんですよ。そうすると駅には食料も何もないから、みんな公民館に行きなさいと、駅員の誘導で館腰公民館に歩いて行くんですけども、公民館だと思って間違っって入ってくる人も中にはいました。自宅の方で釜とガスを用意してたので、そこでごはんを炊き始めて。ところがいくら炊いても足りない。「どうしてこんなに避難者が多いのかな」って思うぐらい多かったんです。そのうちお寺でもごはん炊いてやるよということで、三升釜で炊いてくれました。夜11時頃までですかね、もうずっと切れ間なくおにぎり作って、近所から梅干しとかをいただいて、炊き出しをやってました。そのころに自動車のテレビをつけてみたら、津波の凄さがようやく分かったっていう感じでした。

次の日から、私のところに行くのと精米してもらえるとということで、仙台の老人ホームからとか、いろいろな方々が訪れました。たぶんメールのやりとりで知ったんだと思うんだけどね。2人の人が朝から晩までつきっきりで精米してました。

翌日、一番最初のボランティアの人たちが入って来るんだね。それが飛騨高山の方だったんですけど、そのボランティアらしい人が館腰小学校でケンカしてると、間に入って来て市役所から電話が入ったんですよ。行ってみると、向こうから「お前は何者だ」と。「この地域の住民で、今は被災者を何とか応援しようと思ってる人間だ」と話したら、「そうか、おれは飛騨高山から来たのに、野菜持って来たら、ここの連中ひどいんだ」と。「腐る物はいらぬと言われたが、そんなバカな話あるか」っていう怒り方なんですよ。小学校の職員に聞

くと、「野菜を持ってきても処理できない」と、だから「置いておくと腐らせるから」という意味なんだっていうこと。ところが持ってきた方にしてみればね。飛騨から徹夜で来て、玉ねぎとジャガイモが中心だったんですけど。じゃあうちに倉庫があるから、まずそこに降りして、そこから民生委員さんや区長さんをお願いして、避難してる人たちに分けてもらうように、家で預かるからっていうことで来てもらいました。その人、住民たちと飛騨高山の話をしているうちに、えらく気分良くなったんだね。「いやいやいや、安心して帰れる」と。「また、応援に来るから」っていうことで帰っていったんです。飛騨に帰らないで東京に行ったのかな、今度は「倉庫に行ってみたら米粉麺が2万食ある」と、「その2万食を、今から持っていくから受け取ってくれるか」という連絡が来て、次の日にはまたトラックで来たんですね。うどんですね、あの、カレーうどんにすると一番いいような。それを持ってきてくれて。その人は何度となく来てくれたんです。いろんな場面で、八戸から相馬まで自分で歩いて、沿岸部の支援をやった人なんです。

### ボランティアのこと

やっぱりつながりが欲しいんだと思うんですよね、入ってくるポジション。アンテナを高くしてここきたらどこに振り分けるよってというのが欲しいような気がするんですよね、名取に。東京の大学の人たちがずっと入ってたんだけど、単独で動いてタクシーを使ってやっていました。支援物資1つ運ぶのにタクシーで。「あんたら何やってるの、そんなに金ばらまいて」って話したら、レンタカーを借りちゃいけないので、自分たちでお金を出してタクシーを使っているというような話なのね。じゃあうちの区長さんのトラックを区長さんに運転させるし、うちの車も貸すからそれで配達してくれと言いました。

最初はここが支援センターとしての機能がなく、発信するすべがなかったんですよ。1日1食で、夜12時、1時頃まで動いて、朝5時からでしたから。そんな中、支援に来てくれた方が、ブログとかツイッターなんかにかいたからだと思うんですけど、それが広がって行って、それで支援物資がどんどんどんどん入ってきた。

ここの支援センターがこういう活動してるのが分かってて、なんでもいいから使ってやってって、支援者が何人かいるんですよ。私は赤十字とNPOという形で補助金もらおうと話したら、「そんな補助目当てでやってるんじゃない」と、「いないから、自分たちが金出してもいいから」っていう人たちがいて、何かって言うと20人30人、館腰の方ですね、その人たちが集まってきて、「俺たちボランティアに出れないけども、ボランティアの人たちの食事代にしてください」とか、そういう支援で来るのもありました。

それで、そのまま応援をずっと続けてる、支援っていうよりもそばに寄り添わないといけないって活動ですよ。今は。今一番必要なことは、心のケアではないでしょうか。皆さん一緒に傾聴でしょうね。

## 地震の時

2009年の8月からALT(外国語指導助手)をやっていた。現在は閑上中学校(借校舎)と3つの小学校、館腰小学校、下増田小学校と閑上小学校のALTをやっています。ALTの主な仕事は、英語の授業で英語の先生を手伝ったり、発音とか単語の発音、あとは、生徒が分からない部分を教えたり。あとは授業以外は生徒たちと話したり。小学校で外国語活動の大体は英語、あとは広東語喋れるので、広東語の授業もやったことがあります。小学校で英語を楽しく勉強、勉強っていうか遊び?ゲームとか。大体は5・6年生は週1回授業あって、もし時間あったら1年生から4年生までも教えて。

地震はあまり体験したことはなかった。国はカナダでほとんど地震はない。

地震の時は、閑上中学校の卒業式でした。あの日は中学校にいました。朝は卒業式で、皆もう午後学校から離れて、それで午後先生たちと弁当食べ終わって体育館で片付け始めて、そして地震があつて。立ってられないぐらい揺れた。みんな体育館を出て、そのままグラウンドに座った。最初体育館の前について、そのあと校庭に行つて、あとはなんか津波来るという報告を聞いて、そしてみんな校舎に入った。あとは外にいた小学生も学校に来て、あと他の人も。地震があつた時、中学校の前にまだ人が歩いてた。先生が子どもたちに中学校に入られて、そして私は小学生と一緒に教室にいた。小学生は6人ぐらいいた。3階の教室にいた。津波来るまで教室に。津波が来て、あとは学校の玄関にいっぱい車が流れてきた。家の屋根とか校庭に船がいっぱい来て、学校の前に流れてきた屋根に、人が乗って。あの時の1年生が、3~4人か、屋上の人を助けた。そのあとはいっぱい人が教室とか図書館とか、皆いっぱいいて。図書館は2階にあつた。3階まで津波は来なかった。

津波は窓から見た。津波がまた大きいのが来るという報告があつて、皆が怖くなって、それで皆2階から3階に移動して、でもそれは来なかった。2回目は来なかった。でもずっと揺れてた。教室、廊下で外見たり職員室に行ったり。何か手伝うことがあつたら手伝って。みんな寒いから、服とか靴下とかを探したりしていた。食事とか水とかは、あの日の弁当とか何人か先生は食べてなかったから、それを少し食べてあとはクラッカーとかもあって、少し食べた。トイレはあんまり行けなかった。非常用のトイレがあつて。

夜に何人かの生徒と一緒に職員室で座ってて、寒かった。できれば寝ようと思った。それで、夜中、人の声が聞こえて外から、真っ暗。先生たちが何人か電灯を持って人を探してて、救って、もう服とかもびしょびしょで。誰か人が入ってきて津波かなんか被った人がびしょびしょになって、あの時水はそんなに高くなかったから、学校に来て。夜中はあんまり眠れなかった。寒くてあとは爆発音も外で聞こえた。中学生とあんまり会話はしてなかった。ちょっと不安だった。

## 翌日は

次の日は、たぶん早く、4時5時ぐらい。まあもう明るかったですけど、外見て、屋上も行

った。閑上の周りを見て、大変で、ずいぶん変わったなって感じだった。1階にも行って、廊下とか泥だらけに。そして午後から人が来て、バスで最初の人を避難所に送ってもらって少しずつ。ずっと最後まで男の先生は最後のバスで帰った。夜になって、バスで館腰小学校に行って、パンももらって毛布ももらって食べてすぐ寝た。先生たちも何人か体育館で、下には何も敷かないで寝た。

次の日起きて、体育館が閑上の人々と私の生徒とか生徒の家族とかで、市役所の人にはパンを配ったりして。館腰は名取市の小学校だから、小学校の先生とも会って、そして1週間か5日間ぐらい毎日食事を配ったり手伝ったり、館腰の近所の家から寄付された服を配ったりして手伝ってた。閑上中学校の生徒さんなんかも何人か手伝ってくれた。

ずっと5日間館腰小学校の外へ出てなかったもので、外の世界がどうなってるか全然分からなかった。

### 急遽カナダに帰ることに

その後、先生の家に行ってちょっと休憩した。シャワーもして、そのあとお母さんと電話で話して、「早くカナダに戻ってください」って、お母さんから電話きて、戻ってこいと。すごく泣いてて、私帰りたくなかった。なんかまだ学校で手伝って、でもお母さんがすごく心配で、あの日ちょうどオーストラリア大使館で、仙台から東京までの大使館のバスがあって、先生に頼んで、地下鉄の駅まで送ってもらって地下鉄で仙台まで。仙台の市役所まで。大使館のバスは東京まで行った。

本当に悔しかった。なんか急に子どもたちと先生たちに全然何も言わずに行っちゃった。東京からは、あの時パスポートもないし、そして次の日、カナダ大使館に行って、臨時パスポートももらって、あとは東京の税関で手続きをして、1日で全部終わって次の日カナダに帰った。カナダには1か月いた。カナダにいる時は、ずっと心配してた。あとはカナダで、いろんなイベント、募金のイベントとか、参加したりあとインタビューされたり。

カナダにいる時ずっと先生とメールしたり名取の状況はどうって聞いていて。それで学校始まることを知って、お母さんと相談して。また日本に戻って。お母さんはとても心配してたけど、まあ私の気持ちを分かってくれて。

### 日本に戻ってくる

4月末ぐらい。20何日に日本に戻ってきた。閑上中学校は不二が丘小学校に間借りしていた。生徒さんとかとも再会した。始業式の日にはバスがあって、名取に帰った日は、新しいアパートに入った。私の前のアパートは閑上1丁目だったけど、2階だったから荷物は大丈夫だった。最初周りをはがれきがいっぱいあって、行けなかった。それで他のALTの方とか教育委員会の方が荷物とか運んでくれて、新しいアパートに入った。同じ日に不二が丘小学校の校舎に行って、先生方と会った。次の日に同じバスが出た。なんかみんな子どもたちが、いろんな避難所とか別な家とかにばらばらになって。そしてバスがあって、子どもたちとバスで学校に行った。みんな、学校に行くと笑顔があって、友達同士がまた出会う。自分のクラスとか、「新しいクラスは誰が担任」とかみんな笑顔が。

## 震災の後

普段通りALTの仕事をやっている学校に行き、多分前とあまり変わらなかったと思う。まあ全然ちょっと違う部分もあるけど大体同じ。たぶん自分の考えることがちょっと変わったかな。閑上中学校は14人が亡くなって、子どもたち亡くなって私の友達も亡くなって、たぶん自分のなんか人生の価値観とか考えることが変わって。

閑上中学校は、公園の方に仮のプレハブで2012年の8月から（十三塚公園に仮設校舎が完成し、2学期から授業を開始した）。もうすぐ1年。プレハブに移って自分の校舎があって、皆元気に、もっと元気になったかな。あとは仮設校舎だけど結構立派な、うん。あとはエアコンもあって夏の際はみんな、特に去年はすごく暑かったから、みんないっぱい使っていて、それは良かった(笑)。プールはないけど、7月の頭から不二が丘小学校のプールに毎日行った。

新しいところはとても便利です。名取駅の近くで、ほんとに電車、駅も近いし、あとは自転車でもどこにでも行ける。でも閑上に住んでいたアパートはとても新しく、なんかシャワーの機能がすごく良かった(笑)。部屋も新しく、でも閑上の際は遠かった。バスも少なかった。今のアパートから中学までは20分。他の学校も自転車。大体20分で。

## 閑上の思い出

閑上の思い出は、カナダで住んでいたところは海全然見えないから、ほんとに初めて海の近くに住んで、自転車で10分で海が見える。あと田んぼもきれい。あと、閑上だけではないけど晴れた日に山が見える。中学生の印象は恥ずかしがり屋だけど皆いい子どもたちです。英語が恥かしくて喋れない。そして頑張っているところがみえる。なんかみんな学校が好きっていうところがみえる。私写真が好きなので、学校の写真は結構撮りました。みんなの笑顔とかも。それがとても素敵。

## 今後は

ALTの仕事は来週まで、そのあとは1回カナダに帰って9月末には東京の方で新しい生活。仕事とか住むところも全然何も決まっていけど、でもなんか新しいことに挑戦したい。今の仕事は5年までできる。でも私4年目、やりたいこともやって今いろんなことをやって多分私の性格は、すぐ飽きちゃうところが。そして新しいことを体験、経験したいから、たぶん今の時は一番いい。あと今年30になって、なんかもっともっと真面目にじゃないけど、なんかまたもっと自分の道を見つけない。日本が好きなのでまた日本で、住んで、続けたい。

### 地震発生時

3月11日14時46分、私は当直勤務のため、消防本部2階の事務室で執務中でした。地震は長く、そして大きく揺れ、地盤崩壊の恐怖を感じるほどでした。

揺れが続く中、当直隊は当直長の指示で、機関員（運転手）は消防車両を車庫から屋外へ移動し始めましたが、私は救助工作車隊の隊長だったため、地震の大きさと揺れを感じ取り、被害を想定することに専念しました。

地震がおさまると直ぐ、中堅以上の職員が通信指令室（119番通報に対応をする場所）に集まり、情報収集と今後の対応について検討を開始しました。

建物の規模等から危険度を考慮し、東北最大のショッピングセンターであるイオンモール名取エアリの被害調査のため、私は特別救助隊を率いて救急隊と共に出動することになりました。

### イオンモール名取エアリへ

救助工作車（救助1号車）での出動は、機関員と隊員と私の3名でした。

イオンモールに到着すると、お客さんや従業員の方々が屋外駐車場に避難していました。1,000人以上はいたのではないのでしょうか。

イオンモールで災害が発生した場合は、防災警備室から被害状況の報告を受けることになっていたのですが、警備員と合流し情報を求めると、「店内の天井が落ちて、まだ外に出て来ていない人もいますようですが、負傷者の情報は入っていません。」とのことでしたので、店内の更なる被害情報の収集を依頼し、避難者の対応に移りました。

イオンモールにはいくつかの診療所が入っています。私がハンドマイクで医療関係者に呼びかけると、数名の医師や看護師の方々が集まってくれました。

私は、先生方に応急救護所の開設を依頼し、更に店舗外周を1周し、北側駐車場に救護所開設の旨を、避難者に知らせました。

すると、通信指令室より「閑上大橋上で交通事故発生、要救助者（救助を必要とする人）1名あり。救助1は出動可能でしょうか？」との無線が入りました。

私たちは、イオンモールの現場を救急隊に任せ、閑上大橋の現場へ出動することになりました。

### 閑上大橋へ

イオンモールから閑上大橋に向かうためには、イオンモールから東進し、県道「塩釜－亘理線」を北進するのが最短ルートです。

この県道は、片側1車線で他の道に逃れる交差点等が少なく、日常から渋滞になりやすい道路です。県道に入った時点で渋滞は見受けられなかったが、小さな事故でも渋滞が発生しやすいため、海に近い閑上の街中を通過するか、内陸側に戻って現場に向かうかの選択に迫ら

れました。

津波警報が発令されていたことは承知していましたが、私は同乗していた後輩たちに「海沿いだけど閑上の街中を通過して現場に向かう。その方が早い。」と伝え、救助工作車を海側から現場に向かわせました。

海側にルートをとると、後部座席の隊員には常に海方向の注視を指示しました。名取市斎場の北東側に位置する広浦貞山橋を通過すると、目の前にはいつもの海の風景が広がっており、「この穏やかな海の状態で、津波が来るものなのだろうか？」と感ずるほどでした。

しかし、橋を渡りきると緊張感が戻りました。多くの住民が避難したのでしょうか、街中が閑散としていたため、この場所にいることの危険性を改めて感じました。

閑上5丁目・6丁目間の市道を走行中、「大津波警報発令中！」との無線を傍受しました。まだ避難していない住民数名を発見したので、ハンドマイクで「大津波警報が発令されています。大至急、避難してください！」と繰り返し広報し、避難を促しながら日和山の交差点を左折西進しました。

記憶が定かではないが、閑上大橋南側の五叉路交差点に海側から進入した時、渋滞はおきていなかったと思います。そのため、渋滞時に行う反対車線走行の距離は30m程度だったと認識している…。

閑上大橋に到着し事故現場を確認すると、下り車線を走行中の大型トレーラーの荷台から巨大なコンクリート柱が落下し、上り車線を走行中の乗用車を押し潰している。柱は直径60cm、長さ約5m。3本が乗用車の上に重なっており、それを支えるように3本が車線中央に。もう1本は反対車線にあり、計7本が橋上の車線を塞いでいる状況でした。乗用車の男性は運転席で押し潰され、後着の救急隊とともにバイタル測定を実施して社会死状態を確認しました。

また、この柱の積み重なった状態と重量から救助工作車のクレーン及び資器材での移動は困難で、危険を伴う状況でした。

そのため、余震で柱がさらに転落して起こる二次災害や、大津波により通行人や通行車両が橋上から名取川へ流されることを防ぐため、現場に臨場した警察官と協議して橋の封鎖を決断しました。

橋の封鎖は警察官に依頼し、私たちは救助工作車と救急車を橋のたもとに移動しました。その後、橋上にいたドライバーや付近住民約50名に、閑上小学校への避難を呼びかけました。

## 津波襲来

ところが、名取川の水位が急に低下し始め、通常100m以上ある川幅が2m程度になり、川底があらわになりました。

津波の襲来を確信し、住民からの「ここら辺で小学校の次に高いのはこの橋の上だ！」との声により、橋のたもとでの待避に切り換えました。

【津波が橋を越えて来て川に流されたら住民は助からない。しかし、陸地なら自分たちが救助できる!!】

私は、自分たちの無事が多くの市民の救助につながると考え、水難用資器材での活路を検討しました。



すると間もなく、太平洋の水平線に“大津波”を目視で確認しました。水平線の横一面に茶色い壁、高さは10mくらいあるのではないかと恐怖を感じたのを憶えています。

水平線から押し寄せる茶色い大津波の光景は、今も私の脳裏に焼きついているが、震災後の報道等の映像でも同じものは見たことがなく、今も思い出すだけで心臓が高鳴ってしまう…。

津波が橋を越えないことを祈りながら、橋上の人々には少しでも高いトラックの荷台へ上ることを促しました。

しかし、津波が陸地に押し寄せるにつれ恐怖心は増してきました。

【これでは自分たちも流されてしまう。ガードレールに確保（転落等防止の措置）を取り、ライフジャケットで浮力を得て津波に耐え、流された人を救助するしかない！だが、水位がロープの長さを越えれば自分たちも溺れてしまう。ならば、ライフジャケットで流されたほうが漂流物にぶつからず安全か？】

隊員には津波到達間際まで状況を見極め、回避方針を指示することを伝えました。

大津波は陸地に押し寄せ、名取川を遡上してきました。干上がったような名取川を泥色の濁流が瞬く間に覆い尽くし、私たちのいる閑上大橋の下を通過して、更に川の水位は上がってくる…。

「津波襲来!!7~8mの津波襲来!!名取川を遡上し堤防を越水、閑上地区浸水！」

15時54分、私が消防本部に送った無線である。

橋脚にぶつかり跳ね上がったしぶきが、橋上の路面に水溜りを作ったが、津波は橋を越えてはいない。川の水位も堤防より下がったのを見て、この局面を乗りきったと思い、川の状況を携帯電話のカメラで撮影させました。

ところが、今度は閑上1丁目の住宅街から「バキバキ」という音と土埃が舞い上がり、津波とともに壊れた家屋や車、人までもが押し流されてきたのです。

陸地では家屋等が遮蔽物となり、川より遅れて津波が到達したのでしょうか。

### 閑上1丁目での救助活動

津波第1波が閑上を襲った後、町の中は約1.5mの浸水状態でした。倒壊を免れた建物を取り囲む水面には、がれきや車、家電、油等が敷き詰められたように浮かんでいる。

堤防沿いの角地には津波が滞留し、その中には頭部と両手のみを水面から出した男性と女性を発見。呼びかけには応えるものの、両名ともがれきに囲まれ自力での移動は不可能な状態である。

空は不穏な雲に覆われ、この頃から雪が舞い始めました。

第2波・第3波に備え監視を付け、三連梯子（最長約8mまで3段階に伸長できる）を伸梯し、水面とがれきの上へ浮かべ救出に向かう。

冷たい水中から男性を引き上げ、救急車へ収容。続いて女性の救出に向かう。女性の場所までは、約20m。三連梯子の先端からは、更にかぎ付き梯子を2度、3度とがれきの上に架けかえながら不安定な水面を進む。

女性を確保し倒壊家屋の屋根上に引き上げ、搬送したバスケット担架に縛着（固定）。水面

の梯子やがれきの上を滑らせるように、隊員が介添えしながら陸地からロープで牽引し救出完了。

その後、堤防沿いで倒壊を免れた家屋内に住民を6名確認。しかし、うち1名の女性は、外壁に設置された小さな電力量計の上に立ち、助けを求めている。水面には油膜、水中には車両や壊れたビニールハウスのパイプが確認でき、救出にはボートが不可欠な状況でした。

大橋までは堤防上が通行可能であったため、至急、消防本部へ救助用ボートの搬送を無線で要請し、隊員には浮力の大きな代替品となるものを探させましたが、適したものは見当たりませんでした。

その時、上空を通りかかった宮城県警のヘリコプターに手信号で合図を送ると、ヘリは橋の上空でホバリング（空中浮揚）し、隊員が降下してくれました。

隊員の方には上空から電力量計上の女性の救出を依頼したのですが、電柱と電線が障害となり近寄れないとの返答のため、救急車内に収容していた負傷者を搬送してもらいました。

ボートが到着するまでの30分以上、私は堤防からハンドマイクで女性らに声をかけ続けたのですが、その間にも津波は何度も押し寄せたため、その度に橋上まで退避を強いられました。住民を残して自分たちが退避を繰り返すことは、とても心苦しいものでした。

ボートと応援部隊が到着後、女性らを全員救出。しかし、この間にもサイレンは鳴り続け、時間と危険との闘いでした。応援部隊には救助隊員が多く含まれていたため心強く、活動の幅も広がりました。

その後も、歩道橋上やコンビニの駐車場に取り残された人々約50名を橋のたもとまで誘導・搬送し、後着したバスで安全な場所まで搬送されました。時計は21時をまわっていました。

### 車上に孤立した人々の救助活動

応援部隊が消防本部から関上大橋に出動途上、水田内で浸水した車両の屋根上で救助を求める人を多数確認したとのことであった。

救助工作車は、道路の浸水により移動不能となったため、同隊3名は応援部隊の車両に分乗し、ボートを搬送して現場に向かいました。

現場は、仙台東部道路名取インターチェンジ東側の関上字新大塚地区付近で、普段は水田と農道が広がる景色ですが、東部道路で堰き止められた津波により泥色の湖と化していました。

22時過ぎ。堤防沿いの市道に部署し、ハンドマイクで車上の要救助者に呼びかけると、車両7台から応答がありました。私は端から順に、年齢、性別、健康状態及び状況を尋ねたところ、男性2名・女性10名のほか生後2か月の乳児がいるとのことでした。

私は全員に、乳児の救助を最優先に行うことを伝えたところ、約10時間も孤立していた方々であるにもかかわらず、快く了承していただきました。

このような状況であっても弱者を守ろうとする日本人の温かさは、心身ともに疲労していた私たちに力を与えてくれました。

水深1～1.3m。この現場でも水面及び水中には大量のがれきが散在しており、船外機（ボ

ートのプロペラエンジン) は使用できない。私を含めた隊員4名は、手漕ぎで乳児の救助に向かいました。

乳児の場所までは、約250m。しかし、滞留したがれきを避けながら進むため、操艇距離は倍以上。しかも、平地であるこの地区は、この頃から徐々に津波で押し寄せた塩水が引き始めたため、時には流れに逆らいながらの操艇である。

右往左往しながら進み、やっと残り50m程度まできた時、水面から1cm程度姿を現して行く手を遮るものが…。農道脇のガードレールである。

ガードレールの切れ間まで行ってみるも、そこには大量のがれきが津波の力で押し詰められており、鳶口(長棒に鉄製のかぎが付いた器具)で崩そうと試みるが、全く動かない。ボートはゴム製のため、ガードレールを乗り越えることができない。隊員が水中に入りボートを持ち上げて越えたとしても、帰りは要救助者を乗せて持ち上げることはできない。ましてや水温が低いため、隊員の体力を奪うだけでなく、現場からの早期離脱も余儀なくされる。

移動しながら別ルートを検索するも、進入経路を見つけないため、ガードレール手前の要救助者3名を確保。残してきた要救助者には、再度救助に戻ることを約束し、堤防まで戻り救出しました。

しかし、新たな進入経路を探るべく、すぐさまボートを積載し、東部道路の側道や県道閑上港線に向かうも、全てががれきの山で遮られ、水際に近づくこともできません。また、県道もがれきで塞がれ、閑上への車両通行ができない状態でした。

県道にて暗中模索していると、ボートを15艇率いた自衛隊員と、名取市からの要請により駆けつけた建設業者の重機と合流することができました。両者に現在の状況を説明し、重機には県道の開通、自衛隊には県道側から道を拓き、乳児らの救出を依頼し、私たちは最初の堤防側から再度、進入することに決定しました。

日付は12日に替わり、再度出艇しました。交代要員はいたのですが、目標のない暗い水上での困難な操艇に、自分たちはもう慣れたからと言い、同じ隊員たちが乗艇してくれました。

身体は疲れていたのだろうが、自らが向かい合った要救助者を最後まで救出したいという思いであろう…。隊員たちの握力を確認し、あえて同じメンバーで救助に向かった。

再びガードレールにたどり着くと、さらに水は引いており、ガードレールは7cmほど上部が確認できる。切れ間に押し詰められたがれきも崩れかけており、今度は鳶口で取り除くことができた。

「進入路確保。これより乳児の救助に向かう！」救出への確証が、無線を送る声に力強さを持たせた。

最初に声をかけてから約3時間後、乳児と母親を確保し「お待たせしました。」と伝えたところ、母親から「ありがとうございます。」と言っていただけ、嬉しく感じました。続けて近くの車両からも女性らを確保し、堤防へ戻り救出しました。

この後も救助を繰り返し、全員を無事救出完了。操艇距離5km以上の救助活動を終えた時、時刻は3時42分になっていました。

私を含む乗艇した隊員たちは、濡れによる体温低下と疲労のため、一旦、本部に戻ることにりましたが、他の隊員たちは別の救助現場に向かいました。

## 12日以降の活動

本部に戻った私たちは現場の状況を報告後、食堂に残されたパンの耳2本を食べ、次の出動命令が入るまで休憩をとりました。断水のため、泥臭い作業服や編み上げ靴を洗う水もなかったことから、待機室や仮眠室には異臭が漂いはじめていました。

職員がほぼ参集したところで部隊は再編成され、水の引き始めた市内沿岸部に活動は集約されました。

当市は、緊急消防援助隊広島県隊・富山県隊・長野県隊、宮城県広域消防相互応援隊仙南広域行政事務組合消防本部から活動支援をいただき、活動範囲も大幅に広がりました。

その後私は、避難者が1,000人を超える仙台空港での活動に加わり、胸まである水の中を歩いて救援物資を届け、滑走路に堆積したがれきを除去して搬送経路の確保作業を行いました。

更に、13日以後は孤立者の救出、生存者の検索、その後は捜索活動、ご遺体の収容等、時間が経つにつれ活動内容が変わっていきました。

疲労と埃により、咳が止まらなくなった私は、病院で注射を打ってもらいながら活動を続けました。

## おわりに

私は、閑上大橋上で津波を目の当たりにし、想像を絶する威力と激しさに、覚悟を決めた瞬間もありました。幸いにも難を逃れ、何人もの人々を救助できたことは、消防人としてとても誇りに思います。

震災の数日後には、「消防が橋を封鎖したから大勢の犠牲者がでた」「消防は避難させずに自分たちだけ逃げた」などの言葉を耳にし、大きなショックを受けたこともありました。

しかしそれは、消防が避難指示を行っても「津波が来るはずはない」「来てもどうせ小さいものだろう」「荷物を持ってから」と避難に従わない住民もいたため、避難誘導に時間を費やされ被害が大きくなったことも事実です。

当消防本部では、消防職員3名、消防団員16名が、津波により避難誘導中に殉職しています。

今回の震災では、自衛隊の活躍が早期の復旧に寄与していることは間違いありませんが、災害に対して最も早く、最前線に対応したのは我々消防と警察であることは、殉職者の数をみれば明らかです。

本震災は、これまでの災害に対する考えを根本から覆し、日本全国に警鐘を鳴らしました。

人々の生命を守るため、人々の生活を守るために、行政・住民一体となり“変えなくてはならないもの”“変わらなければならないもの”が、未だ多く残っているのではないのでしょうか。

私の経験が、減災を考えるための一助となれば幸いです。

### お寺のこと

私は、このお寺(持法院)で生まれ育ったんだよ。親父は教員で、ここの住職もしていたんだ。でも私は、長男なんだけど坊さんになるのが嫌で、また修行の勉強も嫌だったんだ。親父が死んだ後、いつまでも寺にいるわけにいかないの、別に家を建てて、こっちに住むようにしたんだ。その後、ここ(観音寺)の住職、私の従兄弟が、兼務住職を務めることになったんだ。それからしばらくして、10年ぐらい前かな、まだ10年ならないかな。観音寺住職の弟で、私と同じ年の従兄弟が会社を辞めて、お坊さんになった。そしてここ(持法院)の副住職を務めるようになった。でも、今回の津波で亡くなってしまった。

### 秋保の生活に慣れようとしている

だいぶこっち(秋保)の生活にも慣れてきた。この辺の人も良くしてくれるから。もう、やはり津波のことは忘れようと思ってるし、できたら思い出さないようにしている。私は教員をしていて、閑上中学校が最後の赴任地です。地元に来るのが嫌だったけどね。24時間監視されているようで。こっち(秋保)は、新任教頭として川崎町の富岡中学校に赴任した時、アパートを借りて住んだことがあった。教頭って学校の中で一番忙しいんだな。大体どこの学校でも、一番早く学校に来て、一番遅く帰るんだから。夏は閑上から通えば通えるんだけど、冬はそうはいかない。朝、出勤できなくなるとまずいので、秋保の磊々峡の近くにアパートを借りて、3年間いたことがある。だから震災後すぐ、秋保には確かいっぱいアパートがあるなと思い出した。3月の末には、こっち(秋保)にアパートを探したんだ。まだ、借り上げとか決まっていなかったけど。

### 2日前の地震の時は

震災の2日前にも、地震がありましたね。あの時、学生時代の友人が、俺のところに遊びに来るっていうので、名取駅まで迎えに行く途中に地震があったんだ。その時は、公民館長をしていたんだ。電車が来なくなって。ちょうど目の前で電車が止まっちゃって。それで、津波警報なんか出ていたのかな。30分ぐらい待ったら電車が動き出して。せっかく来たのだから、赤貝丼でも食べようと思って。ただ「津波警報出でつと(出ているぞ)」と言ったら、「大丈夫だ」と。俺も大丈夫だと思って食べたね。「津波だー」っていえば、見に行ったりして、そんな感覚なんだよね、みんな。逃げる感覚っていうのが、誰もなかったんだろうな。津波が来ても、貞山堀のこっち側(海側)は水が上がるだろうけど、貞山堀の西側には、貞山堀があって水は上がらないと言われてきた。

### みんな公民館に集まっていた

ただ、今回の地震が強かったの、みんな閑上公民館に集まってきたのだと思う。でもなんか和気あいあいと。楽しそうなんて言ったら不謹慎なんだけどさ。うん、そんな感覚なん

です。それが困ったことを起こしちゃったんだね。地震の時、閑上公民館長になってまだ1年になっていなかったな。私は公民館がすぐそばなので、しょっちゅう足を運んでいた。公民館の手伝いとか何かにはね。例えば、体育大会だなんて時は、手伝いに行ってたんだよね。あそこ(公民館)は、元は中学校だった。中学校がちょっと手狭になったというので、今のところに新しく中学校を建てたんだ。私らが卒業したのは、こっちの今の公民館の所。あの体育館(津波で流失)は、我々も使った体育館なの。新しい中学校よりも、地元の人たちはここ(公民館敷地)が元々母校って感じにいるから。だから、公民館に親しく来るんだね。今の中学校に行くとなると、ちょっと足を運びづらい。ところが、公民館には、やはり母校というか、よく人が集まってくる。閑上公民館は、名取市内でも広い方じゃないかな。隣に「働く婦人の家」が併設されていて、私は両方の館長を兼ねていた。自由に行き来できるよう通路が繋がってるんで、2つの建物がくっついている感じだ。だからえらく大きな施設と言われれば、確かに大きいんだね。

### 地震の時の職員配置

職員は、私と公民館の事務長さん。この方は、杜せきのしたから来ていた。あと、公民館職員では技師さんね。市の職員で、技師という肩書きなんだね。自動車を運転したり、配布物を届けたりする。外回りの仕事を中心かな。他にいろんな物のメンテやグラウンド整備とか、そういうことをしている人ね。あと、社教補助っていうんだっけか。忘れてしまった。社会教育補助員かな？期間限定職員だな。教え子で新しい中学校卒業。あと、もう1人。働く婦人の家があるので、婦人の家の事務担当者。それで全部で、私と公民館3人、婦人の家職員1人の5人スタッフで動いていたわけ。その日は、婦人の家の職員は年休(注：年次休暇＝有給休暇)、公民館の事務長さんも午後から年休を取っていたんだ。だから、11日は3人。この3人は、みな閑上なんです。

地震が来た時、揺れがあった時は、公民館の2階のホールで、わかば幼稚園の卒園のお祝い会が終わって、保護者が4～5人いたかな。片付け終わって、もう帰るところだったかな。あと婦人の家の2階では、中学校の卒業お祝い会をやっていたの。それで、そこにはね、まあ大体卒業生50人くらいだから、親子合わせて100人ちょいはいったんだよね。うん、あと下の階を使っていたのはね、婦人の家の1階には和室があって、そこには婦人防火クラブの役員さんがいたのかな。月1回ぐらい集まってなんかやってるんだね。打合せみたいなね、情報交換か何かやっているんだ。あともう1つ、公民館の和室の方でもなんかやっていたな。

### 強い揺れが来た

そんな状況で、強い揺れが来たわけ。その時私たち3人は事務室にいた。地震の時は、とにかく通路を確保するというので、揺れている途中、技師に指示したんだけど、揺れがひどく転がっちゃってね。でも、出入り口に行って、みな開けてくれた。あと、2階に人がいっぱいいるから声をかけてきてくれと、社教補助員に頼んだ。私は、市の本部と連絡の取れる無線機で、こちらの状況、公民館の状況を知らせようと思ってやったが全然、うんともすんとも通じないのよ。これはだめだと思って、2階に人がいるから、1度外に避難させないと、

余震なんかで2次災害があると困るから、外に出すよう私も2階に行った。そして、幼稚園の保護者の人たちに声がけし、中学生と保護者がいたので、ちょうど片付けをしようとしていたのかな。「片付けはそのままが良いから、とにかく一旦外に出て」「揺れが完全に収まるまで外に出ていてくれ」「家に戻ったりしないで下さい」って言ったのね。「外に出て、とにかく家に戻るな」と。なんたってやっぱり津波、津波はあるかなということ。ただそんなに大きな津波とは思わないけどね。「どうせ、みんなは何かあれば、また公民館の方に避難してこなくちゃいけないから、ここにいなさい」ということにした。ところが、気が付いた時には、中学生や保護者はほとんどいなくなっていた。なぜかというと、卒業式に自動車で来ていたのかな、中学校に自動車とかを置いてきたんだな。だからみんなきっと、中学校に避難したわけではないだろうけど、自然に、偶然に中学校に向かった人が多かったのだな。だから卒業生やその保護者に犠牲者が少なかった。あと、婦人の家にいた婦人防火クラブの人たちは、家に戻った。婦人防火クラブだから、その仕事をしなきゃ。地震の後は何んだかんだってあるから、それぞれの部署に戻ったのだね。それで、今度はみんなが公民館に集まってくるようになるんだ。公民館を使って避難訓練とかしてるし、みんな集まってきたんだね。会話しながらね。「大変だったね」「道、大丈夫？」なんて話してね。まあ、津波のことは余り頭がないから、「停電だし、今日は公民館で待機だね」なんて。私たちも「職員は、ここでみなさんを受け入れしなくちゃいけないから、準備しましょう」なんて話してたね。みなさんが集まってくるだろうから、技師さんには、公民館にある赤十字社の防災グッズの炊き出し釜とか大きなガスコンロとボンベ、あと発電機とか、簡易トイレも入ってたんだな、まあ「発電機が動くかどうか、運んできて試運転してくれ」なんて言ってね。「大丈夫です」なんて言って。「じゃ暗くなる前にちゃんと設置しておこう」なんて、電灯を玄関にくくりつけたりしていたね。高い津波が来るとは思わないもんで、玄関先で炊き出し釜に火がつく、「大丈夫です」なんて。「じゃあ後は、水と米があれば大丈夫だな」なんてね。

### 女子高校生がすごい津波が来ると

それで準備していたら、ちょうど避難してきた高校生…休みだったのかな、あの子は1年生か2年生かな…、避難グッズ持って来たんだね。お母さんと来て「館長さん、ラジオで津波すごいんだってよ。10mぐらいの津波なんだって」って教えてくれた。「三陸のリアス式だから、やはり向こうは大変なんだな」なんて話してね。でも、やはり津波が来るとまずいから、結局2階にみんな逃げようっていうことになってね。歩ける人はもちろん上がるし。あのおばあちゃん、なんて言ったっけな。誰かが運んできてくれたおばあちゃんなんだけど、ところが公民館に担架がなかったものだから、じゃあ立て看板ちょうど良いなって、立て看板に乗せて2階に上げて。あともう1人は、近くの人。車イスに乗っているのね。後で分かったんだけど、消防の人が家の外に出して、近所の人が公民館まで連れてきてくれたらしい。その人は3人がかりで上げたね。ラジオを聞いていた女の子が「津波ね、15時10分頃に来るんだって」って言うわけ。「あーそーか、じゃあみんな2階に上がれ」なんてね。でも、15時10分過ぎても音沙汰がない。「津波来ねーなー」ってなったっけ。で、2階に上がっている間、どのぐらい上がっていたかな。やっぱり30分頃までは2階にいたんだね。15時10分後までは。その時、

漁師をやっている同級生が「貞山堀の水、だいぶ引いたから、やっぱり津波来るな」なんて話してたの。2階で。でも、ほんとに15時10分になっても、何の変化もないし、サイレンはいくら経っても鳴らないし。まあ、勝手な判断しちゃうんだね。要するに、何かあれば鳴るだろうと。「あー、鳴らないんだ。じゃあ何もないんだ」なんて。みんな安心している状態だもんね。

### みんな安心していた

みんな、なんか安心しちゃってたのさ。ほんとに、音沙汰ないから。そのうち、「帰って片付けてくるかー」なんて。「やめたらいいんじゃないの」なんて言ってさ。そんな会話していたんだよね。そして、まあ15時過ぎ…40分くらいになってから、私らは下に降りたね。グラウンドにはまた人が来るから、「みんな上がって」なんて言って。津波が来ても全然分らないんだ。でもその頃だと思うね。動けない人たちはまだ上に残っていたから。私は下に様子を見に行った。

### 津波が

ちょうど消防車がここ（公民館東バックネット脇道路、南向き）に止まってたね。私らはここ、玄関口がここにある、この辺にいて、いろいろ指示出していたから。そうしたら、「消防車来て何か言ってるんだけど」と言われた。「早く逃げろとか言っている」と誰か教えに来たのかな。それ覚えてないんだな。それで、私が消防車のところに行って「何ですか、どういう状況になっているのか」と聞きに行った。なんでも10mを越す津波で、公民館は危ないから3階のある中学校に避難し直すようにとのことだった。まだ信じ難いのだけれどね。車の中にいる人も結構いたんだよね。この人たちはラジオとかテレビ、車のテレビで見ているはずで、「大きい津波がやって来る」というのにな。あっちの三陸の方の、津波の様子を見てても、閑上には来ないという頭だから、きっとなんも騒ぎもしないし。

ただその消防車が来て、そういうことになってね。「じゃあ移動させなくちゃ」ということで、せつかく2階に上がった人たちを、こういう訳だから閑上中学校に移動してくれって伝えただ。みんなは降りて行ったけど、2階におばあちゃんとか残ってしまったんだ。「まあ、しゃーねーな。それではもう1回降ろして」と言って、1階に降ろした。せつかく上げたのにな。また、あの立て看板に乗せて、降ろした。あと、車いすの人もせつかく上げたのにな。また、よっこいしょ、よっこいしょって降ろしてね。中学校まで歩いて行ける人たちには「早く行って」と言った。車も回さなくてはならないのだが、まあもうその頃は渋滞していたんだね。ちょうどこの道路（閑上中学校へ向かう道路）はかなり渋滞してて、車は出られない状態だった。でも、だいぶはけたのかなあ。最後の頃には、だいぶはけていた。あと、歩いて行く人たちは、お年寄りが多いから、走ってなんていかないでしょ。

結局車いすの人とか、おばあちゃんは残ってしまったわけ。で、誰が運んできたのって聞くと、誰が連れてきたか誰も分からない。いや、どうしようかなあって思って、乗用車には乗せられないし、担いでいくのもできないし、そんなところへ休んでいた事務長が、緊急配備で来たわけ。



## 事務長の死

「どうして、何しに来たのわざわざ、津波が来るというのに」と言った。震度4以上になると、我々もそうなんだけど、先生も行かなくちゃならない（勤務地に）という決まりがあったね。事務長さんは来てくれたんだね。それでほら、運ぼうとしてたけど「どうして運ぶべなあ」っていったところに、ちょうど事務長さんが来た。事務長さんは、軽トラックを公民館の駐車場に置いていたんだ。「あのトラック出すから」と言ったのが、彼との最後の会話になった。車を取りに行ったのだが、遺体が見つかったのは事務室だったので、きっと鍵を取りに戻ったのかもしれない。想像なんでちょっと分からないけど、乗ってきた自分の車を後々トラックを出すために入れ替えて、そして事務室に鍵を取りに戻ったのかもしれないね。その時、津波がずいぶん迫っていたのかどうかは、分からなかった。でも、結果としては迫ってたんだね。

そんなこんなしてた時に、消防車がいたかどうかは分からない。いたような気もしないでもないし、ちょっとはつきりしない。消防車が来て、言われたように行動をとったんですけどね。気になってね、こっち側（東側＝海の方）を見たら、なんか「火事があったのかなあ」っていう感じだった。煙が見えたからね。あっち（東側）は、中島丁っていうんだけどね、海の方だね。3丁目4丁目のあたりね。「あー、地震で火事になったんだなあ」なんて思った。それが、「ばー」って（煙が）広がって、しかもだんだん近づいてきたんだ。建物で、下は見えないから、ただ煙が近づいてくるのが見えるわけ。「何だあれ」と言って見ていた。ちょうどその時、1回公民館に来たけど、「ちょっと様子を見てくる」と言って離れた消防の分団長さんが、こっち（東禅寺の道路の脇の道路）から、「津波だ逃げろー！」と言って、走ってきた。建物があって我々は見えなかったけど、分団長には見えたんだね。分団長が必死になって走ってくるから、今度はただ事じゃないと思った。「ヤバい逃げろ」と言っても、そこにいた人は逃げようがないよね。逃げようがないから、公民館に戻るしかなかった。まさか、中学校まで走れって言ったって大変だし、500mぐらいあるだろうから。

それで慌てて、さっき降ろしたおばあちゃんを、また誰か運んで上げて。あと私は、誰と上げたのか分からないけど、降ろす時3人がかりで降ろした車いすの人を、2人で上げたんだなあ。上げる途中、公民館の階段のスリットの窓から、そうね、50cmから1mぐらいの水が「だー」って流れてくるのが見えた。建物の中にいるから、周りがどうなっているのか分からない。上げるのも必死だしね。ただ、その上げた時に、通路を塞いじゃったんだよね、結局は。立て看板で6人ぐらいで上げたあれが、3人幅をとってるでしょ。その時、階段が詰まってしまったので、技師が「こっちの方から上がってください」と言っている声は聞こえていた。婦人の家の方にも階段があるので、そちらからも上げられるわけ。2階に上がって、おばあちゃんはそっちのステージの上に寝かせるようにして、こっちは椅子を持ってきて、車いすの人を座らせ、ふと外を見たらもう窓の外を「だー」って船が走っているわけ。

それで、逃げられたのが不思議なくらいなんだね。で、水は2階の廊下に入っちゃって。今考えると馬鹿なことだけど、戸を閉めれば水は入ってこないと思った。馬鹿だね。まあ、実際になればそんな戸を閉めたってだめなんだろうけど、最後に、ほんとに戸を閉めようかなっていう時に、分団長がずぶ濡れになって上がってきたんだ。「ああ、俺最後だ。後ろにもい

ただけど、助けられなかったや、1人だけおばあちゃん助けたけれども、あとダメだったわ」と言った。

### 自分も死んでいたかもしれない

本当に、一瞬なんだね。町の重鎮たちっていうのか、上役たちが多く亡くなったんだ。町の様子を見に行ってるから。やはり、公民館に来た人の内の1人で、私の町内会の副会長さんの、〇区長さん。その方はね、津波の前に1回来てくれたんだ。「町内を見てきたけど、みんな怪我はしていないみたいだ」って、「うーん、ただ、東禅寺の住職さんがブロックに挟まれて亡くなっていたかもしれない」と言ってきた。まだ津波のことが分からない時だったから、「もう1回声掛けしてくるわ」と言って、また離れた。私は「みんなここに集まるように言ってきてね」とお願いした。「私は、ここ（公民館）を離れられないから、悪いけども、もう1回見回りして、声掛けしてきて」なんて言った。その区長さんは、それっきりになってしまった。もう1人の町内会副会長のT議員さん。その人も1度公民館に来てくれた。「俺、町内を見てくるから。あと、家に家内を残してきたので声かけてくるから」と言って離れた。それもそれっきりだった。だから、いろんな人がね、周りに声掛けしに行ったりしている最中に、亡くなってるんだね。私もきっと公民館長をしていなければ、死んでるわね。去年までの町内会長だけの肩書きでやっていれば、町内を声掛けして歩いたんだろうから。ここ、仲町は、閑上の町でも古い繁華街だったんだよ。

### 津波の様子

公民館の後ろは、水がこっち（北東側）から来てるみたいなんで、ちょうど婦人の家の裏側にぶつかるんだね。「ばしゃん、ばしゃん」なんてね。ガラスが割れる音もするし。あと、50cmでも高い水が来たら終わりだね。たしかに消防の人が言った「危ない」って、危なかったんだね。たまたま、すれすれのところで止まってくれた。それ以上上がったらどうしようかなんて考えてた。それで、男たちは水が上がると大変なので、無駄な抵抗なんだけど、会議用のテーブルを並べて、少しでも高くしようとした。寝てる人などは、そこに上げようなんてね。後はどうしようもなかったんだね。本当にこれ以上水が上がらなければいいなあって祈るばかりだった、その晩は。もし、車いすの人がいなければ私死んでたね、その人を上げようとして、上に行ったのだから。きっとその人がいなければ下にいたね、下であれやこれややってたはず。だから、何で助かり、何で亡くなったのか紙一重というか、偶然の重なりなんだね、うん。本当にそんな状況でした。

### その日の夜

夜はね、あの夜は寒かったんだ、雪降ってたんだよね。すぐ暗くなっちゃったんだ。ストーブはあるけど、ファンヒーターなので電気がないから、せっかくの発電機も津波が来るのであれば、2階に準備したんだけど。

名簿を作ろうと思って、カレンダーをあっちこっちから集めて、「こんなふうにして名簿を作って」と、社会教育補助員に頼んだ。町内ごとに名簿を作るから、カレンダーに名前、住

所、年齢を書いてもらうことにした。名簿を作った時、53人だったか54人だったかね。名簿が出来あがって、あとは一晩ここで過ごすということで、食料のことに移った。たまたま卒業を祝う会に来ていた中学生が残していった、ペットボトルのお茶とか、お菓子とか、折詰の残り物とか、そんなものを集めた。とにかく1晩2晩ぐらいいなくちゃならないから、無駄にしないようにしようと思った。「飲みたい人から飲んでいいから、ただ、無駄に使わないようにしてください」って。お寿司の残りなど集めてきて、「お腹空いた人は、つまんでちょうだい」なんてね。それで、なんとか腹は減らなかった。あと困ったのは便所ね、便所は困った。水洗便所使えないから。じゃあ男衆のおしっこは、外にするしかない。でも、水じゃぶじゃぶだから、全然引かなかったんだよね。夜になり暗くなってからも、3mぐらい水があったんじゃないかな。本当にもう下に降りられる状況じゃなかったから、男衆は各自垂れ流して。女性はしょうがないからトイレの水洗使って。多分、大の方は流すことできないから、たまたま2階の会議室にあったレジ袋のようなビニール袋や紙などを使うことにした。袋に紙を敷いて、「申し訳ないけど、こうやって」ってやってみせた。終わったら、包んで外に投げて。「中に置くな」って言ったの。要するに衛生的によくないから。「外に投げていいのか」って言われたが、「特別しょうがないじゃないか」ってね。

寒いねっていうことになり、見たらカーテンしかないわけ。「しょうがねえ、カーテン壊すべ」と思って剥がした。カーテンにくるまって、暖を取るが、でも寒いよね。50何人分だからね。みんなに回らない。女の人たちは、最終的に婦人の家の濡れなかった畳の間に移動した。他の部屋は、水びちゃびちゃだったんだけど、ちょっとした差で助かってね。「婦人の家の畳の間には、女性と病気の人、体が弱い人、寝たきりの人がいてください。男と元気な人は、公民館のホールに来て、そこにいましょうね。」ということにした。公民館ホールと婦人の家の畳の間は、自由に行ったり来たり出来るから。もう1つ婦人の家にもホールがあったのだけれど、そこは水が入って使えなかった。

おむつの人とか、おばあちゃんとかいたりするけど、どうしたらよいか分からなかった。おむつも何もないからね。2階に簡易トイレがたまたまあったんだ。それは動けない人が使ってということになった。ただ真っ暗で何も見えないんだ。しばらくしたら外が明るくなってきた。飛行機とかヘリコプターがいっぱい飛んでくるんだなあ。手を振っても全然なんということもないしね。ダンボールに人数の「54」と書いて、ヘリにかざしてたんだけど、何も応答はない。「なんだ取材用なのか、なんだあいつら」なんて、みんな怒ってたんだから。せっかく手を振ってるのに俺たちを見捨ててるようで、みんな怒るよね。ただバタバタ飛んでいるだけだから。そんなこんなしてるうちに、火事になったんだわ7丁目が。7丁目から公民館まで途中何もないから「あれが流れ着いたら困るなあ」と思っていた。風が強く一帯が燃えていた。多分ガスボンベだと思うけど、時々「ポーン、ポーン」と花火みたいにあがるんだよね。きっとボンベが爆発してたんだらうね。その火が流れ着いたらどうやって逃げよう、そんなことばかり考えてた。こっちから来たら裏から逃げる、裏からどうやって逃げようかなってね。でも、幸い来なかったから良かったけどね。その晩は本当に寒くて、しまいには「ステージの緞帳、館長さんあれダメですか」って言われた。「しょうがねえなあ、あれ暖かそうだもんね、分厚いしね」ってことで、みんなでそれをはがして、布団がわりにくるまっ

て寝たりした。

でも、その晩は、隣の児童センターから声がしてくるわけ、そこに取り残された人がいたんだね。児童センターの館長さんと2人の職員と、どこかのお母さんと、そのお母さんの子どもではないけど、子ども1人。5人取り残されたんだね。一晩中「助けてちょうだい」って声聞こえるんだけど、行くに行けないのよ。「明日、明るくなったら行くから頑張ってる」なんて声かけるしかできないんだもの。「子ども死んじゃうよ」なんて言われても、行けないんだ。水に浸かりっぱなしだとだめだから「水のない所に行きなさい」って言って、誘導したんだ。児童センターの体育館の中で被災したらしく、その後水が少し引いたので、センターの建物の中に外から回って中に入ったんだよね。次の日、その人たちを、私とか動ける元気な人と行って連れてきたんだけど、センター長さんは、低体温状態になって顔色も青白くて動けない状態になっていた。婦人の家に連れて行って、あとは女の人たちに和室にあった毛布や座布団とかでマッサージしてあげてなんて言ってね。我々はまさかそこに行けないから、女の人たちにお願ひして。でもなんとか元気になってくれたよ。あと他の人たちもずぶ濡れだったけど、公民館の2階の倉庫に置いてあった、閑上太鼓の裃を「舞祝」という裃なんだけど、それを着てもらって何とか暖を取ってもらった。そして、女の子が持ってきたラジオを聞いていると、閑上小学校に何人、閑上中学校に何人と、放送があった。その頃、夜遅くなってから、小学校や中学校には、水が引いて行けるようになったのかな。

### **だめだと思われているところに逃げ込むしかなかった**

ところが、公民館のことが全然話題に載ってこない、放送でね。「あー、我々は死んだと思われているな」。だめだって所に逃げ込むしかなかったからね。だから、我々はだめになったと、一時思われていたのかもしれないね。公民館に残ってしまっ、中学校にたどり着いていない人たちは、みな助からなかったと、一時は思われていたかもしれないね。だからきっとあまり放送にも出てこなかったんだね。

公民館の2階に逃げ込んだのは50数人いたけど、それぞれ誰かかれか亡くしているんだよね。私の義兄と姉の家はここ(公民館東隣)。義兄は体が悪くて老人ホーム「うらやす」に入っていて、そっちで助け上げられたんだけどね。姉と甥っ子たちは車を出すといっ、さっき(公民館駐車場)のところに来たんだよね。中学校に移動しなさいっていう頃になって来たんだ。姉と甥っ子2人、それと叔母さんだったかな。結局、車で流された。姉と長男は亡くなってね、次男はたまたま自動車のガラスが割れて、そこから外に出ることができて叔母さんと助かったんだって。

### **閑上の記憶(中学校北隣の施設)を作った人**

「閑上の記憶」あそこにいたりするよ、あの母ちゃん。その母ちゃん、気の毒だったんだ。さっきまでグラウンドで、息子たちが遊んでたんだよね。家が近いから、母ちゃんは犬を連れて、公民館に来ていたんだ。そして息子は、グラウンドでサッカーか何かしてたのかな。友達と遊んでいたんだな。そんな時、津波が来ちゃったから。ほんとに母ちゃんは、必死の思いで上がってきたんだよね。ところが息子は、こっち(グラウンド南)の方で遊んでいたか

ら、間に合わなかったんだな。お母さん、一晩中、息子の名前を呼んでた。お母さん「なんで私、犬なんか連れてきて、自分の子ども、置いてきてしまったんだろう。」ってね。みんなそんな人ばかりで、しょうがないから、「とにかく明日。明日になったらみんなで探すから」なんて言って、励まし合って。そんな状況だもの。

## 夜光虫がいた

小・中学生も何人かいたな。5〜6人いたかな。何もしてないのもなんだから、小・中学生には「おまへたちは、廊下の掃除」なんて言ってね、ドロドロだから。「みんな歩けるようにお掃除して下さい。」なんて言って。元校長に言われたものだから。

夜ね、私もちょっとびっくりしたんだけど、暗いけどあっちこっち、使えるもの探していたらね。婦人の家のホール、水1cmくらい入っていたのかな。夜、真っ暗な時に行ったらね、夜光虫がすごい。「あー、これいいなー」ってんで、「小・中学生、ちょっとこっちに来なさい。良いもの見せるから、来な」なんてね。ホールに連れてって『ここで「バン」てやってみろ』なんて。子供たちは、あんまり見たことないのかもしれないね。閑上に住んでるとね、夜にだって海とか川に遊びに行ったりして、今なら、ごっしゃがれる（怒られる）もんね。我々子どもの頃は、夜でも遊びに行っ、名取川で泳いだりして、ほら、泳ぐと「バー」って夜光虫がね。ほんと、夜光虫を見て喜んでたな。とにかく、気晴らしをしてないと、だめなんだよね。その後、なんとか寝たかな。寝たってすぐ起きて、我々は何人か円くなってしゃべって、1晩明かしたみたいなものだね。

## 夜が明けて

夜が明けてから、水が膝くらいまで引いたので、でもまだ水あるんだよねえ。さっき言ったけど、下見えないから危ないので、閑上太鼓の踊りで使う櫓棒突いて歩いたんだ。マンホールや側溝のふたなど、みな吹っ飛んでいて危ないんだよね。

児童センターから公民館に戻ってきて、また下に降りた時私がいつも座っている館長席の後ろ、地震で倒れた本棚の所に他のおばあちゃんが亡くなってたんだ。あと、玄関の靴置き場の方にも1人亡くなってた。あと、1階の和室には、がれきと一緒に2人亡くなってたのが見えた。もう、亡くなった人見ても何とも思わないんだなあ、そういう感覚。なんか異常な感覚になってたんだろうねえ、あれ。何とも感じないっていうか。ただ、児童センターから子どもをおんぶして来た時、子どもに「目をつぶってるよ」って言ってね。だって、見えるんだもん、亡くなった人。

また、その時に事務長さんは事務室で亡くなってたんだけど、全然分からなかった。次の日、流されないで、残っていたボールペンなど使えるものを集めたりして、事務室に何回も足を運んだんだ。マジックペン、まだ使えるのあるかなあとかね。後で聞いた話なんだけど、カウンターがあって、そのカウンターの下敷きになってたんだ。だから気が付かなかったんだろう、全然分からなかった。

自分たちの物が、何にもなくなってしまったので、何か残ってないかなあ。このカバンいつも持って歩いてるカバンなんで、いろんなものが入っているんだ。次の日、行った時、気が付かなかった。なかったような気がしたんだけどね。流されちゃって残ってないと諦めた

んだけどね。でもなぜか2日目、じゃあこの公民館から撤退するぞという時に、もう一度事務室に見に行ったら、このかばんがポンと置いてあった。なぜあったのか分からない。何で1日目は気が付かなかったのだろうか。不思議な話だけでもね。ほんと不思議なんだな。

それで、1日目が明けて、明るくなったら、こっち(東側)のほうに、アパートから助かった人たちが、がれきを渡って公民館に集まってきたの。30~40人かな。で、その人たちにも名前とか書いてもらって名簿を作ってた。79人分になったのかな、1番多かった時。

そのうち、自衛隊の人たちが来てくれた。午後になると、我々がいたことを自衛隊の人が来て確認していったのか、次に市の職員と自衛隊の人が来た。なんかその辺はつきりしない。ただ、自衛隊の人と、市の職員の人が炊き出しを持ってきてくれた。バットに入れて、おにぎりを持ってきてくれた。それを、みんなに配って食べた。午後になると、中学校までバスも入れるようになって「中学校からバスで避難所に移動するから、その時また迎えに来ます」ってことだったのね。で、午後になってからだったな。来たのなあ。時計も何も見てないし全然分からないんだけど。時間の感覚が分からないんですよ。で、自衛隊の人が来た時に「今から私たちが中学校まで誘導するから、まだ、がれきでぐちゃぐちゃなので、歩いて行ける自信のある人は付いて来てください」ということになったので、「行く人はみんなチェックしてください」と言って、してもらった。すると、みんなチェックする。さっきまで具合悪そうにしていた人も、元気になってみんな行くことになった。俺は「みんな行くの。誰か残ってくれ」と言った。寝ている人などいたから、残れる人に残ってもらった。

## 2日目

2日目は、1日目より水が引いて、みんな中学校に行って人がいなくなったものだから、残ったのは我々ぐらいになった。中には漁師さんもいたんだ。「館長さん、今から生協に行って、食料を調達してくるから」と言って出て行き、生協からソーセージなどを持って来た。「館長、これ袋に入ってるから大丈夫だべ」って言って持ってきたんだ。あと、ペーパーも持ってきたんだなあ。「手拭に使えるからペーパー使えるべ」。あと、缶詰も持ってきた。ところが開けるものがない、今度、缶詰をどうやって開けるのかなあっていうことになった。そして、そういったものを食べていた。それから自衛隊の人が最初来た時に、「寒いから、もう1晩過ごすのに何かください」って言った。なんせ、中学校に移動した人たちが寒いので、みんな持って行ってしまったんだ。何も残ってなかったんだよね。そうしたら「これでよければ」と言って、結構な数の固形燃料を置いていってくれた。それで、夜は固形燃料で暖まろうとした。やっぱり気持ちだね。その火を使って割り箸にソーセージをさして焼いて食べ、1晩明かしたんだ。

## 3日目

避難所の迎えが、なかなか来てくれないんだ。それでも午後になってから、やっと来てくれた。寝たきりのおばあちゃんは、救急車に乗せてもらって、我々はマイクロバスに。なんかみんなバラバラなんだよね。「あ、俺名取北高校に知り合いがいるから名取北高校の所で降りるわ」なんてね。あと「増田中学校の所で降りるわ」って、中学校に知り合いがいるみた

いで、降りた人もいるしなあ。残った我々は、消防本部まで行って、そこからどこかに連れて行かれた人もいた。そしたら「じゃあ残った人は、第二中学校に行きますから」ってね。第二中学校に連れて行ってもらったんだ。そこには、北釜の人たちが先に半分ぐらいいたのね。避難はだいたいそんな感じ。

私の家内と連絡が取れたのは、3日目かな。ちょうど第二中学校に避難した時に、メール通じたんだよ。俺が打ったんじゃないくて、メールを見ることが出来たの。

## 避難所での生活

避難所に一緒に行ったのは、3人ぐらいしかいなかったんだな。避難所の半分ぐらいの人が北釜の人たちで、一応北釜の人たちにご挨拶をして、そしたら先に何人かの閑上の人たちもいたんだね。それで、挨拶して。私は、元学校職員だったんで、ちょうど第二中学校の校長さんが、先の中学校で一緒だった教頭先生なの。校長室に行って、校長先生に挨拶して、ついでに悪いんだけど携帯電話充電できないかって言って、充電してもらったんだ。その時、ある程度充電ができて、メールを開いたら家内がメールをよこしていたから、ああ、元気なんだなあって分かった。こっちからはあんまりかけなかったけど、大阪の方にいる娘とパッとつながったのよ、第二中学校にいた時かな。「大丈夫だよ」って話したんだ。長電話しなかったけども。また、やっぱり東京の方にいる友達とかね、電話来るとパッとつながるんだよね。だからきっと、そいつらが友達に元気だって流してくれたと思うね。

学校の先生たちも知ってる人がいたからいろいろ手伝ってくれたね。下増田の区長さんと事務長さんかな、今から我々みたいにもっと入ってくるだろうから、いろいろとちょっと整理したいということをお願いしたら、よくやってくれた。「北釜は、北釜の区長さんがまとめてください、こっちは閑上とかいろんな人がいるけど、私が一応まとめるから」ってことだね。あと、いろいろな取り決めをしていったんだね。でないと集団生活できなくなるから。

まず班長さんを決めた。グループ分けをして、班長さんは閑上4つぐらいかなあ、全部で結構な数かなあ。要するに家族で班組んでもらったから、2家族か3家族で1つの班にしたのか。それで、いろんな連絡を班長さんを通してやって、あと外部との連絡は、個人的に絶対しないでくださいっていうことにした。必ず私か北釜の区長さんを通して外部と接触してください。みんな不満が出て、ぐちゃぐちゃになってきてるから、直接合わせると、とんでもないことになるの。何だろう、気持ちをぶつけるはけ口がないもんだから、そういうのを公務員に当たってしまう。それで、市の職員の人にも「直接みなさんとは喋らないでください」ということを伝えた。あと、要求があったら、とりあえず区長さんか私に話してくださいということにした。

いっぺん揉めたことがあった。みなさんに、ここはひとつの臨時の村ということで入口の所に役所を置くから、ここに住民登録をしてもらおう。要するに名簿を作った。出たり入ったりが結構あるので、転出する時は、必ずここでどこに転出するのか届けてください。来た時は、どこから来たということ必ず書かせた。それから外出する際も必ずここで外出届をし、帰ったら必ず帰りましたと届け出てください。というのは、我々もそうなんだけど、訪ねてくる人が結構いるの。本人が、いたかないか分からないと困るので、「この人今外出してい

るので、夕方になる頃戻るよ」って言えば、来た人も安心するよね、また来てくれるとかね。そんなことがあったので、申し訳ないんだけどいろいろ管理をした。やっぱり文句が出たね。なんでそこまで管理されなきゃならないという人もいた。そんな時、引っこんじゃだめだと思い「誰のためにそういうことをやってるのか考えろ」と言ってね。うん。俺、引かなかつたね、その時。

自治会を作っていないとならない。だから、どっかのスペースに集会所も作ろうと考えた。というのは、どうしてもみんなどこかに集まって話をするんだよね、そうするとそばのブロックの人たちは「うるさい」と言ってきた。もう休もうかなあって思っているところでワイワイ話をされてはね。ということもあったので、スペースの場所を整理して、お話がある時はそのスペースで話をしてもらうことにした。そのスペースでは毎朝班長会議をやったが、市の方とかは入らない。入れないの。「あんたたち口出さないでね。ただ、外部との連絡だけは、ちゃんとしてください」とお願いした。市の職員さんたちも、私のことを知っているから、ちゃんと「はい」って言うことを聞いてくれた。

子どもの居場所ということで、ステージの上で作ってもらった。ただ、ステージの上は危ないでしょ。でも、ステージの上は子どもから親は見えるし、親から子どもが見えるし安心なんだ。でも、危ないから、さっき揉めたと言った人、とび職か大工さんかな、なんかそうみたいで「悪いけどステージに子どもが転げ落ちないように何かやってくれないか」と言ったら、快くやってくれた。それで、仲直りできたけどね。

また、食事の当番を決めてもらったの。たまたま中学校に、調理室があるので調理室を貸してもらった。あと、食材置き場は別に管理してもらった。そこは、学校の先生に担当してもらった。勝手に入れないようにね。食材を出してもらって、調理するのは、お母さん方にやってもらうことにした。当番決めて。大きく3つのグループになって3交代でやってもらった。

支給品など、服とかそういったものが、ごちゃごちゃ来るんで、係を決めて整理してもらった。一度に出すと、ごちゃごちゃになるので、少しずつ整理して出してもらって、それを出す場所も確保した。あと、飲み物とかいろいろな支給品がいっぱい来るわけ、それでドラッグコーナーを作って、そこも当番を決めてやった。コーヒーなんかももらえたものだから、それでコーヒーショップも作った。

こっち側に役所があつてね、給食コーナー、衣料品配布コーナーなどがあって、こっち側に今度はドラッグコーナーだね。薬とか歯ブラシとかそういうもの、それから水とか珈琲とかを置いておいた。ただ置いておくとぐちゃぐちゃになるから、当番が担当してやってくれた。

小学生もいたんだけど、勉強道具も何もないんだよね。たまたま中学校の先生で、技術科担当の先生に、「後で女の子が来るから話聞いてやってくれ」と頼んだ。それは何かというと、暦がないので、今日がいつだか分からない、何曜日だかも分からないんだよね。そこで女の子に日めくりの暦を作ってくれと頼んだ。きちんとやってくれた。中学校の先生にお願いして、厚紙を用意してもらった。毎日起きると子どもは忘れずに日めくりをしてくれた。そんなこともやってもらった。結構うまくまとまる。トイレ当番も決めた。



あといろいろなボランティアの人たちも来るんだよね。中・高生もボランティアをしたいと言ってきた。「お前たち、飯持って来たのか」なんて聞くと、「ええ」なんて。「馬鹿この」って、「お前たち飯も持たないで何しに来るんだ」って。「トイレは?」、「あそこのトイレはお前たちが使うトイレじゃない」って。『ちゃんと考えてから来い。「何かありませんか」じゃなくて、「私はこういうのが出来るから仕事ありますか」ってそう聞いてくるもんだよ。』『「何かありませんか」じゃあ「何もない」って断るしかないぞ』ってね。でもね、そんな意地悪言いながら、「あのな、ここにいるおばちゃん達優しいから、もしかするとおにぎりくらいくれるかもしれないよ」なんて言ってね。「ただ、今度来る時は、ちゃんとお弁当持って来るんだよ、ボランティアっていうのはそうなんだよ。」って。あと、大人のボランティアも来たから、「余計な事はしないでください」って伝えた。「こうしたらいいんじゃないなんて余計な口出しをしないでください。みんなが必要になればすることなんだから。今、必要ないから誰からも話が出てきてないんだよ。みんながこうすればいいんじゃないかとなれば、必ず区長さんか私のところにきてくれるから」。案の定ね、女の方々もいるので、更衣室が欲しいってことになった。じゃあってことで学校の先生にお願いしてステージ脇の放送室、そこは鍵がかかるから、申し訳ないけど貸してもらって更衣室にした。あとやっぱりペットね。犬猫好きな人はいいんだけど、嫌な人は嫌なんだよね。直接言いづらいでしょ。言う時は、区長さんか私に来るんだね。いやあ困ったなあって思ってね。たまたま体育用具置き場があって、そこをペット置き場に貸してもらったんだ。

### 避難所には5日間しかいなかった

5日間くらいしかいなかった。いろいろ形が出来てきたので、「俺いいわな」って思って、俺の役目はもう終わり。あんまりいると、今度はみんなそのことに頼ってしまうから。ちゃんと自分たちでやっていかないと。だんだん俺も重荷になってきた。それで5日くらいしてからかな。1週間かな。避難所にいたのは5日か1週間ぐらいだと思う。北釜の区長さんと事務長さんに私が去ることを伝え、あと閑上地区は、どうしようかなあと考えた。そしたらそこに、以前私が閑上中学校の教員でいた時のPTAの役員さんがいたわけ。「俺出て行くから、あなたがこの閑上のまとめ役になってくれ」と、預けたわけ。後は、みんなやってくれてね。

### 避難所を出てから

もう既に3月中旬には、このアパート(秋保)を借りる契約をしていたんだ。ただ、来れなかった。娘が結婚して、長町のマンションにいるのね。うちの家内は、仙台からそこまで行った。車は名取市役所に置きっぱなしだった。群馬にいる息子たちが、来たんだな。日曜日かなあ。なんかその時誰かの車に乗って来たんだよな。私も娘の所に行って、1か月ぐらい過ごしたかな。家内の車が無事だったので、そこから、いろいろな避難所に顔を出した。やはり心配でね。まだ、公民館長の肩書が残っていたから、やれることはそれぐらいだし。

あと、毎日通ったのが、あの遺体安置所。毎日行っていたの。知っている人がいるかどうか見て歩いたんだ。200体ぐらい並んでいたのかな。あんなに並んでいると、あんまり何ともしないもんなんだね。うちの姉とか甥っ子も見つからないものだから、どっかにいるんじゃ

ないかと、ずっと毎日見て歩いたな。だいたい遺体が運ばれてくるのが、朝1回夕方1回なのね。その時に知ってる人がいないかどうか見に行くわけ。知ってる人がいれば、その人の関係者に連絡して確認してもらおうとか。そんなこんなしている何日後かに、うちの姉が運ばれてたんだね。ただ全然分からなかった。その辺を何回も見て歩いているのに。そのうち、甥っ子が「なんか俺のおふくろみたいなんだけど、ちょっとおんちゃん（叔父さん）確認してくれない」と、電話をよこした。俺行ったら、やっぱりそうだった。その所を何日間か歩いていたんだけど、分からなかった。

そんなこんなで、結局知っている人がいれば教えてあげたいし、本当に毎日朝晩通ってたんだね。公民館も無くなったし、3月いっぱい公民館は1年終わりでしょ。

### 公民館長の職を辞し秋保に引っ越す

引っ越したのが5月かな。公民館も無くなったし、3月いっぱい1年になるから「俺館長を辞任するから」ってことで、市役所に行って辞表を出してきたの。最初教育委員会の方に出したら、「いやちょっと預らせてください」って、「でも俺3月いっぱい辞めるんだからね。仕事もないし、無駄な金払うこともない」なんて言って、月10何万だかの報酬があるんだね。そんなのなんかもったいない。「仕事もないし、仕事があるのなら報酬もいるけど、公民館らしい仕事もないんだから、そんな無駄な金を人に払うな」って。そしたら2〜3日して電話があり、「じゃあいいんだな」って思っただけで、副市長さんが会いたいと言っているとのことだった。総務課に行ったら、課長と副市長がいて「辞表を出されても困る」って言われた。「何言ってるの、無駄なお金を。大体副市長さんは、今忙しいんだからこんなことで時間ももったいないんじゃないですか」って言ったんだ。何だかんだと言ってね、「でも、せめて6月いっぱいやってください」ってことになった。ろくな仕事もしないで金をもらうなんて嫌だなぁ。でも、「市の職員の人事も、3月にしなかったから、6月に合わせて公民館関係の人事もするので、それまでやってください」ということになった。ここでごたごた揉めていても、忙しい最中たった1人のくだらない話で時間潰すのもったいないと分かったので、6月いっぱい肩書きだけ付けておくことにした。でも嫌だね、ろくな仕事しないで。5月になって、こっち（秋保）に引っ越してきた。アパートなんだけどね。隣の人たちとかよくしてくれた。

### ここに引っ越そうとしたのは

悪い感じはしないし、周りの人たちがいいわけね。公衆浴場で、近所の方とかと会うわけ。それで、いろいろ話したりしてね。いい人たちがいっぱいいるなあって。いつまでも、もたもたしててもしょうがないし、いつになるか分からないでしょ。残された命は限りあるわけで、遅くなれば遅くなるほど、我が家に住む時間が無くなるだけの話、「じゃあいつそのこと、家を作るわ」っていうことになった。じゃあどこに作ろうか、地元閑上には、もう帰れないだろうと思っているので。私の気持ちとしては、閑上はやっぱりだめなんだね。夜なんか寝ていられないんだ。ここにいるから、地震が来てもあまり揺れないし、閑上よりも地盤が固いのでゆっくり寝られるでしょ。いくらかさ上げしたとしても、閑上に行ったらやっぱりその時のことが蘇るっていうか、頭に浮かんできて、ちょっとした地震でも安心していられないだろうね。そんな落ち着かない気

持ちだからね。そんな落ち着かない気分で一生終わるのは嫌でしょ。また、閑上に戻れば、自分は自由の効かない身になってしまうでしょ。名取あたりの地区は、地価が高いから、こっちはどうだろうと考えた。「仙台に行こうかなあ」とも考えた。でも仕事をするわけじゃないし。大体私は家の中にいるよりも、外で畑とか庭とかいじってるのが好きな方だから、アパート暮らしはなかなか難しい。ここは地価は安いし、建物の値段っていうのは、都会もどこも変わらない。また、ここは高速の入り口に近いでしょ。息子たちも来るのに便利だし。しかも温泉あるしってことでね、ここに決めたんだ。でもなんかまだ自分の家って感じはしないけどさ、うん。やっぱり閑上がずっと長くいた所だしね。でも、実際自分は、閑上に住む自信はないし。

### 玄関にあった閑上にいたときの表札

家は流されて何もなくなっただけで、なぜか公民館のグラウンドから、助かった甥っ子が表札を見つけて持ってきてくれたの。あれ、ぺったらこい(平たい)から、地面にペタッとなっていて、その上を水が流れて行ったんだと思う。立体物でないからそれだけが残ったの。捨てられないから持ってきて、ドアに貼っておいた。新しい表札は、まだ作っていない。そのうち取り替えなきゃ。気持ちがね、やっぱり気持ちは閑上にあるのは確かなんだよね。本当に嫌だったら、いらぬもんね。自分では、そういう風に意識したくないんだけど、どこか意識してるんだよね、閑上を。やっぱりいいなあって、気持ちはあるんだね。

### 閑上の良いところ

私は、海で魚釣りをするのが好きだから、船を置いたりして、レジャーに不自由しなかったのね。そんなところもいいし、何がいいんだろうね。人の結びつきが強いんだけど、逆に邪魔になるところでもあるんだよね。だからあの絆っていうけど、しがらみじゃないかと思うの。下手に、その絆というつながりが強いついていうのは、あまりにも縛りが出てくるから。そういうところはプラスマイナスの部分だよ。特に私みたいに自分勝手に生きたい人間にとっては、下手するとやはり束縛される感じがしたりするのね。結構自由にはやっていたつもりだけど、やはりその縛りがかかってくるから嫌だよ。

何がいいって言われると困るな。何がいいんだろうね。やはり気持ち的に故郷（ふるさと）なんださ。だから余計に故郷は遠きにありてと思うのかね。中にいると粗ばっかり見えて嫌だけど、やはり離れてみると、学生時代は離れていたから、やはり懐かしかったよね。帰省すると、名取駅を降りてもまだ匂いはしないんだ。高柳に入ると、潮の匂いがしてくるんだよね。閑上に帰ったなあっていう懐かしさ。離れていると、変なところが見えないので、いいところばかり。今なんかいいところばかり。

さいかい市場に行ってみたりする。ただ、積極的には行かない。なんかやっぱり、嫌なんだな。1軒に行くと、みな回らなくちゃならないから。だから、自分から積極的に買い物には。ある店だけで買物をする、他の店に義理を欠くから。

# 東日本大震災 名取市民の体験集

平成 26 年 3 月

編集 名取市 総務部 震災記録室

発行 名取市

〒981-1292

宮城県名取市増田字柳田 80

電話 022-384-2111

非売品